

基本計画書

基		本		計		画			
事項	項目	記入欄						備考	
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ		コクリツダガクホクジン キョウシュウガクホク							
設置者		国立大学法人 九州大学							
フリガナ		キョウシュウガクホク							
大学の名称		九州大学 (Kyushu University)							
大学本部の位置		福岡市西区元岡744							
大学の目的		九州大学は、教育基本法（平成18年法律第120号）の精神に則り、学術の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。							
新設学部等の目的		<p>1. 養成する人材像</p> <p>工学や技術に関する科学的な知識、人間や社会に対する深い洞察そして創造的な芸術的センスを兼ね備えた設計家あるいはデザイナーを養成することを目的としている。</p> <p>前身の九州芸術工科大学(1968～2003)では、「技術の人間化」という進歩的なスローガンをかけ、いかに技術を人間生活に適合させるかを教育してきた。そして今日、IT技術の進歩とそれがもたらす新しい文化の形成、生産や流通の革新、生活様式の多様化、地球規模での環境問題など、設計やデザインを取り巻く状況は日々発展し続けている。デザインの対象は「モノ」だけでなく、ことがらや社会の仕組みにも及んでいる。</p> <p>芸術工学部芸術工学科は、こうした21世紀の状況に的確に対応できる豊かな教養を持ち、国際的にも通用する広い視野と学識を持つ、創造性あふれる人材を育成する。</p> <p>2. 教育研究上の目的</p> <p>大学院に重点をおいた組織編成にともない、学部教育は、「芸術工学」の基本・基礎を十分に修得させ、社会的人材需要に応え、さらに大学院への進学の可能性を開くものとして重要である。幅広く深い教養と総合的な判断力を備えた創造性豊かな人材育成という社会的要請に応えるために、芸術工学の特性を踏まえた全学教育と専攻教育との有機的連携による学部教育を行う。その際、芸術工学の特性である総合性を学部学生の学習過程のなかで、具体的に身に付けさせることを目標とする。</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	芸術工学部 (School of Design) 芸術工学科 (Department of Design) 計	年	人	年次人	人	学士 (芸術工学) (Bachelor of Design)	令和2年 4月 第1年次		
		4	187	-	748			福岡市南区塩原4-9-1	
			187	-	748				
	同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	芸術工学部 環境設計学科（廃止） (△35) 工業設計学科（廃止） (△45) 画像設計学科（廃止） (△35) 音響設計学科（廃止） (△35) 芸術情報設計学科（廃止） (△37) ※令和2年4月学生募集停止							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	芸術工学部芸術工学科	講義	演習	実験・実習	計				
		425 科目	151 科目	29 科目	605 科目	128 単位			

教	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設分	芸術工学部芸術工学科		14 (20)	36 (37)	2 (2)	20 (20)	72 (79)	0 (0)	268 (268)
	計		14 (20)	36 (37)	2 (2)	20 (20)	72 (79)	0 (0)	- (-)
員	既	共創学部 共創学科	19 (19)	23 (23)	4 (4)	3 (3)	49 (49)	0 (0)	29 (29)
		文学部 人文学科	26 (26)	21 (21)	7 (7)	0 (0)	54 (54)	0 (0)	92 (92)
		教育学部	12 (12)	13 (13)	1 (1)	2 (2)	28 (28)	0 (0)	64 (64)
		法学部	23 (23)	16 (16)	1 (1)	3 (3)	43 (43)	0 (0)	18 (18)
		経済学部 経済・経営学科	12 (12)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	9 (9)
		経済工学科	9 (9)	7 (7)	1 (1)	3 (3)	20 (20)	0 (0)	6 (6)
		理学部 物理学科	20 (20)	16 (16)	1 (1)	12 (12)	49 (49)	0 (0)	4 (4)
		化学科	14 (14)	16 (16)	3 (3)	11 (11)	44 (44)	0 (0)	5 (5)
		地球惑星科学科	12 (12)	19 (19)	0 (0)	7 (7)	38 (38)	0 (0)	3 (3)
		数学科	29 (29)	22 (22)	0 (0)	15 (15)	66 (66)	0 (0)	30 (30)
	設	生物学科	11 (11)	8 (8)	2 (2)	14 (14)	35 (35)	0 (0)	3 (3)
		医学部 医学科	41 (41)	42 (42)	56 (56)	238 (238)	377 (377)	0 (0)	177 (177)
		生命科学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	4 (4)	13 (13)	0 (0)	6 (6)
		保健学科	16 (16)	7 (7)	11 (11)	16 (16)	50 (50)	0 (0)	85 (85)
		歯学部 歯学科	19 (19)	15 (15)	14 (14)	50 (50)	98 (98)	0 (0)	107 (107)
		薬学部 創薬科学科	6 (6)	2 (2)	1 (1)	5 (5)	14 (14)	0 (0)	5 (5)
		臨床薬学科	10 (10)	10 (10)	1 (1)	6 (6)	27 (27)	0 (0)	29 (29)
		工学部 建築学科	7 (7)	10 (10)	0 (0)	6 (6)	23 (23)	0 (0)	19 (19)
		電気情報工学科	32 (32)	27 (27)	0 (0)	27 (27)	86 (86)	0 (0)	21 (21)
		物質科学工学科	31 (31)	29 (29)	0 (0)	26 (26)	86 (86)	0 (0)	25 (25)
概	地球環境工学科	26 (26)	24 (24)	0 (0)	14 (14)	64 (64)	0 (0)	23 (23)	
	エネルギー科学科	19 (19)	18 (18)	0 (0)	19 (19)	56 (56)	0 (0)	19 (19)	
	機械航空工学科	37 (37)	29 (29)	0 (0)	24 (24)	90 (90)	0 (0)	29 (29)	

要	分	農学部 生物資源環境学科	51 (51)	59 (59)	1 (1)	48 (48)	159 (159)	0 (0)	0 (0)		
		計	487 (487)	444 (444)	108 (108)	553 (553)	1,592 (1,592)	0 (0)	- (-)		
		合計	501 (507)	480 (481)	110 (110)	573 (573)	1,664 (1,671)	0 (0)	- (-)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			大学全体	
	事 務 職 員		1,051 (1,051)		0 (0)		1,051 (1,051)				
	技 術 職 員		1,984 (1,984)		0 (0)		1,984 (1,984)				
	図 書 館 専 門 職 員		67 (67)		0 (0)		67 (67)				
	そ の 他 の 職 員		35 (35)		0 (0)		35 (35)				
	計		3,137 (3,137)		0 (0)		3,137 (3,137)				
校地等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			大学全体	
	校舎敷地	2,226,717㎡	0㎡		0㎡		2,226,717㎡				
	運動場用地	251,169㎡	0㎡		0㎡		251,169㎡				
	小 計	2,477,886㎡	0㎡		0㎡		2,477,886㎡				
	そ の 他	72,886,913㎡	0㎡		0㎡		72,886,913㎡				
	合 計	75,364,799㎡	0㎡		0㎡		75,364,799㎡				
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			大学全体	
		638,433㎡ (638,433 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)		0㎡ (0 ㎡)		638,433㎡ (638,433 ㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設			大学全体	
	311室	347室	120室		4室 (補助職員 6人)		1室 (補助職員 3人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称 芸術工学部芸術工学科			室 数 83			室			
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		学部単位での特定不能なため、 大学全体の数	
	芸術工学部 芸術工学科	4,199,828 [1,813,397] (4,199,828 [1,813,397])	83,348 [36,683] (83,348 [36,683])		63,248 [61,736] (63,248 [61,736])	10,507 (10,507)	76 (76)	7,434,882 (7,434,882)			
	計	4,199,828 [1,813,397] (4,199,828 [1,813,397])	83,348 [36,683] (83,348 [36,683])		63,248 [61,736] (63,248 [61,736])	10,507 (10,507)	76 (76)	7,434,882 (7,434,882)			
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				大学全体	
		46,365㎡		2,956 席		5,510,500 冊					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							大学全体
		11,139㎡		・野球場2面 ・400メートルトラック2面							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—		
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—		
		図書購入費	—	—	—	—	—	—	—		
	設備購入費	—	—	—	—	—	—	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			—								

既設大学等の状況	大学の名称		九州大学						所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
	【学部】 共創学部 共創学科	年	人	年次 人	人	学士（学術）	1.01 1.01	平成30年度	福岡県福岡市西区 元岡744	
	文学部 人文学科	4	151	-	622	学士（文学） 学士（学術）	1.05 1.05	平成12年度	福岡県福岡市西区 元岡744	平成30年度入学定員減 （△9人）
	教育学部	4	46	-	192	学士（教育学） 学士（学術）	1.07	昭和24年度	福岡県福岡市西区 元岡744	平成30年度入学定員減 （△4人）
	法学部	4	189	-	778	学士（法学） 学士（学術）	1.04	昭和24年度	福岡県福岡市西区 元岡744	平成30年度入学定員減 （△11人）
	経済学部 経済・経営学科	4	141	3年次 10	602	学士（経済学） 学士（学術）	1.04 1.04	平成12年度	福岡県福岡市西区 元岡744	平成30年度入学定員減 （△9人）
	経済工学科	4	85	3年次 10	370		1.05	昭和52年度		（△5人）
	理学部 物理学科	4	55		228	学士（理学） 学士（学術）	1.05 1.04	昭和24年度	福岡県福岡市西区 元岡744	平成30年度入学定員減 （△4人）
	化学科	4	62		258		1.02	昭和24年度		（△5人）
	地球惑星科学科	4	45	3年次	186		1.04	平成2年度		（△3人）
	数学科	4	50	5	218		1.05	昭和24年度		（△4人）
	生物学科	4	46		190		1.10	昭和24年度		（△3人）
	医学部 医学科	6	111	-	666	学士（医学）	1.05 1.00	昭和24年度	福岡県福岡市東区 馬出3丁目1番1号	
	生命科学科	4	12		48	学士（生命医科学）	1.12	平成19年度		
	保健学科	4	134		542	学士（保健学） 学士（学術）	1.03	平成14年度		平成30年度入学定員減 （△3人）
	歯学部 歯学科	6	53	-	318	学士（歯学）	0.99 0.99	昭和42年度	福岡県福岡市東区 馬出3丁目1番1号	
	薬学部 創薬科学科	4	49	-	198	学士（創薬科学）	1.01 1.02	平成18年度	福岡県福岡市東区 馬出3丁目1番1号	平成30年度入学定員減 （△1人）（創薬科学科）
	臨床薬学科	6	30		180	学士（薬学） 学士（学術）	1.01	平成18年度		
	工学部 建築学科	4	58	-	236	学士（工学） 学士（学術）	1.02 1.02	昭和29年度	福岡県福岡市西区 元岡744	平成30年度入学定員減 （△2人）
	電気情報工学科	4	153		622		1.01	平成8年度		（△5人）
	物質科学工学科	4	163		662		1.02	平成9年度		（△5人）
	地球環境工学科	4	145		590		1.04	平成10年度		（△5人）
	エネルギー科学科	4	95		388		1.02	平成10年度		（△4人）
	機械航空工学科	4	164		666		1.03	平成11年度		（△5人）
	芸術工学部 環境設計学科	4	35	-	146	学士（芸術工学） 学士（学術）	1.02 1.03	平成15年度	福岡県福岡市南区 塩原4丁目9番1号	平成30年度入学定員減 （△3人）
	工業設計学科	4	45		186		1.02	平成15年度		（△3人）
	画像設計学科	4	35		146		1.04	平成15年度		（△3人）
	音響設計学科	4	35		146		1.03	平成15年度		（△3人）
	芸術情報設計学科	4	37		154		1.00	平成15年度		（△3人）
	農学部 生物資源環境学科	4	226	-	910	学士（農学） 学士（学術）	1.05 1.05	平成10年度	福岡県福岡市西区 元岡744	平成30年度入学定員減

【大学院】 人文科学府			-		修士（文学） 博士（文学）		福岡県福岡市西区 元岡744	
人文基礎専攻						平成12年度		
修士課程	2	16		32				0.77
博士後期課程	3	7		21				0.57
歴史空間論専攻						平成12年度		
修士課程	2	20		40				0.50
博士後期課程	3	9		27				0.73
言語・文学専攻						平成12年度		
修士課程	2	20		40				0.62
博士後期課程	3	9		27				0.77
比較社会文化学府			-				福岡県福岡市西区 元岡744	
日本社会文化専攻						平成12年度		平成26年より学生募集停止
修士課程	2	-		-				-
博士後期課程	3	-		-				-
国際社会文化専攻						平成12年度		平成26年より学生募集停止
修士課程	2	-		-				-
博士後期課程	3	-		-				-
地球社会統合科学府			-				福岡県福岡市西区 元岡744	
地球社会統合科学専攻					修士（学術） 修士（理学） 博士（学術） 博士（理学）	平成26年度		
修士課程	2	60		120				0.66
博士後期課程	3	35		105				0.65
人間環境学府			-		修士（人間環境学） 修士（文学） 修士（教育学） 修士（心理学） 修士（工学） 博士（人間環境学） 博士（文学） 博士（教育学） 博士（心理学） 博士（工学）		福岡県福岡市西区 元岡744	
都市共生デザイン専攻						平成12年度		
修士課程	2	20		40				1.05
博士後期課程	3	5		15				0.46
人間共生システム専攻						平成12年度		
修士課程	2	11		22				0.72
博士後期課程	3	9		27				1.07
行動システム専攻						平成12年度		
修士課程	2	17		34				1.08
博士後期課程	3	10		30				0.93
教育システム専攻						平成17年度		
修士課程	2	19		38				0.65
博士後期課程	3	9		27				0.66
空間システム専攻						平成12年度		
修士課程	2	28		56				1.65
博士後期課程	3	7		21				0.56
実践臨床心理学専攻						平成17年度		
専門職学位課程	2	30		60				1.03
法学府			-		修士（法学） 博士（法学）		福岡県福岡市西区 元岡744	
法政理論専攻						平成22年度		
修士課程	2	72		134				0.44
博士後期課程	3	17		51				0.33
法務学府			-		法務博士（専門職）		福岡県福岡市西区 元岡744	
実務法学専攻						平成16年度		
専門職学位課程	3	45		135				0.86

経済学府			-		修士（経済学）			福岡県福岡市西区
経済工学専攻					博士（経済学）	平成12年度		元岡744
修士課程	2	20		40	経営修士（専門職）	0.87		
博士後期課程	3	10		30		0.43		
経済システム専攻						平成15年度		
修士課程	2	27		54		0.99		
博士後期課程	3	14		42		0.49		
産業マネジメント専攻						平成15年度		
専門職学位課程	2	45		90		0.97		
理学府			-		修士（理学）			福岡県福岡市西区
物理学専攻					博士（理学）	平成20年度		元岡744
修士課程	2	41		82		1.00		
博士後期課程	3	14		42		0.54		
化学専攻						平成20年度		
修士課程	2	62		124		1.04		
博士後期課程	3	19		57		0.53		
地球惑星科学専攻						平成12年度		
修士課程	2	41		82		1.01		
博士後期課程	3	14		42		0.71		
数理学府			-		修士（数理学）			福岡県福岡市西区
数理学専攻					修士（技術数理学）	平成12年度		元岡744
修士課程	2	54		108	博士（数理学）	0.93		
博士後期課程	3	20		60	博士（機能数理学）	0.50		
システム生命科学府			-		修士（システム生命科学）			福岡県福岡市西区
システム生命科学専攻					修士（理学）	平成15年度		元岡744
博士課程	5	54		270	修士（工学）	1.37		
					修士（情報科学）			
					博士（システム生命科学）			
					博士（理学）			
					博士（工学）			
					博士（情報科学）			
医学系学府			-		修士（医科学）			福岡県福岡市東区
医学専攻					修士（看護学）	平成20年度		馬出3丁目1番1号
博士課程	4	107		428	修士（保健学）	1.21		
医科学専攻					博士（医学）	平成15年度		
修士課程	2	20		40	博士（看護学）	0.77		
保健学専攻					博士（保健学）			
修士課程	2	27		54	医療経営・管理学	1.16	平成19年度	
博士後期課程	3	10		30	修士（専門職）	0.86	平成21年度	
臓器機能医学専攻						-		
博士課程	4	-		-				
医療経営・管理学専攻							平成13年度	
専門職学位課程	2	20		40		1.00		
歯学府			-		博士（歯学）			福岡県福岡市東区
歯学専攻					博士（臨床歯学）	平成12年度		馬出3丁目1番1号
博士課程	4	43		172	博士（学術）	0.83		
薬学府			-		修士（創薬科学）			福岡県福岡市東区
創薬科学専攻					博士（創薬科学）			馬出3丁目1番1号
修士課程	2	55		110	博士（臨床薬学）	0.90	平成22年度	
博士後期課程	3	12		36		1.69	平成24年度	
臨床薬学専攻								
博士課程	4	5		20		1.15	平成24年度	

平成18年より学生募集停止

工学府			-		修士 (工学)		福岡県福岡市西区	
物質創造工学専攻					博士 (工学)	平成12年度	元岡744	
修士課程	2	38		76				
博士後期課程	3	10		30				
物質プロセス工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	30		60				
博士後期課程	3	9		27				
材料物性工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	33		66				
博士後期課程	3	7		21				
化学システム工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	35		70				
博士後期課程	3	10		30				
建設システム工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	24		48				
博士後期課程	3	8		24				
都市環境システム工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	28		56				
博士後期課程	3	8		24				
海洋システム工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	21		42				
博士後期課程	3	8		24				
地球資源システム工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	20		40				
博士後期課程	3	8		24				
共同資源工学専攻						平成29年度		
修士課程	2	10		20				
エネルギー量子工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	28		56				
博士後期課程	3	10		30				平成29年度入学定員減 (△2人) (博士後期課程)
機械工学専攻						平成22年度		
修士課程	2	62		124				
博士後期課程	3	16		48				平成29年度入学定員減 (△3人) (博士後期課程)
水素エネルギーシステム専攻						平成22年度		
修士課程	2	30		60				
博士後期課程	3	9		27				
航空宇宙工学専攻						平成12年度		
修士課程	2	30		60				
博士後期課程	3	12		36				
知能機械システム専攻								平成22年より学生募集停止
修士課程	2	-		-				
博士後期課程	3	-		-				
芸術工学府			-		修士 (芸術工学)		福岡県福岡市南区	
芸術工学専攻					修士 (デザイン・イラスト)	平成15年度	塩原4丁目9番1号	
修士課程	2	92		184				
博士後期課程	3	25		75	博士 (芸術工学)			
デザイン・ストラテジー専攻					博士 (工学)			
修士課程	2	28		56		平成18年度		
博士後期課程	3	5		15		平成20年度		
システム情報科学府			-		修士 (情報科学)		福岡県福岡市西区	
情報学専攻					修士 (理学)	平成21年度	元岡744	
修士課程	2	40		80	修士 (工学)			
博士後期課程	3	14		42	修士 (学術)			
情報知能工学専攻					博士 (情報科学)	平成21年度		
修士課程	2	45		90	博士 (理学)			
博士後期課程	3	15		45	博士 (工学)			
電気電子工学専攻					博士 (学術)	平成21年度		
修士課程	2	55		110				

博士後期課程	3	16		48		0.66			
総合理工学府			-		修士(理学)			福岡県春日市春日	
量子プロセス理工学専攻					修士(工学)		平成12年度	公園6丁目1番地	
修士課程	2	37		74	修士(学術)	1.65			
博士後期課程	3	14		42	博士(理学)	0.95			
物質理工学専攻					博士(工学)		平成12年度		
修士課程	2	37		74	博士(学術)	1.45			
博士後期課程	3	14		42		1.04			
先端エネルギー理工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	34		68		1.21			
博士後期課程	3	12		36		0.61			
環境エネルギー工学専攻							平成12年度		
修士課程	2	26		52		1.11			
博士後期課程	3	9		27		1.17			
大気海洋環境システム学専攻							平成12年度		
修士課程	2	30		60		1.24			
博士後期課程	3	11		33		0.36			
生物資源環境科学府			-		修士(農学)			福岡県福岡市西区	
資源生物科学専攻					博士(農学)		平成22年度	元岡744	平成30年度入学定員増 (16人)
修士課程	2	66		132		1.02			(7人)
博士後期課程	3	26		71		0.57			平成30年度入学定員減 (△9人)
環境農学専攻							平成22年度		(△6人)
修士課程	2	66		132		0.93			
博士後期課程	3	21		69		0.56			
農業資源経済学専攻							平成22年度		
修士課程	2	13		26		0.38			
博士後期課程	3	5		15		0.93			
生命機能科学専攻							平成22年度		平成30年度入学定員減 (△9人)(修士課程)
修士課程	2	99		198		0.91			平成30年度入学定員増 (13人)(博士後期課程)
博士後期課程	3	25		62		0.70			
生物産業創成専攻							平成22年度		平成30年より学生募集停止
博士後期課程	3	-		-		-			
統合新領域学府			-		修士(感性学)			福岡県福岡市西区	
ユーザー感性学専攻					修士(芸術工学)			元岡744	
修士課程	2	30		60	修士(工学)	0.63	平成21年度		
博士後期課程	3	4		12	修士 (オートモーティブサイエンス)	0.50	平成23年度		
オートモーティブサイエンス専攻					修士 (ライヴライオンサイエンス)		平成21年度		
修士課程	2	21		42	修士(学術)	1.02			
博士後期課程	3	7		21	博士(感性学)	0.42			
ライブラリーサイエンス専攻					博士(芸術工学)				
修士課程	2	10		20	博士(工学)	0.85	平成23年度		
博士後期課程	3	3		9	博士 (オートモーティブサイエンス)	0.88	平成25年度		
					博士 (ライヴライオンサイエンス)				
					博士(学術)				
附属施設の概要	該当なし								

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校は収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人九州大学 設置申請に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
九州大学				九州大学				
共創学部				共創学部				
共創学科	105	—	420	共創学科	105	—	420	
文学部				文学部				
人文学科	151	—	604	人文学科	151	—	604	
教育学部	46	—	184	教育学部	46	—	184	
法学部	189		756	法学部	189		756	
経済学部		3年次		経済学部		3年次		
経済・経営学科	141	10	584	経済・経営学科	141	10	584	
経済工学科	85	10	360	経済工学科	85	10	360	
理学部				理学部				
物理学科	55	—	220	物理学科	55	—	220	
化学科	62	—	248	化学科	62	—	248	
地球惑星科学科	45	3年次	180	地球惑星科学科	45	3年次	180	
数学科	50	5	210	数学科	50	5	210	
生物科学科	46	—	184	生物科学科	46	—	184	
医学部				医学部				
医学科	111	—	666	医学科	111	—	666	
生命科学科	12	—	48	生命科学科	12	—	48	
保健学科	134	—	536	保健学科	134	—	536	
歯学部				歯学部				
歯学科	53	—	318	歯学科	53	—	318	
薬学部				薬学部				
創薬科学科	49	—	196	創薬科学科	49	—	196	
臨床薬学科	30	—	180	臨床薬学科	30	—	180	
工学部				工学部				
建築学科	58	—	232	建築学科	58	—	232	
電気情報工学科	153	—	612	電気情報工学科	153	—	612	
物質科学工学科	163	—	652	物質科学工学科	163	—	652	
地球環境工学科	145	—	580	地球環境工学科	145	—	580	
エネルギー科学科	95	—	380	エネルギー科学科	95	—	380	
機械航空工学科	164	—	656	機械航空工学科	164	—	656	
芸術工学部				芸術工学部				
環境設計学科	35	—	140	環境設計学科	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
工業設計学科	45	—	180	工業設計学科	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
画像設計学科	35	—	140	画像設計学科	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
音響設計学科	35	—	140	音響設計学科	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
芸術情報設計学科	37	—	148	芸術情報設計学科	0	—	0	令和2年4月学生募集停止
農学部				農学部				
生物資源環境学科	226	—	904	生物資源環境学科	187	—	748	学科の設置(事前伺い)
計				計				
	2,555	25	10,658		2,555	25	10,658	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況					新設了学部等における学年進行状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
芸術工学部 環境設計学科 (廃止)	学士 (芸術工学) 学士 (学術)	工学関係 文学関係、 理学関係、 社会学・社会福祉学関係、 法学関係	芸術工学部芸術工学科	16	4	芸術工学部 芸術工学科	学士 (芸術工学)	工学関係	芸術工学部環境設計学科	16	4
			退職	4	4				芸術工学部工業設計学科	17	4
									芸術工学部画像設計学科	12	2
			計	20	8				芸術工学部音響設計学科	13	2
芸術工学部 工業設計学科 (廃止)	学士 (芸術工学) 学士 (学術)	工学関係 文学関係、 理学関係、 社会学・社会福祉学関係、 法学関係	芸術工学部芸術工学科	17	4	芸術工学部 芸術工学科	学士 (芸術工学)	工学関係	芸術工学部芸術情報設計学科	13	2
			退職	1	1				芸術工学部	1	0
									計	72	14
			計	18	5						
芸術工学部 画像設計学科 (廃止)	学士 (芸術工学) 学士 (学術)	工学関係 文学関係、 理学関係、 社会学・社会福祉学関係、 法学関係	芸術工学部芸術工学科	12	2						
			退職	3	1						
			計	15	3						
芸術工学部 音響設計学科 (廃止)	学士 (芸術工学) 学士 (学術)	工学関係 文学関係、 理学関係、 社会学・社会福祉学関係、 法学関係	芸術工学部芸術工学科	13	2						
			退職	3	3						
			計	16	5						
芸術工学部 芸術情報設計学科 (廃止)	学士 (芸術工学) 学士 (学術)	工学関係 文学関係、 理学関係、 社会学・社会福祉学関係、 法学関係	芸術工学部芸術工学科	13	2						
			退職	2	2						
			計	15	4						
芸術工学部	-	-	芸術工学部芸術工学科	1	0						
			計	1	0						

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
平成15年10月	芸術工学部 設置	工学関係	-

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術工学部芸術工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	1前②	1					○					1		兼52
	小計 (1科目)	-	1	0	0			-	0	0	0	1	0		兼52
課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5					○							兼17
	小計 (1科目)	-	2.5	0	0			-	0	0	0	0	0		兼17
言語文化科目	言語文化基礎科目	1前①～②	1					○					1		兼4
	言語文化基礎科目	1前①～②	1					○		1					兼7
	言語文化基礎科目	1後③～④	2					○				2			兼12
	言語文化基礎科目	1・2後③～④ 2前①～②		1				○							兼1
	言語文化基礎科目	1前①～②	1					○							兼1
	言語文化基礎科目	1後③～④	1					○							兼1
	言語文化基礎科目	2前①・② ・後③・④		1				○							兼2
	言語文化基礎科目	2前①・② ・後③・④		1				○		1					兼3
	言語文化基礎科目	2前①・② ・後③・④		2				○		2		2			
	言語文化基礎科目	1前①～②		2				○							兼1
	言語文化基礎科目	1後③～④		2				○							兼1
	言語文化基礎科目	2前①～②		1				○							兼1
	言語文化基礎科目	1後③～④		1				○							兼2
	言語文化基礎科目	2前①～②		1				○							兼1
	言語文化基礎科目	1後③～④		1				○							兼2
	言語文化基礎科目	2前①～②		1				○							兼2
	言語文化基礎科目	1前①～②		2				○							兼2
言語文化基礎科目	1後③～④		2				○							兼2	
言語文化基礎科目	2前①～②		1				○							兼2	
言語文化基礎科目	1前①～②		2				○							兼2	
言語文化基礎科目	1後③～④		2				○							兼2	
言語文化基礎科目	2前①～②		1				○							兼1	
言語文化基礎科目	1後③～④		1				○							兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1		○									兼2
	ロシア語Ⅰ	1前①～②		2		○									兼1
	ロシア語Ⅱ	1後③～④		2		○									兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼1
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1		○									兼1
	韓国語Ⅰ	1前①～②		2		○									兼2
	韓国語Ⅱ	1後③～④		2		○									兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼2
	韓国語フォーラム	1後③～④		1		○									兼1
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		2		○									兼1
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		2		○									兼1
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼1
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1		○									兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○									兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○									兼1
	日本語Ⅴ	2前①		1		○									兼1
	日本語Ⅵ	2前②		1		○									兼1
	日本語Ⅶ	2前①		1		○									兼1
言語文化 自由選択 科目	入門ドイツ語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	入門ドイツ語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	入門中国語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼2
	入門中国語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	中国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	入門ロシア語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	入門ロシア語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	入門韓国語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	入門韓国語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	韓国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	韓国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	小計 (53科目)		-	6	74	0	-			0	2	0	2	0	兼37

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
文系 ディシプリン 科目	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼4
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼4
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
小計 (14科目)	-		0	26	0	-			0	0	0	0	0	兼31	
理系 ディシプリン 科目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②		1.5			○								兼1
	微分積分学・同演習B	1後③～④		1.5			○								兼1
	微分積分学・同演習I	1前①～②		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習II	1後③・ 後③～④		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習III	1後④・ 2前①～②		1.5			○								兼4
	線形代数	1前①～②		1.5		○									兼2
	線形代数学・同演習A	1前①～②		1.5			○								兼2
	線形代数学・同演習B	1後③～④		1.5			○								兼2
	数学演習I A	1前①～②		1			○								兼2
	数学演習I B	1後③～④		1			○								兼2
	数学演習II	2前①～②		1			○								兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5			○						1			兼1
	身の回りの物理学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	物理学概論A	1前①～②		1.5		○									兼1
	物理学概論B	1後③～④		1.5		○									兼1
	物理学概論A演習	1前①～②		1			○								兼1
物理学概論B演習	1後③～④		1			○								兼1	
基幹物理学I A	1前①～②		1.5		○									兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	基幹物理学 I B	1後③～④		1.5		○									兼2
	基幹物理学 I A 演習	1前①～②		1			○								兼1
	基幹物理学 I B 演習	1後③～④		1			○								兼1
	力学演習	1後③～④		1			○								兼2
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○									兼1
	基幹物理学 II	2前①～②		1.5		○									兼1
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○									兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○									兼1
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	基礎化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	無機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	有機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④		1.5		○				1					兼1
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○									兼1
	現代化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	機器分析学	2後④		2		○									兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼4
	生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼6
	基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	集団生物学	1後③～④		1.5		○									兼1
	分子生物学	2前①～②		1.5		○									兼2
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○									兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○									兼2
	最先端地球科学	2前②・後③		1		○									兼2
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○				5		1			オムニバス
	図形科学	1前①～② ・後③～④		1.5		○				2					
	空間表現実習 I	1前①～② ・後③～④		2			○			2					
	空間表現実習 II	1後③～④		2			○			2					
	世界建築史	2前①		2		○									兼1
	日本建築史	2前②		2		○									兼1
	デザイン史	2後③～④	2			○				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	情報科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○									兼2
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④		1			○								兼2
	コンピュータープログラミング入門	2後③		1		○									兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○							兼12
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○							兼12
	小計（60科目）	-	7	76.5	0			-	0	10	1	2	0		兼88
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○									兼3
	小計（1科目）	-	1	0	0			-	0	0	0	0	0		兼3
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○								兼5
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○							兼5
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1				○	1						兼3
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④ ・3前①～②		1				○							兼2
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④ ・3前①～②		1				○							兼2
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○									兼1
小計（7科目）	-	1	7	0			-	1	0	0	0	0		兼6	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○									兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○									兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○									兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○									兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○									兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○									兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○									兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○									兼1
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○									兼1
アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○									兼1 集中	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○								兼1	集中
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○								兼1	
	コミュニケーション入門	1前①		1		○								兼1	
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	ことばの科学	1前①		1		○								兼1	
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	農業と微生物	1後④		1		○									兼1
	企業から見たサイバーセキュリティ	1前②・後④		1		○									兼1
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2 集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1前①～②		1			○								兼1 集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1前①～②		1			○								兼1 集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1後③～④		1			○								兼1 集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1 集中
	「留学」考	1後③～④		1		○									兼1 集中
	Contemporary American Society:A Sociological Introduction	1後④		1		○									兼1
	アイデア・ラボ I	1前②		2		○									兼1
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡 編)	1前①		1		○									兼1
	伊都キャンパスを科学する II (現在 編)	1前②		1		○									兼1
	伊都キャンパスを科学する III (展望 編)	1後③		1		○									兼1
	少人数セミナー	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	小計 (65科目)	-	0	72	0	-			0	0	0	0	0		兼46
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	科学の歴史A	2前①		1		○									兼1
	科学の歴史B	2前②		1		○									兼1
	脳情報科学入門	3前①		1		○									兼1
	認知心理学	2後④		1		○									兼1
	Brain and Mind	2後③		1		○									兼1
	機械学習と人工知能	2後③		1		○									兼1
	現代社会 I	2前①～②		2		○									兼1
	現代社会 II	2後③～④		2		○									兼1
	現代社会 III	2後③～④		2		○									兼1 隔年
	現代史 I	2前①～②		2		○									兼1
	現代史 II	2後③～④		2		○									兼1
	現代史 III	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	現代史 IV	2後③～④		2		○									兼1 隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1
	技術と産業・企業	3前①～②		2		○									兼1 隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○				1					
	芸術学概論	3後③～④		1		○									兼1 集中
	音楽・音響論	2後③～④		2		○				1					
	デザインと観察	2前①～②		2		○				1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○								兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○								兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○								兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○								兼1	
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③		1		○								兼1	隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後④		1		○								兼1	隔年
	男女共同参画	2後③～④		2		○								兼1	
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○						兼1	集中
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○						兼1	集中
	インターンシップⅠ	2通		1				○						兼1	集中
	インターンシップⅡ	2通		1				○						兼1	集中
	漢方医薬学	3前①～②		1		○								兼1	集中
	チーム医療演習	3後③～④		1			○							兼1	集中
	臨床イメージング	2後③		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①～②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	平和と安全の構築学	2後④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアの政治と社会	2後③～④		2		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①～②		1			○							兼1	集中
	レトリック基礎	2前①～②		1			○							兼1	集中
	共創発想法	2後③		2			○							兼1	
	データマイニングと情報可視化	2後④		1			○							兼1	
	技術と倫理	2後④		1		○								兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○								兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	研究と倫理	2後③		1		○									兼1
	社会と倫理	2後④		1		○									兼1
	インフォームドコンセント	3前①～②		1		○									兼1
	臨床倫理	3後③～④		1		○									兼1
	アントレプレナーシップ・会計/ ファイナンス基礎	2後④		1		○									兼1
	アントレプレナーシップ・ 戦略論基礎	2前②		1		○									兼1
	アントレプレナーシップ・ 組織論基礎	2前①		1		○									兼1
	アントレプレナーシップ・ マーケティング基礎	2後③		1		○									兼1
	事業創造デザイン特論 I	2前①		1		○									兼1
	事業創造デザイン特論 II	2前②		1		○									兼1 集中
	社会統計学A	3後③		1				○							兼1
	社会統計学B	3後④		1				○							兼1
	社会調査法 I A	2前①		1				○							兼1
	社会調査法 I B	2前②		1				○							兼1
	社会調査法 II A	2後③		1				○							兼1 隔年
	社会調査法 II B	2後④		1				○							兼1 隔年
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	教育心理学特論 (教育・学校心理学)	2後③～④		2		○									兼1
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	小計 (74科目)	-	0	109	0	-			0	3	0	0	0		兼57

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻教育科目	デザインリテラシー基礎	デザインリテラシー基礎	1前①	1			○			1						
		基礎造形	基礎造形Ⅰ	2前①	1			○			1					
			基礎造形Ⅱ	2前②	1			○			1					
			基礎造形Ⅲ	2後③		1		○			1					
	基礎造形Ⅳ		2後④		1		○			1						
	人間とデザイン	文化とデザイン	2前①		1		○			1						
		社会とデザイン	2前②		1		○			1						
		人間科学とデザイン	2前①		1		○			1						
		科学技術とデザイン	2前②		1		○			1						
	デザイン論	デザイン論Ⅰ	3後③		1		○				1					
		デザイン論Ⅱ	3後④		1		○				1					
		デザイン・ケーススタディⅠ	1前②		1		○				1					
		デザイン・ケーススタディⅡ	3後③		1		○				1					
小計(13科目)		-	3	10	0				2	6	0	0	0			
コース基礎科目	環境設計基礎Ⅰ	1後③		1		○				2				オムニバス		
	環境設計基礎Ⅱ	1後④		1		○				1						
	空間デザイン実習	2前①		2			○			2				共同		
	環境設計プロジェクトA	2前①		2			○		1	1		1		共同		
	環境設計プロジェクトB	2前②		2			○			1		2		共同		
	空間情報分析実習Ⅰ	2後③		1			○			1						
	空間情報分析実習Ⅱ	2後④		1			○			1						
	インダストリアルデザイン基礎Ⅰ	1後③		1			○			1	6		2		オムニバス	
	インダストリアルデザイン基礎Ⅱ	1後④		1			○			3			2		オムニバス	
	プロダクトデザイン概論	2前①		1			○			1	2		1		オムニバス	
	ライフスケープデザイン概論	2前②		1			○				2		1		オムニバス	
	サービスデザイン概論	2前②		1			○				2				オムニバス	
	人間工学概論	2前①		2			○			3			3		オムニバス	
	未来構想デザイン概論	1後③		1			○			2	6		4		オムニバス	
視覚芸術基礎	2前①		1				○			1						
コンセプト論	2後③		1			○				1						
デザインスケッチ	2前②		1				○			1				※講義		
社会と多様性	1後④		1			○				1		1		オムニバス		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	環境と持続可能性	2後③		1		○			1							
	クリティカルシンキング	2前①		1		○			1			1				共同
	プログラミング基礎	2前②		1		○			1							
	情報科学 I	2前①		1		○			1							
	生命科学入門 I	2前②		1			○					1				
	メディアデザイン概論 I	1後③		1		○			2	3		2				オムニバス・ ※演習
	メディアデザイン概論 II	1後④		1		○			1	6						オムニバス・ 共同 (一部)
	メディアデザイン概論 III	2前①		1		○			1	3		3				オムニバス・ 共同 (一部)
	メディア表現基礎	2前①		2			○		2	3		2				オムニバス 共同 (一部) ※講義
	メディアプログラミング	2前①		2		○				3						オムニバス ※演習
	聴覚生理学	2前①		2		○			2			1				オムニバス
	聴覚心理学	2後③		2		○			2							オムニバス
	音文化論	2前①		2		○			1							
	音響理論演習 I	2前①		2		○			1							※演習
	音響理論演習 II	2後③		2		○			1							※演習
	音響信号処理	2前①		2		○			1							
	デジタル信号処理	2後③		2		○			1							
	小計 (35科目)	-	0	48	0	-			13	33	0	16	0			
コース 専門科目	環境設計 コース 専門科目	2前①		1		○			1							
	構造理論 II	2前②		1		○			1							
	環境材料論 I	2前①		1		○					1					
	環境材料論 II	2前②		1		○					1					
	環境調整システム論	2前①		2		○						1				
	建築デザイン計画論	2後③		2		○			1							
	環境構法論	2後④		2		○			1							
	建築法規	2後④		1		○			1							
	構法設計論	3前①		2		○			1							
	建築空間設計論	3前②		2		○			1							
	環境情報論 I	3後③		1		○			1							
	環境情報論 II	3後④		1		○			1							
	構造システム論 I	3後③		1		○			1							
	構造システム論 II	3後④		1		○			1							
	設備計画論	3後③		2		○						1				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	建築生産	3後③		2		○				1					
	環境テクノロジー実習A	3前①		1			○			1					
	環境テクノロジー実習B	3前②		1			○					1			
	西洋建築史	3前①		1		○				1					
	近代建築史	3前②		1		○						1			
	環境文化財論	3前②		2		○						1			
	日本建築史	3後③		2		○				1					
	歴史環境実習	3後④		1			○			1		1			共同
	都市環境設計論	2前②		2		○			1						
	環境保全論	2後③		2		○				1					
	緑地環境設計論	2後④		2		○				1					
	ランドスケープデザイン論	3前①		2		○				1					
	緑地環境実習	2前①		1				○		1					
	環境社会デザイン論	2前②		1		○			1						
	データ解析	2後③		1		○						1			
	物質文化論	2後④		1		○			1						
	ファシリテーション	3前①		1			○			1					
	環境倫理学	3前①		1		○			1						
	芸術コミュニケーション論	3前①		1		○				1					
	アーツマネジメント論	3後③		1		○						1			
	Design Pitching Skills	2後③		1			○			1		2			共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1			○						2		オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1			○						2		オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1			○						2		オムニバス 共同(一部) ※講義
	国際環境デザインA I	3前①		1		○				1					※演習
	国際環境デザインAII	3前②		1		○				1					※演習
	国際環境デザインAIII	3後③		1		○				1					※演習
	国際環境デザインAIV	3後④		1		○				1					※演習
	国際環境デザインB I	3前①		2		○				1					※演習
	国際環境デザインBII	3前②		2		○				1					※演習
	国際環境デザインBIII	3後③		2		○				1					※演習
	国際環境デザインBIV	3後④		2		○				1					※演習
	インターンシップ(学部) I	3・4通		1				○		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	インターンシップ(学部)Ⅱ	3・4通		1				○	1						
	小計(49科目)	-	0	66	0			-	4	7	1	7	0		
インダストリアルデザインインコース専門科目	プロダクトデザイン実践論	2前②		1				○	1	2		1		オムニバス	
	ライフスケープデザイン実践論	2後③		1				○		2		1		オムニバス	
	サービスデザイン実践論	2後④		1				○		2				オムニバス	
	イノベーションデザイン論・演習Ⅰ	3前①		2				○	1	2		1		オムニバス・共同 ※講義	
	イノベーションデザイン論・演習Ⅱ	3前②		2				○	1	2		1		オムニバス・共同 ※講義	
	ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅰ	3前①		2				○		2		1		共同 ※講義	
	ライフスケープデザイン実践論・演習Ⅱ	3前②		2				○		2		1		共同 ※講義	
	ソーシャルデザイン論・演習Ⅰ	3前①		2				○		2				オムニバス ※講義	
	ソーシャルデザイン論・演習Ⅱ	3前②		2				○		2				オムニバス ※講義	
	クリエイティブデザイン演習	3後③～④		2				○		1	6		2		
	福祉人間工学	2前②		1				○		1					
	データ解析	2後③		1				○					1		
	環境人間工学	2後④		1				○		1					
	環境生理学	2後③		1				○		1					
	感性科学	2前②		1				○		1					
	行動生理学	2後④		1				○		1					
	生活機能支援科学	3後③		1				○					1		
	データマイニングⅠ	3前①		1				○					1		
	データマイニングⅡ	3前②		1				○					1		
	生理人類学	3前②		1				○		1					
	生体情報処理論	3前①		1				○					1		
	人間工学先端セミナー	3後③		1				○		3			3		共同
	リサーチリテラシー	3後③		1				○		1	2				オムニバス
	Design Pitching Skills	2後③		1					○		1		2		共同
Start-ups and Global Disruptors	2前②		1					○				2		オムニバス ※講義	
Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1					○				2		オムニバス ※講義	
Global Design Innovations	2前②		1					○				2		オムニバス 共同(一部) ※講義	
国際インダストリアルデザインAⅠ	3前①		1					○	1					※演習	
国際インダストリアルデザインAⅡ	3前②		1					○	1					※演習	
国際インダストリアルデザインAⅢ	3後③		1					○	1					※演習	
国際インダストリアルデザインAⅣ	3後④		1					○	1					※演習	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	国際インダストリアルデザインBI	3前①		2		○			1						※演習
	国際インダストリアルデザインBII	3前②		2		○			1						※演習
	国際インダストリアルデザインBIII	3後③		2		○			1						※演習
	国際インダストリアルデザインBIV	3後④		2		○			1						※演習
	インターンシップ(学部)I	3・4通		1				○	1						
	インターンシップ(学部)II	3・4通		1				○	1						
	小計(37科目)	-	0	48	0	-	-	-	4	7	0	7	0		
未来構想デザインコース専門科目	芸術表現論	2後③		1			○		1						
	西洋美術史	2前①		1		○			1						
	芸術文化論	2後④		1		○			1						※演習
	芸術環境論	3前①		1		○			1						※演習
	身体表現演習I	2前①		1			○				1				
	身体表現演習II	2前②		1			○					1			
	応用音楽表現演習I	2後③		1			○		1			2			共同
	応用音楽表現演習II	2後④		1			○		1			2			共同
	先端芸術表現論	3前②		1		○			1						
	デザイン哲学	2前②		1		○			1						
	デザイン美学	2後④		1		○			1						
	デザイン編集論・演習	2後③		1			○		1						※講義
	デザイン材料論・演習	2後④		1			○					1			※講義
	バイオアート&デザイン論・演習	3後④		1			○					1			※講義
	未来デザイン方法論	2前①		1		○			1						
	デザイン要素論・演習	2後③		1			○		1						※講義
	デザイン設計論・演習	3前①		1			○		1						※講義
	デザイン実装論・演習	3前②		1			○		1						※講義
	環境倫理学	3前①		1		○			1						
	物質文化論	2後④		1		○			1						
	グローバル化と伝統的社会	3後③		1		○			1						
	環境社会デザイン論	2前②		1		○			1						
	価値と政策	3後④		1		○			1						
	表象文化論	2後④		1		○			1						
	芸術コミュニケーション論	3前①		1		○			1						
	アーツマネジメント論	3後③		1		○						1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	教育における多様性	3後④		1			○						1		※講義
	質的社会調査法	2後③		1		○							1		※演習
	ファシリテーション	3前①		1			○			1					
	アート・デザイン・ライティング演習	2後④		1			○			1					
	主観評価法	3前①～②		2		○			1	2					オムニバス ※演習
	フィジカルコンピューティングとIoT	3前①		1		○				1					※演習
	ウェブサービスデザイン	3前②		2		○				1					※演習
	データ解析	2後③		1		○							1		
	プログラミング設計	2後③		1			○			1					
	シミュレーション数理	3前①		1		○				1					
	シミュレーション演習	3前①		1			○			1					
	情報科学Ⅱ	2後④		1		○				1					
	情報科学Ⅲ	3前①		1		○				1					
	データマイニングⅠ	3前①		1		○							1		
	データマイニングⅡ	3前②		1		○							1		
	先端情報生命科学Ⅰ	2後③		1		○				1					
	先端情報生命科学Ⅱ	2後④		1		○				1					
	生命科学入門Ⅱ	3前①		1		○							1		
	生命科学実習	3後③		1				○					1		
	知覚心理学	2前②		2		○			1	2			1		オムニバス
	Design Pitching Skills	2後③		1			○			1			2		共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1			○						2		オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1			○						2		オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1			○						2		オムニバス 共同(一部) ※講義
	国際未来構想デザインAⅠ	3前①		1		○				1					※演習
	国際未来構想デザインAⅡ	3前②		1		○				1					※演習
	国際未来構想デザインAⅢ	3後③		1		○				1					※演習
	国際未来構想デザインAⅣ	3後④		1		○				1					※演習
	国際未来構想デザインBⅠ	3前①		2		○				1					※演習
	国際未来構想デザインBⅡ	3前②		2		○				1					※演習
	国際未来構想デザインBⅢ	3後③		2		○				1					※演習
	国際未来構想デザインBⅣ	3後④		2		○				1					※演習
	インターンシップ(学部)Ⅰ	3・4通		1				○		1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	インターンシップ（学部）Ⅱ	3・4通		1				○	1						
	小計（60科目）	-	0	67	0			-	3	10	0	6	0		
メディアデザインコース専門科目	ゲームデザイン	2後③		2				○		1					※演習
	映像表現	2前①		2				○		1					※演習
	アニメーション表現	2前②		2				○		1					※演習
	芸術論	2前①		2				○		1					※演習
	数理造形	3前①		2				○				1			※演習
	タイポグラフィックデザイン	2前②		1					○	1					※講義
	グラフィックデザイン	2後④		1				○		1					※演習
	広告クリエイティブデザイン	3後③		1				○		1	1		1		オムニバス ※演習
	情報デザイン	2後③		2				○					1		※演習
	インタラクティブデザイン	2後③		2				○		1					
	メカニクスデザイン	2前①		2				○		1					※演習
	バーチャルリアリティ	3前①		2				○		1					
	コンピュータグラフィックス	2後③		2				○		1					
	ウェブサービスデザイン	2前②		2				○		1					※演習
	コンピュータビジョン	3後③		2				○		1					
	メディア情報処理	2前①		2				○		1					
	コンテンツ工学	2前②		2				○		1					
	フィジカルコンピューティングとIoT	3前①		1				○		1					※演習
	視覚心理学	2前①		2				○		1					
	色彩学	2前②		2				○		1					
	心理学的思考法	3後③		2				○		1					※演習
	言葉とコミュニケーション	2後③		2				○					2		オムニバス
	演劇文化論	2後④		2				○		1					
	知的財産法	3前②		2				○					1		
	知覚心理学	2前②		2				○		1	2		1		オムニバス
	主観評価法	3前①～②		2				○		1	2				オムニバス ※演習
	Design Pitching Skills	2後③		1				○		1			2		共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1				○					2		オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1				○					2		オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1				○					2		オムニバス 共同（一部） ※講義
	国際メディアデザインA I	3前①		1				○		1					※演習

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	国際メディアデザインAII	3前②		1		○			1						※演習
	国際メディアデザインAIII	3後③		1		○			1						※演習
	国際メディアデザインAIV	3後④		1		○			1						※演習
	国際メディアデザインBI	3前①		2		○			1						※演習
	国際メディアデザインBII	3前②		2		○			1						※演習
	国際メディアデザインBIII	3後③		2		○			1						※演習
	国際メディアデザインBIV	3後④		2		○			1						※演習
	インターンシップ(学部)I	3・4通		1				○	1						
	インターンシップ(学部)II	3・4通		1				○	1						
	小計(40科目)	-	0	66	0	-	-	-	4	16	0	8	0		
	音響設計コース専門科目														
	知覚心理学	2前②		2		○			1	2		1			オムニバス
	主観評価法	3前①～②		2		○			1	2					オムニバス ※演習
	電気工学	2前①～②		2		○						1			
	電子工学	2後③～④		2		○						1			
	情報理論	3前①～②		2		○						1			
	データ解析	2後③		1		○						1			
	データマイニングI	3前①		1		○						1			
	データマイニングII	3前②		1		○						1			
	質的社会調査法	2後③		1		○						1			※演習
	比較音楽理論	2前②		2		○						1			
	西洋音楽史	2後③		2		○						1			
	音文化論演習	2後④		2			○			1					※講義
	芸術コミュニケーション論	3前①		1		○				1					
	音楽学	3前①		2		○						1			オムニバス
	聴覚認知論	3前①～②		2		○				1					
	音声情報学	2後④		2		○			1			1			オムニバス
	デジタル信号処理演習	2後④		2			○			1					※講義
	音響メディア工学	3前②		2		○			1						
	音響メディア工学演習	3後③		2			○		1						※講義
	応用音響理論	2後④		2		○				1					
	音響機器論	2後④		2		○						1			
	騒音環境学	3前①		2		○			1	2					オムニバス
	非線形理論	3前②		2		○			1	2					オムニバス

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	楽器音響学	3後③		2		○			1	1					○ムニハス
	室内音響学	3後④		2		○			1						
	Design Pitching Skills	2後③		1			○			1			2		共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1			○						2		○ムニハス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1			○						2		○ムニハス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1			○						2		○ムニハス 共同(一部) ※講義
	国際音響デザインA I	3前①		1		○			1						※演習
	国際音響デザインAII	3前②		1		○			1						※演習
	国際音響デザインAIII	3後③		1		○			1						※演習
	国際音響デザインAIV	3後④		1		○			1						※演習
	国際音響デザインB I	3前①		2		○			1						※演習
	国際音響デザインBII	3前②		2		○			1						※演習
	国際音響デザインBIII	3後③		2		○			1						※演習
	国際音響デザインBIV	3後④		2		○			1						※演習
	インターンシップ(学部) I	3・4通		1				○	1						
	インターンシップ(学部) II	3・4通		1				○	1						
	小計(39科目)	-	0	63	0			-	3	10	0	8	0		
コース 演習科目 (PBL)	環境設計プロジェクトC	2後③		2			○			1					共同
	環境設計プロジェクトD	2後④		2			○		1	1					共同
	環境設計プロジェクトE	3前①		2			○		1	1					共同
	環境設計プロジェクトF	3前②		2			○			1					共同
	環境設計プロジェクトG	3後③		2			○		1						
	環境設計プロジェクトH	3後④		2			○			1					
	環境総合プロジェクトA	4前①		2			○		2	5	2	3			
	環境総合プロジェクトB	4前②		2			○		2	5	2	3			
	小計(8科目)	-	0	16	0			-	2	5	2	3	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
(PBL) インスタリアルデザインコース 演習科目	プロダクトデザイン実践論・演習Ⅰ	2前①		2			○		1	2		1		オムニバス・共同 ※講義
	プロダクトデザイン実践論・演習Ⅱ	2前②		2			○		1	2		1		オムニバス・共同 ※講義
	ライフスケープデザイン論・演習Ⅰ	2後③		2			○			2		1		共同 ※講義
	ライフスケープデザイン論・演習Ⅱ	2後④		2			○			2		1		共同 ※講義
	ビジネスデザイン論・演習Ⅰ	2前②		2			○		1	2				オムニバス ※講義
	ビジネスデザイン論・演習Ⅱ	2後③		2			○			2		1		オムニバス ※講義
	人間工学演習Ⅰ	2前①～②		4			○		3			3		共同
	人間工学演習Ⅱ	3前①～②		4			○		3			3		共同
	人間工学プロジェクト演習	3後③～④		4			○		3			3		共同
	フィールド調査論・演習	2後③～④		4			○		1	2		1		オムニバス・ 共同(一部) ※講義
小計(10科目)	-		0	28	0		-		4	6	0	5	0	
未来構 想デザ インコ ース 演習 科目 (PBL)	共通課題PBL演習A	2前①		4			○		2	6		4		
	共通課題PBL演習B	3前①		4			○		2	6		4		
	プラットフォーム演習 A	2後③		4			○		2	6		4		
	プラットフォーム演習 B	3後③		4			○		2	6		4		
	プラットフォーム演習 C	2後③		4			○		2	6		4		
	プラットフォーム演習 D	3後③		4			○		2	6		4		
小計(6科目)	-		0	24	0		-		2	6	0	4	0	
メ デ ィ ア デ ィ ン コ ース 演 習 科 目 (PBL)	メディアデザイン 総合プロジェクトⅠ	3前①		2			○		4	12		5		
	メディアデザイン 総合プロジェクトⅡ	3後④		2			○		4	12		5		
	コンテンツデザイン演習Ⅰ	2後③		2			○		1	1				共同
	コンテンツデザイン演習Ⅱ	2後④		2			○			1				
	造形表現演習	2前②		2			○			1		1		
	数理造形と表現演習	3前②		2			○			1		1		
	コミュニケーションデザイン演習Ⅰ	2後④		2			○		1			1		
	コミュニケーションデザイン演習Ⅱ	3前①		2			○		1			1		
	コンテンツインタラクション演習	3前①		2			○		1	4				オムニバス 共同(一部)
	実世界インタラクション演習	3前②		2			○			2				オムニバス
	クリエイティブ発想演習	3後③		2			○		1	6				共同
	クリエイティブ プロトタイピング演習	3後④		2			○		1	6				共同
メディアサイエンス演習Ⅰ	2後④		2			○		1	1				オムニバス 共同(一部)	
メディアサイエンス演習Ⅱ	3前②		2			○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
音響設計コース演習科目（PBL）	比較演劇・メディア文化演習	3前②		2				○			1		2		ホームベース
	知的財産マネジメント演習	3後③		2				○					1		
	小計（16科目）	-	0	32	0			-		4	12	0	5	0	
	聴能形成Ⅰ	1後③～④		1					○		1		1		共同 ※講義
	聴能形成Ⅱ	2前①～②		1					○		1		1		共同 ※講義
	音響プログラミング演習	2前②		2				○		1			1		ホームベース
	電気実験	3前①～②		2					○		1		1		共同
	音楽理論表現演習	2前①～②		2					○				2		共同 ※講義
	応用音楽表現演習Ⅰ	2後③		1					○		1		2		共同
	応用音楽表現演習Ⅱ	2後④		1					○		1		2		共同
	音響生成演習	3前②		2					○		1				
	收音音響構成	2前②		2						○	1				※講義
	環境音響構成	2後④		2						○	1				※講義
	音響実験Ⅰ	3前①		2					○		2	4		3	
	音響実験Ⅱ	3後③～④		3					○		2	7		3	
小計（12科目）	-	0	21	0			-		2	7	0	4	0		
融合プロジェクト・プロジェクト	コース融合プロジェクトA	2・3・4前②・後③		4					○		14	36	2	20	
	コース融合プロジェクトB	2・3・4前②・後③		4					○		14	36	2	20	
	小計（2科目）	-	0	8	0			-		14	36	2	20	0	
卒業研究・設計	卒業研究Ⅰ	4前①～② ・後③～④	4						○		14	36	2	20	
	卒業研究Ⅱ	4前①～② ・後③～④	4						○		14	36	2	20	
	小計（2科目）	-	8	0	0			-		14	36	2	20	0	
合計（605科目）		-	29.5	861.5	0			-		14	36	2	20	0	兼268

学位又は称号	学士（芸術工学）	学位又は学科の分野	工学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること （履修科目の登録上限 24単位（1学期））			1学年の学期区分	4学期
1. 基幹教育科目 48単位以上（全コース共通） (a) 基幹教育セミナー（1単位修得） <必修科目>基幹教育セミナー（1単位） (b) 課題協学科目（2.5単位修得） <必修科目>課題協学科目（2.5単位） (c) 言語文化科目（12単位修得） <必修科目>学術英語A・リセプション（1単位） 学術英語A・プロダクション（1単位） 学術英語B・インテグレート（2単位） 学術英語A・CALL（1単位） 学術英語B・CALL（1単位） (d) 文系ディシプリン科目（4単位修得） (e) 理系ディシプリン科目（18単位修得） <必修科目>情報科学（1.5単位） 自然科学総合実験（基礎）（1単位） 自然科学総合実験（発展）（1単位） 数理統計学（1.5単位） デザイン史（2単位） 空間表現実習Ⅱ（2単位）※インダストリアルデザインコースのみ (f) サイバーセキュリティ科目（1単位修得） <必修科目>サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g) 健康・スポーツ科目（1単位修得） <必修科目>健康・スポーツ科学演習（1単位） (h) 総合科目（1単位修得） (i) 高年次基幹教育科目（2単位修得） (j) その他（5.5単位修得） 基幹教育科目として開講される言語文化科目、文系ディシプリン科目、 理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目、 高年次基幹教育科目の中から選択			1学期の授業期間	8週
			1時限の授業時間	90分
2. 専攻教育科目 80単位以上 (1) 環境設計コース (a) デザインリテラシー科目（8単位修得） <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目（10単位修得） (c) 環境設計コース専門科目（30単位修得） (d) 環境設計コース演習科目（PBL）及び 融合プロジェクト・プラットフォーム（12単位修得） (e) 深化・展開科目（12単位修得） 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目（PBL）から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得 (f) 卒業研究・設計（8単位修得） <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ				
(2) インダストリアルデザインコース (a) デザインリテラシー科目（8単位修得） <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目（7単位修得） (c) インダストリアルデザインコース専門科目（21単位修得） (d) インダストリアルデザインコース演習科目（PBL）及び 融合プロジェクト・プラットフォーム（24単位修得） (e) 深化・展開科目（12単位修得） 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目（PBL）から、 他コース科目8単位以上を含む12単位以上修得 (f) 卒業研究・設計（8単位修得） <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ				
(3) 未来構想デザインコース (a) デザインリテラシー科目（8単位修得） <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目（10単位修得） (c) 未来構想デザインコース専門科目（30単位修得） (d) 未来構想デザインコース演習科目（PBL）（8単位修得） (e) 融合プロジェクト・プラットフォーム（4単位修得） (f) 深化・展開科目（12単位修得） 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目（PBL）から、 他コース科目8単位以上を含む12単位以上修得 (g) 卒業研究・設計（8単位修得） <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ				

卒業要件及び履修方法	授業期間等
<p>(4)メディアデザインコース</p> <p>(a)デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択</p> <p>(b)コース基礎科目 (7単位修得)</p> <p>(c)メディアデザインコース専門科目 (25単位修得)</p> <p>(d)メディアデザインコース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (20単位修得) <必修科目>メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ</p> <p>(f)深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得</p> <p>(g)卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ</p>	
<p>(5)音響設計コース</p> <p>(a)デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択</p> <p>(b)コース基礎科目 (14単位修得)</p> <p>(c)音響設計コース専門科目 (22単位修得)</p> <p>(d)音響設計コース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (16単位修得) <必修科目>音楽理論表現演習、音響実験Ⅰ、音響実験Ⅱ</p> <p>(e)深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得</p> <p>(f)卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ</p>	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術工学部芸術工学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	1前②	1					○					1		兼52
	小計 (1科目)	-	1	0	0			-		0	0	0	1	0	兼52
課題協学科目	課題協学科目	1後③~④	2.5					○							兼17
	小計 (1科目)	-	2.5	0	0			-		0	0	0	0	0	兼17
言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語A・リセプション	1前①~②	1					○					1		兼4
	学術英語A・プロダクション	1前①~②	1					○			1				兼7
	学術英語B・インテグレート	1後③~④	2					○				2			兼12
	学術英語AB・再履修	1・2後③~④ 2前①~②		1				○							兼1
	学術英語A・CALL	1前①~②	1					○							兼1
	学術英語B・CALL	1後③~④	1					○							兼1
	学術英語C・テーマベース	2前①・② ・後③・④		1				○							兼2
	学術英語C・スキルベース	2前①・② ・後③・④		1				○			1				兼3
	ドイツ語I	1前①~②		2				○							兼1
	ドイツ語II	1後③~④		2				○							兼1
	ドイツ語III	2前①~②		1				○							兼1
	ドイツ語プラクティクムI	1後③~④		1				○							兼2
	ドイツ語プラクティクムII	2前①~②		1				○							兼1
	フランス語I	1前①~②		2				○							兼2
	フランス語II	1後③~④		2				○							兼2
	フランス語III	2前①~②		1				○							兼2
	中国語I	1前①~②		2				○							兼2
中国語II	1後③~④		2				○							兼2	
中国語III	2前①~②		1				○							兼1	
中国語実践I	1後③~④		1				○							兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1		○									兼2
	ロシア語Ⅰ	1前①～②		2		○									兼1
	ロシア語Ⅱ	1後③～④		2		○									兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼1
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1		○									兼1
	韓国語Ⅰ	1前①～②		2		○									兼2
	韓国語Ⅱ	1後③～④		2		○									兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼2
	韓国語フォーラム	1後③～④		1		○									兼1
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		2		○									兼1
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		2		○									兼1
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○									兼1
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1		○									兼1
	日本語Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○									兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○									兼1
	日本語Ⅴ	2前①		1		○									兼1
	日本語Ⅵ	2前②		1		○									兼1
	日本語Ⅶ	2前①		1		○									兼1
	言語文化自由選択科目														
	入門ドイツ語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	入門ドイツ語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	入門中国語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼2
	入門中国語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	中国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	入門ロシア語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	入門ロシア語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	入門韓国語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	入門韓国語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	韓国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○									兼1
	韓国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1
	小計 (52科目)	-	6	72	0	-			0	1	0	2	0		兼37
文系 ディ シ プ リ	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
リ ン 科 目	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼4
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼2
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼4
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
	小計 (14科目)	-	0	26	0	-			0	0	0	0	0		兼31
理 系 デ ィ シ プ リ ン 科 目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②		1.5			○								兼1
	微分積分学・同演習B	1後③～④		1.5			○								兼1
	微分積分学・同演習I	1前①～②		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習II	1後③・ 後③～④		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習III	1後④・ 2前①～②		1.5			○								兼4
	線形代数	1前①～②		1.5		○									兼2
	線形代数学・同演習A	1前①～②		1.5			○								兼2
	線形代数学・同演習B	1後③～④		1.5			○								兼2
	数学演習 I A	1前①～②		1			○								兼2
	数学演習 I B	1後③～④		1			○								兼2
	数学演習 II	2前①～②		1			○								兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5				○								兼1
	身の回りの物理学 A	1前①・② ・後③・④		1			○								兼2
	物理学概論A	1前①～②		1.5			○								兼1
	物理学概論B	1後③～④		1.5			○								兼1
	物理学概論A演習	1前①～②		1			○								兼1
	物理学概論B演習	1後③～④		1			○								兼1
	基幹物理学 I A	1前①～②		1.5			○								兼2
基幹物理学 I B	1後③～④		1.5			○								兼2	
基幹物理学 I A演習	1前①～②		1			○								兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	基幹物理学 I B 演習	1後③～④		1			○								兼1
	力学演習	1後③～④		1			○								兼2
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○									兼1
	基幹物理学 II	2前①～②		1.5		○									兼1
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○									兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○									兼1
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	基礎化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	無機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	有機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④		1.5		○				1					兼1
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○									兼1
	現代化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	機器分析学	2後④		2		○									兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼4
	生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼6
	基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	集団生物学	1後③～④		1.5		○									兼1
	分子生物学	2前①～②		1.5		○									兼2
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○									兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○									兼2
	最先端地球科学	2前②・後③		1		○									兼2
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○				5		1			オムニバス
	図形科学	1前①～② ・後③～④		1.5		○				2					
	空間表現実習 I	1前①～② ・後③～④		2			○			2					
	空間表現実習 II	1後③～④		2			○			1					
	世界建築史	2前①		2		○									兼1
	日本建築史	2前②		2		○									兼1
	情報科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○									兼2
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④		1			○								兼2
	コンピュータープログラミング入門	2後③		1		○									兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○							兼12
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○							兼12
	小計（59科目）	-	5	76.5	0			-	0	9	1	1	0		兼88
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1					○							兼3
	小計（1科目）	-	1	0	0			-	0	0	0	0	0		兼3
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1					○							兼5
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○							兼5
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1				○							兼3
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④ ・3前①～②		1				○							兼2
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④ ・3前①～②		1				○							兼2
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1				○							兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2				○							兼1
小計（7科目）	-	1	7	0			-	0	0	0	0	0		兼6	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1				○							兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1				○							兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1				○							兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1				○							兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1				○							兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1				○							兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1				○							兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1				○							兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1				○							兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1				○							兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1				○							兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1				○							兼1
	アクセシビリティ入門	1前②		1				○							兼1
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1				○							兼1 集中
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1				○							兼1 集中
人と人をつなぐ技法	1後③		1				○							兼1	
コミュニケーション入門	1前①		1				○							兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○								兼1	
	健康疫学・内科学から見たキャンパス ライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパス ライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	ことばの科学	1前①		1		○								兼1	
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システ ム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	
	企業から見たサイバーセキュリティ	1前②・後④		1		○								兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1後③～④		1			○								兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○									兼1	集中
	Contemporary American Society:A Sociological Introduction	1後④		1		○									兼1	
	アイデア・ラボ I	1前②		2		○									兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡 編)	1前①		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する II (現在 編)	1前②		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する III (展望 編)	1後③		1		○									兼1	
	少人数セミナー	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5	
	小計 (65科目)	-	0	72	0	-			0	0	0	0	0	0	兼46	
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	科学の歴史A	2前①		1		○									兼1	
	科学の歴史B	2前②		1		○									兼1	
	脳情報科学入門	3前①		1		○									兼1	
	認知心理学	2後④		1		○									兼1	
	Brain and Mind	2後③		1		○									兼1	
	機械学習と人工知能	2後③		1		○									兼1	
	現代社会 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代社会 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代社会 III	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代史 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代史 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代史 III	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	現代史 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1	
	技術と産業・企業	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1	
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○									兼1	
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○									兼1	
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○									兼1	
	自然災害と防災	2後③～④		2		○									兼1	
	生態系の構造と機能 I	2後③		1		○									兼1	隔年
	生態系の構造と機能 II	2後④		1		○									兼1	隔年

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	男女共同参画	2後③～④		2		○								兼1	
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○						兼1	集中
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○						兼1	集中
	インターンシップⅠ	2通		1				○						兼1	集中
	インターンシップⅡ	2通		1				○						兼1	集中
	漢方医薬学	3前①～②		1		○								兼1	集中
	チーム医療演習	3後③～④		1			○							兼1	集中
	臨床イメージング	2後③		1		○								兼1	
	社会と健康	3前①～②		2		○								兼1	
	国際保健と医療	2後③～④		2		○								兼1	
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○								兼1	集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○								兼1	
	生物多様性と人間文化A	2前①		1		○								兼1	
	生物多様性と人間文化B	2前②		1		○								兼1	
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○								兼1	
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○								兼1	隔年
	平和と安全の構築学	2後④		1		○								兼1	
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○								兼1	
	東アジアの政治と社会	2後③～④		2		○								兼1	
	プレゼンテーション基礎	2前①～②		1			○							兼1	集中
	レトリック基礎	2前①～②		1			○							兼1	集中
	共創発想法	2後③		2			○							兼1	
	データマイニングと情報可視化	2後④		1			○							兼1	
	技術と倫理	2後④		1		○								兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○								兼1	
	研究と倫理	2後③		1		○								兼1	
	社会と倫理	2後④		1		○								兼1	
	インフォームドコンセント	3前①～②		1		○								兼1	
	臨床倫理	3後③～④		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・会計/ ファイナンス基礎	2後④		1		○								兼1	
	アントレプレナーシップ・ 戦略論基礎	2前②		1		○								兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	アントレプレナーシップ・組織論基礎	2前①		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	2後③		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅰ	2前①		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論Ⅱ	2前②		1		○									兼1	集中
	社会統計学A	3後③		1			○								兼1	
	社会統計学B	3後④		1			○								兼1	
	社会調査法ⅠA	2前①		1			○								兼1	
	社会調査法ⅠB	2前②		1			○								兼1	
	社会調査法ⅡA	2後③		1			○								兼1	隔年
	社会調査法ⅡB	2後④		1			○								兼1	隔年
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2		○									兼1	
	教育心理学特論（教育・学校心理学）	2後③～④		2		○									兼1	
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2		○									兼2	
	小計（70科目）	-	0	102	0	-			0	0	0	0	0	0	兼56	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻教育科目	デザインリテラシー基礎	1前①	1			○				1					
	デザイン・ケーススタディ I	1前②		1		○				1					
	小計 (2科目)	-	1	1	0	-			0	2	0	0	0		
コース基礎科目	環境設計基礎 I	1後③		1		○				2					オムニバス
	環境設計基礎 II	1後④		1		○				1					
	インダストリアルデザイン基礎 I	1後③		1		○			1	6		2			オムニバス
	インダストリアルデザイン基礎 II	1後④		1		○			3			2			オムニバス
	未来構想デザイン概論	1後③		1		○			2	6		4			オムニバス
	社会と多様性	1後④		1		○				1		1			オムニバス
	メディアデザイン概論 I	1後③		1		○			2	3		2			オムニバス・ 共同 (一部) ※演習
	メディアデザイン概論 II	1後④		1		○			1	6					オムニバス・ 共同 (一部)
小計 (8科目)	-	0	8	0	-			9	24	0	10	0			
(PBL) 演習科目	聴能形成 I	1後③~④		1				○		1		1			共同 ※講義
	小計 (1科目)	-	0	1	0	-			0	1	0	1	0		
合計 (281科目)		-	17.5	365.5	0	-			9	35	1	15	0	兼267	

学位又は称号	学士(芸術工学)	学位又は学科の分野	工学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること (履修科目の登録上限 24単位(1学期))			1学年の学期区分	4学期
1. 基幹教育科目 48単位以上 (全コース共通) <ul style="list-style-type: none"> (a) 基幹教育セミナー (1単位修得) <必修科目> 基幹教育セミナー (1単位) (b) 課題協学科目 (2.5単位修得) <必修科目> 課題協学科目 (2.5単位) (c) 言語文化科目 (12単位修得) <必修科目> 学術英語A・リセプション (1単位) 学術英語A・プロダクション (1単位) 学術英語B・インテグレート (2単位) 学術英語A・CALL (1単位) 学術英語B・CALL (1単位) (d) 文系ディシプリン科目 (4単位修得) (e) 理系ディシプリン科目 (18単位修得) <必修科目> 情報科学 (1.5単位) 自然科学総合実験(基礎) (1単位) 自然科学総合実験(発展) (1単位) 数理統計学 (1.5単位) デザイン史 (2単位) 空間表現実習Ⅱ (2単位) ※インダストリアルデザインコースのみ (f) サイバーセキュリティ科目 (1単位修得) <必修科目> サイバーセキュリティ基礎論 (1単位) (g) 健康・スポーツ科目 (1単位修得) <必修科目> 健康・スポーツ科学演習 (1単位) (h) 総合科目 (1単位修得) (i) 高年次基幹教育科目 (2単位修得) (j) その他 (5.5単位修得) 基幹教育科目として開講される言語文化科目、文系ディシプリン科目、理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目、高年次基幹教育科目の中から選択 			1学期の授業期間	8週
			1時限の授業時間	90分
2. 専攻教育科目 80単位以上 <ul style="list-style-type: none"> (1) 環境設計コース <ul style="list-style-type: none"> (a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目> デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目 (10単位修得) (c) 環境設計コース専門科目 (30単位修得) (d) 環境設計コース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (12単位修得) (e) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得 (f) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目> 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ (2) インダストリアルデザインコース <ul style="list-style-type: none"> (a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目> デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目 (7単位修得) (c) インダストリアルデザインコース専門科目 (21単位修得) (d) インダストリアルデザインコース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (24単位修得) (e) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、他コース科目8単位以上を含む12単位以上修得 (f) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目> 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ (3) 未来構想デザインコース <ul style="list-style-type: none"> (a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目> デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目 (10単位修得) (c) 未来構想デザインコース専門科目 (30単位修得) (d) 未来構想デザインコース演習科目 (PBL) (8単位修得) (e) 融合プロジェクト・プラットフォーム (4単位修得) (f) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、他コース科目8単位以上を含む12単位以上修得 (g) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目> 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ 				

卒業要件及び履修方法	授業期間等
<p>(4) メディアデザインコース</p> <p>(a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目> デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択</p> <p>(b) コース基礎科目 (7単位修得)</p> <p>(c) メディアデザインコース専門科目 (25単位修得)</p> <p>(d) メディアデザインコース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (20単位修得) <必修科目> メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ</p> <p>(f) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得</p> <p>(g) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目> 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ</p>	
<p>(5) 音響設計コース</p> <p>(a) デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目> デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択</p> <p>(b) コース基礎科目 (14単位修得)</p> <p>(c) 音響設計コース専門科目 (22単位修得)</p> <p>(d) 音響設計コース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (16単位修得) <必修科目> 音楽理論表現演習、音響実験Ⅰ、音響実験Ⅱ</p> <p>(e) 深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得</p> <p>(f) 卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目> 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ</p>	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(芸術工学部芸術工学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基幹教育科目	言語文化基礎科目 専門英語	2前①・② ・後③・④		2		○				2		2		
	小計 (1科目)	-	0	2	0	-			0	2	0	2	0	
理系ディシプリン科目	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5			○						1		
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④		2			○			1				
	デザイン史	2後③～④	2			○				1				
	小計 (3科目)	-	3.5	2	0	-			0	2	0	1	0	
健康・スポーツ科目	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1				○		1				
	小計 (1科目)	-	0	1	0	-			1	0	0	0	0	
高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○				1				
	芸術学概論	3後③～④		1		○								兼1 集中
	音楽・音響論	2後③～④		2		○				1				
	デザインと観察	2前①～②		2		○				1				
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2		○								兼1
	小計 (5科目)	-	0	9	0	-			0	3	0	0	0	兼2

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専攻教育科目	基礎造形	基礎造形Ⅰ	2前①	1				○			1					
		基礎造形Ⅱ	2前②	1				○			1					
		基礎造形Ⅲ	2後③		1				○		1					
		基礎造形Ⅳ	2後④		1				○		1					
	人間とデザイン	文化とデザイン	2前①		1				○		1					
		社会とデザイン	2前②		1				○		1					
		人間科学とデザイン	2前①		1				○		1					
		科学技術とデザイン	2前②		1				○		1					
	デザイン論	デザイン論Ⅰ	3後③		1				○		1					
		デザイン論Ⅱ	3後④		1				○		1					
		デザイン・ケーススタディⅡ	3後③		1				○		1					
	小計(11科目)		-	2	9	0			-		2	5	0	0	0	
	コース基礎科目	空間デザイン実習	2前①		2				○			2				共同
		環境設計プロジェクトA	2前①		2				○		1	1		1		共同
		環境設計プロジェクトB	2前②		2				○			1		2		共同
空間情報分析実習Ⅰ		2後③		1				○			1					
空間情報分析実習Ⅱ		2後④		1				○			1					
プロダクトデザイン概論		2前①		1				○		1	2		1		オムニバス	
ライフスケープデザイン概論		2前②		1				○			2		1		オムニバス	
サービスデザイン概論		2前②		1				○			2				オムニバス	
人間工学概論		2前①		2				○		3			3		オムニバス	
視覚芸術基礎		2前①		1				○			1					
コンセプト論		2後③		1				○			1					
デザインスケッチ		2前②		1				○			1				※講義	
環境と持続可能性		2後③		1				○		1						
クリティカルシンキング		2前①		1				○		1			1		共同	
プログラミング基礎		2前②		1				○			1					
情報科学Ⅰ		2前①		1				○			1					
生命科学入門Ⅰ		2前②		1				○					1			
メディアデザイン概論Ⅲ		2前①		1				○		1	3		3		オムニバス・共同(一部)	
メディア表現基礎		2前①		2				○		2	3		2		オムニバス・共同(一部)※講義	
メディアプログラミング		2前①		2				○			3				オムニバス※演習	
聴覚生理学	2前①		2				○			2		1		オムニバス		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	聴覚心理学	2後③		2		○				2					オムニバス
	音文化論	2前①		2		○				1					
	音響理論演習Ⅰ	2前①		2		○				1					※演習
	音響理論演習Ⅱ	2後③		2		○			1						※演習
	音響信号処理	2前①		2		○			1						
	デジタル信号処理	2後③		2		○				1					
	小計 (27科目)	-	0	40	0			-	12	28	0	14	0		
コース 専門科目	環境設計コース 専門科目														
	構造理論Ⅰ	2前①		1		○				1					
	構造理論Ⅱ	2前②		1		○				1					
	環境材料論Ⅰ	2前①		1		○					1				
	環境材料論Ⅱ	2前②		1		○					1				
	環境調整システム論	2前①		2		○						1			
	建築デザイン計画論	2後③		2		○			1						
	環境構法論	2後④		2		○				1					
	建築法規	2後④		1		○			1						
	構法設計論	3前①		2		○				1					
	建築空間設計論	3前②		2		○				1					
	環境情報論Ⅰ	3後③		1		○			1						
	環境情報論Ⅱ	3後④		1		○			1						
	構造システム論Ⅰ	3後③		1		○				1					
	構造システム論Ⅱ	3後④		1		○				1					
	設備計画論	3後③		2		○						1			
	建築生産	3後③		2		○				1					
	環境テクノロジー実習A	3前①		1			○			1					
	環境テクノロジー実習B	3前②		1			○					1			
	西洋建築史	3前①		1			○			1					
	近代建築史	3前②		1			○					1			
	環境文化財論	3前②		2			○					1			
	日本建築史	3後③		2			○			1					
歴史環境実習	3後④		1				○		1		1			共同	
都市環境設計論	2前②		2			○			1						
環境保全論	2後③		2			○				1					
緑地環境設計論	2後④		2			○				1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	ランドスケープデザイン論	3前①		2		○				1					
	緑地環境実習	2前①		1				○		1					
	環境社会デザイン論	2前②		1		○			1						
	データ解析	2後③		1		○						1			
	物質文化論	2後④		1		○			1						
	ファシリテーション	3前①		1			○			1					
	環境倫理学	3前①		1		○			1						
	芸術コミュニケーション論	3前①		1		○				1					
	アーツマネジメント論	3後③		1		○						1			
	Design Pitching Skills	2後③		1			○			1		2			共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1			○					2			オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1			○					2			オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1			○					2			オムニバス 共同(一部) ※講義
	国際環境デザインA I	3前①		1		○			1						※演習
	国際環境デザインAII	3前②		1		○			1						※演習
	国際環境デザインAIII	3後③		1		○			1						※演習
	国際環境デザインAIV	3後④		1		○			1						※演習
	国際環境デザインB I	3前①		2		○			1						※演習
	国際環境デザインBII	3前②		2		○			1						※演習
	国際環境デザインBIII	3後③		2		○			1						※演習
	国際環境デザインBIV	3後④		2		○			1						※演習
	インターンシップ(学部) I	3・4通		1				○	1						
	インターンシップ(学部) II	3・4通		1				○	1						
	小計(49科目)	-	0	66	0			-	4	7	1	7	0		
イン ダ ス ト リ ア ル デ ザ イ ン コ ー ス 専 門 科 目	プロダクトデザイン実践論	2前②		1		○			1	2		1			オムニバス
	ライフスケープデザイン実践論	2後③		1		○				2		1			オムニバス
	サービスデザイン実践論	2後④		1		○				2					オムニバス
	イノベーションデザイン論・演習 I	3前①		2			○		1	2		1			オムニバス・共同 ※講義
	イノベーションデザイン論・演習 II	3前②		2			○		1	2		1			オムニバス・共同 ※講義
	ライフスケープデザイン 実践論・演習 I	3前①		2			○			2		1			共同 ※講義
	ライフスケープデザイン 実践論・演習 II	3前②		2			○			2		1			共同 ※講義
	ソーシャルデザイン論・演習 I	3前①		2			○			2					オムニバス ※講義
	ソーシャルデザイン論・演習 II	3前②		2			○			2					オムニバス ※講義

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	クリエイティブデザイン演習	3後③～④		2			○		1	6		2		
	福祉人間工学	2前②		1		○			1					
	データ解析	2後③		1		○						1		
	環境人間工学	2後④		1		○			1					
	環境生理学	2後③		1		○			1					
	感性科学	2前②		1		○			1					
	行動生理学	2後④		1		○			1					
	生活機能支援科学	3後③		1		○						1		
	データマイニング I	3前①		1		○						1		
	データマイニング II	3前②		1		○						1		
	生理人類学	3前②		1		○			1					
	生体情報処理論	3前①		1		○						1		
	人間工学先端セミナー	3後③		1		○			3			3		共同
	リサーチリテラシー	3後③		1		○			1	2				オムニバス
	Design Pitching Skills	2後③		1			○			1		2		共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1			○					2		オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1			○					2		オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1			○					2		オムニバス 共同(一部) ※講義
	国際インダストリアルデザインA I	3前①		1		○			1					※演習
	国際インダストリアルデザインA II	3前②		1		○			1					※演習
	国際インダストリアルデザインA III	3後③		1		○			1					※演習
	国際インダストリアルデザインA IV	3後④		1		○			1					※演習
	国際インダストリアルデザインB I	3前①		2		○			1					※演習
	国際インダストリアルデザインB II	3前②		2		○			1					※演習
	国際インダストリアルデザインB III	3後③		2		○			1					※演習
	国際インダストリアルデザインB IV	3後④		2		○			1					※演習
	インターンシップ (学部) I	3・4通		1				○	1					
	インターンシップ (学部) II	3・4通		1				○	1					
	小計 (37科目)	-	0	48	0			-	4	7	0	7	0	
コ ー ス 構 成 専 門 科 目 ゼ イ ン	芸術表現論	2後③		1			○			1				
	西洋美術史	2前①		1		○			1					
	芸術文化論	2後④		1		○			1					※演習
	芸術環境論	3前①		1		○			1					※演習

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	身体表現演習Ⅰ	2前①		1			○						1		
	身体表現演習Ⅱ	2前②		1			○						1		
	応用音楽表現演習Ⅰ	2後③		1			○			1			2		共同
	応用音楽表現演習Ⅱ	2後④		1			○			1			2		共同
	先端芸術表現論	3前②		1			○			1					
	デザイン哲学	2前②		1			○		1						
	デザイン美学	2後④		1			○		1						
	デザイン編集論・演習	2後③		1				○		1					※講義
	デザイン材料論・演習	2後④		1				○					1		※講義
	バイオアート&デザイン論・演習	3後④		1				○					1		※講義
	未来デザイン方法論	2前①		1			○			1					
	デザイン要素論・演習	2後③		1				○		1					※講義
	デザイン設計論・演習	3前①		1				○		1					※講義
	デザイン実装論・演習	3前②		1				○		1					※講義
	環境倫理学	3前①		1			○		1						
	物質文化論	2後④		1			○		1						
	グローバル化と伝統的社会	3後③		1			○		1						
	環境社会デザイン論	2前②		1			○		1						
	価値と政策	3後④		1			○			1					
	表象文化論	2後④		1			○			1					
	芸術コミュニケーション論	3前①		1			○			1					
	アーツマネジメント論	3後③		1			○						1		
	教育における多様性	3後④		1				○					1		※講義
	質的社会調査法	2後③		1			○						1		※演習
	ファシリテーション	3前①		1				○		1					
	アート・デザイン・ライティング演習	2後④		1				○			1				
	主観評価法	3前①～②		2			○		1	2					オムニバス ※演習
	フィジカルコンピューティングとIoT	3前①		1			○			1					※演習
	ウェブサービスデザイン	3前②		2			○			1					※演習
	データ解析	2後③		1			○						1		
	プログラミング設計	2後③		1				○		1					
	シミュレーション数理	3前①		1			○			1					
	シミュレーション演習	3前①		1				○		1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	情報科学Ⅱ	2後④		1		○				1					
	情報科学Ⅲ	3前①		1		○				1					
	データマイニングⅠ	3前①		1		○						1			
	データマイニングⅡ	3前②		1		○						1			
	先端情報生命科学Ⅰ	2後③		1		○				1					
	先端情報生命科学Ⅱ	2後④		1		○				1					
	生命科学入門Ⅱ	3前①		1		○						1			
	生命科学実習	3後③		1				○				1			
	知覚心理学	2前②		2		○			1	2		1			オムニバス
	Design Pitching Skills	2後③		1			○			1		2			共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1			○					2			オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1			○					2			オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1			○					2			オムニバス 共同(一部) ※講義
	国際未来構想デザインAⅠ	3前①		1		○			1						※演習
	国際未来構想デザインAⅡ	3前②		1		○			1						※演習
	国際未来構想デザインAⅢ	3後③		1		○			1						※演習
	国際未来構想デザインAⅣ	3後④		1		○			1						※演習
	国際未来構想デザインBⅠ	3前①		2		○			1						※演習
	国際未来構想デザインBⅡ	3前②		2		○			1						※演習
	国際未来構想デザインBⅢ	3後③		2		○			1						※演習
	国際未来構想デザインBⅣ	3後④		2		○			1						※演習
	インターンシップ(学部)Ⅰ	3・4通		1				○	1						
	インターンシップ(学部)Ⅱ	3・4通		1				○	1						
	小計(60科目)	-	0	67	0			-	3	10	0	6	0		
メ デ ィ ア デ ザ ィ ン コ ー ス 専 門 科 目	ゲームデザイン	2後③		2		○				1					※演習
	映像表現	2前①		2		○			1						※演習
	アニメーション表現	2前②		2		○				1					※演習
	芸術論	2前①		2		○				1					※演習
	数理造形	3前①		2		○						1			※演習
	タイポグラフィックデザイン	2前②		1			○		1						※講義
	グラフィックデザイン	2後④		1		○			1						※演習
	広告クリエイティブデザイン	3後③		1		○			1	1		1			オムニバス ※演習
	情報デザイン	2後③		2		○						1			※演習

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	インタラクショナルデザイン	2後③		2		○				1						
	メカニクスデザイン	2前①		2		○				1						※演習
	バーチャルリアリティ	3前①		2		○				1						
	コンピュータグラフィックス	2後③		2		○			1							
	ウェブサービスデザイン	2前②		2		○				1						※演習
	コンピュータビジョン	3後③		2		○				1						
	メディア情報処理	2前①		2		○				1						
	コンテンツ工学	2前②		2		○				1						
	フィジカルコンピューティングとIoT	3前①		1		○				1						※演習
	視覚心理学	2前①		2		○			1							
	色彩学	2前②		2		○				1						
	心理学的思考法	3後③		2		○				1						※演習
	言葉とコミュニケーション	2後③		2		○							2			オムニバス
	演劇文化論	2後④		2		○				1						
	知的財産法	3前②		2		○							1			
	知覚心理学	2前②		2		○			1	2			1			オムニバス
	主観評価法	3前①～②		2		○			1	2						オムニバス ※演習
	Design Pitching Skills	2後③		1			○			1			2			共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1			○							2		オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1			○							2		オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1			○							2		オムニバス 共同(一部) ※講義
	国際メディアデザインA I	3前①		1		○			1							※演習
	国際メディアデザインA II	3前②		1		○			1							※演習
	国際メディアデザインA III	3後③		1		○			1							※演習
	国際メディアデザインA IV	3後④		1		○			1							※演習
	国際メディアデザインB I	3前①		2		○			1							※演習
	国際メディアデザインB II	3前②		2		○			1							※演習
	国際メディアデザインB III	3後③		2		○			1							※演習
	国際メディアデザインB IV	3後④		2		○			1							※演習
	インターンシップ(学部) I	3・4通		1				○	1							
	インターンシップ(学部) II	3・4通		1				○	1							
	小計(40科目)	-	0	66	0	-	-	-	4	16	0	8	0			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
音響設計コース専門科目	知覚心理学	2前②		2		○			1	2			1		オムニバス	
	主観評価法	3前①～②		2		○			1	2					オムニバス ※演習	
	電気工学	2前①～②		2		○							1			
	電子工学	2後③～④		2		○								1		
	情報理論	3前①～②		2		○								1		
	データ解析	2後③		1		○								1		
	データマイニング I	3前①		1		○								1		
	データマイニング II	3前②		1		○								1		
	質的社会調査法	2後③		1		○								1		※演習
	比較音楽理論	2前②		2		○								1		
	西洋音楽史	2後③		2		○								1		
	音文化論演習	2後④		2			○				1					※講義
	芸術コミュニケーション論	3前①		1		○					1					
	音楽学	3前①		2		○								1		オムニバス
	聴覚認知論	3前①～②		2		○					1					
	音声情報学	2後④		2		○				1				1		オムニバス
	デジタル信号処理演習	2後④		2			○				1					※講義
	音響メディア工学	3前②		2		○				1						
	音響メディア工学演習	3後③		2			○			1						※講義
	応用音響理論	2後④		2		○					1					
	音響機器論	2後④		2		○								1		
	騒音環境学	3前①		2		○				1	2					オムニバス
	非線形理論	3前②		2		○				1	2					オムニバス
	楽器音響学	3後③		2		○				1	1					オムニバス
	室内音響学	3後④		2		○				1						
	Design Pitching Skills	2後③		1			○				1			2		共同
	Start-ups and Global Disruptors	2前②		1				○						2		オムニバス ※講義
	Intellectual Property Rights : Global Perspective	2後④		1				○						2		オムニバス ※講義
	Global Design Innovations	2前②		1				○						2		オムニバス 共同(一部) ※講義
	国際音響デザインA I	3前①		1			○			1						※演習
	国際音響デザインA II	3前②		1			○			1						※演習
	国際音響デザインA III	3後③		1			○			1						※演習
国際音響デザインA IV	3後④		1			○			1						※演習	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	国際音響デザインBI	3前①		2		○			1						※演習
	国際音響デザインBII	3前②		2		○			1						※演習
	国際音響デザインBIII	3後③		2		○			1						※演習
	国際音響デザインBIV	3後④		2		○			1						※演習
	インターンシップ(学部)I	3・4通		1				○	1						
	インターンシップ(学部)II	3・4通		1				○	1						
	小計(39科目)	-	0	63	0			-	3	10	0	8	0		
コース 演習科目 (PBL)	環境 設計 コース 演習 科目 (PBL)	環境設計プロジェクトC	2後③	2			○			1					共同
		環境設計プロジェクトD	2後④	2			○		1	1					共同
		環境設計プロジェクトE	3前①	2			○		1	1					共同
		環境設計プロジェクトF	3前②	2			○			1					共同
		環境設計プロジェクトG	3後③	2			○		1						
		環境設計プロジェクトH	3後④	2			○			1					
		環境総合プロジェクトA	4前①	2			○		2	5	2	3			
		環境総合プロジェクトB	4前②	2			○		2	5	2	3			
		小計(8科目)	-	0	16	0			-	2	5	2	3	0	
(PBL) イン ダ ス ト リ ア ル デ ザ イ ン コ ー ス 演 習 科 目	プロダクトデザイン実践論・演習I	2前①		2			○		1	2		1			オムバス・共同 ※講義
	プロダクトデザイン実践論・演習II	2前②		2			○		1	2		1			オムバス・共同 ※講義
	ライフスケープデザイン論・演習I	2後③		2			○			2		1			共同 ※講義
	ライフスケープデザイン論・演習II	2後④		2			○			2		1			共同 ※講義
	ビジネスデザイン論・演習I	2前②		2			○		1	2					オムバス ※講義
	ビジネスデザイン論・演習II	2後③		2			○			2		1			オムバス ※講義
	人間工学演習I	2前①～②		4			○		3			3			共同
	人間工学演習II	3前①～②		4			○		3			3			共同
	人間工学プロジェクト演習	3後③～④		4			○		3			3			共同
	フィールド調査論・演習	2後③～④		4			○		1	2		1			オムバス・ 共同(一部) ※講義
小計(10科目)	-	0	28	0			-	4	6	0	5	0			
未 来 構 想 デ ザ イ ン コ ー ス (PBL)	共通課題PBL演習A	2前①		4			○		2	6		4			
	共通課題PBL演習B	3前①		4			○		2	6		4			
	プラットフォーム演習A	2後③		4			○		2	6		4			
	プラットフォーム演習B	3後③		4			○		2	6		4			
	プラットフォーム演習C	2後③		4			○		2	6		4			
	プラットフォーム演習D	3後③		4			○		2	6		4			
小計(6科目)	-	0	24	0			-	2	6	0	4	0			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
メディア デザイン イン コース 演習 科目 (P B L)	メディアデザイン 総合プロジェクト I	3前①		2			○		4	12		5		共同	
	メディアデザイン 総合プロジェクト II	3後④		2			○		4	12		5			
	コンテンツデザイン演習 I	2後③		2			○		1	1					
	コンテンツデザイン演習 II	2後④		2			○			1					
	造形表現演習	2前②		2			○			1		1			
	数理造形と表現演習	3前②		2			○			1		1			
	コミュニケーションデザイン演習 I	2後④		2			○		1			1			
	コミュニケーションデザイン演習 II	3前①		2			○		1			1			
	コンテンツインタラクシヨン演習	3前①		2			○		1	4					オムニバス 共同(一部)
	実世界インタラクシヨン演習	3前②		2			○			2					オムニバス
	クリエイティブ発想演習	3後③		2			○		1	6					共同
	クリエイティブ プロトタイピング演習	3後④		2			○		1	6					共同
	メディアサイエンス演習 I	2後④		2			○		1	1					オムニバス 共同(一部)
	メディアサイエンス演習 II	3前②		2			○			1					
	比較演劇・メディア文化演習	3前②		2			○			1		2			オムニバス
	知的財産マネジメント演習	3後③		2			○						1		
小計 (16科目)		-	0	32	0		-		4	12	0	5	0		
音響 設計 コース 演習 科目 (P B L)	聴能形成 II	2前①～②		1				○		1		1		共同 ※講義	
	音響プログラミング演習	2前②		2			○			1		1		オムニバス	
	電気実験	3前①～②		2				○		1		1		共同	
	音楽理論表現演習	2前①～②		2			○					2		共同 ※講義	
	応用音楽表現演習 I	2後③		1			○			1		2		共同	
	応用音楽表現演習 II	2後④		1			○			1		2		共同	
	音響生成演習	3前②		2			○			1					
	收音音響構成	2前②		2				○			1				※講義
	環境音響構成	2後④		2				○			1				※講義
	音響実験 I	3前①		2			○		2	4		3			
音響実験 II	3後③～④		3			○		2	7		3				
小計 (11科目)		-	0	20	0		-		2	7	0	4	0		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
ラ融合 プロジェクト フォー ム ト ・ プ	コース融合プロジェクトA	2・3・4前②・後③		4				○		14	36	2	20		
	コース融合プロジェクトB	2・3・4前②・後③		4				○		14	36	2	20		
	小計 (2科目)	-	0	8	0			-		14	36	2	20	0	
卒業 研究 ・ 設計	卒業研究 I	4前①～② ・後③～④	4					○		14	36	2	20		
	卒業研究 II	4前①～② ・後③～④	4					○		14	36	2	20		
	小計 (2科目)	-	8	0	0			-		14	36	2	20	0	
合計 (328科目)		-	13.5	501	0			-		14	36	2	20	0	兼2

学位又は称号	学士（芸術工学）	学位又は学科の分野	工学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること （履修科目の登録上限 24単位（1学期））			1学年の学期区分	4学期
1. 基幹教育科目 48単位以上（全コース共通） (a) 基幹教育セミナー（1単位修得） <必修科目>基幹教育セミナー（1単位） (b) 課題協学科目（2.5単位修得） <必修科目>課題協学科目（2.5単位） (c) 言語文化科目（12単位修得） <必修科目>学術英語A・リセプション（1単位） 学術英語A・プロダクション（1単位） 学術英語B・インテグレート（2単位） 学術英語A・CALL（1単位） 学術英語B・CALL（1単位） (d) 文系ディシプリン科目（4単位修得） (e) 理系ディシプリン科目（18単位修得） <必修科目>情報科学（1.5単位） 自然科学総合実験（基礎）（1単位） 自然科学総合実験（発展）（1単位） 数理統計学（1.5単位） デザイン史（2単位） 空間表現実習Ⅱ（2単位）※インダストリアルデザインコースのみ (f) サイバーセキュリティ科目（1単位修得） <必修科目>サイバーセキュリティ基礎論（1単位） (g) 健康・スポーツ科目（1単位修得） <必修科目>健康・スポーツ科学演習（1単位） (h) 総合科目（1単位修得） (i) 高年次基幹教育科目（2単位修得） (j) その他（5.5単位修得） 基幹教育科目として開講される言語文化科目、文系ディシプリン科目、 理系ディシプリン科目、健康・スポーツ科目、総合科目、 高年次基幹教育科目の中から選択			1学期の授業期間	8週
			1時限の授業時間	90分
2. 専攻教育科目 80単位以上 (1) 環境設計コース (a) デザインリテラシー科目（8単位修得） <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目（10単位修得） (c) 環境設計コース専門科目（30単位修得） (d) 環境設計コース演習科目（PBL）及び 融合プロジェクト・プラットフォーム（12単位修得） (e) 深化・展開科目（12単位修得） 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目（PBL）から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得 (f) 卒業研究・設計（8単位修得） <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ				
(2) インダストリアルデザインコース (a) デザインリテラシー科目（8単位修得） <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目（7単位修得） (c) インダストリアルデザインコース専門科目（21単位修得） (d) インダストリアルデザインコース演習科目（PBL）及び 融合プロジェクト・プラットフォーム（24単位修得） (e) 深化・展開科目（12単位修得） 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目（PBL）から、 他コース科目8単位以上を含む12単位以上修得 (f) 卒業研究・設計（8単位修得） <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ				
(3) 未来構想デザインコース (a) デザインリテラシー科目（8単位修得） <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び 「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択 (b) コース基礎科目（10単位修得） (c) 未来構想デザインコース専門科目（30単位修得） (d) 未来構想デザインコース演習科目（PBL）（8単位修得） (e) 融合プロジェクト・プラットフォーム（4単位修得） (f) 深化・展開科目（12単位修得） 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目（PBL）から、 他コース科目8単位以上を含む12単位以上修得 (g) 卒業研究・設計（8単位修得） <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ				

卒業要件及び履修方法	授業期間等
<p>(4)メディアデザインコース</p> <p>(a)デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択</p> <p>(b)コース基礎科目 (7単位修得)</p> <p>(c)メディアデザインコース専門科目 (25単位修得)</p> <p>(d)メディアデザインコース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (20単位修得) <必修科目>メディアデザイン総合プロジェクトⅠ メディアデザイン総合プロジェクトⅡ</p> <p>(f)深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得</p> <p>(g)卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ</p>	
<p>(5)音響設計コース</p> <p>(a)デザインリテラシー科目 (8単位修得) <必修科目>デザインリテラシー基礎、基礎造形Ⅰ、基礎造形Ⅱ 「デザインリテラシー基礎」、「基礎造形」、「人間とデザイン」及び「デザイン論」の科目群からそれぞれ1科目以上を選択</p> <p>(b)コース基礎科目 (14単位修得)</p> <p>(c)音響設計コース専門科目 (22単位修得)</p> <p>(d)音響設計コース演習科目 (PBL) 及び 融合プロジェクト・プラットフォーム (16単位修得) <必修科目>音楽理論表現演習、音響実験Ⅰ、音響実験Ⅱ</p> <p>(e)深化・展開科目 (12単位修得) 自コース又は他コースのコース専門科目及びコース演習科目 (PBL) から、 他コース科目4単位以上を含む12単位以上修得</p> <p>(f)卒業研究・設計 (8単位修得) <必修科目>卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ</p>	

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術工学部環境設計学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	1前②	1					○					1		兼52
	小計(1科目)	-	1	0	0			-		0	0	0	1	0	兼52
課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5					○							兼17
	小計(1科目)	-	2.5	0	0			-		0	0	0	0	0	兼17
言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語A・リセプション	1前①～②	1					○					1		兼4
	学術英語A・プロダクション	1前①～②	1					○		1					兼7
	学術英語B・インテグレート	1後③～④	2					○				2			兼12
	学術英語AB・再履修	1・2後③～④ 2前①～②		1				○							兼1
	学術英語A・CALL	1前①～②	1					○							兼1
	学術英語B・CALL	1後③～④	1					○							兼1
	学術英語C・テーマベース	2前①・② ・後③・④		1				○							兼2
	学術英語C・スキルベース	2前①・② ・後③・④		1				○		1					兼3
	専門英語	2前①・② ・後③・④		2				○		2		2			
	学術英語C・集中演習	1・2後③～④ ・2前①～②		2				○							兼2
	ドイツ語I	1前①～②		2				○							兼1
	ドイツ語II	1後③～④		2				○							兼1
	ドイツ語III	2前①～②		1				○							兼1
	ドイツ語プラクティクムI	1後③～④		1				○							兼2
	ドイツ語プラクティクムII	2前①～②		1				○							兼1
	フランス語I	1前①～②		2				○							兼2
	フランス語II	1後③～④		2				○							兼2
	フランス語III	2前①～②		1				○							兼2
フランス語プラクティクI	1後③～④		1				○							兼1	
フランス語プラクティクII	2前①～②		1				○							兼1	
中国語I	1前①～②		2				○							兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2	
	中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	中国語実践Ⅰ	1後③～④		1		○								兼2	
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1		○								兼2	
	ロシア語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1	
	ロシア語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1	
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	韓国語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼2	
	韓国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2	
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2	
	韓国語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1	
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1	
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1	
	日本語Ⅴ	2前①		1		○								兼1	
	日本語Ⅵ	2前②		1		○								兼1	
	日本語Ⅶ	2前①		1		○								兼1	
言語文化 自由選択科目	入門ドイツ語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ドイツ語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	ドイツ語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	ドイツ語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門フランス語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門フランス語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	フランス語実用会話	2前①～②		2		○									兼1
	フランス語読解・作文コース	2前①～②		2		○									兼1
	フランス語圏の言語と文化	2後③～④		2		○									兼1
	入門中国語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼2
	入門中国語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	総合スペイン語演習	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	表現スペイン語	2後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語圏の言語と文化	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	入門インドネシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門インドネシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	速習オランダ語	1前①～②		2		○								兼1	
	速習エスペラント	1前①～②		2		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	小計(82科目)	-	6	125	0	-			0	2	0	2	0	兼55	
文系 ディ シ プ リ ン 科 目	哲学・思想入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	社会思想史	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼3	
	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○				1				兼2	
	文化人類学入門	1前①～② 1後③～④		2		○								兼3	
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○								兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
	小計 (17科目)	-	0	32	0	-			0	1	0	0	0		兼36
理系 ディ シ プ リ ン 科 目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④	1.5			○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②		1.5			○								兼1
	微分積分学・同演習B	1後③～④		1.5			○								兼1
	微分積分学・同演習I	1前①～②		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習II	1後③・ 後③～④		1.5			○								兼4
	微分積分学・同演習III	1後④・ 2前①～②		1.5			○								兼4
	線形代数	1前①～②	1.5			○									兼2
	線形代数学・同演習A	1前①～②		1.5			○								兼2
	線形代数学・同演習B	1後③～④		1.5			○								兼2
	数学演習I A	1前①～②		1			○								兼2
	数学演習I B	1後③～④		1			○								兼2
	数学演習II	2前①～②		1			○								兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5			○					1				兼1
	身の回りの物理学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	身の回りの物理学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼1
	物理学概論A	1前①～②		1.5		○									兼1
	物理学概論B	1後③～④		1.5		○									兼1
	物理学概論A演習	1前①～②		1			○								兼1
	物理学概論B演習	1後③～④		1			○								兼1
	基幹物理学I A	1前①～②	1.5			○									兼2
	基幹物理学I B	1後③～④		1.5		○									兼2
	基幹物理学I A演習	1前①～②		1			○								兼1
	基幹物理学I B演習	1後③～④		1			○								兼1
	力学演習	1後③～④		1			○								兼2
	物理学の進展	2前①～②		1.5		○									兼1
	基幹物理学II	2前①～②		1.5		○									兼1
	電気電子工学入門	2前①～②		2		○									兼1
	原子核物理学	2後③～④		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	基礎化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	無機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	有機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④		1.5		○				1					兼1
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○									兼1
	現代化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	機器分析学	2後④		2		○									兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼4
	生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼6
	基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	集団生物学	1後③～④		1.5		○									兼1
	分子生物学	2前①～②		1.5		○									兼2
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○									兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○									兼2
	最先端地球科学	2前②・後③		1		○									兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○									兼1
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○				5		1			オムニバス
	図形科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○				2					
	空間表現実習Ⅰ	1前①～② ・後③～④	2				○			2					
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④	2				○			2					
	世界建築史	2前①		2		○									兼1
	日本建築史	2前②		2		○									兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○									兼1
	デザイン史	2後③～④	2			○				1					
	情報科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○									兼2
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④	1				○								兼2
	コンピュータープログラミング入門	2後③	1			○									兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○							兼12
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○							兼12
	小計（63科目）	-	17	71	0	-			0	10	1	2	0	兼90	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○									兼3
	小計(1科目)	-	1	0	0	-			0	0	0	0	0		兼3
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○								兼5
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○							兼5
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1					1						兼3
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○									兼1
小計(8科目)	-	1	8	0	-			1	0	0	0	0		兼6	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○									兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○									兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○									兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本事情	1前①～②		2		○									兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○									兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○									兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○									兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○									兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○									兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○									兼1
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○									兼1
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○									兼1
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○									兼1
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○									兼1
	コミュニケーション入門	1前①		1		○									兼1
体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○									兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○							兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○							兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○									兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○									兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○									兼1	集中
	ことばの科学	1前①		1		○									兼1	
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○									兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○									兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○									兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○									兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	体験的農業生産学入門	1前③～④		1				○							兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○									兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○									兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○									兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○									兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○									兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	企業から見たサイバーセキュリティ	1前②・後④		1		○									兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1後③～④		1			○								兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○									兼1	集中
	Contemporary American Society:A Sociological Introduction	1後④		1		○									兼1	
	アイデア・ラボ I	1前②		2		○									兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡 編)	1前①		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する II (現在 編)	1前②		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する III (展望 編)	1後③		1		○									兼1	
	少人数セミナー	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5	
	小計 (71科目)	-	0	79	0	-			0	0	0	0	0		兼50	
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	科学の歴史A	2前①		1		○									兼1	
	科学の歴史B	2前②		1		○									兼1	
	科学の基礎 (哲学的考察)	2後③		1		○									兼1	
	脳情報科学入門	3前①		1		○									兼1	
	認知心理学	2後④		1		○									兼1	
	Brain and Mind	2後③		1		○									兼1	
	機械学習と人工知能	2後③		1		○									兼1	
	現代社会 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代社会 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代社会 III	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代社会 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代史 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代史 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代史 III	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	現代史 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1	
	技術と産業・企業	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○				1						
	芸術学概論	3後③～④		1		○									兼1	集中
	音楽・音響論	2後③～④		2		○				1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	デザインと観察	2前①～②		2		○				1					
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○									兼1
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○									兼1
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○									兼1
	自然災害と防災	2後③～④		2		○									兼1
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③		1		○									兼1 隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後④		1		○									兼1 隔年
	男女共同参画	2後③～④		2		○									兼1
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○							兼1 集中
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップⅠ	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップⅡ	2通		1				○							兼1 集中
	漢方医薬学	3前①～②		1		○									兼1 集中
	チーム医療演習	3後③～④		1			○								兼1 集中
	バイオインフォマティクス	3後③～④		2		○									兼1 集中
	臨床イメージング	2後③		1		○									兼1
	社会と健康	3前①～②		2		○									兼1
	国際保健と医療	2後③～④		2		○									兼1
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○									兼1 集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○									兼1
	生物多様性と人間文化A	2前①		1		○									兼1
	生物多様性と人間文化B	2前②		1		○									兼1
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○									兼1
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○									兼1 隔年
	平和と安全の構築学	2後④		1		○									兼1
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアの政治と社会	2後③～④		2		○									兼1
	プレゼンテーション基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	レトリック基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	共創発想法	2後③		2			○								兼1
	動的現象の科学	3前①		2		○									兼1
	誘導現象の科学	3前②		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	データマイニングと情報可視化	2後④		1			○								兼1	
	技術と倫理	2後④		1		○									兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○									兼1	
	研究と倫理	2後③		1		○									兼1	
	社会と倫理	2後④		1		○									兼1	
	インフォームドコンセント	3前①～②		1		○									兼1	
	葉害	3後③～④		1		○									兼1	
	臨床倫理	3後③～④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・会計/ ファイナンス基礎	2後④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 戦略論基礎	2前②		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 組織論基礎	2前①		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ マーケティング基礎	2後③		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 I	2前①		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 II	2前②		1		○									兼1	集中
	リスクマネジメント	2後③～④		2		○									兼1	
	ビジネス統計学	2前②		1			○								兼1	隔年
	社会統計学A	3後③		1			○								兼1	
	社会統計学B	3後④		1			○								兼1	
	社会調査法 I A	2前①		1			○								兼1	
	社会調査法 I B	2前②		1			○								兼1	
	社会調査法 II A	2後③		1			○								兼1	隔年
	社会調査法 II B	2後④		1			○								兼1	隔年
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2			○								兼1	
	教育心理学特論 (教育・学校心理 学)	2後③～④		2			○								兼1	
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2			○								兼2	
	小計 (83科目)	-	0	124	0	-	-	-	0	3	0	0	0		兼65	
専攻 教育 科目	環境設計基礎 I	1前①～②	2				○		4	1						オムニバース
	環境設計基礎 II	1後③～④	2				○		4	1	1					オムニバース
	構造理論	2前①～②	2				○			1						
	空間デザイン実習	2前①～②	2				○		2	2				兼1	オムニバース・ 共同 (一部)	
	空間プロジェクト	2前①～②	4				○		1	1		1		兼4	オムニバース・ 共同 (一部)	
	空間情報分析実習	2後③～④	2				○			1		2			オムニバース・ 共同 (一部)	
	建築プロジェクト	2後③～④	4				○			1				兼3	オムニバース	
	ランドスケーププロジェクト	3前①～②	4				○		1	1				兼2	オムニバース	
	都市プロジェクト	3後③～④	4				○		1	1				兼1	オムニバース	
	卒業研究 I	4前①～② ・後③～④	2				○		8	6	2	4				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	卒業研究Ⅱ	4前①～② ・後③～④	4				○		8	6	2	4		
	基礎造形	2後③～④		2			○		1					兼1 オムニバス
	知覚心理学	2前①～②		2		○				3		1		兼1 オムニバス
	主観評価法	3前①～②		2		○				3				オムニバス
	デザインストラテジー基礎	4前①～②		2		○			2	2				オムニバス ※演習
	インターンシップ(学部)	3・4通		2			○			1				
	環境材料論	2前①～②		2		○					1			
	環境調整システム論	2前①		2		○						1		
	環境保全論	2後③		2		○				1				
	建築デザイン計画論	2後③～④		2		○			1					
	緑地環境設計論	2後③～④		2		○			1					
	環境構法論	2後④		2		○				1				
	環境人類学	2後③		2		○			1					
	歴史環境設計論	3後③		2		○				1				
	環境文化財論	3後③～④		2		○						1		
	都市環境設計論	2後③～④		2		○				1				
	環境社会経済デザイン論	2後④		2		○			1					
	環境倫理学	3後③～④		2		○			1					
	環境情報論	3後③～④		2		○			1					
	構造システム論	3後③～④		2		○				1				
	環境形成史	3前①		2		○			1					
	建築空間設計論	3前②		2		○				1				
	ポートフォリオマネジメント	3後③～④		2		○			1					※演習
	構法設計論	3前①～②		2		○				1				兼5 集中
	設備計画論	3後③～④		2		○						1		
	建築生産	3後③～④		2		○				1				兼5 集中
	建築法規	2後③～④		1		○			1					兼1 オムニバス
	環境総合プロジェクト	4前①～②		4			○		8	6	2	4		オムニバス
	緑地環境実習	2前①～②		1			○			1				集中
	歴史環境実習	3後③～④		1			○		1	1		1		共同 集中
	環境設計文献購読	3前①～②		2			○		2	1		1		オムニバス
	環境テクノロジー実習	3前①～②		2			○			1		1		共同
	芸術文化環境論	3前①～②		2		○			1					兼2 オムニバス
	統計・データ科学	3前①～②		2		○			1					
	小計(44科目)	-	32	65	0	-	-	-	10	11	2	5	0	兼24

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部内 自由科目	芸術工学特別演習 1	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 2	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 3	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 4	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 5	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 6	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 7	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 8	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 9	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 10	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 11	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 12	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 13	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 14	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 15	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 16	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 17	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 18	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 19	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 20	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	小計 (20科目)	-	0	30	0	-			1	0	0	0	0		
	合計 (391科目)	-	60.5	534	0	-			11	22	2	9	0	兼398	

学位又は称号	学士（芸術工学） 学士（学術）	学位又は学科の分野	工学関係、文学関係、理学関係、 社会学・社会福祉学関係、法学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
<p>基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること</p> <p>①基幹教育科目（48単位以上修得）</p> <p>(a)基幹教育セミナー（1単位修得） ＜必修科目＞ （1単位科目）基幹教育セミナー</p> <p>(b)課題協学科目（2.5単位修得） ＜必修科目＞ （2.5単位科目）課題協学科目</p> <p>(c)言語文化科目（12単位修得） 第1外国語（英語）（8単位修得） 第2外国語（1カ国語選択）（4単位修得）</p> <p>(d)文系ディシプリン科目（4単位修得） ＜選択必修科目＞（4単位修得） （2単位科目） 哲学・思想入門、社会思想史、先史学入門、歴史学入門、文学・言語学入門、 芸術学入門、文化人類学入門、地理学入門、社会学入門、心理学入門、 法学入門、政治学入門、経済学入門、経済史入門、 The Law and Politics of International Society （1単位科目） 現代教育学入門、教育基礎学入門</p> <p>(e)理系ディシプリン科目（18.5単位修得） ＜必修科目＞（17単位修得） （2単位科目） 空間表現実習Ⅰ、空間表現実習Ⅱ、デザイン史 （1.5単位科目） 微分積分学、線形代数、数理統計学、基幹物理学ⅠA、図形科学、情報科学 （1単位科目） 自然科学総合実験（基礎）、自然科学総合実験（発展） ＜選択必修科目＞（1.5単位修得） （1.5単位科目） 基幹物理学ⅠB、基礎化学、基礎生物学概要 （1単位科目） 地球科学</p> <p>(f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） ＜必修科目＞ （1単位科目）サイバーセキュリティ基礎論</p> <p>(g)健康・スポーツ科目（1単位修得） ＜必修科目＞ （1単位科目）健康・スポーツ科学演習</p> <p>(h)総合科目（1.5単位修得）</p> <p>(i)高年次基幹教育科目（2単位修得）</p> <p>(j)その他（4.5単位修得） 基幹教育科目の授業科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目、 専攻教育科目（在籍学科の科目を除く）のうち、最低修得単位数を超えて 修得する授業科目又は他学部の専攻教育科目から選択</p> <p>②専攻教育科目（80単位以上修得） ＜必修科目＞（32単位修得） （4単位科目） 空間プロジェクト、建築プロジェクト、ランドスケーププロジェクト、 都市プロジェクト、卒業研究Ⅱ （2単位科目） 環境設計基礎Ⅰ、環境設計基礎Ⅱ、構造理論、空間デザイン実習、 空間情報分析実習、卒業研究Ⅰ ＜選択必修科目＞（27単位修得） 以下の科目から選択（24単位修得） （2単位科目） 環境材料論、環境調整システム論、環境保全論、建築デザイン計画論、 緑地環境設計論、環境構法論、環境人類学、都市環境設計論、 環境社会経済デザイン論、環境形成史、建築空間設計論、歴史環境設計論、 環境文化財論、環境倫理学、環境情報論、構造システム論、 ポートフォリオマネジメント 以下の科目から選択（3単位修得） （2単位科目） 環境設計文献購読、環境テクノロジー実習 （1単位科目） 緑地環境実習、歴史環境実習 ＜学部内自由科目＞（6単位修得） 芸術工学特別演習1～20の他、本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目 のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目 からも選択可能</p>			1学年の学期区分	4学期
			1学期の授業期間	8週
			1時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術工学部工業設計学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基幹教育科目	基幹教育セミナー	1前②	1					○					1		兼52
	小計(1科目)	-	1	0	0			-		0	0	0	1	0	兼52
課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5					○							兼17
	小計(1科目)	-	2.5	0	0			-		0	0	0	0	0	兼17
言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語A・リセプション	1前①～②	1					○					1		兼4
	学術英語A・プロダクション	1前①～②	1					○		1					兼7
	学術英語B・インテグレート	1後③～④	2					○				2			兼12
	学術英語AB・再履修	1・2後③～④ 2前①～②		1				○							兼1
	学術英語A・CALL	1前①～②	1					○							兼1
	学術英語B・CALL	1後③～④	1					○							兼1
	学術英語C・テーマベース	2前①・② ・後③・④		1				○							兼2
	学術英語C・スキルベース	2前①・② ・後③・④		1				○		1					兼3
	専門英語	2前①・② ・後③・④		2				○		2		2			
	学術英語C・集中演習	1・2後③～④ ・2前①～②		2				○							兼2
	ドイツ語I	1前①～②		2				○							兼1
	ドイツ語II	1後③～④		2				○							兼1
	ドイツ語III	2前①～②		1				○							兼1
	ドイツ語プラクティクムI	1後③～④		1				○							兼2
	ドイツ語プラクティクムII	2前①～②		1				○							兼1
	フランス語I	1前①～②		2				○							兼2
	フランス語II	1後③～④		2				○							兼2
	フランス語III	2前①～②		1				○							兼2
	フランス語プラクティクI	1後③～④		1				○							兼1
	フランス語プラクティクII	2前①～②		1				○							兼1
中国語I	1前①～②		2				○							兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2	
	中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	中国語実践Ⅰ	1後③～④		1		○								兼2	
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1		○								兼2	
	ロシア語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1	
	ロシア語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1	
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	韓国語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼2	
	韓国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2	
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2	
	韓国語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1	
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1	
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1	
	日本語Ⅴ	2前①		1		○								兼1	
	日本語Ⅵ	2前②		1		○								兼1	
	日本語Ⅶ	2前①		1		○								兼1	
言語文化 自由選択科目	入門ドイツ語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ドイツ語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	ドイツ語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	ドイツ語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門フランス語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門フランス語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	フランス語実用会話	2前①～②		2		○									兼1
	フランス語読解・作文コース	2前①～②		2		○									兼1
	フランス語圏の言語と文化	2後③～④		2		○									兼1
	入門中国語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼2
	入門中国語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	総合スペイン語演習	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	表現スペイン語	2後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語圏の言語と文化	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	入門インドネシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門インドネシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	速習オランダ語	1前①～②		2		○								兼1	
	速習エスペラント	1前①～②		2		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	小計(82科目)	-	6	125	0	-			0	2	0	2	0	兼55	
文系 ディ シ プ リ ン 科 目	哲学・思想入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	社会思想史	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼3	
	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○			1					兼2	
	文化人類学入門	1前①～② 1後③～④		2		○								兼3	
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○								兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
	小計 (17科目)	-	0	32	0	-			0	1	0	0	0		兼36
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習I	1前①～②	1.5				○								兼4
	微分積分学・同演習II	1後③・ 後③～④	1.5				○								兼4
	微分積分学・同演習III	1後④・ 2前①～②	1.5				○								兼4
	線形代数	1前①～②	1.5			○									兼2
	線形代数学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼2
	線形代数学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼2
	数学演習I A	1前①～②	1				○								兼2
	数学演習I B	1後③～④	1				○								兼2
	数学演習II	2前①～②	1				○								兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5			○					1				兼1
	身の回りの物理学A	1前①・② ・後③・④	1			○									兼2
	身の回りの物理学B	1前①・② ・後③・④	1			○									兼1
	物理学概論A	1前①～②	1.5			○									兼1
	物理学概論B	1後③～④	1.5			○									兼1
	物理学概論A演習	1前①～②	1				○								兼1
	物理学概論B演習	1後③～④	1				○								兼1
	基幹物理学I A	1前①～②	1.5			○									兼2
	基幹物理学I B	1後③～④	1.5			○									兼2
	基幹物理学I A演習	1前①～②	1				○								兼1
	基幹物理学I B演習	1後③～④	1				○								兼1
	力学演習	1後③～④	1				○								兼2
	物理学の進展	2前①～②	1.5			○									兼1
	基幹物理学II	2前①～②	1.5			○									兼1
	電気電子工学入門	2前①～②	2			○									兼1
	原子核物理学	2後③～④	2			○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	基礎化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	無機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	有機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④		1.5		○				1					兼1
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○									兼1
	現代化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	機器分析学	2後④		2		○									兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼4
	生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼6
	基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	集団生物学	1後③～④		1.5		○									兼1
	分子生物学	2前①～②		1.5		○									兼2
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○									兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○									兼2
	最先端地球科学	2前②・後③		1		○									兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○									兼1
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○				5		1			オムニバス
	図形科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○				2					
	空間表現実習Ⅰ	1前①～② ・後③～④	2				○			2					
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④	2				○			2					
	世界建築史	2前①		2		○									兼1
	日本建築史	2前②		2		○									兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○									兼1
	デザイン史	2後③～④	2			○				1					
	情報科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○									兼2
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④	1				○								兼2
	コンピュータープログラミング入門	2後③	1			○									兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○							兼12
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○							兼12
	小計（63科目）	-	18.5	69.5	0	-			0	10	1	2	0	兼90	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○									兼3
	小計(1科目)	-	1	0	0	-			0	0	0	0	0		兼3
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○								兼5
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○							兼5
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1					1						兼3
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○									兼1
小計(8科目)	-	1	8	0	-			1	0	0	0	0		兼6	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○									兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○									兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○									兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本事情	1前①～②		2		○									兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○									兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○									兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○									兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○									兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○									兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○									兼1
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○									兼1
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○									兼1
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○									兼1
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○									兼1
	コミュニケーション入門	1前①		1		○									兼1
体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○									兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○							兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○							兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○									兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○									兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○									兼1	集中
	ことばの科学	1前①		1		○									兼1	
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○									兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○									兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○									兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○									兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	体験的農業生産学入門	1前③～④		1				○							兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○									兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○									兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○									兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○									兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○									兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	企業から見たサイバーセキュリティ	1前②・後④		1		○									兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1後③～④		1			○								兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○									兼1	集中
	Contemporary American Society:A Sociological Introduction	1後④		1		○									兼1	
	アイデア・ラボ I	1前②		2		○									兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡 編)	1前①		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する II (現在 編)	1前②		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する III (展望 編)	1後③		1		○									兼1	
	少人数セミナー	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5	
	小計 (71科目)	-	0	79	0	-			0	0	0	0	0		兼50	
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	科学の歴史A	2前①		1		○									兼1	
	科学の歴史B	2前②		1		○									兼1	
	科学の基礎 (哲学的考察)	2後③		1		○									兼1	
	脳情報科学入門	3前①		1		○									兼1	
	認知心理学	2後④		1		○									兼1	
	Brain and Mind	2後③		1		○									兼1	
	機械学習と人工知能	2後③		1		○									兼1	
	現代社会 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代社会 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代社会 III	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代社会 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代史 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代史 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代史 III	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	現代史 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1	
	技術と産業・企業	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○				1						
	芸術学概論	3後③～④		1		○									兼1	集中
	音楽・音響論	2後③～④		2		○				1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	デザインと観察	2前①～②		2		○				1					
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○									兼1
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○									兼1
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○									兼1
	自然災害と防災	2後③～④		2		○									兼1
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③		1		○									兼1 隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後④		1		○									兼1 隔年
	男女共同参画	2後③～④		2		○									兼1
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○							兼1 集中
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップⅠ	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップⅡ	2通		1				○							兼1 集中
	漢方医薬学	3前①～②		1		○									兼1 集中
	チーム医療演習	3後③～④		1			○								兼1 集中
	バイオインフォマティクス	3後③～④		2		○									兼1 集中
	臨床イメージング	2後③		1		○									兼1
	社会と健康	3前①～②		2		○									兼1
	国際保健と医療	2後③～④		2		○									兼1
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○									兼1 集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○									兼1
	生物多様性と人間文化A	2前①		1		○									兼1
	生物多様性と人間文化B	2前②		1		○									兼1
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○									兼1
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○									兼1 隔年
	平和と安全の構築学	2後④		1		○									兼1
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアと日本—その歴史と現在—	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアの政治と社会	2後③～④		2		○									兼1
	プレゼンテーション基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	レトリック基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	共創発想法	2後③		2			○								兼1
	動的現象の科学	3前①		2		○									兼1
	誘導現象の科学	3前②		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	データマイニングと情報可視化	2後④		1			○								兼1	
	技術と倫理	2後④		1		○									兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○									兼1	
	研究と倫理	2後③		1		○									兼1	
	社会と倫理	2後④		1		○									兼1	
	インフォームドコンセント	3前①～②		1		○									兼1	
	葉害	3後③～④		1		○									兼1	
	臨床倫理	3後③～④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・会計/ ファイナンス基礎	2後④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 戦略論基礎	2前②		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 組織論基礎	2前①		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ マーケティング基礎	2後③		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 I	2前①		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 II	2前②		1		○									兼1	集中
	リスクマネジメント	2後③～④		2		○									兼1	
	ビジネス統計学	2前②		1			○								兼1	隔年
	社会統計学 A	3後③		1			○								兼1	
	社会統計学 B	3後④		1			○								兼1	
	社会調査法 I A	2前①		1			○								兼1	
	社会調査法 I B	2前②		1			○								兼1	
	社会調査法 II A	2後③		1			○								兼1	隔年
	社会調査法 II B	2後④		1			○								兼1	隔年
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2		○									兼1	
	教育心理学特論 (教育・学校心理 学)	2後③～④		2		○									兼1	
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2		○									兼2	
	小計 (83科目)	-	0	124	0	-	-	-	0	3	0	0	0		兼65	
専 攻 教 育 科 目	人間工学概論	2前①～②	2			○			4				3			オムニバース
	人間工学設計法	3前①～②	2			○			4				3	兼1		オムニバース
	デザイン理論	2前①～②	2			○				2						オムニバース
	生活機器デザイン論	2前①～②	2			○				2			1			オムニバース
	生活空間デザイン論	2前①～②	2			○				1			1			オムニバース
	工業設計基礎演習 I	1前①～②	1				○		4	2			2			オムニバース
	工業設計基礎演習 II	1後③～④	1				○			1						オムニバース
	卒業研究 I	4前①～② ・後③～④	2				○		5	8			5			オムニバース
	卒業研究 II	4前①～② ・後③～④	4				○		5	8			5			オムニバース
	工業設計モデリング演習	2前①～②		1			○			2						オムニバース

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	知覚心理学	2前①～②		2		○				3		1		兼1	オムニバス
	主観評価法	3前①～②		2		○				3					オムニバス ※演習
	デザインストラテジー基礎	4前①～②		2		○			2	2					※演習
	インターンシップ(学部)	3・4通		2				○		1					
	統計・データ科学	3前		2		○			1						
	電子工学	2後③～④		2		○						1		兼1	オムニバス ※演習
	知的財産論	3前①～②		2		○						1			
	情報理論	3前①～②		2		○						1		兼1	オムニバス ※演習
	感性科学	3前①～②		2		○			1						
	福祉人間工学	2前①～②		2		○			1						
	行動生理学	2後③～④		2		○			1						
	生理人類学	2後③～④		2		○			1					兼2	オムニバス 集中
	環境人間工学	3前①～②		2		○			1						
	聴覚生理学	2前①～②		2		○				2		1			オムニバス
	人間工学研究法	3後③～④		2		○			4			2		兼1	オムニバス
	人間工学測定演習	2前①～②		2			○		4			2			オムニバス
	フィールド調査演習	2後③～④		2			○		4			2		兼1	オムニバス・共同 (一部)※講義
	生体情報処理演習	3前①～②		2			○		4			2		兼1	オムニバス
	人間工学設計演習	3後③～④		2			○		4			2			オムニバス
	現代生活デザイン論・演習	3前①～②		3		○				1					※演習
	生活機器設計論・演習	2後③～④		3		○				2		1			オムニバス ※演習
	生活空間設計論・演習	2後③～④		3		○			1	1		1		兼2	オムニバス ※演習
	生活機器造形論・演習	3前①～②		3		○				2		1			オムニバス ※演習
	生活空間造形論・演習	3前①～②		3		○				1		1		兼1	オムニバス ※演習
	デザインシステム論・演習	3後③～④		3		○				2					オムニバス ※演習
	インタラクションデザイン	2後③～④		2		○						1		兼1	オムニバス
	デザイン思考法	2・3・4通		2		○			1						集中
	インダストリアルデザイン基礎演習A	2前①～②		2			○			2		1			オムニバス
	インダストリアルデザイン基礎演習B	2後③～④		2			○			3					オムニバス
	計画設計プロジェクト演習	3後③～④		2			○		1	6		2			オムニバス
	工業設計力学Ⅰ	2前①～②		2		○				1					
	工業設計力学Ⅱ	2後③～④		2		○				1					
	設計多変量解析	2後③～④		2		○						1			
	機能工学基礎	3前①～②		2		○				1					
	機能デザイン論	3後③～④		2		○				1					
	応用時系列解析	3後③～④		2		○						1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	構造理論	2前①～②		2		○				1					
	機械学習	3後③～④		2		○			1						
	デジタルモデリング演習	3前①～②		2			○			1		1			オムニバス
	機能工学デザイン演習	3後③～④		2			○			1					
	工業設計プロジェクト研究	4前①～②		2			○		1	1		1			オムニバス
	小計 (51科目)	-	18	89	0	-	-	-	7	13	0	10	0		兼12
学部内自由科目	芸術工学特別演習 1	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 2	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 3	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 4	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 5	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 6	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 7	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 8	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 9	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 10	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 11	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 12	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 13	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 14	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 15	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 16	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 17	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 18	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 19	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 20	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
		小計 (20科目)	-	0	30	0	-	-	-	1	0	0	0	0	
	合計 (398科目)	-	48	556.5	0	-	-	-	8	21	1	13	0		兼386

学位又は称号	学士（芸術工学） 学士（学術）	学位又は学科の分野	工学関係、文学関係、理学関係、 社会学・社会福祉学関係、法学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること				
①基幹教育科目（48単位以上修得） (a)基幹教育セミナー（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）基幹教育セミナー (b)課題協学科目（2.5単位修得） <必修科目> （2.5単位科目）課題協学科目			1学年の学期区分	4学期
(c)言語文化科目（12単位修得） 第1外国語（英語）（8単位修得） 第2外国語（1カ国語選択）（4単位修得） (d)文系ディシプリン科目（4単位修得） <選択必修科目> （2単位科目） 哲学・思想入門、社会思想史、先史学入門、歴史学入門、文学・言語学入門、 芸術学入門、文化人類学入門、地理学入門、社会学入門、心理学入門、 法学入門、政治学入門、経済学入門、経済史入門、 The Law and Politics of International Society （1単位科目） 現代教育学入門、教育基礎学入門			1学期の授業期間	8週
(e)理系ディシプリン科目（21単位修得） <必修科目>（18.5単位修得） （2単位科目） 空間表現実習Ⅰ、空間表現実習Ⅱ、デザイン史 （1.5単位科目） 微分積分学・同演習A、微分積分学・同演習B、線形代数学・同演習A、 線形代数学・同演習B、数理統計学、図形科学、情報科学 （1単位科目） 自然科学総合実験（基礎）、自然科学総合実験（発展） <選択必修科目>（2.5単位修得） （1.5単位科目） 基幹物理学ⅠA、基幹物理学ⅠB、基礎生物学概要、集団生物学 （1単位科目） 基幹物理学ⅠA演習、基幹物理学ⅠB演習 (f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）サイバーセキュリティ基礎論 (g)健康・スポーツ科目（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）健康・スポーツ科学演習 (h)総合科目（1.5単位修得） (i)高年次基幹教育科目（2単位修得） (j)その他（2単位修得）			1時限の授業時間	90分
②専攻教育科目（80単位以上修得） <必修科目>（18単位修得） （4単位科目） 卒業研究Ⅱ （2単位科目） 人間工学概論、人間工学設計法、デザイン理論、生活機器デザイン論、 生活空間デザイン論、卒業研究Ⅰ （1単位科目） 工業設計基礎演習Ⅰ、工業設計基礎演習Ⅱ <選択必修科目> 以下の科目から選択（6単位修得） （2単位科目） 感性科学、福祉人間工学、行動生理学、生理人類学、環境人間工学、 以下の科目から選択（9単位修得） （3単位科目） 現代生活デザイン論・演習、生活機器設計論・演習、 生活空間設計論・演習、生活機器造形論・演習 生活空間造形論・演習、デザインシステム論・演習 以下の科目から選択（8単位修得） （2単位科目） 工業設計力学Ⅰ、工業設計力学Ⅱ、設計多変量解析、機能工学基礎、 機能デザイン論、応用時系列解析 <学部内自由科目>（6単位修得） 芸術工学特別演習1～20の他、本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目 のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目 からも選択可能				

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術工学部画像設計学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基幹 教育 科目	基幹教育セミナー	1前②	1					○					1		兼52
	小計(1科目)	-	1	0	0			-		0	0	0	1	0	兼52
課 題 協 学 科 目	課題協学科目	1後③～④	2.5					○							兼17
	小計(1科目)	-	2.5	0	0			-		0	0	0	0	0	兼17
言 語 文 化 科 目	言語文化基礎科目 学術英語A・リセプション	1前①～②	1					○					1		兼4
	学術英語A・プロダクション	1前①～②	1					○		1					兼7
	学術英語B・インテグレート	1後③～④	2					○				2			兼12
	学術英語AB・再履修	1・2後③～④ 2前①～②		1				○							兼1
	学術英語A・CALL	1前①～②	1					○							兼1
	学術英語B・CALL	1後③～④	1					○							兼1
	学術英語C・テーマベース	2前①・② ・後③・④		1				○							兼2
	学術英語C・スキルベース	2前①・② ・後③・④		1				○		1					兼3
	専門英語	2前①・② ・後③・④		2				○		2		2			
	学術英語C・集中演習	1・2後③～④ ・2前①～②		2				○							兼2
	ドイツ語I	1前①～②		2				○							兼1
	ドイツ語II	1後③～④		2				○							兼1
	ドイツ語III	2前①～②		1				○							兼1
	ドイツ語プラクティクムI	1後③～④		1				○							兼2
	ドイツ語プラクティクムII	2前①～②		1				○							兼1
	フランス語I	1前①～②		2				○							兼2
	フランス語II	1後③～④		2				○							兼2
	フランス語III	2前①～②		1				○							兼2
	フランス語プラクティク I	1後③～④		1				○							兼1
フランス語プラクティク II	2前①～②		1				○							兼1	
中国語I	1前①～②		2				○							兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2	
	中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	中国語実践Ⅰ	1後③～④		1		○								兼2	
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1		○								兼2	
	ロシア語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1	
	ロシア語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1	
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	韓国語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼2	
	韓国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2	
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2	
	韓国語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1	
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1	
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1	
	日本語Ⅴ	2前①		1		○								兼1	
	日本語Ⅵ	2前②		1		○								兼1	
	日本語Ⅶ	2前①		1		○								兼1	
言語文化 自由選択科目	入門ドイツ語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ドイツ語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	ドイツ語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	ドイツ語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門フランス語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門フランス語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	フランス語実用会話	2前①～②		2		○									兼1
	フランス語読解・作文コース	2前①～②		2		○									兼1
	フランス語圏の言語と文化	2後③～④		2		○									兼1
	入門中国語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼2
	入門中国語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	総合スペイン語演習	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	表現スペイン語	2後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語圏の言語と文化	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	入門インドネシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門インドネシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	速習オランダ語	1前①～②		2		○								兼1	
	速習エスペラント	1前①～②		2		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	小計(82科目)	-	6	125	0	-			0	2	0	2	0	兼55	
文系 ディ シ プ リ ン 科 目	哲学・思想入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	社会思想史	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼3	
	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○			1					兼2	
	文化人類学入門	1前①～② 1後③～④		2		○								兼3	
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○								兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
	小計 (17科目)	-	0	32	0	-			0	1	0	0	0		兼36
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習I	1前①～②	1.5				○								兼4
	微分積分学・同演習II	1後③・ 後③～④	1.5				○								兼4
	微分積分学・同演習III	1後④・ 2前①～②	1.5				○								兼4
	線形代数	1前①～②	1.5			○									兼2
	線形代数学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼2
	線形代数学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼2
	数学演習I A	1前①～②	1				○								兼2
	数学演習I B	1後③～④	1				○								兼2
	数学演習II	2前①～②	1				○								兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5			○					1				兼1
	身の回りの物理学A	1前①・② ・後③・④	1			○									兼2
	身の回りの物理学B	1前①・② ・後③・④	1			○									兼1
	物理学概論A	1前①～②	1.5			○									兼1
	物理学概論B	1後③～④	1.5			○									兼1
	物理学概論A演習	1前①～②	1				○								兼1
	物理学概論B演習	1後③～④	1				○								兼1
	基幹物理学I A	1前①～②	1.5			○									兼2
	基幹物理学I B	1後③～④	1.5			○									兼2
	基幹物理学I A演習	1前①～②	1				○								兼1
	基幹物理学I B演習	1後③～④	1				○								兼1
	力学演習	1後③～④	1				○								兼2
	物理学の進展	2前①～②	1.5			○									兼1
	基幹物理学II	2前①～②	1.5			○									兼1
	電気電子工学入門	2前①～②	2			○									兼1
	原子核物理学	2後③～④	2			○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	基礎化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	無機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	有機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④		1.5		○				1					兼1
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○									兼1
	現代化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	機器分析学	2後④		2		○									兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼4
	生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼6
	基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	集団生物学	1後③～④		1.5		○									兼1
	分子生物学	2前①～②		1.5		○									兼2
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○									兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○									兼2
	最先端地球科学	2前②・後③		1		○									兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○									兼1
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○				5		1			オムニバス
	図形科学	1前①～② ・後③～④		1.5		○				2					
	空間表現実習Ⅰ	1前①～② ・後③～④		2			○			2					
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④		2			○			2					
	世界建築史	2前①		2		○									兼1
	日本建築史	2前②		2		○									兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○									兼1
	デザイン史	2後③～④	2			○				1					
	情報科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○									兼2
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④		1			○								兼2
	コンピュータープログラミング入門	2後③		1		○									兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○							兼12
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○							兼12
	小計（63科目）	-	13	75	0	-			0	10	1	2	0		兼90

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○									兼3
	小計(1科目)	-	1	0	0	-			0	0	0	0	0		兼3
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○								兼5
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○							兼5
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1					1						兼3
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○									兼1
小計(8科目)	-	1	8	0	-			1	0	0	0	0		兼6	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○									兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○									兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○									兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本事情	1前①～②		2		○									兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○									兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○									兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○									兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○									兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○									兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○									兼1
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○									兼1
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○									兼1
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○									兼1
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○									兼1
	コミュニケーション入門	1前①		1		○									兼1
体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○									兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○							兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○							兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○									兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○									兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○									兼1	集中
	ことばの科学	1前①		1		○									兼1	
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○									兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○									兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○									兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○									兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	体験的農業生産学入門	1前③～④		1				○							兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○									兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○									兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○									兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○									兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○									兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	企業から見たサイバーセキュリティ	1前②・後④		1		○									兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1後③～④		1			○								兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○									兼1	集中
	Contemporary American Society:A Sociological Introduction	1後④		1		○									兼1	
	アイデア・ラボ I	1前②		2		○									兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡 編)	1前①		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する II (現在 編)	1前②		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する III (展望 編)	1後③		1		○									兼1	
	少人数セミナー	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5	
	小計 (71科目)	-	0	79	0	-			0	0	0	0	0		兼50	
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	科学の歴史A	2前①		1		○									兼1	
	科学の歴史B	2前②		1		○									兼1	
	科学の基礎 (哲学的考察)	2後③		1		○									兼1	
	脳情報科学入門	3前①		1		○									兼1	
	認知心理学	2後④		1		○									兼1	
	Brain and Mind	2後③		1		○									兼1	
	機械学習と人工知能	2後③		1		○									兼1	
	現代社会 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代社会 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代社会 III	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代社会 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代史 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代史 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代史 III	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	現代史 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1	
	技術と産業・企業	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○				1						
	芸術学概論	3後③～④		1		○									兼1	集中
	音楽・音響論	2後③～④		2		○				1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	デザインと観察	2前①～②		2		○				1					
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○									兼1
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○									兼1
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○									兼1
	自然災害と防災	2後③～④		2		○									兼1
	生態系の構造と機能 I	2後③		1		○									兼1 隔年
	生態系の構造と機能 II	2後④		1		○									兼1 隔年
	男女共同参画	2後③～④		2		○									兼1
	ボランティア活動 I	2通		1				○							兼1 集中
	ボランティア活動 II	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップ I	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップ II	2通		1				○							兼1 集中
	漢方医薬学	3前①～②		1		○									兼1 集中
	チーム医療演習	3後③～④		1			○								兼1 集中
	バイオインフォマティクス	3後③～④		2		○									兼1 集中
	臨床イメージング	2後③		1		○									兼1
	社会と健康	3前①～②		2		○									兼1
	国際保健と医療	2後③～④		2		○									兼1
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○									兼1 集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○									兼1
	生物多様性と人間文化 A	2前①		1		○									兼1
	生物多様性と人間文化 B	2前②		1		○									兼1
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○									兼1
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○									兼1 隔年
	平和と安全の構築学	2後④		1		○									兼1
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアの政治と社会	2後③～④		2		○									兼1
	プレゼンテーション基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	レトリック基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	共創発想法	2後③		2			○								兼1
	動的現象の科学	3前①		2		○									兼1
	誘導現象の科学	3前②		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	データマイニングと情報可視化	2後④		1			○								兼1	
	技術と倫理	2後④		1		○									兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○									兼1	
	研究と倫理	2後③		1		○									兼1	
	社会と倫理	2後④		1		○									兼1	
	インフォームドコンセント	3前①～②		1		○									兼1	
	葉害	3後③～④		1		○									兼1	
	臨床倫理	3後③～④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・会計/ ファイナンス基礎	2後④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 戦略論基礎	2前②		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 組織論基礎	2前①		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ マーケティング基礎	2後③		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 I	2前①		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 II	2前②		1		○									兼1	集中
	リスクマネジメント	2後③～④		2		○									兼1	
	ビジネス統計学	2前②		1			○								兼1	隔年
	社会統計学 A	3後③		1			○								兼1	
	社会統計学 B	3後④		1			○								兼1	
	社会調査法 I A	2前①		1			○								兼1	
	社会調査法 I B	2前②		1			○								兼1	
	社会調査法 II A	2後③		1			○								兼1	隔年
	社会調査法 II B	2後④		1			○								兼1	隔年
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2			○								兼1	
	教育心理学特論 (教育・学校心理 学)	2後③～④		2			○								兼1	
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2			○								兼2	
	小計 (83科目)	-	0	124	0	-	-	-	0	3	0	0	0		兼65	
専攻 教育 科目	視覚学	2前②	2			○			1	3		1				オムニバス
	色彩学	2後③～④	2			○				1						
	視覚芸術基礎 I	1前①～②	2				○		1	1		1				オムニバス ※講義
	視覚芸術基礎 II	1後③～④	2				○			2		1				オムニバス ※講義
	視覚芸術基礎 III	2前①～②	2				○		2	3		2				オムニバス ※講義
	画像工学基礎	2前①～②	2			○				3						オムニバス
	画像工学プログラミング	2前①～②	2				○			2						オムニバス
	卒業研究 I	4前①～② ・後③～④	2				○		3	9		3				
	卒業研究 II	4前①～② ・後③～④	4				○		3	9		3				

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	知覚心理学	2前①～②		2		○				3		1		兼1	オムニバス
	主観評価法	3前①～②		2		○				3					オムニバス ※演習
	デザインストラテジー基礎	4前①～②		2		○			2	2					※演習
	インターンシップ(学部)	3・4通		2				○				1			
	統計・データ科学	3前①～②		2		○			1						
	機械学習	3後③～④		2		○			1						
	設計多変量解析	2後③～④		2		○						1			
	応用時系列解析	3後③～④		2		○						1			
	コンピュータグラフィックス	2前①～②		2		○			1						
	知的財産論	3前①～②		2		○						1			
	銀塩写真演習	2前①～②		2			○			1					集中
	視覚心理学	3前①		2		○			1						
	視覚心理学演習	3前②		2			○		1						
	視覚生理システム学	2後③～④		2		○						1			
	色彩学演習	3前①		2			○			1					
	心理学的思考法演習	3後③		2			○			1					
	画像論	2後③～④		2		○				1					
	画像論演習	3後③～④		2			○			1					
	視覚伝達論	3後③～④		2		○				1				兼1	オムニバス 集中
	映像表現プロデュース論	2前①～②		2		○				1					
	拡張映像表現スタジオ演習	3前①～②		2			○			1					
	デジタルイメージ クリエイション論	2後③～④		2		○				1					
	コンピュータアニメーション演習	3後③～④		2			○					1			
	グラフィック コミュニケーション論	2後③～④		2		○			1						
	グラフィックデザイン演習	3前①～②		2			○		1						
	メディアコミュニケーション論	2前①～②		2		○						1			
	メディア環境計画	3後③～④		2		○						1			
	芸術表現論	2後③		2		○				1					
	現代芸術とコミュニケーション 演習	3後③		2			○			1					
	視覚芸術学プロジェクト	3後③～④		2			○		1	3		2		兼4	オムニバス 集中
	画像メディア工学	2前①～②		2		○				1					
	画像メディア工学演習	3前①～②		2			○			1					
	画像処理	2前①～②		2		○				1					
	画像処理演習	3前①		2			○			1					
	グラフィックスアルゴリズム	2前①～②		2		○				1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	グラフィックスアルゴリズム演習	3前②		2			○			1					
	小計 (45科目)	-	20	72	0		-		4	12	0	5	0	兼6	
学部内 自由科目	芸術工学特別演習 1	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 2	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 3	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 4	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 5	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 6	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 7	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 8	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 9	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 10	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 11	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 12	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 13	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 14	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 15	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 16	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 17	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 18	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 19	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1					※演習	
	芸術工学特別演習 20	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2			○		1					※演習	
		小計 (20科目)	-	0	30	0		-		1	0	0	0	0	
	合計 (392科目)	-	44.5	545	0		-		6	24	1	9	0	兼380	

学位又は称号	学士（芸術工学） 学士（学術）	学位又は学科の分野	工学関係、文学関係、理学関係、 社会学・社会福祉学関係、法学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
① 基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること				
① 基幹教育科目（48単位以上修得）			1 学年の学期区分	
(a) 基幹教育セミナー（1単位修得）			4 学期	
<必修科目>				
(1単位科目) 基幹教育セミナー				
(b) 課題協学科目（2.5単位修得）			1 学期の授業期間	
<必修科目>			8 週	
(2.5単位科目) 課題協学科目				
(c) 言語文化科目（12単位修得）				
第1外国語（英語）（8単位修得）				
第2外国語（1カ国語選択）（4単位修得）				
(d) 文系ディシプリン科目（4単位修得）			1 時限の授業時間	
<選択必修科目>			9 0 分	
(2単位科目)				
哲学・思想入門、社会思想史、先史学入門、歴史学入門、文学・言語学入門、				
芸術学入門、文化人類学入門、地理学入門、社会学入門、心理学入門、				
法学入門、政治学入門、経済学入門、経済史入門、				
The Law and Politics of International Society				
(1単位科目)				
現代教育学入門、教育基礎学入門				
(e) 理系ディシプリン科目（17.5単位修得）				
<必修科目>（13単位修得）				
(2単位科目)				
デザイン史				
(1.5単位科目)				
微分積分学・同演習A、微分積分学・同演習B、線形代数学・同演習A、				
線形代数学・同演習B、数理統計学、情報科学				
(1単位科目)				
自然科学総合実験（基礎）、自然科学総合実験（発展）				
<選択必修科目>（4.5単位修得）				
(1.5単位科目)				
基幹物理学 I A、基幹物理学 I B、基礎化学熱力学、細胞生物学、集団生物学				
(1単位科目)				
基幹物理学 I A 演習、基幹物理学 I B 演習、地球と宇宙の科学、地球科学				
(f) サイバーセキュリティ科目（1単位修得）				
<必修科目>				
(1単位科目) サイバーセキュリティ基礎論				
(g) 健康・スポーツ科目（1単位修得）				
<必修科目>				
(1単位科目) 健康・スポーツ科学演習				
(h) 総合科目（1.5単位修得）				
(i) 高年次基幹教育科目（2単位修得）				
(j) その他（5.5単位修得）				
基幹教育科目の授業科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目、				
専攻教育科目（在籍学科の科目を除く）のうち、最低修得単位数を超えて				
修得する授業科目又は他学部の専攻教育科目から選択				
② 専攻教育科目（80単位以上修得）				
<必修科目>（20単位修得）				
(4単位科目)				
卒業研究Ⅱ				
(2単位科目)				
視覚学、色彩学、視覚芸術基礎Ⅰ、視覚芸術基礎Ⅱ、視覚芸術基礎Ⅲ、				
画像工学基礎、画像工学プログラミング、卒業研究Ⅰ				
<選択必修科目>				
以下の科目から選択（4単位修得）				
(2単位科目)				
視覚心理学、視覚生理システム学、画像論				
以下の科目から選択（4単位修得）				
(2単位科目)				
映像表現プロデュース論、デジタルイメージクリエーション論、				
グラフィックコミュニケーション論、メディアコミュニケーション論、				
芸術表現論				
以下の科目から選択（4単位修得）				
(2単位科目)				
画像メディア工学、画像処理、グラフィックスアルゴリズム				
<学部内自由科目>（6単位修得）				
芸術工学特別演習1～20の他、本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目				
のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目				
からも選択可能				

教 育 課 程 等 の 概 要															
(芸術工学部音響設計学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基幹 教育 科目	基幹教育セミナー	1前②	1					○					1		兼52
	小計(1科目)	-	1	0	0			-		0	0	0	1	0	兼52
課 題 協 学 科 目	課題協学科目	1後③～④	2.5					○							兼17
	小計(1科目)	-	2.5	0	0			-		0	0	0	0	0	兼17
言 語 文 化 科 目	言語文化基礎科目 学術英語A・リセプション	1前①～②	1					○					1		兼4
	学術英語A・プロダクション	1前①～②	1					○		1					兼7
	学術英語B・インテグレート	1後③～④	2					○				2			兼12
	学術英語AB・再履修	1・2後③～④ 2前①～②		1				○							兼1
	学術英語A・CALL	1前①～②	1					○							兼1
	学術英語B・CALL	1後③～④	1					○							兼1
	学術英語C・テーマベース	2前①・② ・後③・④	1					○							兼2
	学術英語C・スキルベース	2前①・② ・後③・④	1					○		1					兼3
	専門英語	2前①・② ・後③・④	2					○		2		2			
	学術英語C・集中演習	1・2後③～④ ・2前①～②	2					○							兼2
	ドイツ語I	1前①～②	2					○							兼1
	ドイツ語II	1後③～④	2					○							兼1
	ドイツ語III	2前①～②	1					○							兼1
	ドイツ語プラクティクムI	1後③～④	1					○							兼2
	ドイツ語プラクティクムII	2前①～②	1					○							兼1
	フランス語I	1前①～②	2					○							兼2
	フランス語II	1後③～④	2					○							兼2
	フランス語III	2前①～②	1					○							兼2
	フランス語プラクティクI	1後③～④	1					○							兼1
	フランス語プラクティクII	2前①～②	1					○							兼1
中国語I	1前①～②	2					○							兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2	
	中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	中国語実践Ⅰ	1後③～④		1		○								兼2	
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1		○								兼2	
	ロシア語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1	
	ロシア語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1	
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	韓国語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼2	
	韓国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2	
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2	
	韓国語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1	
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1	
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1	
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1	
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1	
	日本語Ⅴ	2前①		1		○								兼1	
	日本語Ⅵ	2前②		1		○								兼1	
	日本語Ⅶ	2前①		1		○								兼1	
言語文化 自由選択科目	入門ドイツ語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ドイツ語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	ドイツ語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	ドイツ語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門フランス語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門フランス語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	フランス語実用会話	2前①～②		2		○									兼1
	フランス語読解・作文コース	2前①～②		2		○									兼1
	フランス語圏の言語と文化	2後③～④		2		○									兼1
	入門中国語Ⅰ	2前①～②		2		○									兼2
	入門中国語Ⅱ	2後③～④		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	総合スペイン語演習	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	表現スペイン語	2後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語圏の言語と文化	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	入門インドネシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門インドネシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	速習オランダ語	1前①～②		2		○								兼1	
	速習エスペラント	1前①～②		2		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	小計(82科目)	-	6	125	0	-			0	2	0	2	0	兼55	
文系 ディ シ プ リ ン 科 目	哲学・思想入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	社会思想史	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼3	
	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○			1					兼2	
	文化人類学入門	1前①～② 1後③～④		2		○								兼3	
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○								兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
	小計 (17科目)	-	0	32	0	-			0	1	0	0	0		兼36
理系ディシプリン科目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習I	1前①～②	1.5				○								兼4
	微分積分学・同演習II	1後③・④ 後③～④	1.5				○								兼4
	微分積分学・同演習III	1後④・② 2前①～②	1.5				○								兼4
	線形代数	1前①～②	1.5			○									兼2
	線形代数学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼2
	線形代数学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼2
	数学演習I A	1前①～②	1				○								兼2
	数学演習I B	1後③～④	1				○								兼2
	数学演習II	2前①～②	1				○								兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5			○					1				兼1
	身の回りの物理学A	1前①・② ・後③・④	1			○									兼2
	身の回りの物理学B	1前①・② ・後③・④	1			○									兼1
	物理学概論A	1前①～②	1.5			○									兼1
	物理学概論B	1後③～④	1.5			○									兼1
	物理学概論A演習	1前①～②	1				○								兼1
	物理学概論B演習	1後③～④	1				○								兼1
	基幹物理学I A	1前①～②	1.5			○									兼2
	基幹物理学I B	1後③～④	1.5			○									兼2
	基幹物理学I A演習	1前①～②	1				○								兼1
	基幹物理学I B演習	1後③～④	1				○								兼1
	力学演習	1後③～④	1				○								兼2
	物理学の進展	2前①～②	1.5			○									兼1
	基幹物理学II	2前①～②	1.5			○									兼1
	電気電子工学入門	2前①～②	2			○									兼1
	原子核物理学	2後③～④	2			○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	基礎化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	無機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	有機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④		1.5		○				1					兼1
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○									兼1
	現代化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	機器分析学	2後④		2		○									兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼4
	生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼6
	基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	集団生物学	1後③～④		1.5		○									兼1
	分子生物学	2前①～②		1.5		○									兼2
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○									兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○									兼2
	最先端地球科学	2前②・後③		1		○									兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○									兼1
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○				5		1			オムニバス
	図形科学	1前①～② ・後③～④		1.5		○				2					
	空間表現実習Ⅰ	1前①～② ・後③～④		2			○			2					
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④		2			○			2					
	世界建築史	2前①		2		○									兼1
	日本建築史	2前②		2		○									兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○									兼1
	デザイン史	2後③～④		2		○				1					
	情報科学	1前①～② ・後③～④	1.5			○									兼2
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④		1			○								兼2
	コンピュータープログラミング入門	2後③		1		○									兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③	1					○							兼12
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④	1					○							兼12
	小計（63科目）	-	16	72	0	-			0	10	1	2	0		兼90

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○									兼3
	小計(1科目)	-	1	0	0	-			0	0	0	0	0		兼3
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○								兼5
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○							兼5
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1					1						兼3
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○									兼1
小計(8科目)	-	1	8	0	-			1	0	0	0	0		兼6	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○									兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○									兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○									兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本事情	1前①～②		2		○									兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○									兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○									兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○									兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○									兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○									兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○									兼1
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○									兼1
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○									兼1
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○									兼1
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○									兼1
コミュニケーション入門	1前①		1		○									兼1	
体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○								兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○								兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○								兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○						兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○						兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○								兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○								兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○								兼1	集中
	ことばの科学	1前①		1		○								兼1	
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○								兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○								兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○								兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○								兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○								兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○								兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○								兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○								兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○								兼1	
	体験的農業生産学入門	1前③～④		1				○						兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○								兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○								兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○								兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○								兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○								兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○								兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	企業から見たサイバーセキュリティ	1前②・後④		1		○									兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1後③～④		1			○								兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○									兼1	集中
	Contemporary American Society:A Sociological Introduction	1後④		1		○									兼1	
	アイデア・ラボ I	1前②		2		○									兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡 編)	1前①		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する II (現在 編)	1前②		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する III (展望 編)	1後③		1		○									兼1	
	少人数セミナー	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5	
	小計 (71科目)	-	0	79	0	-			0	0	0	0	0		兼50	
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	科学の歴史A	2前①		1		○									兼1	
	科学の歴史B	2前②		1		○									兼1	
	科学の基礎 (哲学的考察)	2後③		1		○									兼1	
	脳情報科学入門	3前①		1		○									兼1	
	認知心理学	2後④		1		○									兼1	
	Brain and Mind	2後③		1		○									兼1	
	機械学習と人工知能	2後③		1		○									兼1	
	現代社会 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代社会 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代社会 III	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代社会 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代史 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代史 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代史 III	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	現代史 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1	
	技術と産業・企業	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○				1						
	芸術学概論	3後③～④		1		○									兼1	集中
	音楽・音響論	2後③～④		2		○				1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	デザインと観察	2前①～②		2		○				1					
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○									兼1
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○									兼1
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○									兼1
	自然災害と防災	2後③～④		2		○									兼1
	生態系の構造と機能 I	2後③		1		○									兼1 隔年
	生態系の構造と機能 II	2後④		1		○									兼1 隔年
	男女共同参画	2後③～④		2		○									兼1
	ボランティア活動 I	2通		1				○							兼1 集中
	ボランティア活動 II	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップ I	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップ II	2通		1				○							兼1 集中
	漢方医薬学	3前①～②		1		○									兼1 集中
	チーム医療演習	3後③～④		1			○								兼1 集中
	バイオインフォマティクス	3後③～④		2		○									兼1 集中
	臨床イメージング	2後③		1		○									兼1
	社会と健康	3前①～②		2		○									兼1
	国際保健と医療	2後③～④		2		○									兼1
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○									兼1 集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○									兼1
	生物多様性と人間文化 A	2前①		1		○									兼1
	生物多様性と人間文化 B	2前②		1		○									兼1
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○									兼1
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○									兼1 隔年
	平和と安全の構築学	2後④		1		○									兼1
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアの政治と社会	2後③～④		2		○									兼1
	プレゼンテーション基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	レトリック基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	共創発想法	2後③		2			○								兼1
	動的現象の科学	3前①		2		○									兼1
	誘導現象の科学	3前②		2		○									兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	データマイニングと情報可視化	2後④		1			○								兼1	
	技術と倫理	2後④		1		○									兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2		○									兼1	
	研究と倫理	2後③		1		○									兼1	
	社会と倫理	2後④		1		○									兼1	
	インフォームドコンセント	3前①～②		1		○									兼1	
	薬害	3後③～④		1		○									兼1	
	臨床倫理	3後③～④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・会計/ ファイナンス基礎	2後④		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 戦略論基礎	2前②		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ 組織論基礎	2前①		1		○									兼1	
	アントレプレナーシップ・ マーケティング基礎	2後③		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 I	2前①		1		○									兼1	
	事業創造デザイン特論 II	2前②		1		○									兼1	集中
	リスクマネジメント	2後③～④		2		○									兼1	
	ビジネス統計学	2前②		1			○								兼1	隔年
	社会統計学 A	3後③		1			○								兼1	
	社会統計学 B	3後④		1			○								兼1	
	社会調査法 I A	2前①		1			○								兼1	
	社会調査法 I B	2前②		1			○								兼1	
	社会調査法 II A	2後③		1			○								兼1	隔年
	社会調査法 II B	2後④		1			○								兼1	隔年
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2		○									兼1	
	教育心理学特論 (教育・学校心理学)	2後③～④		2		○									兼1	
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2		○									兼2	
	小計 (83科目)	-	0	124	0	-	-	-	0	3	0	0	0		兼65	
専攻教育科目	主観評価法	3前①～②	2			○				3						オムニバス ※演習
	音楽社会学	2前①	2			○				1		1				オムニバス
	西洋音楽史	2後③	2			○						1				
	音文化論演習	1後③～④	2				○		1							
	聴覚生理学	2前①～②	2			○				2		1				オムニバス
	聴覚心理学	2後④	2			○			1	2						オムニバス
	音響信号処理演習	2前①～②	2			○			1							※演習
	デジタル信号処理	2後③～④	2			○						1		兼1	オムニバス	
	電気工学	2前①～②	2			○						1		兼1	オムニバス ※演習	
	電気実験	3前①～②	1					○	1			2		兼1	共同	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	音響理論演習Ⅰ	2前①～②	3			○			1						※演習
	音響理論演習Ⅱ	2後③～④	3			○			1	1					オムニバス ※演習
	音楽理論表現演習	2前①～②	2				○		2			2		兼2	オムニバス・共同 (一部)※講義
	音楽構造基礎演習	2後③～④	2				○		2	1		2		兼2	オムニバス ※講義
	音響実験Ⅰ	3前①～②	3					○	3	5		4			オムニバス
	音響実験Ⅱ	3後③～④	3					○	5	7		4			オムニバス
	輪講	4前①～②	2				○		5	7		4			オムニバス
	電子工学	2後③～④	2				○					1		兼1	オムニバス ※演習
	卒業研究Ⅰ	4前①～② ・後③～④	2					○	5	7		4			
	卒業研究Ⅱ	4前①～② ・後③～④	4					○	5	7		4			
	知覚心理学	2前①～②		2			○			3		1		兼1	オムニバス
	デザインストラテジー基礎	4前①～②		2			○		2	2					オムニバス ※演習
	インターンシップ(学部)	3・4通		2				○		1					
	推測統計学	3前①～②		2			○			1				兼1	オムニバス
	システム工学	3後③～④		2			○			1				兼1	※演習
	設計多変量解析	2後③～④		2			○					1			
	情報理論	3前①～②		2			○					1		兼1	オムニバス ※演習
	音楽学	3前①		2			○		1			1			オムニバス
	応用音楽学	3後③		2			○		1	1				兼1	オムニバス
	音声学	2後③～④		2			○		1			1		兼1	オムニバス
	サウンド・パフォーマンス	2後③～④		2				○	1					兼2	オムニバス
	比較音楽理論	2後④		2			○		1						
	室内音響学	3前②		2			○		1						
	騒音環境学	3後④		2			○		1	2					オムニバス
	非線形振動論	3後③～④		2			○		1	2					オムニバス
	応用音響理論	3前①～②		2			○			1					
	音響構成	4前①～②		4						1				兼5	オムニバス ※実習
	聴覚認知論	3前①～②		2			○			1				兼1	オムニバス 集中
	楽器・音響機器論	3前①～②		2			○			1		1			オムニバス
	デジタル信号処理演習	3前①～②		2				○				1			
	音響情報工学	3前①～②		2			○		1						
	音響情報工学演習	3後③～④		2				○	1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	応用時系列解析	3後③～④		2		○						1				
	聴能形成 I	1前①～②		1				○		1		1				共同
	聴能形成 II	2前①～②		1				○		1		1				共同
	プログラミング言語	2後③～④		2			○			1						
	小計 (46科目)	-	45	52	0	-	-	-	7	12	0	6				兼19
学部 内 自 由 科 目	芸術工学特別演習 1	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 2	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 3	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 4	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 5	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 6	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 7	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 8	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 9	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 10	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 11	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 12	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 13	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 14	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 15	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 16	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 17	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 18	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 19	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	芸術工学特別演習 20	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1							※演習
	小計 (20科目)	-	0	30	0	-	-	-	1	0	0	0	0			
合計 (393科目)			-	72.5	522	0	-	-	9	23	1	10	0			兼393

学位又は称号	学士（芸術工学） 学士（学術）	学位又は学科の分野	工学関係、文学関係、理学関係、 社会学・社会福祉学関係、法学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること				
①基幹教育科目（48単位以上修得）				
(a)基幹教育セミナー（1単位修得）			1学年の学期区分	
<必修科目>			4学期	
(1単位科目) 基幹教育セミナー				
(b)課題協学科目（2.5単位修得）			1学期の授業期間	
<必修科目>			8週	
(2.5単位科目) 課題協学科目				
(c)言語文化科目（12単位修得）			1時限の授業時間	
第1外国語（英語）（8単位修得）			90分	
第2外国語（1カ国語選択）（4単位修得）				
(d)文系ディシプリン科目（4単位修得）				
<選択必修科目>				
(2単位科目)				
哲学・思想入門、社会思想史、先史学入門、歴史学入門、文学・言語学入門、				
芸術学入門、文化人類学入門、地理学入門、社会学入門、心理学入門、				
法学入門、政治学入門、経済学入門、経済史入門、				
The Law and Politics of International Society				
(1単位科目)				
現代教育学入門、教育基礎学入門				
(e)理系ディシプリン科目（17単位修得）				
<必修科目>（16単位修得）				
(1.5単位科目)				
微分積分学・同演習A、微分積分学・同演習B、線形代数学・同演習A、				
線形代数学・同演習B、基幹物理学I A、基幹物理学I B、情報科学、				
数理統計学				
(1単位科目)				
基幹物理学I A演習、基幹物理学I B演習、自然科学総合実験（基礎）、				
自然科学総合実験（発展）				
<選択必修科目>（1単位修得）				
(1.5単位科目)				
無機物質化学、有機物質化学、基礎化学結合論、基礎化学熱力学、				
細胞生物学、集団生物学				
(1単位科目)				
地球と宇宙の科学、地球科学、プログラミング演習				
(f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得）				
<必修科目>				
(1単位科目) サイバーセキュリティ基礎論				
(g)健康・スポーツ科目（1単位修得）				
<必修科目>				
(1単位科目) 健康・スポーツ科学演習				
(h)総合科目（1.5単位修得）				
(i)高年次基幹教育科目（2単位修得）				
(j)その他（6単位修得）				
基幹教育科目の授業科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目、				
専攻教育科目（在籍学科の科目を除く）のうち、最低修得単位数を超えて				
修得する授業科目又は他学部の専攻教育科目から選択				
②専攻教育科目（80単位以上修得）				
<必修科目>（45単位修得）				
(4単位科目)				
卒業研究Ⅱ				
(3単位科目)				
音響理論演習Ⅰ、音響理論演習Ⅱ、音響実験Ⅰ、音響実験Ⅱ				
(2単位科目)				
主観評価法、音楽社会学、西洋音楽史、音文化論演習、聴覚生理学、聴覚心理学、				
音響信号処理演習、デジタル信号処理、電気工学、音楽理論表現演習、				
音楽構造基礎演習、輪講、電子工学、卒業研究Ⅰ				
(1単位科目)				
電気実験				
<学部内自由科目>（6単位修得）				
芸術工学特別演習1～20の他、本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目				
のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目				
からも選択可能				

教 育 課 程 等 の 概 要														
(芸術工学部芸術情報設計学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基幹教育科目	基幹教育セミナー	1前②	1					○					1	兼52
	小計 (1科目)	-	1	0	0			-		0	0	0	1	0
課題協学科目	課題協学科目	1後③～④	2.5					○						兼17
	小計 (1科目)	-	2.5	0	0			-		0	0	0	0	0
言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語A・リセプション	1前①～②	1					○					1	兼4
	学術英語A・プロダクション	1前①～②	1					○		1				兼7
	学術英語B・インテグレート	1後③～④	2					○				2		兼12
	学術英語AB・再履修	1・2後③～④ 2前①～②		1				○						兼1
	学術英語A・CALL	1前①～②	1					○						兼1
	学術英語B・CALL	1後③～④	1					○						兼1
	学術英語C・テーマベース	2前①・② ・後③・④		1				○						兼2
	学術英語C・スキルベース	2前①・② ・後③・④		1				○		1				兼3
	専門英語	2前①・② ・後③・④		2				○		2		2		
	学術英語C・集中演習	1・2後③～④ ・2前①～②		2				○						兼2
	ドイツ語I	1前①～②		2				○						兼1
	ドイツ語II	1後③～④		2				○						兼1
	ドイツ語III	2前①～②		1				○						兼1
	ドイツ語プラクティクムI	1後③～④		1				○						兼2
	ドイツ語プラクティクムII	2前①～②		1				○						兼1
	フランス語I	1前①～②		2				○						兼2
	フランス語II	1後③～④		2				○						兼2
	フランス語III	2前①～②		1				○						兼2
	フランス語プラクティクI	1後③～④		1				○						兼1
	フランス語プラクティクII	2前①～②		1				○						兼1
中国語I	1前①～②		2				○						兼2	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手	
	中国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2
	中国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	中国語実践Ⅰ	1後③～④		1		○								兼2
	中国語実践Ⅱ	2前①～②		1		○								兼2
	ロシア語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1
	ロシア語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1
	ロシア語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	ロシア語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	韓国語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼2
	韓国語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼2
	韓国語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼2
	韓国語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	スペイン語Ⅰ	1前①～②		2		○								兼1
	スペイン語Ⅱ	1後③～④		2		○								兼1
	スペイン語Ⅲ	2前①～②		1		○								兼1
	スペイン語フォーラム	1後③～④		1		○								兼1
	日本語Ⅰ	1前①		1		○								兼2
	日本語Ⅱ	1前②		1		○								兼1
	日本語Ⅲ	1後③		1		○								兼1
	日本語Ⅳ	1後④		1		○								兼1
	日本語Ⅴ	2前①		1		○								兼1
	日本語Ⅵ	2前②		1		○								兼1
	日本語Ⅶ	2前①		1		○								兼1
言語文化 自由選択科目	入門ドイツ語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	入門ドイツ語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	ドイツ語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	ドイツ語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	ドイツ語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	入門フランス語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1
	入門フランス語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1
	フランス語実用会話	2前①～②		2		○								兼1
	フランス語読解・作文コース	2前①～②		2		○								兼1
	フランス語圏の言語と文化	2後③～④		2		○								兼1
	入門中国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼2
	入門中国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	中国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門ロシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門韓国語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	韓国語表現・読解演習Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門スペイン語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	総合スペイン語演習	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	表現スペイン語	2後③～④		2		○								兼1	
	スペイン語圏の言語と文化	2前①～②		2		○								兼1	隔年
	入門インドネシア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門インドネシア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅰ	2前①～②		2		○								兼1	
	入門イタリア語Ⅱ	2後③～④		2		○								兼1	
	速習オランダ語	1前①～②		2		○								兼1	
	速習エスペラント	1前①～②		2		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	古典ギリシア語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅰ	1前①～②		1		○								兼1	
	ラテン語Ⅱ	1後③～④		1		○								兼1	
	小計(82科目)	-	6	125	0	-			0	2	0	2	0	兼55	
文系 ディ シ プ リ ン 科 目	哲学・思想入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	社会思想史	1前①～② ・後③～④		2		○								兼1	
	先史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	歴史学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	文学・言語学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼3	
	芸術学入門	1前①～② ・後③～④		2		○			1					兼2	
	文化人類学入門	1前①～② 1後③～④		2		○								兼3	
	地理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	社会学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼2	
	心理学入門	1前①～② ・後③～④		2		○								兼4	
	現代教育学入門	1前①・② ・後③・④		1		○								兼5	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	教育基礎学入門	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	法学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	政治学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼3
	経済学入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	経済史入門	1前①～② ・後③～④		2		○									兼1
	The Law and Politics of International Society	1後③～④		2		○									兼1
	小計 (17科目)	-	0	32	0	-			0	1	0	0	0		兼36
理系 ディ シ プ リ ン 科 目	社会と数理科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼3
	微分積分学	1後③～④		1.5		○									兼3
	微分積分学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼1
	微分積分学・同演習I	1前①～②	1.5				○								兼4
	微分積分学・同演習II	1後③・ 後③～④	1.5				○								兼4
	微分積分学・同演習III	1後④・ 2前①～②	1.5				○								兼4
	線形代数	1前①～②	1.5			○									兼2
	線形代数学・同演習A	1前①～②	1.5				○								兼2
	線形代数学・同演習B	1後③～④	1.5				○								兼2
	数学演習I A	1前①～②	1				○								兼2
	数学演習I B	1後③～④	1				○								兼2
	数学演習II	2前①～②	1				○								兼4
	数理統計学	2前①～② ・後③～④	1.5			○					1				兼1
	身の回りの物理学A	1前①・② ・後③・④	1			○									兼2
	身の回りの物理学B	1前①・② ・後③・④	1			○									兼1
	物理学概論A	1前①～②	1.5			○									兼1
	物理学概論B	1後③～④	1.5			○									兼1
	物理学概論A演習	1前①～②	1				○								兼1
	物理学概論B演習	1後③～④	1				○								兼1
	基幹物理学I A	1前①～②	1.5			○									兼2
	基幹物理学I B	1後③～④	1.5			○									兼2
	基幹物理学I A演習	1前①～②	1				○								兼1
	基幹物理学I B演習	1後③～④	1				○								兼1
	力学演習	1後③～④	1				○								兼2
	物理学の進展	2前①～②	1.5			○									兼1
	基幹物理学II	2前①～②	1.5			○									兼1
	電気電子工学入門	2前①～②	2			○									兼1
	原子核物理学	2後③～④	2			○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	身の回りの化学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5
	基礎化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	無機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	有機物質化学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	基礎化学結合論	1前①～② ・後③～④		1.5		○				1					兼1
	基礎化学熱力学	1後③～④		1.5		○									兼1
	現代化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生物有機化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	基礎生化学	2前①～②		1.5		○									兼1
	機器分析学	2後④		2		○									兼1
	生命の科学A	1前①・② ・後③・④		1		○									兼4
	生命の科学B	1前①・② ・後③・④		1		○									兼6
	基礎生物学概要	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	細胞生物学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼1
	集団生物学	1後③～④		1.5		○									兼1
	分子生物学	2前①～②		1.5		○									兼2
	生態系の科学	2前①～②		1.5		○									兼1
	地球と宇宙の科学	1前①・② ・後③・④		1		○									兼2
	地球科学	1前①・後③		1		○									兼2
	最先端地球科学	2前②・後③		1		○									兼2
	宇宙科学概論	2前①～②		1.5		○									兼1
	デザイン思考	1前①・② ・後③・④		1		○				5		1			オムニバス
	図形科学	1前①～② ・後③～④		1.5		○				2					
	空間表現実習Ⅰ	1前①～② ・後③～④		2			○			2					
	空間表現実習Ⅱ	1後③～④		2			○			2					
	世界建築史	2前①		2		○									兼1
	日本建築史	2前②		2		○									兼1
	近・現代建築史	2後③・④		2		○									兼1
	デザイン史	2後③～④		2		○				1					
	情報科学	1前①～② ・後③～④		1.5		○									兼2
	プログラミング演習	1前①～② ・後③～④		1			○								兼2
	コンピュータープログラミング入門	2後③		1		○									兼1
	自然科学総合実験（基礎）	1前①・後③		1				○							兼12
	自然科学総合実験（発展）	1前②・後④		1				○							兼12
	小計（63科目）	-		13	75	0	-		0	10	1	2	0		兼90

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	1前①	1			○									兼3
	小計(1科目)	-	1	0	0	-			0	0	0	0	0		兼3
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	1前①～②	1				○								兼5
	身体運動科学実習Ⅰ	1後③～④		1				○							兼5
	身体運動科学実習Ⅱ	2前①～②		1					1						兼3
	身体運動科学実習Ⅲ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	身体運動科学実習Ⅳ	2後③～④ ・3前①～②		1											兼2
	健康・スポーツ科学講義ⅠA	1後③		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義ⅠB	1後④		1		○									兼1
	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	2前①～②		2		○									兼1
小計(8科目)	-	1	8	0	-			1	0	0	0	0		兼6	
総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	1前①		1		○									兼1
	アカデミック・フロンティアⅡ	1前②		1		○									兼1
	大学とは何かⅠ	1前①		1		○									兼1
	大学とは何かⅡ	1前②		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅰ	1後③		1		○									兼1
	九州大学の歴史Ⅱ	1後④		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅰ	1前①		1		○									兼1
	女性学・男性学Ⅱ	1前②		1		○									兼1
	日本事情	1前①～②		2		○									兼1
	社会連携活動論：ボランティア	1前②		1		○									兼1
	社会連携活動論：インターンシップ	1前①		1		○									兼1
	Law in Everyday Life A	1後③		1		○									兼1
	Law in Everyday Life B	1後④		1		○									兼1
	バリアフリー支援入門	1前①		1		○									兼1
	ユニバーサルデザイン研究	1後③		1		○									兼1
	アクセシビリティ入門	1前②		1		○									兼1
	アクセシビリティ支援入門	1後④		1		○									兼1
	アクセシビリティ基礎	1後③～④		1		○									兼1
	人と人をつなぐ技法	1後③		1		○									兼1
	コミュニケーション入門	1前①		1		○									兼1
体験してわかる自然科学	1後③・④		1		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	1後③		1		○									兼1	
	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	1後④		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学A	1前①		1		○									兼1	
	アジア埋蔵文化財学B	1前②		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	韓国・朝鮮研究の最前線Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅠ	1前①～②		1		○									兼1	
	グローバル社会を生きるⅡ	1前①～②		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	社会参加のための日本語教育Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	フィールドに学ぶA	1後③		1				○							兼1	
	フィールドに学ぶB	1後④		1				○							兼1	
	教育テスト論	1後③～④		2		○									兼1	
	現代企業分析	1前①～②		1		○									兼1	集中
	現代経済事情	1前①～②		1		○									兼1	集中
	ことばの科学	1前①		1		○									兼1	
	外国語プレゼンテーション	1後③～④		1		○									兼1	集中
	水の科学	1後③		2		○									兼1	
	医療倫理学Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	医療倫理学Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	バイオエシックス入門	1前②		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	科学の進歩と女性科学者Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅰ	1前①		1		○									兼1	
	糸島の水と土と緑Ⅱ	1前②		1		○									兼1	
	命のあり方・尊さと食の連関	1前①～②		2		○									兼1	集中
	食肉加工の理論と実践	1後③～④		2		○									兼1	集中
	先進的植物生産システム概論Ⅰ	1後③		1		○									兼1	
	先進的植物生産システム概論Ⅱ	1後④		1		○									兼1	
	体験的農業生産学入門	1前③～④		1				○							兼1	集中
	農のための植物-環境系輸送現象論	1後③		1		○									兼1	
	農のための最適環境制御	1前①		1		○									兼1	
	食科学の新展開	1前①		1		○									兼1	
	作物生産とフロンティア研究	1後③		1		○									兼1	
	持続可能な農業生産・食料流通システム	1後③		1		○									兼1	
	農業と微生物	1後④		1		○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	企業から見たサイバーセキュリティ	1前②・後④		1		○									兼1	
	サイバーセキュリティ演習	1前①～②		1			○								兼2	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (サーバー構築編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (ハードウェア設計編)	1前①～②		1			○								兼1	集中
	セキュリティエンジニアリング演習 (IoTセキュリティ編)	1後③～④		1			○								兼1	集中
	分子の科学	1後③～④		2		○									兼1	集中
	「留学」考	1後③～④		1		○									兼1	集中
	Contemporary American Society:A Sociological Introduction	1後④		1		○									兼1	
	アイデア・ラボ I	1前②		2		○									兼1	
	アントレプレナーシップ入門	1前①・後③		2		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する I (軌跡 編)	1前①		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する II (現在 編)	1前②		1		○									兼1	
	伊都キャンパスを科学する III (展望 編)	1後③		1		○									兼1	
	少人数セミナー	1前①・② ・後③・④		1		○									兼5	
	小計 (71科目)	-	0	79	0	-			0	0	0	0	0		兼50	
高 年 次 基 幹 教 育 科 目	科学の歴史A	2前①		1		○									兼1	
	科学の歴史B	2前②		1		○									兼1	
	科学の基礎 (哲学的考察)	2後③		1		○									兼1	
	脳情報科学入門	3前①		1		○									兼1	
	認知心理学	2後④		1		○									兼1	
	Brain and Mind	2後③		1		○									兼1	
	機械学習と人工知能	2後③		1		○									兼1	
	現代社会 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代社会 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代社会 III	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代社会 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	現代史 I	2前①～②		2		○									兼1	
	現代史 II	2後③～④		2		○									兼1	
	現代史 III	2前①～②		2		○									兼1	隔年
	現代史 IV	2後③～④		2		○									兼1	隔年
	EU論基礎—制度と経済—	2前①～②		2		○									兼1	
	技術と産業・企業	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	グローバル化とアジア経済	3前①～②		2		○									兼1	隔年
	金融と経済	2後③～④		2		○									兼1	
	サイバー空間デザイン	2前①～②		2		○				1						
	芸術学概論	3後③～④		1		○									兼1	集中
	音楽・音響論	2後③～④		2		○				1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	デザインと観察	2前①～②		2		○				1					
	環境問題と自然科学	2後③～④		2		○									兼1
	環境調和型社会の構築	2前①～②		2		○									兼1
	グリーンケミストリー	2後③～④		2		○									兼1
	自然災害と防災	2後③～④		2		○									兼1
	生態系の構造と機能Ⅰ	2後③		1		○									兼1 隔年
	生態系の構造と機能Ⅱ	2後④		1		○									兼1 隔年
	男女共同参画	2後③～④		2		○									兼1
	ボランティア活動Ⅰ	2通		1				○							兼1 集中
	ボランティア活動Ⅱ	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップⅠ	2通		1				○							兼1 集中
	インターンシップⅡ	2通		1				○							兼1 集中
	漢方医薬学	3前①～②		1		○									兼1 集中
	チーム医療演習	3後③～④		1			○								兼1 集中
	バイオインフォマティクス	3後③～④		2		○									兼1 集中
	臨床イメージング	2後③		1		○									兼1
	社会と健康	3前①～②		2		○									兼1
	国際保健と医療	2後③～④		2		○									兼1
	アクセシビリティマネジメント研究	2前①～②		2		○									兼1 集中
	地球の進化と環境	2後③～④		2		○									兼1
	生物多様性と人間文化A	2前①		1		○									兼1
	生物多様性と人間文化B	2前②		1		○									兼1
	遺伝子組換え生物の利用と制御	2後③～④		2		○									兼1
	バイオテクノロジー詳論	2後③～④		2		○									兼1 隔年
	平和と安全の構築学	2後④		1		○									兼1
	文化と社会の理論	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアと日本—その歴史と現在—	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法文化学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	法史学入門	2前①～②		2		○									兼1 隔年
	ローマ法史	2前①～②		2		○									兼1
	東アジアの政治と社会	2後③～④		2		○									兼1
	プレゼンテーション基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	レトリック基礎	2前①～②		1			○								兼1 集中
	共創発想法	2後③		2			○								兼1
	動的現象の科学	3前①		2		○									兼1
	誘導現象の科学	3前②		2		○									兼1

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手			
	データマイニングと情報可視化	2後④		1			○								兼1	
	技術と倫理	2後④		1			○								兼1	
	医療における倫理	2前①～②		2			○								兼1	
	研究と倫理	2後③		1			○								兼1	
	社会と倫理	2後④		1			○								兼1	
	インフォームドコンセント	3前①～②		1			○								兼1	
	薬害	3後③～④		1			○								兼1	
	臨床倫理	3後③～④		1			○								兼1	
	アントレプレナーシップ・会計/ ファイナンス基礎	2後④		1			○								兼1	
	アントレプレナーシップ・ 戦略論基礎	2前②		1			○								兼1	
	アントレプレナーシップ・ 組織論基礎	2前①		1			○								兼1	
	アントレプレナーシップ・ マーケティング基礎	2後③		1			○								兼1	
	事業創造デザイン特論 I	2前①		1			○								兼1	
	事業創造デザイン特論 II	2前②		1			○								兼1	集中
	リスクマネジメント	2後③～④		2			○								兼1	
	ビジネス統計学	2前②		1				○							兼1	隔年
	社会統計学A	3後③		1				○							兼1	
	社会統計学B	3後④		1				○							兼1	
	社会調査法 I A	2前①		1				○							兼1	
	社会調査法 I B	2前②		1				○							兼1	
	社会調査法 II A	2後③		1				○							兼1	隔年
	社会調査法 II B	2後④		1				○							兼1	隔年
	教育学特論	2前①～② ・後③～④		2				○							兼1	
	教育心理学特論（教育・学校心理 学）	2後③～④		2				○							兼1	
	日本国憲法	3前①～② ・後③～④		2				○							兼2	
	小計（83科目）	-	0	124	0		-		0	3	0	0	0		兼65	
専攻 教育 科目	基礎造形（平面）	2前①～②	2					○		1					兼1	オムニバス
	基礎造形（立体）	2後③～④	2					○		1						
	芸術情報設計概論	1前①～②	2					○		4	7		4			オムニバス ※演習
	コンピュータ概論	1後③～④	2					○			1					
	プログラミング基礎	2前①～②	2					○			1					※演習
	芸術情報総合演習	3後③～④	2					○		4	7		4			オムニバス
	卒業研究 I	4前①～②・後③～ ④	2					○		4	7		4			
	卒業研究 II	4前①～②・後③～ ④	4					○		4	7		4			
	知覚心理学	2前①～②		2				○			3		1		兼1	オムニバス
	主観評価法	3前①～②		2				○			3					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	デザインストラテジー基礎	4前①～②		2		○			2	2					オムニバス ※演習
	インターンシップ（学部）	3・4通		2			○					2			
	設計多変量解析	2後③～④		2		○						1			
	応用時系列解析	3後③～④		2		○						1			
	芸術学概論	2前①～②		2		○				1				兼1	オムニバス 集中
	文化比較論	2前①～②		2		○						2			オムニバス
	演劇文化論	2後③～④		2		○				1					
	芸術文化環境論	2前①～②		2		○			1					兼2	オムニバス
	造形論	3後③～④		2		○				1					※演習
	知的財産論	3前①～②		2		○						1			
	芸術文化施設論	3後③～④		2		○			1			2		兼1	オムニバス
	色彩学	3後③～④		2		○				1					
	画像論	3後③～④		2		○				1					
	比較映画・演劇文化演習	3前①～②		2		○				1		2		兼1	オムニバス ※演習
	フィールドワーク演習	3後③～④		2		○			1						※演習
	デジタルコンテンツデザイン	2前①～②		2		○			1						※演習
	コンピュータグラフィックス	2前①～②		2		○			1						
	コンテンツ環境デザイン	2後③～④		2		○				1					
	インタラクションデザイン	2後③～④		2		○						1		兼1	オムニバス
	コンピュータグラフィックス演習	2後③～④		2			○		1						
	デジタルコンテンツデザイン演習	2後③～④		2			○		1					兼1	オムニバス
	インタラクティブインターフェース演習	3前①～②		2			○			1				兼1	オムニバス
	webコンテンツデザイン演習	3後③～④		2			○			1					
	バーチャルリアリティ	3前①～②		2		○				1					
	ソフトウェアアーキテクチャ	2後③～④		2		○			1						
	メディア情報処理	3前①		2		○			1						
	人工生命デザイン	3前①		2		○				1				兼1	オムニバス
	知覚情報処理工学	3後③～④		2		○				1					
	統計・データ科学	3前		2		○			1						
	機械学習	3後		2		○			1						
	メディアアート表現ワークショップ	2後③～④		2			○			1				兼3	オムニバス
	芸術情報先端特別講義	2後③～④		2		○			1					兼3	オムニバス
	芸術情報プロジェクト演習	3前①～②		2			○		4	7		4			オムニバス
	小計（43科目）	-	18	70	0	-	-	-	6	14	0	6		兼16	
学部+	芸術工学特別演習 1	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
内 自由 科目	芸術工学特別演習 2	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 3	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 4	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 5	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 6	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 7	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 8	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 9	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 10	1・2・3・4前①～② ・後③～④		1		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 11	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 12	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 13	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 14	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 15	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 16	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 17	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 18	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 19	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	芸術工学特別演習 20	1・2・3・4前①～② ・後③～④		2		○			1						※演習
	小計 (20科目)		-	0	30	0	-			1	0	0	0	0	
合計 (390科目)		-	42.5	543	0	-			8	25	1	8	0	兼390	

学位又は称号	学士（芸術工学） 学士（学術）	学位又は学科の分野	工学関係、文学関係、理学関係、 社会学・社会福祉学関係、法学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
基幹教育科目から48単位以上、専攻教育科目から80単位以上を修得し、128単位以上修得すること				
①基幹教育科目（48単位以上修得）			1学年の学期区分	4学期
(a)基幹教育セミナー（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）基幹教育セミナー				
(b)課題協学科目（2.5単位修得） <必修科目> （2.5単位科目）課題協学科目				
(c)言語文化科目（12単位修得） 第1外国語（英語）（8単位修得） 第2外国語（1カ国語選択）（4単位修得）			1学期の授業期間	8週
(d)文系ディシプリン科目（4単位修得） <選択必修科目> （2単位科目） 哲学・思想入門、社会思想史、先史学入門、歴史学入門、文学・言語学入門、 芸術学入門、文化人類学入門、地理学入門、社会学入門、心理学入門、 法学入門、政治学入門、経済学入門、経済史入門、 The Law and Politics of International Society （1単位科目） 現代教育学入門、教育基礎学入門				
(e)理系ディシプリン科目（17.5単位修得） <必修科目>（13単位修得） （2単位科目） デザイン史 （1.5単位科目） 微分積分学・同演習A、微分積分学・同演習B、線形代数学・同演習A、 線形代数学・同演習B、情報科学、数理統計学 （1単位科目） 自然科学総合実験（基礎）、自然科学総合実験（発展） <選択必修科目>（4.5単位取得） （1.5単位科目） 基幹物理学I A、基幹物理学I B、基礎化学熱力学、基礎生物学概要、 集団生物学 （1単位科目） 基幹物理学I A演習、基幹物理学I B演習			1時限の授業時間	90分
(f)サイバーセキュリティ科目（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）サイバーセキュリティ基礎論				
(g)健康・スポーツ科目（1単位修得） <必修科目> （1単位科目）健康・スポーツ科学演習				
(h)総合科目（1.5単位修得）				
(i)高年次基幹教育科目（2単位修得）				
(j)その他（5.5単位修得） 基幹教育科目の授業科目のうち、最低修得単位数を超えて修得する授業科目、 専攻教育科目（在籍学科の科目を除く）のうち、最低修得単位数を超えて 修得する授業科目又は他学部の専攻教育科目から選択				
②専攻教育科目（80単位以上修得） <必修科目>（18単位修得） （4単位科目） 卒業研究Ⅱ （2単位科目） 基礎造形（平面）、基礎造形（立体）、芸術情報設計概論、コンピュータ概論、 プログラミング基礎、芸術情報総合演習、卒業研究Ⅰ				
<選択必修科目>（20単位修得） （2単位科目） 芸術学概論、文化比較論、演劇文化論、芸術文化環境論、造形論、知的財産論、 芸術文化施設論、デジタルコンテンツデザイン、コンピュータグラフィックス、 コンテンツ環境デザイン、インタラクションデザイン、バーチャルリアリティ、 ソフトウェアアーキテクチャ、メディア情報処理、人工生命デザイン、 知覚情報処理工学、統計・データ科学、機械学習				
<学部内自由科目>（6単位修得） 芸術工学特別演習1～20の他、本学科又は芸術工学部の他学科の専攻教育科目 のうち、本学科の専攻教育科目の必修単位として修得する科目以外の授業科目 からも選択可能				

授 業 科 目 の 概 要					
(芸術工学部芸術工学科)					
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考	
基幹教育科目	基幹教育セミナー	基幹教育セミナー	科学技術が急速に進歩しグローバル化が進展する現代では、一人ひとりが変化や多様性と“しなやか”に付き合い、柔軟に適応していくことが求められる。このことを可能にするのは、私たちの生涯にわたる自律的な成長を支える「学びの基幹」である。すなわち、社会の諸課題や自己について多様な観点からの知識・情報を受けとめて批判的に考察しつつ、自ら問題を発見し、絶えず主体的に学び続ける態度である。本授業は、異なる専門分野を目指す学生および教員との対話や、それを踏まえた自己省察を通じて、一人ひとりが「学びの基幹」を育むことを目的とする。		
基幹教育科目	課題協学科目	課題協学科目	この科目では文理混合した学生によってクラスを編成し、クラス毎にテーマ(教室テーマ)を設定する。専門分野の異なる3名の教員が一つのクラスを担当し、各々異なった視点から、教室テーマに沿い、かつ、グループ学習に適した題材(協学課題)を提供する。授業では学生が協学課題を考えるために必要となる講義を実施し、講義形式の学びだけでなく、個人演習による自らの学び、そしてグループ作業等による学生同士の学びを重視する。グループ作業や個人演習を通して、幅広い視野をもって問題を発見する姿勢、問題の解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養うことを目的とする。		
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語A・リセプション	英語による受信能力を高めるためのリーディング及びリスニング活動を中心とする科目である。英語の学術文献や講義の内容を正確に理解するための基本的なスキルを養成する。さらに、それらを批判的に検討する態度や能力を身につける。そのために、情報を受信した後、その情報について学生同士で検証・討論するなど、リーディングとリスニングを思考・分析活動と組み合わせ、英語受信能力の基礎を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語A・プロダクション	英語による発信能力を高めるためのライティング及びスピーキング活動を中心とする科目である。パラグラフやエッセイの構造、主張とそれを支える根拠の提示の仕方を学習し、読み手に伝わる論理的な英文作成方法の基礎を養成する。その基礎的理解に基づき、自分で設定した課題に沿ってリサーチを行い、エッセイを作成する。学生同士で書いたものを読み合い、批評、提案を行ったり、書いたものを口頭発表するなど、ライティングに重心を置きつつ、スピーキングの活動を組み合わせ、英語発信能力の基礎を育成する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語B・インテグレート	学術英語A・リセプション、学術英語A・プロダクションでの学習成果をもとに、複数技能を組み合わせる活動を行う科目である。様々なジャンルのテキストを読み、また、講義やニュースなどを聞き、その内容について要約や意見を英文で書いたり、英語でディスカッションを行うことなどが考えられる。学部、学科の特性等に応じて、演習対象の技能や組み合わせ、教科書などを教員が選択するが、個人やグループによる口頭発表など、プロダクションの要素を取り込む。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語AB・再履修	学術英語の基礎を復習するための科目である。「学術英語A・リセプション」、「学術英語A・プロダクション」及び「学術英語B・インテグレート」の単位取得ができなかった学生は、この科目によって再履修を行う。学習はウェブベースで行い、読解、聴解、文法その他の3コースに取り組み、大学における英語学習の最低線のレベルとして必要な基礎的英語のスキルを身につける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	学術英語A・CALL	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目(基礎)である。1年前期半年を通じて学習を継続し、英語による「受信・発信能力」の基盤を強化する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語B・CALL	コンピュータ・ネットワークを用いて、リーディング、リスニング、文法等の演習に取り組む自律学習型科目（上級）である。1年後期半年を通じて学習を継続し、英語による受信・発信能力の基盤をさらに強化する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語C・テーマベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。コンテンツを重視したテーマ別科目であり、時事英語、異文化理解、科学英語、文芸、言語などのテーマを扱う。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 学術英語C・スキルベース	将来の学術研究での応用へとつながる高度な一般学術目的英語能力の獲得を目指す科目である。個別のスキルを重視したスキル別科目であり、30名程度の少人数クラスで行う。ディベート、ディスカッション、オーラル・コミュニケーション、プレゼンテーション、ライティングなどのスキルを養成するクラスを開講する。クォーター科目として開講し、能動学習を含め授業時間内外で45時間の学習を行う。また、特に高いレベルの能力を持つ学生向けのクラスや留学準備に資するクラスも設ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 専門英語	学術英語に関連する課外活動に参加することにより単位が認定される科目である。ケンブリッジ大学英語・学術研修、ディベート集中講義等の内容に基づいて単位の認定を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 ドイツ語Ⅰ	アルファベットの発音、綴り字の読み方の第一歩から始め、基本的な文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」、初歩的な運用能力を身につけることを目標とする。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学習し、その理解を深める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 ドイツ語Ⅱ	ドイツ語Ⅰで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。リスニングや会話の練習を通して、ドイツ語を「読み・書き・話し・聞く」、やや高度な運用能力を身につけることを目標とする。ドイツ語圏の社会や文化についても引き続き学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 ドイツ語Ⅲ	ドイツ語Ⅰ、ドイツ語Ⅱで培った基礎知識、初歩的な運用能力をもとに、さらに一歩進んだ文法事項及び文型を学ぶ。さまざまな方法や教材を用いてドイツ語の総合的な運用能力を高める。教材の中にはドイツ語圏の社会や文化をテーマにしたものも含む。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目 ドイツ語プラクティクムⅠ	基礎的な項目をもう一度確認しながら知識を定着させ、ドイツ語の基礎的な能力を身につけることを目指す。ドイツ語Ⅰを学習した学生が、さらに高度なドイツ語を学ぶことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	ドイツ語プラクティクムⅡ	ドイツ語Ⅰ、ドイツ語Ⅱで学習した基礎的なドイツ語運用能力を確実なものにするために、さまざまな方法や教材でドイツ語の運用能力を高めることを目的とする。ドイツ語を「聞く」、「話す」、「書く」、「読む」活動を多く取り入れ、ドイツ語の運用能力を確実にするを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	フランス語Ⅰ	基礎的な日常的フランス語を「読み、聞き、話し、書く」ための能力の習得を目指す。フランス語の音体系を理解し、発音ならびに綴り字の読み方に習熟すると同時に、基礎的な単文の構成と文意の理解、基礎的な対話の理解を行えることを目標とする。動詞としては、直説法現在、近接未来、近接過去、命令法そして複合過去を学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、文法体系の学習を完了し、比較的複雑な表現で「読む・話す・聞く・書く」ための能力の習得を目指す。また、正しい発音方法を身につけて語彙や表現力の幅を広げ、さらにフランス語圏の社会や文化、歴史についての知識を深める。動詞としては、フランス語Ⅰで学習した時制に加えて、直説法の他の時制を学習する。条件法と接続法等も学ぶ。全体として、フランス語の文構成についての基本的な学習を一通り終了し、日常使用される会話表現をおおむね理解し運用することを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	フランス語Ⅲ	フランス語Ⅰ・フランス語Ⅱで修得したフランス語の基礎的な運用能力をさらに発展させて、比較的高度な作文能力、幅広い読解能力、実用的会話能力を身につけ、総合的なコミュニケーション能力を養成する。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	中国語Ⅰ	中国語の発音を習得することを目指す。この段階での学習のポイントは、声調とピンイン（ローマ字による中国語表記法）であり、あわせて基本的な表現と文法を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	中国語Ⅱ	中国語の基本的な文法を学び、平易な中国語を聞き、話す能力を身に付ける。中国語Ⅰに引き続き、発音練習を重点的に学ぶ。中国語の基本文法を学習すると同時に、簡単な会話ができることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	中国語Ⅲ	初級中国語を習得した者を対象とし、すでに学んできた発音、語彙、文法を復習しながら、中級レベルの表現や文法を覚え、特に実用会話能力を身につけることを目指す。「中国語Ⅰ、Ⅱ」で学んだことをふまえて、具体的な場面で、中国語を「読み・書き・話し・聞く」ことができるように、語彙や表現を増やしていく。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	中国語実践Ⅰ	「中国語Ⅱ」と同等のレベルで、とくに「話す・聞く」ことに重点をおきながら、基本文法の定着をはかる。この授業では中国語のコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。初級レベルの語彙、文法事項を学ぶとともに、四技能を総合的に高めることにより、高度なコミュニケーション能力を身につける。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	中国語実践Ⅱ	「中国語Ⅲ」と同等のレベルで、「読み・書き・話し・聞く」の4技能の向上、とりわけ「話し・聞く」コミュニケーション力の習得を目指す。初級段階で学んできた語彙、文法を再確認しながら、新しい語彙を増やし、さまざまな中国語の言い回しを学び、中国語応用能力を高めていく。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	ロシア語Ⅰ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語入門の授業であり、ロシア語の文字の読み方・書き方からはじめて、文法の基礎を学ぶ。また、簡単な会話の表現を勉強し、音声教材を用いた聞き取り、発音練習を繰り返す。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	ロシア語Ⅱ	ロシア語Ⅰに引き続いてロシア語の基礎的な文法を学ぶとともに、読解・作文・会話の基礎的な力を身につける。基本的な文法を修得するとともに、より本格的な会話表現の聞き取り、発音練習を行う。また簡単なテキストの読解を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	ロシア語Ⅲ	初級文法の学習を終えた学生を対象とし、本格的なテキストの読解、音声教材の聴きとり、会話表現の口頭練習、ロシア語作文などに取り組むことで、ロシア語の総合的な運用能力（「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」）を高め、同時により高度な文法事項を修得することを旨とする。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	ロシア語フォーラム	ロシア語と不可分の関係にあるロシアの文化についての理解を深めるために、ロシアの歴史、宗教、思想、文学、芸術、音楽、映画など、ロシア文化の持つさまざまな側面を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	韓国語Ⅰ	この授業は、文字とその発音、語彙などを覚えて、韓国語の文の構造を学び、入門段階の基礎を固める。それを踏まえて、韓国語で簡単なコミュニケーションが出来ることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	韓国語Ⅱ	韓国語Ⅰで培った韓国語の基礎知識を利用して様々な文型を学習しながら基礎会話をマスターする。より高度な運用能力を身につけるために多様な文型を集中的に学習する。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化基礎科目	韓国語Ⅲ	韓国語ⅠとⅡで培った初級韓国語能力をより高度な言語レベルまで引き上げることを目標とする。具体的には「①使用頻度の高い慣用句だけでなく単語のコロケーションについても理解できる、②依頼や誘い、指示・命令、依頼や誘いの受諾や拒否、許可の授受などを自由自在に表現できる」を目標とする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	韓国語フォーラム	本講義の目的は、〈ことば〉と〈文化〉を核とし、隣国たる〈韓国朝鮮〉に対する受講生の理解を涵養するところにある。社会言語学や比較文化論等の最新の知見に基づき、〈韓国朝鮮〉の言語文化に深く肉迫する。平均的な大学生にとってあまり馴染みのなさそうな伝統文化などを講ずる形ではなく、少しでも〈韓国朝鮮〉に触れたことのある者なら抱きそうな、身近で素朴な疑問を、〈日本〉と較べながら共に考え、〈韓国朝鮮〉についての知識や理解深めることを目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅰ	本科目ではスペイン語の基本的文法の習得を目指す。この科目を履修することにより、①スペイン語を正しく発音する、②直説法現在形を用いながら簡単な自己紹介をする、③簡単なスペイン語文を辞書を頼りに読むことができる能力を身に付ける。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅱ	本科目は「文法」のクラスと「スペイン語表現」のクラスに分かれ、「文法」クラスでは、「スペイン語Ⅰ」で学んだ内容を発展させたスペイン語のより深い文法知識を学び、「スペイン語表現」クラスでは「スペイン語Ⅰ」で学習した内容を応用したスペイン語の実践的な表現を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語Ⅲ	本科目には「作文」「講読」「会話」の3種類のクラスに分かれ、「作文」のクラスでは、「スペイン語Ⅰ・Ⅱ」で学習した文法知識を利用してスペイン語による自己紹介文、メール等が作成できるようになることを目指す。「講読」のクラスでは、「スペイン語Ⅰ・Ⅱ」で学習した文法知識を利用してスペイン語圏の社会・文化について書かれたテキスト等を教材にしなが、スペイン語を正確に読む能力を身につけることを目指す。また、「会話」のクラスではスペイン語を母語とする教員の指導のもと、スペイン語の実践能力の向上を目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	スペイン語フォーラム	「スペイン語Ⅰ・Ⅱ」の学習内容と併せて、広くスペイン語圏の文化・社会を多角的に学習する。授業の前半ではスペイン語基礎動詞のコロケーションを学び語彙を増やし、自然な表現力の習得を目指す。その後、スペイン諸都市の地理・文化を学ぶ。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅱ	週二回の授業体制で、中級後期の文法を学び、正確に運用する練習をする。日常的な話題から、抽象語彙を使った社会的な話題まで、自分の考えを表現したり、ディスカッションしたりする。また、一般的な内容について書かれた文章を読み、文法や語彙を正確に理解した上で、内容を要約したり、短い文章にまとめる練習を行う。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅲ	中級の文法・語彙の学習を終了した人を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業では学習してきた中級レベルの文法や語彙をさまざまなトピックに合わせて実際の場面で使えるように練習する。自分の意見を論理的に述べたり、物事を詳しく説明したりする練習や、中上級の語彙力の強化、読みとった内容を的確に要約する練習などを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語Ⅳ	日本語Ⅲ終了程度のレベルの学習者を対象に、週二回の体制で授業を行う。授業ではテーマやスタイルの違うさまざまな文章を扱い、内容を理解した上でディスカッションしたり、論理的に意見を述べ、自分の主張を的確にまとめる練習をする。また、レポート形式の文章で使われる表現や構成を理解し、将来のレポート作成に備える。これらを通して、バランスの取れた4技能（聞く・話す・読む・書く）の力をつけ、大学の講義がスムーズに受講できることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語V	上級レベルの学習を半ばまで進めている学習者を対象とする。週二回の授業体制で、読解を中心に、高度な文法や語彙を学習していく。様々なトピックを基に、討議をしたり、作文をしたりすることによって大学レベルの日本語の4技能（聞く・話す・読む・書く）の力を磨いていく。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語VI	日本語V終了程度のレベルの学習者を対象とする。週二回の授業体制で、幅広い話題についてより抽象度の高い、あるいは専門性の増した文章を正確に読む練習を行う。そして、理解した内容の要点をまとめたり、それに対して客観的かつ論理的に自分の意見を主張する（書く・話す）練習を行うことでより高度な日本語運用力を身につけることを目指す。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化基礎科目	日本語VII	日本語上級レベルの学習者を対象とし、週二回の体制で授業を行う。授業では、レポート、研究発表、学術論文などの論理的な文章を書く際に注意すべき点を学ぶ。また、さまざまな短い論述文の読解・要約を通して、目的や伝達手段などに合った適切な文章が書けるように練習する。これらを通して、日本語で論理的な文章を書くための総合力の向上を図る。最終的に2500字程度の小論文を書き上げる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化自由選択科目	入門ドイツ語 I	第3外国語等として初めてドイツ語を学習する人を対象にした科目であり、発音および基本的な文法、易しい文章を学ぶ。ドイツ語を第1、第2外国語として選択していない全学生を対象とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化自由選択科目	入門ドイツ語 II	入門ドイツ語 I の内容をさらに発展させ、引き続きドイツ語の基礎を学習する。原則として入門ドイツ語 I をすでに受講していることが履修の条件となる。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化自由選択科目	入門中国語 I	初めて中国語を学習する人を対象にした科目である。発音および基本的な文法を初歩から学ぶ。中国語を第1、第2外国語として選択していない全学生を対象とする。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化自由選択科目	入門中国語 II	「入門中国語 I」の内容をさらに発展させ、引き続き中国語の基礎を学習する。中国語の発音とピンインをすでに学習しているものとして授業を進める。	
基幹教育科目	言語文化科目	言語文化自由選択科目	中国語オーラル・リスニング演習 I	この授業はスピーキングとリスニングの力を伸ばすことを目指す。中級レベルの文法や語彙を学び、「読む、書く、聞く、話す」能力を総合的に高め、特に「聞く、話す」ことに重点を置き、多様な口頭・聴解練習を通じて、中国語コミュニケーション能力を養っていく。授業を通して、中国の文化・習慣、現在の社会事情への理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	中国語オーラル・リスニング演習Ⅱ	この授業はリスニングとスピーキングの能力を伸ばすことを目指す。中級レベルの語彙、文法事項を学ぶとともに、4技能を総合的に高め、特に「聞くこと」と「話すこと」を集中的に練習することにより、高度なコミュニケーション能力を身につける。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	中国語表現・読解演習Ⅱ	この科目では、一年程度の中国語既習者から、中国語を数年間学習している中・上級者までを対象に、初・中級の語彙と文法事項を再確認しながら、確かな中国語の読解力と表現力を身につけることを目標とする。授業では様々な話題について、実際に話したり聞いたりする練習も行う。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	入門ロシア語Ⅰ	ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象としたロシア語初級の授業である。ロシア語の初級文法を学ぶとともに、読解・作文・会話の基礎的な力を身につける。やさしい教科書を用いて、ロシア語の文字と発音、文法の基本、簡単な会話表現を学ぶ。ロシア語を第1、第2外国語として選択していないことが履修条件となる。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	入門ロシア語Ⅱ	「入門ロシア語Ⅰ」に引き続いて、ロシア語の初級文法と簡単な会話表現を学ぶ。「入門ロシア語Ⅰ」を履修済であることが履修条件となる。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	入門韓国語Ⅰ	この科目では、入門者を対象にして、韓国語の基礎をマスターすることを目指す。正確な発音と基本的な文法を学ぶ。原則として韓国語を初めて学習する学生を対象とする。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	入門韓国語Ⅱ	入門韓国語Ⅰの内容をさらに発展させた科目であり、原則として入門韓国語Ⅰをすでに受講していることが履修の条件となる。韓国語＝朝鮮語を半年ほど学んだ者を対象に、韓国語の基礎を講義する。日本語と韓国語の間を対照言語学的な視座から自由自在に遊弋し、総合的な韓国語力の涵養を企図する。言語のみならず、可能な限り韓国社会・文化についても言及する。基礎的な韓国語の力量の獲得に留まらず、なぜ言語を学ぶのか、言語とは何か、言語学習にとって文化とは何かなどといった、根源的な問いを考える契機を与えることも本講義の目標とする。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	韓国語表現・読解演習Ⅰ	韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した学生を対象とする。多様な韓国語表現を学習し、様々なジャンルのテキストを用いて内容を正確に理解することを目指す。中級（以上）の韓国語力と非母語学習の拠り所である十分な母語（日本語）力、基本的知性、そして強い学習意欲が求められる。	
基幹教育科目	言語文化科目 言語文化自由選択科目	韓国語表現・読解演習Ⅱ	上級レベルの韓国語力を有する非母語話者を対象とし、多様なジャンル・文体の韓国語テキストの講読を通して、韓国語の読解力、語彙力、表現力の涵養を企図する。日本語など、他の言語とも対照しつつ、韓国語のみならず、日本語や言語一般への関心をも喚起するような授業とする。また、方言や言語行動など、韓国朝鮮の様々な言語文化にも肉迫する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	先史学入門	この科目では、ヒト祖先の起源から現在の人類までの歴史をさかのぼり、ヒト集団内の遺伝的な多様性を進化的視点で考察する。(1)進化論の進展、(2)細胞生物学とそれに関連する変異性、(3)小進化のしくみ、(4)ヒト集団内・間の違いとその多様性を生んだ環境要因について探求する。そして最後に、(5)ヒトの多様性を表すには不十分で生物学的には無効な「人種」概念が構築された背景やその問題点について検討する。	
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	歴史学入門	この授業では、歴史学的思考力を身に付けることを目的とする。具体的なテーマは、城割の歴史である。城割とは城を壊す行為をいう。戦国時代から戦争のない近世社会に移行する際に、城割は重要な政策だった。城割には作法があり、その作法も時代とともに推移し、政治的・社会的意義も変化した。その歴史を読み解くことで、どのようにして200年以上も国内戦争をほとんど経験しない平和な近世社会を成立せしめたのか、という近世社会成立の本質について考察する。	
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	文学・言語学入門	日本近代文学を研究する上で学習しておくべき基本的な知識と方法を身に付ける。検討事項は、読むという行為、読みの審級、読みの方法、受容の様相、読解の具体例になる。上記について日本近代文学の短編小説を用いて検討する。	
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	芸術学入門	この授業は、古今東西さまざまな時代と地域に生まれ、育まれた芸術を対象に、九州大学に所属する教員が、それぞれの専門領域に基づいて、その研究成果を示しつつ、その鑑賞と理解、学問の対象としての意義について講義する。芸術というどこか趣味的な世界を連想しがちであるが、人類文化の豊かな果実としての芸術の世界を、人がどのように生み出し、また享受してきたのかについて、深いところで考察していく。芸術は人間の営みにとって不可欠のものであり、優れた芸術に心を動かす、その意味を深く考えていくことは、さまざまな時代と地域の価値観を理解し、多様な学問世界へと関心を広げていくための基礎を得ることになる。	
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	地理学入門	人類は、複雑な生業技術の開発を通じて、世界の多様な自然環境に対応し、独自の地域文化を発達させてきた。また、それと同時に各地域で営まれる経済、政治、文化、社会の諸活動は、交通・通信技術の発達など、世界規模に拡大した空間関係の動態のなかに組み込まれてきた。地理学とは、以上のような人間集団と自然環境、地域、空間、場所のかかわりに着目して、地球上の諸現象を探究する学問といえる。本講義では、さまざまな地域研究を事例としながら、地理学の基本概念や視点、方法を紹介し、地球上の人間と社会の多様性と普遍性を理解する方法や、人間と自然との関わりを理解する方法を学ぶ。	
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	社会学入門	社会学(sociology)は、社会の(socio-)論理(-logy)を解き明かそうとする学問である。その研究主題は、具体的な社会集団や社会的場面であることもあれば、様々な社会現象であることもある。あるいは、社会を分析する方法や視角であることもある。家族、近隣コミュニティ、農村、都市、階層、階級、市民社会、近代化、情報化、管理社会、格差社会、大衆文化・メディア、逸脱、福祉、社会統計・社会調査、数理モデル構築、権力論、社会哲学的考察など、多様な課題が研究主題となる。人が複数集まる時、そこには個人の思惑を超えた、“社会”の動きが発生する。講義では、担当教員が取り上げた主題において、どのような社会の論理(法則)が働いているのかを考えて行くことによって、社会学的なものの方を見方を学んで行く。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	心理学入門	この授業では、私たちの日常の行為や思考に関わる心理学の研究について、担当教員がそれぞれの専門領域に基づいて講義をすすめてゆく。誰しも人の心がどのように働くかについては関心を有するであろう。これを単なる趣味的な段階からとき放ち、本格的な研究として開花させてゆくために、順序だてた講義を行う。心理学の成りたちを、その根源にたち返って考えることで、文系・理系の区別を超えた、人間とは何かを考え続けてゆく力を身に付ける。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	現代教育学入門	社会科学としての教育学は今日、多様な広がりや深化を見せてきている。それぞれに専門化してきた諸領域は、その射程によって実践から理論までを大きく包み込み、目的や対象を多彩にずらしながら学問研究を多様化させてきたと言える。いまやその広がりや学際的な人間諸科学の様相をなしていると言えよう。本講義では、このような今日の教育学が研究対象とする社会システムや制度、メディア、地域、思想、文化、歴史などの多様なテーマを取り上げることで、その広がりや深化を学問の言葉と視線をもって経験することを目指す。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	教育基礎学入門	教育は真空のなかで行われる無機質な営為ではない。それは歴史的・文化的・社会的空間で営まれると同時に、極めて複雑で歴史的な存在としての「人間」の生のなかに深く織り込まれ、かつ、「人間」そのものを歴史的・文化的・社会的存在として形成していくものである。この意味で教育学とは、様々に生起する教育という事象を巡りながら、「人間とは何か」という問いそのものを陰に陽に問い続ける学問だと言えるだろう。本講義では、こうした教育と教育学とを基礎的視点から描き出すことを目指す。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	法学入門	法学の基本的な能力を身に付ける。(1)法学の基礎概念、法的思考方法、法解釈の基本技能その他法学の基本的内容の理解。(2)法学部の基本科目の教科書を自学で読み進めることができるようになる。(3)法解釈の基本技能を活用して、法的な紛争事例に関して適切な解釈を行える。(4)事前課題等に対して、的確に、かつ積極的に答えることができる。不明事項について自身で一定程度調べたのちなお不明な事項を積極的に問うことができる。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	政治学入門	本講義では、政治学や政治史、国際政治学、国際関係論を学ぶ上で基礎となる基本的な概念や問題を、主に19世紀以降のアジアが直面した諸問題を世界の他地域の事例と比較検討することを通じて学ぶ。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済学入門	私たちは、衣食住のすべてを自分の力だけで満たすことはできない。しかし、市場を通じた交換によって、必要なものを国内ばかりか外国からも手に入れることができる。この一見当たり前に見える現象を効率的に行う市場メカニズムとは、どのような原理で動いているのか、また、それを経済社会全体としてどのように把握し理解すればよいかなど、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学の基本概念を学びながら経済学の大枠について理解を深める。	
基幹教育科目	文系ディシプリン科目	経済史入門	21世紀となった現在の世界は、20世紀後半に見られた東西対立といった問題から、それを完全には解決しないまま、南北問題という新たな課題に直面するようになった。豊かな国や地域がある一方で、貧しいまま発展から取り残されたような国や地域がある。しかもその「南北格差」は、今や一つの先進国の中にも持ち込まれるようになってきている。そのことも無視することはできない。なぜこのようなことが起こったのだろうか。実は答えは簡単ではない。経済史入門というこの授業では、西洋経済史を中心とした講義と、日本経済史を中心とした講義とに分けて開講されるが、いずれも、「歴史＝暗記科目」という高校までの勉強で作りに上げられたかも知れない固定観念を相対化することを目標としつつ、我々が抱える様々な現代的問題を、経済の歴史的歩みを辿ることで考察していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	文系 ディシプリン 科目	The Law and Politics of International Society	環境問題、消費者保護問題、欧州連合、子の奪取、国際結婚、国際犯罪、人道的干渉、核兵器問題など、グローバル社会の様々な問題を法及び政治の観点から英語で学ぶ。 【キーワード】 グローバル社会、国際社会、法と政治	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	社会と数理科学	数学的な考え方と素養を現実社会の話題にも触れながら学ぶ。演習を通じて実際に応用方法にも触れる。 【キーワード】 グラフ・組み合わせ、確率の考え方、最適化問題、統計学初歩、現象数理初歩（微分方程式、初等整数論）、行列初歩、数学史、力学史など	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	微分積分学	高校で学んだ微積分学はその初歩段階であり、大学における様々な学問の基礎としては不十分である。この講義では、高校段階では習熟していない事柄を中心にして、大学で学ぶ学問の基礎となる微分積分学、すなわち、1変数および2変数の微分積分学の基礎事項を学ぶ。 【キーワード】 極限とその性質（数列の極限、等比級数、関数の極限）、微分の定義と計算、積分法（微分積分学の基本定理、部分積分、置換積分、有理・無理関数の積分）、2変数の偏微分、2重積分と累次積分	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	微分積分学・同演習A	微分積分学・同演習AとBを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学・同演習Aでは、主に1変数関数の微積分を扱う。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型）	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	微分積分学・同演習B	微分積分学・同演習AとBを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に理解し使えるようになる。 微分積分学・同演習Bでは、多変数関数（主に2変数関数）の微分積分学を扱う。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数関数のテイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理とその応用、多重積分の定義、多重積分の計算（累次積分、変数変換）	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	微分積分学・同演習I	微分積分学・同演習I、II、IIIを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に深く理解し使えるようになる。 微分積分学・同演習Iでは主に1変数関数の微積分学を体系的に学ぶ。 【キーワード】 極限操作（数列、級数）、関数と連続性、微分の定義、連鎖律、高階導関数、テイラー展開、積分の定義と微分積分学の基本定理、積分の計算（部分積分、変数変換、広義積分）、初等的常微分方程式（変数分離型）	
基幹教育科目	理系 ディシプリン 科目	微分積分学・同演習II	微分積分学・同演習I、II、IIIを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に深く理解し使えるようになる。 微分積分学・同演習IIでは主に多変数関数の微分と関連する話題を学ぶ。 【キーワード】 多変数関数の連続性と微分（偏微分、全微分、連鎖律）、多変数合成関数の微分法、多変数関数テイラー展開と極値問題、陰関数定理、逆関数定理と応用	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	微分積分学・同演習Ⅲ	微分積分学・同演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して学習することにより、1変数および多変数の関数の微積分学を体系的に深く理解し使えるようになる。 微分積分学・同演習Ⅲでは主に多変数関数の重積分と関連する話題を学ぶ。 【キーワード】 多重積分の定義と性質、多重積分の累次積分による計算法、多重積分の変数変換、多重積分の応用（体積、曲面積）、線積分と面積分、グリーンの定理、ガウスの定理	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数	文系、理系を問わず、データ処理、数値計算、線形最適化問題など現実社会で有用な手法の基礎には、線形代数の考え方が必須となる。本講義では、ベクトルと行列に関する基本的な性質を学ぶ。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、連立一次方程式と行列の演算、行列と線形写像、逆行列、行列式、固有値と固有ベクトル	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学・同演習A	線形代数学・同演習AとBを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学・同演習Aでは、主に行列、行列式の計算手法、およびベクトルの独立・従属などの概念を学習する。 【キーワード】 3次元空間、平面の方程式、複素平面、行列と線形写像（具体例による）、連立一次方程式と行列の演算（掃き出し法、基本変形）、ベクトルの一次独立と一次従属、行列式、逆行列・余因子行列	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	線形代数学・同演習B	線形代数学・同演習AとBを通して学ぶことにより、線形代数の基礎概念を体系的に学修する。 線形代数学・同演習Bでは、主に線形空間、線形写像の概念を修得する。また、行列の対角化が使えるようになる。 【キーワード】 線形空間、線形部分空間の次元と基底 線形写像の定義、性質、核と像 固有値と固有ベクトル 行列の対角化 内積をもつベクトル空間、正規直交基底 エルミート行列（実対称行列）の対角化	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ⅠA	将来、数学のより高度な知識とより深い理解を必要とする学生を対象に、線形代数・微積分の演習を通して、数学の基礎力・応用力をつけることをめざす。 【キーワード】 集合と論理、数列・級数の収束、関数の連続、微分法及びその応用（テーラー展開、極値等）、行列に関する基本事項、行列式の基本事項、各種行列式の計算	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習ⅠB	将来、数学のより高度な知識とより深い理解を必要とする学生を対象に、線形代数・微積分の演習を通して、数学の基礎力・応用力をつけることを目指す。 【キーワード】 積分法とその応用、関数列とその極限、多変数の微分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の具体例による理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、行列の対角化等）	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数学演習Ⅱ	将来必要とされる高度な数学知識と深い理解の基礎となる能力を、微積分・線形代数の演習を通じて修得する。 内容は履修するクラスの習熟度、必要度に応じて調整する。 【キーワード】 （以下は一例で、必要に応じて取捨選択、追加する） 集合と論理、極限の厳密な取り扱い（epsilon-delta論法）、数列・級数の収束、関数列とその極限、1変数及び多変数関数の微分法及びその応用、1変数及び多変数関数の積分法とその応用、線形性（線形空間、線形写像）の（具体例を用いた）深い理解、行列の標準化（固有値と固有ベクトル、固有空間、対角化）	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	数理統計学	統計的推測の基本的考え方を身に付け、データ構造を解析する手法について学修する。 【キーワード】 確率（離散型確率変数、連続型確率変数）、モデル（母集団、母平均、母分散）、統計的推定（標本平均、標本分散、点推定、区間推定、最尤推定）、統計的仮説検定（平均の検定、分散の検定、比率の検定）、分散分析、回帰分析	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの物理学A	主に文系学生を対象とし、身の回りの日常的な現象を題材に、物理学の基本的な概念や法則を学ぶ。また、これらの基本的な概念や法則が、多様な自然現象を統一的に説明できることを実感し、物理学的な見方を学ぶ。主に力学、気体、熱力学を扱う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学概論A	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、物理学概論A、Bの両者を一緒に選択することを強く推奨する。 物理学概論A演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 基幹物理学I Aの内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な力学を理解する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学概論B	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、物理学概論A、Bの両者を一緒に選択することを強く推奨する。 物理学概論B演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 基幹物理学I Bの内容を高校物理未履修者あるいは文系学生にも理解できるように設けたもの。電磁気学と熱力学を初めて学ぶ際に必要な初歩的な知識や数学的準備などの基本的なことから始め、段階的に知識・概念や方法を獲得し、初等的な電磁気学と熱力学を理解する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学概論A演習	物理学概論Aに対応した演習科目。 簡単な現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解くのに必要な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則も活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学概論B演習	物理学概論Bに対応した演習科目。 電場と磁場および熱力学の概念を理解し、簡単な電気・磁気現象および熱力学に関する各種問題を解くのに必要な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基幹物理学I A	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、基幹物理学I A、I Bの両者を一緒に選択することを強く推奨する。 基幹物理学I A演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを一貫した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその1例としての古典力学を対象として、ニュートンの運動の3法則を基本法則として力学現象を論理的に整理し、運動を記述すること、運動方程式を解くこと、エネルギー・運動量・角運動量の保存則などの物理的概念を身につけることを目標に、質点、質点系、および剛体に関する力学の基本的事項を学ぶ。また、それらを具体的な現象に応用して理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基幹物理学 I B	自然界を理解する学問としての物理学において、基幹教育の物理学は主として、力学、電磁気学、熱力学からなる古典物理学の理解を目指している。そのため、基幹物理学 I A、I B の両者を一緒に選択することを強く推奨する。 基幹物理学 I B 演習の履修は内容をよりよく理解する上で有益であるが、必ずしも前提としない。 物理学は自然界を理解する学問であり、その自然界は様々な階層・分野やそれらを貫徹した視点に応じた基礎的原理・法則に従っている。ここではその具体例としての電磁気学と熱力学を学ぶ。前半では、場という考え方を中心に電気・磁気現象の基本的事項を学ぶ。後半では、熱現象や熱力学の基礎を学ぶ。それらの基本概念や基本法則を、具体的な現象に応用して理解する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基幹物理学 I A 演習	基幹物理学 I A に対応した演習科目。 力学の法則をより深く理解し、現象に応じた運動方程式（微分方程式）が設定でき、それを解ける十分な力を養成する。また、エネルギーや運動量などの保存則を十分に活用できるようにする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基幹物理学 I B 演習	基幹物理学 I B に対応した演習科目。 電場と磁場の概念および熱力学の概念をより深く理解し、電気・磁気現象および熱力学に関する各種問題が解ける十分な力を養成する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	力学演習	相対運動を理解し、質点系および剛体に関する基本的事項を習得し、質点系および剛体の運動方程式をたて、それを解くことができるようになることを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	物理学の進展	現代の物理学は高度に発達・進展し続けているので、「基幹物理学 I」で学ぶ基礎的な事柄だけでは、研究の最前線の成果を理解することは難しい。そのギャップを埋めるため、物性物理、非線形物理、素粒子物理、宇宙論などの最新の話題に関し、それらを専門とする複数の教員が分かりやすく紹介する。講学生が、講義内容の各テーマに関して、その基礎知識を吸収し、その分野へのさらなる興味を持つこと、自ら文献や参考資料を調べるなどの自発的態度を養うことを目的とする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基幹物理学 II	「基幹物理学 I」では古典物理学の基礎を学ぶが、ミクロな世界は古典物理学とは異なる量子力学の法則に従っている。また、時空概念の変革をもたらした相対性理論は現代物理学の基礎となっている。この科目では、現代物理学への入門として、量子力学の基礎と特殊相対性理論について講義し、量子力学の基礎と特殊相対性理論を学ぶことで、ミクロな世界の物理法則と時空の概念を知ること、量子力学と特殊相対性理論が現代物理学の基礎となっていることを理解すること、学んだ基礎的な内容に基づいて、系統的な方法を用いて新しい問題にアプローチできるようになることを目的とする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	電気電子工学入門	本講義では電気電子機器類の動作原理を理解するために、電気工学の基礎的事項を習得する。 【キーワード】 直流電気回路 交流電気回路 電気回路の過渡現象	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	原子核物理学	原子核物理学では、放射線による診断・治療に必要な物理関連の事項を取り扱う。特に原子核から放出される核放射線(α 線、 β 線、 γ 線、中性子線)および原子核反応についての理解を深めることに重点を置く。その為に、原子核の基本的な性質について学び、放射性壊変(α 壊変、 β 壊変)、核の殻構造(shell model)、原子核反応の理論、原子核の統計的性質などについて理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	身の回りの化学	化学に関する新聞記事や報道番組の内容を化学の基本的な考え方で理解できるようになるために必要な化学の基本概念を高校レベルから学ぶ。その後、身の回りの化学製品、化学的事象や環境問題を取り上げ、それらに対する化学的な理解の方法を身に付ける。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学	化学の基本概念に基づいて、物質の構造、性質や反応をどのように理解するかを講義する。化学の基礎を高校レベルから復習し、大学での専門教育を理解するのに必要な知識や理解力を鍛える。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	無機物質化学	無機物質化学では、まず元素の周期表に基づき原子の電子構造と周期律との関係を理解、次に原子同士を結びつける化学結合についての基礎を学び、代表的な無機化合物の性質との関係を修得する。さらに、現代社会を支える重要な無機化合物を紹介し、構造や物性について概観する。この科目を修得後、有機物質化学を履修することで化学の幅広い知識が得られるように計画されている。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	有機物質化学	この科目では、有機化合物の構造と反応性について系統的に理解するための基礎知識の修得を目的とする。はじめに身の回りの有機化合物の特徴について概観した後、有機化合物の官能基別の分類法と基本的な化合物命名法について説明する。次に、異性体の分類法や表示法の概要と、分子構造を立体的に考えることの重要性について学ぶ。そして、いくつかの代表的な反応について、電子移動の方向とその起こりやすさがどのような要因に基づいているのかを考え、反応の基本的な原理を理解する。最後に、それぞれの官能基に特徴的な反応と合成法について代表的な例を見ていく。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学結合論	化学の基本概念の1つである量子化学的なもの見方・考え方の定量的理解（数学を用いる）を目的とする。すべての物質の化学的性質は、その物質の構成単位である微視的な粒子（原子・分子）の性質によって決まる。そこで、原子の電子構造、元素の周期的性質、分子の生成と化学結合の種類、分子の形等について、電子軌道、分子軌道を基盤として学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎化学熱力学	物質の状態とその変化を理解するのに、微視的観点から単独の原子・分子を取り扱う量子化学と並んで、アボガドロ数程度の原子・分子の集団が示す性質を巨視的観点から取り扱う化学熱力学を用いることが可能である。この講義では熱力学の基本法則に基づき、分子の集合状態やその変化、化学反応などの現象を自由エネルギー変化の観点から捉え、平衡状態の考え方や変化の方向がどのように決まるかを、演習を交えながら学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	現代化学	無機化学、有機化学、生物化学、物理化学、分析化学や理論化学などの中から21世紀の社会を支えるさまざまな分野の化学を、化学の基本原則に基づいて概観する。また、最先端の研究事例を大学、企業の研究者から学び、化学研究の未来、社会と化学の関わりを学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物有機化学	生体分子の生化学的な理解の基礎となる低分子・高分子有機化合物の構造と機能を、各種官能基の反応性などの観点から講義し、次の能力を身に付けることを目標とする。(1)有機化合物の種類と命名法および代表的な官能基の性質を理解する。(2)分子の構造と反応性について立体化学や電子移動の概念で理解する。(3)天然物質や生体機能物質について農学・生命科学の視座で理解する。講義内容を情報として記憶するだけでなく、知識として活用できる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生化学	タンパク質、糖、脂質の構造および各生体分子の機能について概説し、生化学の基礎である生体分子の構造と機能に対する理解を深めることを目的とする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	機器分析学	薬学領域を含めたライフサイエンスにおける分析対象は実に広く、生体物質、医薬品、毒劇物など多くの物質が関連する。これら微量な物質を正確に検出、定量する分析技術として様々な機器分析法が開発されてきた。本授業では、代表的ないくつかの機器分析法の基礎と実際の分析応用例について学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学A	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴を理解できるようになることを目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 <ul style="list-style-type: none"> ・生物に共通した特徴：代謝（呼吸・光合成、恒常性など） ・自己複製（DNA複製、細胞分裂、生殖、遺伝など） ・生物の複雑な構造と機能（生体を構成する分子、細胞の構造と機能、組織・器官・個体の構造と機能、各種生理現象、免疫現象など） 	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生命の科学B	授業担当者の専門分野から題材をとり、一般向けの解説を通して個体レベル以上で示される生物の多様性、生物と環境との関係などを中心とした特徴を理解できるようになること、生物多様性の保全や生態系サービスの持続的な利用に関して考察できるようになること等を目的に講義を行う。個々の講義内容は、次のような項目に関連したものからなる。 <ul style="list-style-type: none"> ・生物の多様性と生物相互の関係・生物と環境との関係 ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環 ・生物の進化 ・生物多様性の保全と生態系サービスの持続的な利用 	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	基礎生物学概要	細胞生物学と集団生物学の内容をコンパクトにしたものとする。高校時に生物学未履修の学生も対象にし、生物に対する基礎的な理解を得ることを目的とする。具体的には、生物に共通した自己複製・代謝・複雑な構造と機能などの特徴と生物の多様性について、以下のような項目に関連した講義を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・生物に共通する特徴と生物の示す多様性 ・生物の最小単位としての細胞の構造と機能 ・生体分子の特徴（生体低分子、生体高分子） ・生物のエネルギー代謝（呼吸） ・生物のエネルギー代謝（光合成） ・遺伝情報の発現と伝達（DNAの構造と複製） ・遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の発現） ・遺伝（減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・多細胞生物（動物・植物）の成り立ち（個体発生） ・生物の環境への応答と適応（個体レベルの生理学、感覚・神経生理） ・生物相互の関係（繁殖行動など） ・生物相互の関係（食物連鎖など） ・生態系における物質循環など ・生物の進化 	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	細胞生物学	生物に共通した特徴（自己複製・代謝・複雑な構造と機能）を示す基本単位である細胞の構造と機能についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・細胞の微細構造とその機能（生体膜、細胞内小器官、細胞骨格など） ・細胞を構成する生体分子（タンパク質、核酸、脂質、糖など） ・細胞によるエネルギーの獲得とその利用（呼吸、光合成、物質輸送、運動） ・細胞レベルでの遺伝情報の発現と伝達（遺伝情報の複製と発現、体細胞分裂・減数分裂、メンデル遺伝の基礎） ・細胞による情報処理（細胞間の情報伝達、細胞内情報伝達系） ・細胞の多様性（細胞分化と形態形成） 	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	集団生物学	主として個体以上のレベルにおいて、生物相互・生物と環境の関係性、生物の多様性についての基本的な理解を得ることを目的とする。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・地球上の多様な生物の概観 ・種・遺伝子プール・遺伝的多様性 ・個体の行動と生物の適応 ・種間の相互作用・生物集団の動態・生態系 ・生物の進化 ・生態系における物質循環 	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	分子生物学	遺伝子の実体であるDNA、ゲノムを中心とした分子生物学の基礎を理解し、遺伝子工学・バイオテクノロジーと言った言葉に表されるようなその応用面での基礎も理解することを目指す。具体的には以下のような項目についての講義を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子・ゲノムの概念とその実体 ・遺伝子の構造と機能（DNA、RNAの構造、DNA複製、転写・翻訳） ・遺伝子発現の調節（転写調節、翻訳調節） ・遺伝子操作の基礎（PCR法の原理、遺伝子クローニング・遺伝子組換え技術の基礎） 	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	生態系の科学	人類の未来にとって、増加し続ける世界の人口に対応できる、効率的で安定した食糧生産技術の確立は非常に重要である。その一方で、食糧生産をも含めた、地球上における生物資源利用技術を、いかに環境保全型で持続可能なものに変えていくかという問題も、現代人類に課せられた大きな課題である。これらの諸問題を総合的に解決していくためには、地球上の生命現象に対する、生態学的理解が不可欠である。しかし、生態学の全体像を理解するには、個体レベル、個体群レベル、群集レベル、生態系レベルさらには生物圏レベルでの、生物と環境との相互関係を理解することが必要である。本講義では、個体レベルから生物圏レベルまでの様々なレベルで、実際に生物生産に関連した生態学の研究を行っている講師が、具体的な事例も交えながら、現代生態学の現状について解説することで、生物と環境の相互作用、動物個体群動態の法則、植物群落の生産構造、生物群集の法則性、生態系の構造と機能、生態系における物質循環・エネルギー循環について理解することを学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球と宇宙の科学	現在の太陽系では、地球だけが、表面に液体の水を安定的に保持し、生命をはぐくんでいる惑星である。この授業では、まず、太陽系の惑星・衛星の特徴をみていきながら、地球の特徴を認識し、その上で、地球がどのようにして現在見られるような惑星になったかを学ぶ。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	地球科学	現在の地球を構成する物質と環境は、個体地球と大気・海洋および生命の46億年にわたる相互作用によって形成されてきた。地球科学では、地球の表層、地球の実質、化石等による生命起源の探索という3つの主要なテーマを通して、私たちが生まれ生活している惑星「地球」の進化と実態について学び、理解を深める。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	最先端地球科学	地球惑星科学における最先端分野を照会し、それらの基礎的事項や研究手法など（具体的には、結晶成長と溶解、新生代の気候変動、年代測定、地球を構成する岩石、地球の内部構造と同位体）について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目 理系 ディシプリン 科目	デザイン思考	<p>デザイン思考は、多様な専門性を持つ参加者が、これまでデザイン学の世界で培われてきた可視化やプロトタイプなどのデザイン手法を用いながら協同して課題発見と解決を行う考え方で、デザイナーの発想法やデザインメソッドを「未知の課題を発見し解決する」ために用いるものである。本授業ではこの考え方を広義にとらえ、必ずしもデザイン分野に限らない複数の専門家によって、それぞれの分野での問題や課題の発見、方法の探索、解決までのプロセスを実際の例を紹介し解説していく。数分野でのデザインの思考法やデザイン方法を理解し、それぞれの専門分野での問題発見・問題解決の方法の一つとして取得することを目指す。</p> <p>《春学期》（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（32 尾方義人／1回） ガイダンス及び導入。デザイン思考の概説。 （23 石井達郎／2回） 画像設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （37 城 一裕／2回） 音響設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （62 稲村徳州／2回） 芸術情報設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （32 尾方義人／1回） まとめと評価。</p> <p>《夏学期》（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（37 城 一裕／2回） ガイダンス及び導入。デザイン思考の概説。 音響設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （23 石井達郎／2回） 画像設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （62 稲村徳州／2回） 芸術情報設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （41 曾我部春香／2回） 工業設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 まとめと評価。</p> <p>《秋学期》（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（32 尾方義人／1回） ガイダンス及び導入。デザイン思考の概説。 （23 石井達郎／2回） 画像設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （53 山内勝也／2回） 音響設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （62 稲村徳州／2回） 芸術情報設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （32 尾方義人／1回） まとめと評価。</p> <p>《冬学期》（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（41 曾我部春香／2回） ガイダンス及び導入。デザイン思考の概説。 工業設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （53 山内勝也／2回） 音響設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （62 稲村徳州／2回） 芸術情報設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 （23 石井達郎／2回） 画像設計分野に係るデザインの問題とそのためのデザインの方法。 まとめと評価。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目 図形科学	私たちを取り巻く大きささまざまの三次元の対象物（例えば機械や建物、土木構造物など）は、いずれも二次元平面上の図情報である設計図を基につくられている。また、ディスプレイやスライドをはじめとする表示メディアには、三次元の対象物が二次元の映像・図として表現される。三次元対象物を二次元平面上に図形として表現する能力、逆に描かれた図形から対象物を三次元的に理解し解析する能力は、対象物の情報を伝達し受容するための基礎能力といえる。本科目を学ぶ目的は、講義と演習を通じて、これらの能力を身につける事にある。学期の前半は、図形の表現・解析の基礎である投影の概念と正投影法の規則を、点や直線・平面・立体を例に修得する。後半では、立体の切断や相貫・展開など前半の応用に加え、正投影法以外の投影法（軸測投影・斜投影・標高投影・透視投影・陰影）の中から、必要と考えられる投影法を併せて修得する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目 空間表現実習Ⅰ	図形科学を履修することにより、機械装置やその部品、土木構造物やイメージした建築空間とその付随施設などを、二次元平面上の図形として表現可能となるが、これらを実際につくるには、この図形に対象物のサイズや配置、用いる材料や加工方法・表面性状などの情報を付加し、設計者と製作者の間の情報伝達手段として活用できる「図面」を作成する必要がある。 この授業では、図面を理解し作成するために必要な基礎知識を、講義と実習と通じて修得する。具体的には、図面に関する国際的な取り決め事項（ISO・JIS製図関連規格）や図面に特有の慣用的表現法・作図技法などを中心とした講義を行う。そして、講義内容を確実に身につけるため、文字・線の練習、ねじや継手などの機械要素部品の写図・スケッチ・製図を、主に製図機を用いて行う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目 空間表現実習Ⅱ	図形を読むことは、建物や都市空間に関わるものにとっては、必ずやらなければならないことである。図面を読み、建築物の内部空間、外観、都市空間などを具体的に把握することが必要である。 建築系空間表現実習では、スケッチや透視図による建築空間の表現技法を学び、続いて、家具の実測、作図、模型製作、写真撮影、プレゼンテーションを行って生活空間における造形デザインについて学ぶ。 環境系空間表現実習では、基礎的な建築とランドスケープの知識や空間の読み取り、またその表現技法について学ぶ。 工業系空間表現実習では、透視図法および製図の基礎技能を学んだ上で、インテリア空間と空間を構成する要素（家具など）相互の関係の表現方法を養う。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目 世界建築史	世界の建築の歴史的な成り立ちを、社会、文化、芸術の様相、また技術の進歩と関連付けて理解し、建築の歴史・意匠に対する認識を深めることを目的とする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目 日本建築史	日本建築・都市の構造・技術・意匠の創出とその変遷を、大陸の建築文化を加味しながら当時の社会構造（権力、政治、経済、軍事、文化など）との関係で捉え、概説する。建築・都市の技術・構造・意匠を理解するうえで必要な知識のを身につける。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目 デザイン史	デザインの歴史は、物の創造と技術の歴史に深くかかわっている。この授業では、デザインの歴史を概観し、様々な実践を支える理論的・技術的・思想的・社会的背景を学ぶ。時代とともに変遷するデザインの多様な側面を知ることで、デザインをめぐる過去と現在、ひいては未来を考える力を身につけることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	情報科学	現代社会における情報通信機器の浸透は著しく、人々は好むと好まざるとに関わらず、社会インフラとしての情報通信技術に強く依存している。したがって、複雑化する社会情報基盤を支える情報通信技術の基本原則について正しい理解を得ることは、次世代情報化社会を生きる大学生諸君にとって極めて重要である。この授業では、情報科学の基本的な事項について講義することにより、普段はブラックボックスとして使っている身の回りの情報通信機器の動作原理に関心をもち、科学的に理解することを目指す。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	プログラミング演習	主として、プログラミング演習を行う。「計算機の動作原理」「情報の効率的表現」「効率的な計算手順」といった、情報科学の基本的概念についても簡単に講義する。この演習は、特定のプログラミング言語の修得が目的ではなく、自ら作成したプログラムにより計算機にデータを処理させる体験等を通じて、情報処理の基本原則について理解を深めることを目的とする。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	コンピュータープログラミング入門	放射線医学関係の医療技術者（診療放射線技師、医学物理士など）は、最先端の医用画像処理技術に基づく医療機器を操作する必要がある。そのためには医用画像処理技術の基礎となるソフトウェアを知る必要がある。そこで、この講義では、医用画像処理のプログラミングに必要なコンピュータプログラミング（C言語）の基礎を演習する。主に、C言語の基本、数値演算のアルゴリズムとプログラミングを学習する。	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験（基礎）	人間は、自然の事物・現象の中に様々な法則を見いだしてきた。その営為である自然科学の進展には実証という過程が必然的に要求されてきた。基幹教育における自然科学総合実験の目的は、理系学生全員に人間が自然の事物・現象を基礎的な実験・観察を通してどのように理解しようとしてきたのかについて総合的に理解してもらうことである。その過程で、受講生が様々な実験・観察の手法の基礎を学び、物事を合理的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を身につけることも目的の一つである。自然科学総合実験（基礎）におけるテーマは下記のとおりである。 【物理学実験_基礎】重力加速度の測定、光の測定 【地球科学実験_基礎】地球の形成と構成物質 【化学実験_基礎】①炎色反応と原子スペクトル ②金属イオンの系統分離 【生物科学実験_基礎】①顕微鏡の使用法と動物組織の観察 ②植物細胞と気孔の開閉運動の観察	
基幹教育科目	理系ディシプリン科目	自然科学総合実験（発展）	人間は、自然の事物・現象の中に様々な法則を見いだしてきた。その営為である自然科学の進展には実証という過程が必然的に要求されてきた。基幹教育における自然科学総合実験の目的は、理系学生全員に人間が自然の事物・現象を実験・観察を通してどのように理解しようとしてきたのかについて総合的に理解してもらうことにある。その過程で、受講生が様々な実験・観察の手法の基礎を学び、物事を合理的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を身につけることも目的の一つである。自然科学総合実験（発展）におけるテーマは下記のとおりである。 自然科学総合実験（基礎）の受講を済ませていることが望ましい。 【物理学実験_発展】①斜面を転がる球の力学実験 ②磁束密度の測定 【化学実験_発展】①アセチルサリチル酸の合成 ②ダニエル電池の起電力 【生物科学実験_発展】①アルコール代謝関連遺伝子の多型検出 ②植物からのDNAの抽出とPCRを用いた特定遺伝子領域の増幅	
基幹教育科目	サイバーセキュリティ科目	サイバーセキュリティ基礎論	インターネットや ICT 技術の普及によって、サイバーセキュリティに対する重要性が日に日に高まっている。また、考慮すべき領域は、コンピュータをインターネットに接続している空間だけに留まらず、パソコンを持ち運んでいる時、あるいは銀行オンラインシステムを利用している時などを含めた、サイバー空間全体に広がっている。このような状況で我が国ではサイバーセキュリティ基本法が施行され、大学におけるセキュリティの教育に加え、国民個人のセキュリティへの対応能力の向上が求められている。本講義では、学年、理系・文系を問わず、今後 ICT 国際社会で生き抜くためのサイバーセキュリティ力を向上させることを目的として、セキュリティに関する基礎的な技術から法律、倫理まで幅広く学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学演習	健康・スポーツ科学演習では、身体運動やスポーツが心身の健康に及ぼす効果を身体的、心理的、社会的な観点から理解するとともに、健康的で充実した学生生活および社会生活を送るために必要な身体的および心理社会的能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、学修活動・社会活動の基盤となる健康・体力を向上させるための身体運動あるいは心身トレーニングの原理と実践方法を学習するとともに、自律的セルフケアスキルであるライフスキル（ストレス対処スキル、目標設定スキル、リーダーシップスキル、コミュニケーションスキルなど）の習得を目指す。 *アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常健康・スポーツ科学演習の授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
	健康・スポーツ科目	身体運動科学演習Ⅰ	多様な形態の身体運動・スポーツを通して、健康・スポーツ科学演習で習得した、健康・体力の維持・増進あるいは適応的な学生生活・社会生活を送ることに資する運動能力およびライフスキルを一層向上させることを目的とする。重点的に向上を目指す能力やライフスキルは、コースごとに設定する。これらのスキルを向上させることによって、現在および将来出会う様々な社会的課題に対して自律的に対応できるようになるだけでなく、基幹教育における学修活動が活性化する。 *アダプテッドコース 病気やけが、障害などの理由により、通常身体運動科学実習Ⅰの授業を受講することが困難な学生のために、アダプテッドコースを開講する。アダプテッドコースの授業内容は、受講学生の健康状態などを勘案して決定する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学演習Ⅱ	ライフスキルの更なる向上を目指すとともに、運動処方の実践、運動スキルの向上、あるいはスポーツの文化的享受および理解を目的とする。具体的には、身体運動・スポーツが人々の健康に対して有する意義についての理解を深め、また、「身体運動の習慣化・生活化」を意図して様々な身体運動・スポーツを実施し、さらにその中で、ライフスキルのブラッシュアップを図る。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学演習Ⅲ	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために必要な態度を身につけるとともに、運動スキル・ライフスキルを高度化させることを目的とする。このようなスキルの高度化を通して、人々の健康づくりや生涯スポーツ参加への動機づけを高める方法あるいは運動・スポーツ活動を継続していくための方法を学習する。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	身体運動科学演習Ⅳ	生涯にわたって自律的に身体運動・スポーツを実践していくために、運動スキルおよびライフスキルの一層の高度化を目指すとともに、生涯学習社会においてスポーツ学習が有する意味あるいは意義などについて、理解を深める。また、ライフスキルの中でも特にリーダーシップスキルの一層の向上に焦点を当てて、スポーツ実践を行う。	
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義ⅠA	科学・技術の進歩は、私たちの生活を便利に、そして豊かにしたが、その一方で、新たな弊害を生み出している。それらの中には、体力低下、身体活動不足、心理社会的ストレスの増大、生活習慣病の発症などの問題が含まれている。健康・スポーツ科学講義Ⅰ（A）では、このような健康に関わる諸問題の背景、誘因、および症状についての理解を深めるとともに、身体活動、運動、スポーツがこれらの問題の解決に果たす役割について理解する。 主として自然科学的観点（生理学、栄養学、トレーニング科学、身体的健康など）から、上記の課題にアプローチする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科学講義Ⅱ	心身の健康、身体活動・運動、スポーツ、およびそれらの関係性に関する内容について講義する。本講義では、生理・生化学、医学、心理学、社会学あるいは文化学的な観点から、健康問題や運動・スポーツに関する多様なテーマを取り上げ、健康科学・スポーツ科学における研究知見や諸課題、心身トレーニングの方法と効果、競技パフォーマンスに及ぼす心理的要因、運動によるメンタルヘルスの向上、身体運動・スポーツの社会・文化的意味などについて、それぞれの専門分野から深く学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅠ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について講義する。 (参考) 2019年度取扱いテーマ：「認知症の疫学調査」、「光ファイバ伝送容量理論限界に挑む ーモード多重伝送技術」、「九州大学の昆虫科学研究」、「大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌」、「光エネルギーの高効率利用を目指した材料開発」、「口腔の健康から全身の健康に貢献する」	
基幹教育科目	総合科目	アカデミック・フロンティアⅡ	九州大学で現在遂行されている、または、九州大学卒業者が社会の様々な現場で携わっているフロンティア研究について、それに関わるリーダー研究者が、課題の歴史的背景から現在の研究状況、そして将来の展望や研究のもたらす未来について講義する。 (参考) 2019年度取扱いテーマ：「バイオテクノロジーとグリーンケミストリー」、「楽しい情報科学／情報工学の世界」、「人として育つこと・幸せに生きること」、「天然物化学と生体膜」、「局部時間反転音声の知覚および記憶課題におよぼす効果」、「アカデミア発創薬開発への挑戦」	
基幹教育科目	総合科目	大学とは何かⅡ	この科目では、九州大学を中心に、大学と地域社会・国際社会の関係の歴史や現状がどのようなものであるか、今後の関係はどのようにあるべきかを考察する。	
基幹教育科目	総合科目	九州大学の歴史Ⅱ	第2次世界大戦の敗戦後、日本の教育制度は大きく変更され、九州大学も1949（昭和24）年に新制大学となった。その後の日本の経済発展とともに九州大学も拡張され、大学紛争とその後大学改革、2003（平成15）年の九州芸術工科大学との統合や2004年の国立大学法人化、そしてキャンパス移転という大きな変化を経て現在に至っている。この科目では、こうした大きな変化を中心として、新制大学の発足から現在までの九州大学の歴史を概説する。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅰ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。福祉や労働、子育てなど生活の場における性差をめぐる問題から、文化や表現における性差、また、それら性による差異の論拠とされてきた性に関する科学そのものの政治性やその歴史、イエ制度を含む家族についての政治や歴史など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅰでは、家族社会史、イエ制度、メディアや歴史における女性、社会学からみるジェンダー等について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	女性学・男性学Ⅱ	本講義は、両性がよりよく共生しうる社会を担うために、既存の社会や学問に遍在するさまざまな性差にかかわる既成概念や課題についての洞察力を養うことを目的とする。福祉や労働、子育てなど生活の場における性差をめぐる問題から、文化や表現における性差、また、それら性による差異の論拠とされてきた性に関する科学そのものの政治性やその歴史、イエ制度を含む家族についての政治や歴史など、様々な視角から性差の問題をとらえる。女性学・男性学Ⅱでは、女性労働の現状と歴史、男女共同参画社会、ジェンダー問題、自然人類学からみたセックス・ジェンダー・セクシュアリティ、LGBT：性とアイデンティティをめぐる科学と政治等について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：ボランティア	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではボランティアを取りあげる。近年、広い範囲にわたり多様なボランティアが行われており、本講義では、どのような背景の下、この広がりが生まれてきたのか、さらに企業や行政と異なり、どういった役割を担っているか等を学ぶ。同時に、グループディスカッションに加え、ゲストスピーカーを招へいし、ボランティアの実践例や取り組み観点を紹介してもらい、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことを狙いとする。	
基幹教育科目	総合科目	社会連携活動論：インターンシップ	大学生活では授業やサークル活動のみならず、現実の社会に出て活動を行う機会があり、それは個人と社会をつなぐ重要な働きを担っている。そういった活動の中から、この授業ではインターンシップを取りあげる。インターンシップは平成9年以降に本格的に取り組み始めた新しい活動であり、企業の現場で共に働くことで職業経験を積み、働くことの意義や自身の今後の生き方を展望する機会を提供する活動である。そこで、授業では講義だけではなくグループディスカッションに加え、ゲストスピーカーを招へいし、インターンシップの実践例や取り組み際の注意点等を紹介してもらい、自身の社会への関わりを考察することで、社会連携活動への姿勢を培うことを狙いとする。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life A	In this class students will learn why it is important to understand some basics of law. We will discover how law and life interact. In addition, we will take a look at laws in different countries. この授業では、なぜ法の基礎を理解することが重要なのか学習する。また、法と生活の関わりについて理解を図る。さらには各国の法についても検討する。	
基幹教育科目	総合科目	Law in Everyday Life B	In this class, based on the topics learned in "Law in Everyday Life A", students will deepen their understandings on how law and life interact, and will focus on additional countries' laws. 「Law in Everyday Life A」で学んだことを踏まえて、さらに、法と生活の関わりについて理解を深め、各国の法について検討を行う。	
基幹教育科目	総合科目	バリアフリー支援入門	本講義では、社会参加や活動が制限されている、様々な障害を持つ人への理解を深めるために疑似体験（体験機器、グループワーク）や、自伝（本・映画）の鑑賞を行う。その後、自分たちの理解をもとに、障害のある人の体験を他の人たちに伝える企画（ショートフィルム制作、展示会企画など）、大学内のバリア（社会的障壁）を軽減するための取り組み（バリアフリーマップ作成など）を行う。これらの実習を通し、障害学生とサポートスタッフがお互い理解し合い学び合える自律的成長をし、この場で得た成果をコミュニティに還元させる態度を養う。	
基幹教育科目	総合科目	ユニバーサルデザイン研究	本講義は、アクセシビリティ研究やバリアフリー研究に関連する様々な分野の専門家（医学、教育学、心理学、脳科学、建築学、社会福祉学、法学、リハビリテーション学、障害者スポーツ学など）を学内外から招き、ユニバーサルデザイン社会の構築に必要な知識的理解と体験的理解の両方を深めることを目的とする。授業を通して、障害の有無等に関わらず多様な人々の社会参加を進めるための理解を深め、柔軟な知識と発想を背景としたグローバルな視野を持つことを目指す。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ）を推進できる人材の育成を目的とする。前半では支援技術の習得（テキストデータ作成、ノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）、社会資源見学（支援機器の企業、就労移行支援事業所等）を行い、後半では現場での実習に臨む。これらの実習を通して、誰もが学びやすい修学環境の構築に貢献するとともに、支援活動に関する経験を積み重ねながら、支援ニーズや支援方法への理解を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ支援入門	本講義では、障害の有無や身体特性などの違いに関係なく、多様な利用者のアクセシビリティ（利用しやすさ、参加しやすさ、わかりやすさ）を推進することのできる支援技術を有する人材の育成を目的とする。そのために支援技術の習得（手話、テキストデータ作成、PCノートテイク、ガイドヘルプ、ICT技術など）に向けて学習を行う。支援活動に関する基礎的技術の学習経験を通して、多様性に拓かれた修学環境の構築に貢献するとともに、アクセシビリティの観点から多様な支援ニーズへの理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	アクセシビリティ基礎	本授業では、アクセシビリティを推進できる人材を育成するために、アクセシビリティリーダー育成協議会（本学は平成26年に会員校となり、本協議会がアクセシビリティリーダー1級2級資格を認定している。）のオンライン講座の受講を通し、アクセシビリティについて基礎的な理解を得ることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	人と人をつなぐ技法	この授業は、人々をつなぎチームで動くときに必要とされる観点や能力について、ファシリテーションという技法を踏まえながら学ぶことを目的とする。講義形式、ワークショップ、ゲームなど多様な手法を使いながら、ファシリテーションの技法を身につけ、柔軟なコミュニケーション能力と、チーム活動を円滑に進めるための技法の習得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	コミュニケーション入門	コミュニケーションを様々な角度から見つめ直すことで、相手を意識したコミュニケーションとは何かを考える。(1)多様なコミュニケーションについての講義内容を理解する、(2)講義内容を自分にとってのものの方、考え方に活かす、(3)自分で考えたこと、調べたことをわかりやすく伝えることができることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	体験してわかる自然科学	実験を通して身近な現象の科学を体験的に学ぶ。「自然科学総合実験」を履修していない学生を対象として開講する。自然科学は「理系」のひとだけのものではない。苦手意識を捨てて、自分の体験を通して自然の仕組みを理解すれば、楽しく学ぶことができる。実験テーマは科学の広い分野から選ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	健康疫学・内科学から見たキャンパスライフ	大学生は入学後の生活環境がそれまでと激変して、その対応の不備によっては心身の健康問題を抱えることがある。加えて大学時代は社会人になってからの健康生活を確立するための重要な時期でもある。本科目では主に内科学や身体運動疫学の観点から健康という概念を概説し、健康科学を日常生活に取り入れて健全な大学生活をサポートするための具体的な行動指針を説明する。	
基幹教育科目	総合科目	心理学・精神医学から見たキャンパスライフ	学生期は、多様な経験を通じて心理的に変化・成長する時期だが、それに伴って悩みや葛藤を抱えることも少なくない。本講義では、キャンパスライフ・健康支援センターに所属する学生相談カウンセラーおよび精神科医が、学生期における心理的な課題や心の危機について講義を行う。受講学生が自分自身の大学生活について振り返る時間も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学A	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を行う。アジア埋蔵文化財学Aでは、アジア埋蔵文化財学、考古学、考古学を理解するための地球科学、文化財調査研究開発について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	アジア埋蔵文化財学B	最新の考古学、人類学、地球科学などの様々な関連学問分野を融合した、あらたな埋蔵文化財学を九州大学アジア埋蔵文化財センターが提供する。センターの研究で得られた最新研究の成果を提示しながら、既存の学問分野では導くことのできないフロンティア研究への挑戦を涵養する。九州大学がすすめる文理融合研究の一端を学生に提示し、幅広く学び研究する楽しさを身につける。主に考古学と地球科学に関連した講義を行う。アジア埋蔵文化財学Bでは、精密分析、年代測定、発掘調査社会連携、歴史情報分析、融合研究について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線 I	九州大学に学ぶ学生諸君が、その所属学部・専攻分野の如何を問わず、知っておくべき隣邦に関する学術的な営為・研究動向について、最新の情報を伝えるとともに、それが現在の日韓関係でどのような意味を有するのかについて一緒に考える。	
基幹教育科目	総合科目	韓国・朝鮮研究の最前線 II	「韓国・朝鮮研究の最前線I」に引き続き、「韓国・朝鮮研究の最前線II」はさらに自らも取材した韓国・朝鮮研究の実情についてプレゼンテーションを行うとともに、その内容を受講者全員で討議する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きる I	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル社会の成り立ちやその影響をみる多角的な視点から論じ、その理解に必要な理論と方法に関する基礎知識を学ぶ。それをふまえて、グローバル社会の意味を生活に結びつく形で考える。「グローバル社会を生きるII」を合わせて履修することで、諸問題の把握と分析を進めることを推奨する。	
基幹教育科目	総合科目	グローバル社会を生きる II	私たちの生活はグローバル化の直中にあり、日頃接している情報や商品、また様々な社会活動等を通して、あらゆるところでその影響を受けている。その影響は、すぐには気がつかないようなものも多くあり、場合によっては生命に関わるようなリスクにつながることもある。この講義では、そうしたグローバル化が生み出す多様な問題を論じ、その問題の分析に必要な理論と方法を学ぶ。それをふまえて、問題解決の方法を受講者と一緒に考察する。「グローバル社会を生きる I」を履修し、グローバル社会への基礎的な視点を習得していることが望まれる。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育 I	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語母語話者、日本語学習者双方の観点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会的・文化的な観点から現実の日本語コミュニケーション、社会への参画、自己実現といった課題を捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	社会参加のための日本語教育 II	「人をつなぎ、社会をつくる」という課題が現代の日本語教育に課せられた大きな課題となっている。本授業では、日本語指導が必要な児童生徒、生活者としての外国人の視点から社会参加のための日本語教育を検討する。特に社会文化的な規範や価値観といった観点から「聞く」「話す」「読む」「書く」といった日本語コミュニケーションを捉え直すことを重視する。	
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶA	この講義は、一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それを踏まえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うので、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶB」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶAでは、生物学（特に昆虫学）を中心に講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	フィールドに学ぶB	この講義は、一定の学問分野を足場としながらできるだけ一般的な形で、フィールドへの入り方、歩き方、学び方、およびそこで必要な倫理・安全性への配慮について学ぶ。それを踏まえて生涯役立つフィールド感覚を養う。AとBでは異なる学問分野を足場にした講義を行うので、多角的なフィールド感覚を養うために「フィールドに学ぶA」を合わせて履修することが望まれる。フィールドに学ぶBでは、自然人類学を足場にした講義を行う。	
基幹教育科目	総合科目	教育テスト論	【テストを「受験」する側から「科学」する側へ】が本講義のテーマである。入学試験・就職試験・資格試験・昇格（昇任）試験等々、人生において幾度も直面する「テスト」でありながら、「テスト」に関する科学的な知識に接する機会は殆どない。そこで、本講義では、今まで当たり前のように受けてきた「テスト」を哲学・歴史学・法学・社会学・心理学・数学・統計学といった大学諸学問の観点から分析し、更に、「テスト理論」(test theory)と呼ばれる「テスト評価測定技術」についての導入的な解説を行う。「テスト」を単に「害悪」と捉えるのではなく、「テストの結果が、個人の処遇や人生を大きく左右するものであるが故に、その実施にあたっては、細心の注意を払うべき類のものである」との認識に立って、よりよい「テスト」を実施していくための「基礎教養」の修得を目指す。	
基幹教育科目	総合科目	現代企業分析	本講義では、投資家の立場にたち、財務・株価データを用いた企業の分析方法について学習する。具体的には、企業の収益性や安全性(倒産可能性)をどのように測定・評価するのか、さらには投資対象として魅力的な株式とはどのような属性を有するのか、などについて教員による講義と学生によるグループワークを通じて学習する。	
基幹教育科目	総合科目	現代経済事情	本講義では、財政・社会福祉・金融・企業など現代経済の諸側面の一つに焦点を当て、直近の動向や問題を紹介するとともに、関連する研究成果を分かりやすく解説する。本講義により、次の能力を身に付けることを目標とする。(1)国際ビジネスに関する重要な知識や理論、(2)現在おきている経済やビジネスの情勢のロジカルな分析、(3)経済学、経営学的にものごとを考え、分析する力、(4)様々な異なるオピニオンのある中で、相手の意見を尊重しながら、自分の考えをロジカルに伝える、また、人前で自分の考えや提案を分かりやすくコミュニケーションできる能力、(5)さまざまな国際経済やビジネスの現象について自発的に疑問やパターンを見つける感性・センスを磨き、提起された問題について論理的に考え、さらに分析するようにする習慣。	
基幹教育科目	総合科目	ことばの科学	ことばの音韻・語彙・文法の構造やそれらの歴史的発達のあり方、意味伝達・メッセージ理解のメカニズム、言語習得のプロセスなどのさまざまな観点について、英語、日本語を始めとするアジアやヨーロッパの言語の具体例を検討しながら多面的に分析する。一連の講義を通じて、「ことば」という私たちにとってごく身近な事象に対し、科学的にアプローチする視点を身につける。	
基幹教育科目	総合科目	外国語プレゼンテーション	本科目では、クリティカル・シンキングおよび外国語コミュニケーション能力の向上を目的として、英語および初修外国語（日本語を除く）によるプレゼンテーションの技能を実践的に学び、プレゼンテーション・コンテストで成果を発表する。自由なテーマを論じるオリジナル部門に加えて、一部の初修外国語では暗誦部門も設ける。	
基幹教育科目	総合科目	水の科学	異なる専門分野の教員がそれぞれの立場から「水」についての科学的な話題を提供し、「水」というありふれた物質に対して、多面的な観点から理解することを目指す。本講義のテーマとして、(1)太陽系における水、(2)地球表層での水の挙動、(3)身近な水環境と資源としての水、(4)水の基礎化学と生物との関わり、などがある。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅰ	バイオエシックスという言葉は、単に倫理学と生命科学が交差する人間的探求の特定の分野というだけではなく、学問上の一領域、つまり医学、生物学そして環境研究における政治的権力、さらにその結果に対する文化的な見方をも指す。狭義に理解すれば、生命倫理は重大な科学的そして技術的变化に直面して生じた一分野とも言える。生命倫理学における歴史、基本原理・原則を学び、医療を取り巻くさまざまな倫理問題やグローバルな視点から環境倫理問題について考究する。医療倫理学Ⅰは、医療倫理学Ⅱ（応用編）の基礎学習となる。	
基幹教育科目	総合科目	医療倫理学Ⅱ	米国で発祥した患者の権利を基盤に既成の価値観への懐疑や先端科学技術への批判について、医療倫理という観点のみならず、生命倫理の観点から広く学習する。脳死・体外受精・臓器移植・ターミナルケア等、先端医療技術を背景とした生命観の変容と受容について理解し、問い直されている生命の意味を考察する。また、多様な価値観と患者・被験者の自己決定権を尊重するようになった過程とその概念について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	バイオエシックス入門	バイオエシックスとは、ギリシャ語の bios (life、生命、生活) とラテン語 ethica (倫理)、ギリシャ語 (習性的、習俗的) を結びつけた合成語である。1960年以降、米国における分子生物学の進展による生命科学の急激な発展に伴い重視されるようになった。本講義では、学問の歴史と共に、教育・研究・臨床倫理における基本を学習し、生命の意味・価値を問い、先端医療の現状と課題について、討論を通して学習する。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅰ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかについて学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅰ」では、物資源環境に関わる基礎的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	糸島の水と土と緑Ⅱ	水・土・緑は人にとって必要不可欠な環境資源であり、これらの保全と合理的活用が健全な地域創りや地域社会の持続的発展に繋がる。本講義では、伊都キャンパスの拠点である糸島地域を対象に、水・土・緑が環境資源としていかに生活・生産基盤を支えているかについて学ぶ。とくに、糸島地域が抱える農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の大切さ、さらには人と自然環境の持続的共生の大切さを学ぶ。「糸島の水と土と緑Ⅱ」では、物資源環境に関わる応用的な内容を取扱う。	
基幹教育科目	総合科目	命のあり方・尊さと食の連関	授業前半では、地産地消につながる世界的社会問題や風土の文化的背景について学び、命のあり方に向き合っ、未来につづく社会デザインを共に探るため、「農と命」に関する講義やアート・ワークショップ「未来につづく道」を行う。後半では、家畜と人間の関わりを学び、加工・調理を実践して、人間が家畜の命をいただくことによって得ている食料と食文化を考える。命のあり方・尊さと食の連関を根源から学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食肉加工の理論と実践	食肉の加工に関する理論を学び、さらに農学部附属農場（糟屋郡粕屋町）の加工設備を使って燻煙製品であるベーコンやソーセージ作りを行う。冷蔵設備のない時代に培われた「乾燥・塩漬・燻煙」による肉の保存技術など、日本の「農耕社会」にはなかった食肉の文化を学び、現在の我々の食に対する理解を深める。	
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅰ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、農業に関する知識と技術だけでなく様々な領域の学術情報と産業技術を加味し、植物の栽培条件を人為的にコントロールして高品質・高付加価値の農産物を得ようとするものである。授業では、生物環境利用推進センターの研究成果を踏まえ、植物工場基盤技術の開発について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	先進的植物生産システム概論Ⅱ	「植物工場」と称される先進的植物生産システムは、産業技術として改善され、発展することにより、その普及・拡大が進んでいる。授業では、その波及効果について概説する。受講生はこれを理解したうえで知識を普遍化し、「専門的に深化した学術的探求と、広範な一般的知識を融和させることによって、新たに有用な技術が創造される」というプロセスについて思索を深める。	
基幹教育科目	総合科目	農のための植物-環境系輸送現象論	人類は「農の営み」として、生物学的一次生産者である植物とその環境への働きかけを持続・発展させてきた。本授業では、農作物の生産性と品質を支える基礎となる植物と環境間のエネルギーと物質の輸送現象（光合成、蒸散、根の養水分吸収、光合成産物の転流、呼吸、熱収支等）に関して、輸送の場、メカニズム、環境応答、および調節法の概要について講義し、「農の営み」の基本的事項への理解を促す。	
基幹教育科目	総合科目	農のための最適環境制御	持続的な農業や食料生産のために必要な環境と、そのための適切な維持・管理技術に関して学ぶ。温暖化、豪雨、干ばつなど、近年の気候変動によって脅かされている食料生産環境の危機と、それを乗り越え、食料を安定供給するためのレジリエンス技術を中心に、特に農業・食料生産基盤で必須で、基礎的な土壌、水、大気観点から、直面する様々な問題や現状とそれらを緩和するための対策技術を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	食科学の新展開	健康長寿における食の重要性への認識が深まる中で、総合科学としての「食科学」の新しい展開を、具体的なトピックスを取り上げて平易に解説する。食品の「もの」と「こと」に係る最新の多彩かつ意外な事実を学ぶことで、学部学生に食への認識を転換させ、学生自らの健康と食の関係に新たな「気づき」を駆り立てることを目的とする。	
基幹教育科目	総合科目	作物生産とフロンティア研究	本科目では、作物生産について総合的、俯瞰的に学んだ後、作物におけるゲノム編集などの最先端技術を解説する。それらを踏まえ、地球環境と作物生産との関係についてフィールド（群落）・個体・細胞分子レベルでの最新の研究成果をわかりやすく紹介し、現代社会が直面している農業問題や将来的に予想される食糧問題等に対する解決策について議論する。	
基幹教育科目	総合科目	持続可能な農業生産・食糧流通システム	地球規模での食料不足、農業の衰退による食料自給率の低下、農産物流通のグローバル化や食の安全への消費者意識の高まりなど、「食」を取り巻く環境は大きく変化している。本講義では、これらの現状や起因する諸問題を学ぶとともに、これらの問題の解決のために、持続的かつ安定的な農業生産を実現する農業機械や情報通信技術、安全・安心な農産物を消費者に届けるための調製・加工・流通技術に関する先端の研究について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目	農業と微生物	農業生態系には細菌、ウイルス、真菌および原虫などの多種多様な環境微生物や病原微生物が存在している。これらの微生物が作物の生育・収量を左右する要因の一つとして働くとともに、微生物同士も密接に関わりあっている。本科目では、これら農業関連微生物の種類、特性などについて幅広く概説し、作物の生育・収量などに及ぼす影響について講義する。また、拮抗作用などの微生物間において起こる現象についても解説する。本講義により、農業関連微生物の基礎知識を習得するとともに、農業生態系における作物・微生物・昆虫の関わりについて多面的な観点から理解する。	
基幹教育科目	総合科目	企業から見たサイバーセキュリティ	毎日のように社会を脅かすサイバーセキュリティの事件や事故が発生しているがその背景で起きていることをわかりやすい言葉でYahoo! JAPANの社員が解説する。実社会ではもちろん自分の身近でも役立つ大切な情報やプライバシーを守るための仕組みや心構えを学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目	サイバーセキュリティ演習	サイバー演習装置を用いたハンズオン形式でサイバーセキュリティについて学ぶ。サイバー演習では、典型的なサイバー攻撃についてeラーニングによる座学により技術的な用語や概念を学び、仮想環境によって実機と同じ感覚で学習、体験を行う。さらに、テクニカルチャレンジという機能を用いて、サーバやネットワークのサイバー攻撃を受けやすい脆弱性を自らで探し出し、本演習でえられたセキュリティ対策のための知識、技術の確認を行う。本サイバー演習によって、ネットワークやサーバの実際の管理に携わらなくても、サイバー攻撃を体験し、それを防ぐ技術を習得することができる。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習（サーバー構築編）	本講義では、セキュリティを考慮したネットワークやサーバーサイドのエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。各講義は、座学と演習で構成される。座学では、初めにウェブアプリケーションの構成やネットワークの構築の方法などを学ぶ。システムの構成や動作原理を学習したのちに、サイバー攻撃の具体的な手法を学び、システムのどのような場所が攻撃されて、どのように防御策を施して行けば良いのかを学ぶ。演習では、システムにサイバー攻撃を行い対策の重要性を体験した上で、防御策を施す手法を学ぶ。最終的な課題として、セキュリティを考慮したウェブサービスを開発する。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習（ハードウェア設計編）	本講義では、セキュリティを考慮したハードウェアの設計や製作などのエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。各講義は、座学と演習で構成される。座学では、初めに電子デバイスで使用する電子部品の役割などの知識を学びながら、電子回路を設計する手法を学ぶ。電子回路の基礎的な知識を学習したのちに、ハードウェアに対するサイバー攻撃の具体的な手法を学び、ハードウェアのどのような場所が攻撃されて、どのように防御策を施していけば良いのかを学ぶ。演習では、ハードウェアに対するサイバー攻撃を行い、対策の重要性を経験した上で、防御策を施す手法を体験する。最終課題として、セキュリティ対策を行ったハードウェア作品を提出する。	
基幹教育科目	総合科目	セキュリティエンジニアリング演習（IoTセキュリティ編）	セキュリティを考慮したIoT機器のエンジニアリングを行うための知識と技術を演習形式で学習する。各講義は、座学と演習で構成される。座学では、初めにIoT機器の構成や知識を学びながら、IoTサービスを設計する手法を学ぶ。IoTに関する基礎的な知識を学習したのちに、ネットワークやウェブサービスやハードウェア等に対するサイバー攻撃の具体的な手法を学び、IoTサービスのどのような場所が攻撃されて、どのように防御策を施していけば良いのかを学ぶ。演習では、IoTサービスに対するサイバー攻撃を行い、対策の重要性を経験した上で、防御策を施す手法を体験する。最終課題として、セキュリティ対策を行ったIoTサービスを開発して提出する。	
基幹教育科目	総合科目	分子の科学	物質の究極の構成要素である分子の性質・化学反応性や合成法など分子科学の研究の現状を、3日間の集中講義形式で紹介する。1日目は、二人の講師が分子科学の最先端の研究成果をそれぞれ90分ずつ分かりやすく講義する。2日目と3日目は、受講した学生が実際に研究室に入り、先端設備に触れて動かし、先端分子科学の発展の内容を体験的に学ぶ。本講義では、無機化学から有機化学まで様々な専門を有する先導物質化学研究所の9研究室から一つの研究室を選び実験を行う。	
基幹教育科目	総合科目	「留学」考	本講義では、異文化間コミュニケーション、多文化教育、グローバルゼーション、留学と就職といった様々な角度から留学を捉えその意義を考えるとともに、日本人論や海外から見た日本なども紹介することで、自分の国を見つめなおし多様な文化や価値観を客観的に考える視点を養う。また、授業では留学生活の実際や問題解決の方法などについて積極的に話し合う。この授業を通して、日本人学生には「外」に飛び出していくことについて考えるきっかけを作ることを目的とする。留学生には、海外で学ぶことを客観的に見つめなおし自分の立ち位置を再確認するきっかけを作ることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	総合科目 Contemporary American Society: A Sociological Introduction	この講義では、現代アメリカ社会の主要な問題を社会学的観点から紹介する。主要テーマには、社会学における現代的な視点と重要な概念、社会階層化、貧困、ジェンダー、民族、家族、社会化プロセス、公式組織、その他いくつかの社会制度に関する問題を含む。このコースを修了すると、社会学の基本原則とともに、今日のアメリカ社会生活の様々な側面について基本的な理解を得ることができる。国境を越えた比較の視点からアメリカの社会の現在の課題と将来の展望を検討するために重要な批評的視点を涵養し、さらに強化することを目的としている。社会学や現代アメリカを学んだことのない学生が受講することを推奨する。	
基幹教育科目	総合科目 アイデア・ラボ I	多くのアイデアの中から、精査、選択の過程を経て実際に実行できるものは1つだけ。そうであれば、最初に出来るだけ多くを創出できなければ成果は得られない。本講義では身近な材料を用いながら、発散的技法を使い短時間で多くのアイデアを創出した上で、収束手法により最適なアイデアを選択する演習を行う。アイデア創出をグループ単位で行うことで、より良い解決策を発案するために、どのようにグループを刺激し活性化するかグループ・ダイナミクスのスキル向上の機会を合わせて提供する。一部の講義ではゲストによる講義も計画している。	
基幹教育科目	総合科目 アントレプレナーシップ入門	本講義では、アントレプレナーシップの基礎を学ぶ。アントレプレナーシップとは「変化を探し、変化に対応し、変化を機会として活用する」ことである (Drucker, 1993)。起業機会を発見あるいは創造し、それを創造性に富むアイデアで翻訳あるいは拡充強化することで具体化していくプロセスである。本講義では、このプロセスに沿いながら、起業機会の発見やアイデア創出、具体化の方法論の基礎を学ぶ。講義では必要な知識の伝達に加えて、ワークショップやグループワーク等を組み合わせた学生参加型の体験的な学習を重視する。	
基幹教育科目	総合科目 伊都キャンパスを科学する I (軌跡編)	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。I (軌跡編) では、世界のキャンパスと九州大学の歴史、構想に伴う調査と文化財を巡る課題と解決方法を学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目 伊都キャンパスを科学する II (現在編)	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。II (現在編) では、生態系と水循環を巡る課題と解決手法および施設のマネジメント手法について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目 伊都キャンパスを科学する III (展望編)	伊都キャンパスにおける環境と開発計画を主題に、新しいキャンパス像、建築像に関する理解を深めることを目的として、開発プロジェクトに関与する教員がリレー形式で担当する。III (展望編) では、学術研究都市構想とライフスタイル、水素エネルギー利用などの新技術の社会実装について学ぶ。	
基幹教育科目	総合科目 少人数セミナー	大学における学習への適応促進、学習意欲の向上及び人間的な交流の場をつくることによる人格形成の育成を行うことを目的として、九州大学の教員が、自己の専門分野に基づき、自主的に開講する。 (参考) 2019年度取扱いテーマ：「厚く薄い本を読んで考える」、「グローバル化とイスラーム」、「グローバル社会における北極圏：持続可能な社会への挑戦」、「乱流物理概論」	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史A	科学技術の成果は今や日常的にあふれかえっているが、無論のこと、人類の誕生時からこのような状況だったわけではなく、科学や技術は順を追って発達・展開してきた。本授業では、そもそも科学技術が人間の本質にとって持つ意味を検討することから始まり、先史時代から20世紀に至るまでの各時代・各地域の技術発展をみると同時に、それが社会・文化とどのような相互関係を持ってきたのかを考えていく。すなわち、単にあれこれの技術的成果物の生まれたいきさつを知るだけでなく、それが人間の思想や文化に及ぼした影響や、技術発展を支えた社会状況にまで目を配ることができるようになることを目指す。科学の歴史Aでは、先史時代から中世までを扱う。科学の歴史Bと併せて受講することが望ましい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	科学の歴史B	科学技術の成果は今や日常的にあふれかえっているが、無論のこと、人類の誕生時からこのような状況だったわけではなく、科学や技術は順を追って発達・展開してきた。本授業では、そもそも科学技術が人間の本質にとって持つ意味を検討することから始まり、先史時代から20世紀に至るまでの各時代・各地域の技術発展をみると同時に、それが社会・文化とどのような相互関係を持ってきたのかを考えていく。すなわち、単にあれこれの技術的成果物の生れたいきさつを知るだけでなく、それが人間の思想や文化に及ぼした影響や、技術発展を支えた社会状況にまで目を配ることができるようになることを目指す。科学の歴史Aでは、近代以降を扱う。科学の歴史Aと併せて受講することが望ましい。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	脳情報科学入門	本科目では、脳の情報表現や情報処理について理解するために基礎となる事項について講義、議論、演習を行う。①脳神経生理の基礎。②神経細胞および神経ネットワークの情報表現、数理モデル。③脳機能イメージングの計測法と解析法。④脳波の解析プログラムの作成、など。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	認知心理学	本科目では、人間の内部でどのような処理が行われているのかという問題について学ぶ。知覚、意識、記憶、感情、推論、意思決定、注意、ならびに時間と空間の認識などのトピックについて、従来の理論とともに最新の知見を知り、そしてそれらをどのように利用して未解決の問題に取り組むのかを考える。授業は講義と演習を織り交ぜた形式にて行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	Brain and Mind	意識とは何だろうか？知覚、記憶などを脳はどのように情報を処理しているのだろうか？これらの疑問は、心理学、哲学、神経科学、医学など、様々な角度から見ることができる。本科目の目的は、科学的な方法を用いて、オープン且つ創造的な方法でこれらの問題に取り組むことである。授業では、脳の構造と機能の基本原則、研究の現状、そして社会と福祉のためのこの分野の重要性に焦点を当てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	機械学習と人工知能	本講義では、何らかの方法で収集・蓄積されたデータに潜むパターンや構造を見つけ出す手法を与える機械学習を学習する。まず、機械学習と人工知能の全体像を概観する。そして、機械学習手法で解く回帰問題や分類問題などの問題を定式化したうえで、代表的な手法である決定木やサポート・ベクター・マシン、ニューラル・ネットワーク等を1つ1つ取り上げ、これらの基本的仕組み（アルゴリズム）を理解し、その応用例を概観する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と認識方法を用いて、現代社会の仕組み、文化の交流と摩擦、日本や国際社会が直面する社会問題等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の社会科学の理論と認識方法を用いて、現代政治の問題、国民国家のあり方、グローバル社会における国際関係等について講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代社会Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会・文化・市民の観点から、現代社会に関する認識を深める。そのために、最新の人文社会科学の理論と方法を用いて、現代社会の仕組み、市民的公共性にもとづく社会制度のあり方、多文化共生社会を生きる技法等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅰ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも社会と文化の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、歴史学や思想史研究による資料の分析をふまえて、近代化と社会変容、異文化交流の歴史、社会思想の歴史的展開等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅱ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも政治と国際社会の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、社会科学による資料の分析をふまえて、政治思想と国家体制の歴史的展開、国際紛争と国際協調の歴史等について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅲ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。本科目は、そのなかでも法と政治の観点から、近現代の歴史に関する認識を深める。そのために、憲政史及び司法制度史研究による資料の分析をふまえて、立憲主義や法治国家の歴史的展開と意義、近現代における「不法国家」の歴史等について講義する。	隔年
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	現代史Ⅳ	近現代の歴史と社会に関する認識を深めることは、すべての学問にとって重要である。「現代史」とは、今日、「現在」の歴史ということに留まらない意味を含みつつある。近代以降、「歴史」とは「国民国家」を単位として世界を捉える方法として、また「国民形成」の手段として位置づけられてきた。しかし20世紀末より、「グローバルヒストリー」や「地域史」が提唱されるようになり、「歴史」の位置づけ自体が変容しつつある。そこで本講義では、冷戦期の東北アジア地域を対象として、そのような変化がどのように生じてきたのかを検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	EU論基礎—制度と経済—	EU(欧州連合)は、1951年のECSC設立条約調印以降60余年の歴史の中で、域内市場や単一通貨を実現し、構成国数も当初の6カ国から28カ国になるなど、いまや世界の中で際立った存在となっている。この講義では、EUの基本的なことがらについて、政治学・経済学の視点から総合的に学ぶ。制度編では、EU発展の歴史、組織と制度の展開、加盟国との関係、主要な政策分野などを、また経済編では、EU経済統合の展開やEU経済の現状などを、それぞれ学ぶ。講義を通じて受講生は、EUに関する基礎的な知識を幅広く習得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と産業・企業	スマホやネットの急速な普及からも実感できるように、技術進歩は私たちの日常生活や経済活動に大きな影響を与える。こうした技術進歩は、例えば18世紀の産業革命など世界の経済史が示すように、いつの時代も経済システムを大きく変貌させる原動力となってきた。この授業では、技術変化が産業や企業に及ぼす影響の事例や現象を具体的にひも解きながら、経済システムの基本メカニズムを解説し、イノベーションの渦中にある現代社会を読み解く手がかりを学んでいく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	金融と経済	我々は、金融に関するビッグニュースを頻りに耳にする。このことは、金融が円滑に機能しないと、実物経済や日常生活も円滑に機能しないことを意味している。本講義では、金融は経済においてどのような役割を担っているのか、どのような金融取引が行われているのか、金融政策や規制のあり方、日本の金融の特徴と変化等のテーマについて、基本的な仕組みと考え方を理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	サイバー空間デザイン	近年、Webとスマートデバイスの発展と普及により、サイバー空間は社会のインフラストラクチャとして重要な役割を果たすようになった。この授業では、サイバー空間の歴史とそこで利用されている基礎的な技術について説明する。また、最新のサイバー空間に於ける様々なサービスと、それに関連する先端技術の動向を紹介し、これからのサイバー空間をデザインしていくための方向性について考えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	芸術学概論	芸術の歴史は、常にそれを語る言葉とともにあった。あるモノや現象を前に、それを豊かに感受し、批判的に分析することは、それにふさわしい記述によってはじめてかたちを成す。本講義では、芸術学や美術批評など、芸術や美、創造力をめぐる多様な言説のあり方について具体的テキストを参照しつつ学んでゆく。それによって、自分なりの考察を育み表現する術を身に付ける。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	音楽・音響論	この授業では、19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアの成立という観点から、具体的な事例を確認し通覧する。音の文化と技術との密接な関わりを、実演と音源の視聴を通じて確認すると共に、グループでのディスカッションにより考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	デザインと観察	デザインと観察は、問題を発見する方法として、観察を理系文系双方の観点から取得する。それは問題解決の方法や未来の創造へつなげるものである。観察は対象を知るために、それを注意深く見て、その状況や様子や変化を記述することである。そして新たな事柄を発見することでもある。これは科学の基本であり、芸術の手法でもあり、事実を確認したというその発見と知見は広く深いクリエイティビティに確実につながる。また、主観や客観の混在する観察をとりまとめ、新たな事柄を導くことは科学・ものづくり・芸術工学の真髄でもある。講義だけでなく毎回様々な観察しながら様々な方法を体験し、学際的な知見とアプローチを取得することも目的とする。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境問題と自然科学	我々の周りを見まわしてみると、実に多くの物質が存在する。それらは、天然のものばかりでなく、人工的に創り出されたものもたくさんある。これらのほとんどは、我々の生活を豊かにするために大きく貢献したが、その反面、環境問題を引き起こしたのも起こしつつあるものもある。ここでは、科学の発展に伴って生じた環境問題に焦点をあて、環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決にむけたさまざまな取り組みを紹介する。環境問題に対する科学的な捉え方、その定量的計測法、問題解決に向けた様々な取り組みを理解し、得られた知識から、21世紀において人類と科学技術およびそれから発生する地球環境問題について自ら意見を発する態度を養う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	環境調和型社会の構築	エネルギーや物質を大量に消費することにより高度成長を遂げてきた現代社会が、地球環境保全やエネルギー資源問題で最大の難局に直面していることは現在広く認識されている。地球環境を破壊すること無く現代社会を維持して行くための科学技術や社会システムは如何なるものだろうか。本講義ではこれらの問題についての現状把握と将来展望について解説する。本講義により以下の能力を養う。 <ul style="list-style-type: none"> ・公害・環境問題の歴史、そこから得られる教訓を説明できる。 ・環境容量や自浄作用を説明できる。 ・汚染の機構と汚染が人間や生物、生態系、その他の事物へ及ぼす影響を説明できる。 ・環境政策の手法を説明できる。 ・環境調和型社会の構築のために必要な技術やシステムを説明できる。 ・汚染を減ずるため、あるいは、循環資源化のための技術およびシステムを適用できる。 ・良好な環境や持続可能な社会、環境と調和した社会を創造するための方法を提案できる。 ・問いや課題の主旨を理解し、自身の考えを、論理的に、かつ、ポイントを絞って簡潔に文章で表現できる能力を涵養する。 ・他者が理解しやすい発表資料を作成し、発表する能力を涵養する。 ・環境倫理観を涵養し、その重要性を説明できるようになる。 ・環境調和型社会の重要性を理解し、その構築に向けての社会的責任を自覚する。 	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	グリーンケミストリー	現代の社会では、膨大なエネルギー消費と資源消費によって、エネルギー不足や資源枯渇が、深刻な問題となっている。グリーンケミストリーは、従来のエネルギー消費型の工業プロセスに対して、環境への負荷がより小さな化学技術であり、今後の持続社会の構築にとって、不可欠な化学技術である。本講義では、このような最新のグリーンケミストリーを理解するために、ナノテクノロジーやバイオテクノロジー等の最先端化学技術について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	自然災害と防災	私たちが住んでいる日本は、地震、火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、地理的、地形的、気象的諸条件から、台風、豪雨、豪雪等の自然災害が発生しやすい国土となっている。自然災害を未然に防ぎ、災害による被害を最小限に抑えるための法・組織体系、国や県による防災計画、災害・防災情報の収集・伝達システム、住民および企業ができる防災活動など私たちが安心・安全な暮らしをするのに不可欠な防災・減災に関する総合的な社会システムについて学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能 I	本講義では、生態系（エコシステム）を理解する上で必要な基礎事項を学ぶ。生態系の規模は地球上の全生物を対象とする巨大生態系から個体を対象とする比較的単純なものまで様々だが、具体例を見ながら、まずこのことを理解する。続いて、生態系レベルで見た場合のその基本構造と機能について解説しながら、陸上と海洋生態系の共通点と違いについて講義する。また、我々人間の生活する場である都市、あるいは農林業水産業における生産の場も、それぞれの生態系として考えることが可能であることを学習する。そうすることで環境や公害といった問題を生態系という視点から理解できるようにもなる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生態系の構造と機能 II	生態系を理解する上で必要な基礎事項を講義する。生態系の構造と機能 I では、主に生態系レベルでの構造と機能に注目するが、本講義ではよりミクロなレベルでの生物間の繋がりと相互作用について焦点を当てる。まず生物間の繋がりはそれぞれの立場から見た場合の利害関係によって簡単に記述できることを学習する。そして具体的な例を多数提示することで、多様な生物間相互作用を概観していく。さらに、生物多様性についても講義し、生物間の相互作用が生物多様性を決定することについても解説する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	男女共同参画	私たちは性とそれによる差異をいろいろな形で受けとめながら社会をつくっている。性を組み込んだ制度や文化は常に身近にあり、しかもそれらは時として抑圧的にまた差別的に、私たちに迫る。この問題はジェンダーとして議論されてきた。この科目では、文芸、メディア、社会制度などを通じてジェンダーが形成されてきた歴史や、職業や家族などの諸領域におけるジェンダーの現状を分析しながら、よりよい性と社会のつきあい方、その中でのよりよい職業・社会生活を探る。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ボランティア活動 I	社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的立場づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立することを目標とする。このために、教育的要素と教育的効果が認められるボランティア活動を学外における学修活動の成果として単位認定する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ボランティア活動 II	社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的立場づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立することを目標とする。このために、教育的要素と教育的効果が認められるボランティア活動を学外における学修活動の成果として単位認定する。ボランティア活動 I の履修が前提となる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インターンシップ I	社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的立場づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立することを目標とする。このために、教育的要素と教育的効果が認められるインターンシップを学外における学修活動の成果として単位認定する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インターンシップⅡ	社会における市民としての社会連携活動の意義を理解し、社会への関心を高め自己の社会的位置づけを認識することにより、大学における修学活動の重要性を再認識するとともに、学問と社会との関わりについての知見を深め、学生であることの目的意識を確立することを目標とする。このために、教育的要素と教育的効果が認められるインターンシップを学外における学修活動の成果として単位認定する。インターンシップⅠの履修が前提となる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	漢方医薬学	西洋医学とは異なった医学体系を持つ漢方医学に関する基本的な理論、診察方法を理解する。さらには代表的な方剤の適正使用や副作用、現代医療における漢方医学の位置づけについての理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	チーム医療演習	医療従事者間の連携を主題とし、それぞれの職種を目指す学生が、将来、より効果的なチーム医療を実施できるようになるために、互いの役割と特性を理解し合い、活かし合うことを学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床イメージング	MRI検査および超音波検査の画像の成り立ちを原理から学び、アーチファクトの成因やその改善法を習得する。MRI検査に関しては、検査の安全性や注意点などを概説し、検査目的と各種撮像法と対象臓器・疾患との関係を理解する。またアーチファクトの成因とその改善法を習得する。超音波検査に関しては、その特性を理解し、検査対象となる臓器とその基本的な走査法での画像を理解する。また、超音波検査が特に有用な代表的疾患に関しては、その病態を理解し、画像的特徴を説明できるようになる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と健康	保健統計の基本的指標と我が国における動向、疫学の基本、および主な疾患の現状と推移、並びにそれらに対する予防的対策について理解する。後半の講義では、化学物質による事故や犯罪を究明するための領域である「裁判化学」の基礎を修得する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	国際保健と医療	本授業では、広い視野に基づいた人々の健康と生活に対する関心を高めることを目指し、保健学部が取りくんでいるアジア地域を中心とした各国との連携を基盤として、国際社会における保健と医療に関する現状と課題を探究する。国際保健の観点からは、災害を含めて、人々の健康に影響を与える地域社会・環境や文化を、日本の現状との比較を通して理解を深める。また、急激に変化する社会のなかで生活する人々の身体的・心理社会的側面から、医療における安全と安心に向けた課題を国際的な観点や基準などを踏まえて検討する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アクセシビリティマネジメント研究	本講義では、平成28年度からの大学における合理的配慮の義務化を念頭において、学生の相互援助力を高める支援マネジメント力を身につけた人材を養成することを目的とする。具体的には、大学で求められるコーディネート業務や支援学生の養成等について学ぶ。また、障害のある人の権利を尊重し、これを侵害するバリア（社会的障壁）を除去し、その個性と能力が発揮できる環境整備のあり方について考える。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	地球の進化と環境	地球史を通じた物質循環・表層環境・生物進化を理解するための、基礎的知識と具体的研究例を解説した上で、様々な時間スケールで起こる気候変動のプロセスと地球史での重要なイベントについて具体的に講義する。また、現代社会が直面する地球温暖化やエネルギー問題の実態と背景について、考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化A	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じるが、特にAでは生物多様性のうち昆虫と、環境にかかわる諸問題のうち持続可能な発展について講義する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	生物多様性と人間文化B	生物多様性と人間文化A/Bでは、生物多様性と、人間と環境との関わりの地域的・文化的多様性、および環境、食料、資源エネルギーにかかわる複合的諸問題を軸にした、生物環境科学の学際探求を論じる。特にBでは主として生態系サービスの概念に着目して、人間による植物や昆虫などの資源利用、生物多様性と人間活動との関わりの事例を紹介する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	遺伝子組換え生物の利用と制御	様々な生物の遺伝子を組み替える分子基盤と基本的な技術を、その発展の歴史を含めて概説する。さらに、様々な微生物、植物、動物における遺伝子組換え体の具体的作製法とその産業利用の可能性を紹介し、遺伝子組換え生物に関する俯瞰的な知識を身につける。また、医食の安全性および環境問題等と遺伝子組換え生物との関連にも触れ、遺伝子組換え生物を人類の福祉に適正に応用する方策に関する理解を深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	バイオテクノロジー詳論	今日のバイオテクノロジーの基礎である分子生物学やバイオサイエンスを背景とした最新の生命操作技術や実験手法を解説する。特に、酵素利用技術、バイオリアクター、分離工学などの分野からヒトゲノム計画やポストゲノム時代の研究の基礎と応用などの最新分野にわたる幅広い研究の現状を紹介し、バイオテクノロジーが人間社会に与えるインパクトについて多面的な理解を促す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	平和と安全の構築学	自由で民主的かつ公正な政治秩序のあり方、平和構築や国家建設支援のあり方、リスク社会の安全管理、地域経済のあり方を軸にした国際協調と安全構築の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	文化と社会の理論	文化と社会の変容や動態を説明する理論、それらの問題を実証的に論じる社会科学方法論について、文化と社会の理論の構築に大きな役割を果たした理論家とその基本概念に重点を置きながら講義する。それにより社会共生の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアと日本ーその歴史と現在ー	考古学を中心とした人類史研究、広域東アジアとして歴史過程を探求する歴史学、現代アジアの広域秩序のダイナミズムをとらえる人文社会科学を軸にした東アジアと日本の学際探求を論じる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法文化学入門	いわゆる法律学・法解釈学とは異なる手法を用いて、現代法システムを理論的に分析する方法論＝アプローチには、さまざまなタイプのものが存在する。本科目は社会システム理論に軸足を置きながら、そうした多様な法理論／現代社会理論の諸潮流を概観し、それらが現代社会を生きる私たちにとって現実にかいなる意味を持ちうるのかを、具体的事例を手掛かりにしつつ考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	法史学入門	法の歴史に関する認識を深めることは、法や社会を正しく理解するために極めて重要である。本科目は、法の歴史に関する基礎的な知見を広げるとともに、世界の代表的な法文化における法の歴史的特質に関する理解を深めること等を目的としている。この目的を達成するため、日本法制史・東洋法制史・ローマ法・西洋法制史の観点から、法の歴史の重要ポイントに関する入門的講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	ローマ法史	ローマ法は西洋にとっては所与であった。彼らの理想とする政体は共和政であり、彼らが裁判で用いる法はローマ法そのもの、あるいはその影響を受けた法であった。古代ギリシア人が政治の天才とするなら、ローマ人は法の天才であったと言えよう。そのようなローマ法がいかになりて成立し、展開して行ったのか、どのような統治制度を有していたのか、刑事法は、ローマ法の中心である私法から、どのように分離して行ったのかを考察する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	東アジアの政治と社会	本講義では、「政治」と「社会」という二つの領域から、21世紀において最も成長と発展の著しい地域となると期待されている東アジアについての理解を深めていく。「政治」の領域として東アジアの地域統合・地域主義の形成を、「社会」の領域として東アジア各国の市民社会の形成をそれぞれ考察する。これらの考察を通じて、東アジア地域の中で政治と社会のそれぞれの領域がどのような役割を担い、そこにはどのような相互作用があるのかを検討していく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	プレゼンテーション基礎	本講義では、基礎的・汎用的能力の一つとしてプレゼンテーション能力を捉え、講師が開発した並行反復学習法によるプレゼンテーション教育を行う。並行反復学習法では、A「知識領域」（テーマ）においてB「発表技術」とC「マネジメント」を並行して学習し、AからCを1セットとして2セット反復することで、様々な場面で応用可能なスキルを確実に身に付ける。プレゼンテーションの活動の中で、自己理解、グループディスカッション、リフレクションについても学びを深める。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	レトリック基礎	レトリックは修辞技法ともいわれ、弁論や文章の表現技法を指す。この「レトリック基礎」では、文章表現に焦点を絞り、言語を用いていかに学術分野にふさわしく効果的な表現をするかを学ぶ。授業は集中講義形式で、前半では日本語、後半では英語による文章の書き方を学ぶ。前半の和文の技法では、卒論を含む学術論文の論理展開や、研究予算の申請書を作成する際のポイントなどを扱う。また後半の英文の技法では、英語論文を書く際の即戦力になるように、英語論文の基礎以外に、日本人に多い英語表現の誤りや文法のミスなども扱う。まだ英語論文を書いたことのない学部生はもちろん、実際に執筆中の大学院生にも役立つような講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	共創発想法	デザイン思考（Design Thinking）とは、これまでデザイナーが培ってきたスキル（人間中心デザインに基づいた製品開発手法）を、より幅広い問題に適用して、イノベーションを起こすために、主として経営者やエンジニアなど非デザイナーを対象として用いる発想法である。非デザイン系の多くの人々は、文字で考える思考法に慣れており、スケッチを描くことをしない。しかし、「描きながら考える」ことで、文字だけで考えていたのでは思いつかなかったアイデアが生まれる。この講義では、企業が商品開発の際に使用している具体的な課題や、自治体や地域コミュニティが市民参加型デザインによる地域づくりの課題をデザイン思考により解決する発想法を学ぶ。課題の発見のための観察調査、立場や専門分野の異なる人との課題解決のためのワークショップ、そしてスケッチによる解決策の提示とその検証方法をグループで実施する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	データマイニングと情報可視化	本講義では、大量のデータから、有用なパターンや知識を発見する、データマイニングの手法や、データを視覚に分かりやすく表示する、情報可視化の手法を習得する。近年、コンピュータやインターネットの発達により、インターネット上の商取引や購買履歴、銀行口座の管理などで、大量のデータを利用することが可能となっている。データマイニングでは、これらの膨大なデータを解析し、特徴的なパターンや傾向を抽出することで、マーケティングや経営戦略に役立つ予測を行う。膨大なデータを扱ううえで、直感的に解析結果を理解する手法の開発は欠かせない。情報可視化では、解析結果を効果的に可視化し、その有用性を伝達する手法を学ぶ。また、データ間の関連性をネットワーク構造で捉えて分析を行う、社会ネットワーク分析や、データを地図上に表示する、地理情報システムなどについて学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	技術と倫理	私たちの社会における人間と技術の関係が、現在どうなっているか、これからどうあるべきかについて考察する。大規模事故のリスク評価、医療における生命倫理、サイバー法・知的財産権とイノベーションの関係、等の具体的事例も手がかりにしながら、「技術とは何か」を哲学・倫理的に捉え直すことを目指す。毎回参加者からの意見を取り入れながら授業を進めていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	医療における倫理	「生命とは?」「医療倫理とは?」「薬とは何か?」「将来何をを目指すのか?」等々、本講義は、医療人としてあるべき姿を、体や薬にまつわる様々な話題を提供して、討議していく。幅広い倫理観を醸成するために、現代医学、東洋医学の概論についても講義し、現代医学の問題点、東洋医学との相違点についても討議する。また、倫理にとどまらず、広く薬学・薬剤師についても講義する。誕生に関わる倫理的問題、死に関わる倫理的問題、薬とは何か、医療人としての倫理観、医療人・薬剤師の職能や倫理的問題、医療人としてあるべき姿や現代医学の問題点、東洋医学との相違点について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	研究と倫理	現代社会の様々な問題に関して、各受講者が学びつつある専門分野での知見をいかに活用して、その問題をより正確に捉え解決の方策を探れるのか議論する。異なる専門同士の受講生が文理問わず各自の知見を持ち寄り、互いの視野を広める機会とするとともに、自分の研究が社会とどのような関係を持ちうるのかを改めて考え直す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会と倫理	倫理学者と言えば、アリストテレス、カント、ミルなどのような西洋の哲学者の名前が思い浮かぶだろう。しかし、近年の欧米で、日本哲学もグローバルな哲学として論じるようになってきた。和辻哲郎は日本近代倫理学者で、「日本的」な考え方の持ち主だが、彼の諸アイデアは世界中の様々な課題に応用できる。「個人と社会がどう関わるべきか。倫理に関する異文化の衝突をどうすればよいのか。国際関係とグローバル化をどう考えればいいのか。」和辻の倫理学は、このような問題に対する示唆に富んでいる。この授業は「グローバルな哲学としての日本哲学」というアプローチをとりながら、和辻哲郎の倫理学を学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	インフォームドコンセント	日常医療および臨床研究におけるインフォームド・コンセント（以下IC）について、患者側、医療者側からの視点や法的な側面に関する講義、ICの場面のロールプレイ、個人または学部学科の枠を超えたグループによる考察や討論などを通して、ICを得ることの大切さ、難しさを実感し、今後の医療活動に役立てる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	臨床倫理	ロールプレイ主体の授業を実施し、実地医療における倫理的課題について、事例を題材にした学部混成の小グループ学習を行うことにより、医療者としての対応の難しさを実感するとともに、チーム医療の基盤について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・会計/ファイナンス基礎	会計とファイナンスの基礎を学ぶ。企業やNPOが事業を営むうえで、収益とコスト、資産状況を適切に管理し、健全な経営状態を保つための手法としての会計の基礎が主な学習対象となる。具体的には、財務諸表と呼ばれる「損益計算書」「貸借対照表」「キャッシュフロー計算書」の読み方を、様々な実例と会計クイズを通して学習する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・戦略論基礎	企業経営だけではなく、NPO等も含む幅広い組織における戦略論の基礎を学ぶ。「戦略」とは、使える資源と時間が限られたなかで目的を達成するための手段である。組織を取り巻く外部環境を踏まえたうえで、持続的に競争優位をつくりだし、組織を成功に導くために戦略がいかに有効なものとなりうるかを理論と実例（ケース）を通して学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・組織論基礎	経営学の4分野の1つ。本講座では組織論の基礎を学ぶ。組織論は、社会科学上の組織の研究分野である。組織は外的・内的な混乱や緊張に絶えず直面しており、それを解決するための新しい考え方や行動様式を選択し採用していくことで創造的に進化していると捉えられており、本講座では組織論の各論を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、組織運営の応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	アントレプレナーシップ・マーケティング基礎	経営学の4分野の1つ。本講座ではマーケティングの基礎を学ぶ。マーケティングとは、企業などの組織が行うあらゆる活動のうち「顧客が真に求める商品やサービスを作り、その情報を届け、顧客がその価値を効果的に得られるようにする」ための概念である。顧客のニーズを解明し、顧客価値を生み出すための経営哲学、戦略、仕組み、プロセスが含まれる。本講座ではマーケティングの基礎を学んだ上で、現実社会の事例を取り上げて議論を重ねることで、マーケティングの応用力の習得を目指す。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅰ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの二部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。事業創造デザイン特論Ⅰの前半においては、事業創造する上で必須となる特許、契約、ファイナンス及び事業マネジメントに関する基礎を学ぶことができる。後半では、地域活性化の取組事例の紹介を通じて事業創造に必要なフィールドワーク及びプレゼンテーションの基礎知識を得ることができる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	事業創造デザイン特論Ⅱ	本講義は事業創造デザイン特論Ⅰ、Ⅱの二部で構成される。事業創造デザインについて深い理解を得るために両授業の受講を推奨する。組織における業務（特に、課題への対応）は他者と協働して進めることが一般的である。また、課題解決にあたっては課題周辺の観察・調査が不可欠である。事業創造デザイン特論Ⅱにおいては、課題現場（唐津市）の見学及び自治体職員へのヒアリング、課題の分析をグループ単位で実施し、纏めた内容を発表する。本講義の履修を通じて、グループワークの方法、課題調査の方法及びプレゼン方法の基本を学ぶことができる。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学A	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方を解説を行う。社会統計学Aでは、相関係数、主成分分析、判別分析について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会統計学B	社会調査に必要な記述統計、推測統計、多変量解析法について修得する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、重回帰分析、分散分析、パス解析、対数線形モデル、因子分析などの計量モデルの基本的な考え方を解説を行う。社会統計学Bでは、重回帰分析、因子分析について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅠA	質問紙調査の際、統計的データをまとめたり分析したりするのに必要な、基礎的な統計学的知識を教授する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、クロス表の統計量、相関係数、偏相関係数、回帰分析の基礎などを講義し、統計ソフトRを用い、実際に計算をする演習を行う。量的調査として、社会調査法や心理測定法を中心に、これらの歴史的背景、知識、意義、問題点等について講義する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。具体的には、分布に関する記述、2変数間の関連について講義を行う。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅠB	社会調査法や心理測定法の知識に基づいて、調査票を設計・作成し、その調査票を実施する。また、調査データを分析する際に必要となる統計学の基本的事項を学習する。具体的には、統計的検定の理論、2群の平均値に関する分析、多群の平均値に関する分析について講義を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡA	質的データの収集と分析について講義と演習でもって修得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ドキュメント分析、ライフストーリー分析など)を紹介し、実際に演習を行う。社会学における「社会」のとらえ方と、質的/量的社会調査法について概説する。社会調査法ⅡAでは、社会学における「社会」のとらえ方、質的調査の意義と目的、2つの社会調査の特徴と差異の解説、質的調査における問題設定と調査計画、フィールドワークとその歴史、フィールドワークの内容と特徴、エスノグラフィーやインタビュー、アンケート調査などとの比較について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	社会調査法ⅡB	質的データの収集と分析について習得する。質的調査に関する概要を解説したのち、さまざまな収集・分析法(フィールドワーク、聞き取り調査、参与観察、ライフストーリー分析など)を紹介する。質的調査に関する知識を身につけ、その内容・特徴などについて正しく理解する。社会調査法ⅡBでは、参与観察の手法と特徴、聞き取り調査の種類と内容、ライフストーリー分析、テキストマイニングなど質的調査におけるデータ分析、フィールドワークにおけるマナーと調査地被害、国内と海外における調査事例について学ぶ。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育学特論	本講義では、近現代の日本における教育を対象とした教育学ならびに関連分野の研究成果をテーマごとに解説する。ここで教育の歴史を中心とした内容を取り上げるのは、今日の教育活動を形成してきた歴史的、社会的条件を明らかにすることが、現行の教育システムの在り方を捉えなおす手助けになると考えるからである。そのためにも、ここでは制度上の変化だけでなく、メディアに現れた教育言説や、学校における教育方法の変化もふまえて、日本の教育の変遷を複眼的に捉えていく。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	教育心理学特論 (教育・学校心理学)	本講義では、人間の成長や発達を教育心理と学校教育の立場から考える。今、学校で起きている問題を中心に、発達段階ごとにいじめや、不登校、虐待、貧困などの理解を深めると同時に新たな学習の在り方について、事例をとおして具体的に学ぶ。また、教師の熟達化や学習科学の最新知見も加え、学校現場における子どもの課題や問題解決に必要な知識の習得並びにより有効な教授・学習方法について理解する。	
基幹教育科目	高年次基幹教育科目	日本国憲法	日本国憲法についての基本的な知識を講義する。「憲法」という法は、誰に宛てられた法であり、何を定めている法なのかを、近代立憲主義思想を手がかりに検討する。具体的事例を参照しつつ、日本国憲法と現実社会との関わりについて扱う。憲法の基礎的概念・原理の意味や、基本条文の内容を理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン基礎	デザインリテラシー基礎	芸術工学の共通基盤として、芸術工学がいかなる価値を実現しているかを学び、デザイン応用力を支える基礎的なリテラシーを形成する。まずはじめに、芸術工学部の理念、歴史、学科構成等について解説し、次に、デザインリテラシーの基礎について、各5コースの専門領域に沿った形で講義・簡易演習形式で学ぶ。講義内容については各コースの概要等を解説し、簡易演習については各コースの専門性を含め、座学中心にならないように留意する。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン基礎	基礎造形 I	多様な認識のあり方を獲得するためにデッサンの基礎を学ぶ。また、美術に必要な発想法と、絵画における表現方法を学ぶ。基礎的な美術理論と美術史、技法、素材の特徴を分析し、自らの表現コンセプトを構築する。点・線・面および明度・彩度・色相に対する理解を基に、芸術作品におけるこれらの役割について考察し、作品に展開し解説する能力を養う。制作実践を通じて自らと他者の感性を客観的に認識し、表現の多様性と、自身の手によって生み出される作品価値を再認識する（平面）。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン基礎	基礎造形 II	工作工房設備の活用法を理解すると共に、デジタルファブリケーションと従来の伝統的技法の双方の特性を体験的に学ぶ。各種設備に対する安全教育を前提に、従来の木工、金工、溶接などの伝統的技法とデジタル機器を融合した新たなモノづくりの実践として、平面及び立体を対象とした、プログラミングによるデータの生成、デジタル機器によるデータの物理化、さらにその形状の手による再現を行い、計算論的思考と実践による体現との組み合わせによる創造のプロセスを習得する。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン基礎	基礎造形 III	創造性をさらに発展的に育むために、基礎造形 I、II の履修者を対象に、その応用的展開として、造形的能力を発展させ、造形美術を創造するための技術を学ぶ。基礎造形 III では、形の抽象化、量感、質感、構成を理解し、造形美術を制作する。造形美術を創造するための彫刻表現技法や、素材（木、石、金属等）への知識、立体的思考力を習得する。自然の美しさを観察し、形の美への意識や、3次元空間および身体性に対する感性を養う（立体）。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン基礎	基礎造形 IV	基礎造形 I、II の履修者を対象に、その応用的展開として、大型木工用CNCやウォータージェットカッターなどを活用した複合的な制作を行う。パーソナル・ファブリケーションやメーカームーブメントといった、新たなモノづくりと、木工、金工、溶接といった従来のモノづくりの技法、双方への理解を踏まえ、新たな知や技術だけを取り入れる、又は伝統的な手法に固執するという新旧の断絶ではなく、両者の滑らかな行き来を実践を通じて習得する。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン	文化とデザイン	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、人文学・社会科学・人間科学・科学技術のそれぞれの観点から、デザインと学知の関わりに関して包括的な講義を行う。「人文学とデザイン」の観点については、デザインに関連する古典的・現代的著作に基づき、文化のうちにある人間について、その行為の意味を解釈する人文学の多様な視点から、人間をとりまくデザインの現状やその可能性について多面的・融合的に学ぶ。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン	社会とデザイン	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、人文学・社会科学・人間科学・科学技術のそれぞれの観点から、デザインに関わる学知の関わりに関して包括的な講義を行う。とりわけ「社会科学とデザイン」の観点については、デザインに関連する古典的・現代的著作に基づき、他者と関わりあう人間のありかたについて、その関係の法則性を解明する社会科学の視点から、人間をとりまくデザインの現状やその可能性について多面的・融合的に学ぶ。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン	人間科学とデザイン	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、人文学・社会科学・人間科学・科学技術のそれぞれの観点から、デザインと学知の関わりに関して包括的な講義を行う。「人間科学とデザイン」の観点については、生物としての人間理解がモノ・社会・環境などのデザインに果たす役割を理解する。最新の人間科学（ヒューマンサイエンス）によって明らかにされるヒトの生理的、行動的、心理的な特徴がデザインの根拠となる様々な過程を実例などを通して融合的に学ぶ。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン	科学技術とデザイン	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、人文学・社会科学・人間科学・科学技術のそれぞれの観点から、デザインと学知の関わりに関して包括的な講義を行う。生物としての人間について、それを数量的・工学的にとらえる視点、たとえばAIやIoT、生命情報技術などの先端技術の視座を軸として、技術の進化やその変容を取り込みながら、人間をとりまくデザインの現状やその可能性について融合的に学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン論	デザイン論Ⅰ	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、デザインを根底的・概念的・理論的に思考する基礎デザイン学のための素養を育む。とりわけ、「アフォーダンス」、「ブロックセミクス」、「パタン・ランゲージ」、「グリッド」、「セマンティクス」、「アブダクション」、「スペキュラティブ」といったデザインの基礎概念に関する講義受講し、指定された定形のフォーマットで自己の資料として利用可能なノートを作成させる。こうした作業を通じて、基礎デザイン学の基盤的、あるいは先端的な概念を学習し習得する。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン論	デザイン論Ⅱ	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、デザインを根底的・概念的・理論的に思考する基礎デザイン学のための素養を育む。「美」、「福祉」、「人類」、「言語」、「印象」、「生物」、「プロトコル」、「配置」といった現代のデザインの基軸となる主要なテーマについて複数の観点から論じる講義を受講し、指定された定形のフォーマットで自己の資料として利用可能なノートを作成させる。こうした作業を通じて、現在のデザインのありかたを理解し、他者とコミュニケーションをとる共通概念の土台形成を目指す。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン論	デザイン・ケーススタディⅠ	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、具体的なデザイン実践事例をとりあげ、それを様々な視点から分析/論評することを通じて、デザイン制作の現場とその実際について実践的に学ぶ。デザイン・ケーススタディⅠにおいては、各コース卒業後の進路についてイメージしてもらい、芸工での学習へのモチベーションを高めるために、各コースの卒業生が、実社会でどのような仕事や研究を行なっているか、その年の旬な取り組みを具体的な事例を挙げながら紹介する。	
専攻教育科目	リテラシー科目 デザイン論	デザイン・ケーススタディⅡ	芸術工学の理念やアイデンティティに関わるデザインリテラシーを育成するために、具体的なデザイン実践事例をとりあげ、それを様々な視点から分析/論評することを通じて、デザイン制作の現場とその実際について実践的に学ぶ。デザイン・ケーススタディⅡにおいては、世の中や業界の動向を知り自分の進路についてイメージを持たせるために、実社会の最前線で活躍しているデザイナーや研究者が、それぞれの分野の現在の状況や未来の展望についてどのような考えを持っているか、具体的な事例を挙げながら幅広く紹介する。	
専攻教育科目	コース基礎科目	環境設計基礎Ⅰ	建築およびランドスケープの実測・スケッチ・観察等を通じて、建築・ランドスケープを含む環境をさまざまな観点から読み解き、表現する手法を学ぶ。前半は建築の外構・景観や、植物や緑地環境をテーマに、手元のスケールから広域スケールの観察にもとづいて、小スケール図面やスケッチ、建築景観図を作成する。後半は教室・廊下等の実測や、図面と実際の建物との対比等を通して、建築の内部空間・外部空間のスケールや使用されている素材について学ぶ。 (オムニバス方式 全8回) (21 朝廣和夫/4回) 建物周辺の身近な緑地環境を対象に、観察、記録(スケッチ)、景観図の作成を行う。 (34 加藤悠希/4回) 授業を行う教室、廊下等の身近な建築空間を対象に、実測、記録、図面との対比等を通し、建築のスケールや素材を実感させる。	オムニバス方式
専攻教育科目	基礎科目 コース	環境設計基礎Ⅱ	優れた建築作品・ランドスケープ作品や基礎的な文献、あるいは身近な都市空間・環境等を素材として、「建築・環境の基礎概念」および「建築・環境計画・設計のアプローチ」について、講義とディスカッションを行う。環境設計という学問分野・領域の概要と基礎を理解すると共に、教員および学生同士のコミュニケーションを通して環境設計の魅力を伝え、これから始まる環境設計の学習に対するモチベーションを高めることを目標とする。	
専攻教育科目	基礎科目 コース	空間デザイン実習	建築とランドスケープの設計に必要な基礎的な技術として、器具を用いた測量およびコンピューターによる作図・デジタル画像を学ぶ。測量を通して環境設計の具体的な側面にまず触れて、スケールを体感しながら空間や場所を実体として理解する力をつける。それとともに、設計プロセスの中で用いられるCAD/CGの表現技術を学ぶことで、検討やプレゼンテーションのためのツールとして使いこなし、他者に空間を提示・説明できるようになることを目標とする。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	基礎科目	環境設計プロジェクトA	設計教育のはじまりにあたり、前半では優れた建築作品・ランドスケープ作品を通して空間構成・表現のさまざまな手法を紹介する。学生はそれぞれ優れた作品の模型製作を行って空間を分析し、あわせて模型表現の手法も学ぶ。さらに後半ではその成果をふまえて独立住宅の設計を行う。自ら空間をデザインし、それを模型・図面等で表現する能力を養うとともに、学生間あるいは教員とのディスカッションを通じて自らの設計を展開させていく手順を学ぶことを目標とする。	共同
専攻教育科目	基礎科目	環境設計プロジェクトB	与えられた敷地において、商業施設等の設計を行う。空間プロジェクトAで習得した基本的な設計・計画手法をさらに展開し、敷地の条件や社会的状況なども読み解いたうえで最適と思われる建築の規模・プログラム等を自ら考え、それにふさわしい空間構成・形態を具体的に検討する能力を養う。また、建物に続いて外構についても設計を行い、建築とランドスケープを、周囲の都市の文脈まで念頭に置きつつ、一体的に計画・設計する能力を養う。	共同
専攻教育科目	基礎科目	空間情報分析実習 I	この授業では、環境設計のための地理空間情報の基礎的知識の習得、地理空間データを用いたGIS(地理情報システム)による地域分析、時空間解析を行う技術の習得のため、国内外の動きや法律や制度の習得、GISの導入・利活用に関する知識の習得、地理空間情報解析ソフトの基本的操作スキルの習得を行う。利用ソフトウェアはフリーのQ-GISを主とするが、学年進行と共にArc GISの利用を行う学生もいるため、基本的なベクタデータ作成を行う。	
専攻教育科目	基礎科目	空間情報分析実習 II	環境設計のための空間情報の応用知識の習得、空間情報データを用いた地域分析、時空間解析を行う技術の習得のため、国内外の動きや法律や制度の習得、BIMの導入・利活用に関する知識の習得、空間情報解析ソフトの応用操作スキルの習得を行う。ラスタ画像データの利用について、ランドサットなどの基礎的な衛星画像を用いNDVIの作成などを修得する。また、BIMで作成したデータをAdobeソフトと組み合わせ、より効果的な表現手法の習得を行う。	
専攻教育科目	コース基礎科目	インダストリアルデザイン基礎 I	インダストリアルデザインコースの中で、プロダクトデザイン、ライフスケープデザイン、ソーシャルデザイン科目群から構成されるクリエイティブデザイン領域に関して、デザインの考え方や発想法・デザイン及び企画・プレゼンテーション・論理化などデザインを行う上での基礎知識や方法、それぞれの科目群の今後の展望等について理解を深め、クリエイティブデザイン領域の立場からインダストリアルデザインと人間生活について考える。 (オムニバス方式 全8回) (17 平井康之、48 藤智亮、67 迫坪知広、38 杉本美貴/3回) (共同) プロダクトデザイン科目群の基礎知識及び今後の展望 (35 齋藤俊文、41 曾我部春香、60 秋田直繁/3回) (共同) ライフスケープデザイン科目群の基礎知識及び今後の展望 (44 田村良一、51 松前あかね/2回) (共同) ソーシャルデザイン科目群の基礎知識及び今後の展望	オムニバス方式・共同
専攻教育科目	コース基礎科目	インダストリアルデザイン基礎 II	インダストリアルデザインコースの中の人間工学(エルゴノミクス)デザイン、生活環境デザイン、感性科学デザインについて、それぞれの歴史、基礎的知識、成功事例や社会における役割について学び、人間工学を学ぶ必要性について理解を深める。また、インダストリアルデザインコースの中の人間工学に関する教育プログラムの趣旨を理解する。さらに、日常生活の中で人間工学が取り入れられている事例を探し、人間工学とは何かを具体例を挙げながら説明できる能力を養う。 (オムニバス方式 全8回) (19 村木里志/1回) インダストリアルデザインにおける人間工学の役割 (16 樋口重和/1回) 人間工学の歴史 (18 前田享史/2回) 生活環境デザインとその実践例の紹介 (74 元村祐貴/2回) 感性科学デザインとその実践例の紹介 (77 Loh Ping Yeap/2回) エルゴノミクスデザインとその実践例の紹介	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース基礎科目	プロダクトデザイン概論	<p>プロダクトデザインを実践して行く上で必要となる、プロダクトデザインの背景やデザインプロセスなどの基礎知識、ユニバーサルデザイン・インクルーシブデザイン・アフォーダンス・デザインドリブンなどのデザイン概念、材料や加工法・生産性や安全性などの基礎知識、機能や構造と造形の関わり、プロダクトデザインと人間生活や科学との関係性など、プロダクトデザインの概要についてデザイン及び科学・工学の視点から多面的に理解する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(67 迫坪知広/2回) プロダクトデザインの背景、歴史、SDGs</p> <p>(38 杉本美貴/2回) デザインプロセス、手法、プロダクトデザインと人間生活や科学との関係性</p> <p>(48 藤智亮/2回) 材料や加工法の基礎知識、表面処理と加飾、生産性、安全性</p> <p>(17 平井康之/2回) デザインドリブン、UD、インクルーシブデザイン</p>	オムニバス方式
	コース基礎科目	ライフスケープデザイン概論	<p>ライフスケープとは「生活風景」や「生活情景」という意味合いで、単なる環境デザインではなく、主観的な生活者の視点を重視し生活者と文化、情報、モノ、空間のあるべき関係を探求、それらをさまざまな媒体を通して具体的に表現するデザインであることから、本講義では、まずライフスケープデザイン領域が示すデザインの基本的な考え方や方法論を修得する。具体的事例を通して、デザイン対象となる領域(インテリアデザイン、パブリックデザイン、コミュニケーションデザイン(関係のデザイン))を知り、その広がりや各種領域におけるデザイン活用の在り方を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(9 清須美匡洋/2回) インテリアデザイン(流通、金融、文化施設等)、パブリックデザイン(港湾、駅舎、博覧会等)、コミュニケーションデザイン(広告、広報、ブランド、情報等)、についての全般的な基礎演習</p> <p>(35 齋藤俊文/2回) コミュニケーションのデザインとは、広告コミュニケーションについて、文化とサブカルチャーについて、メディア論とオーディエンスについて</p> <p>(41 曾我部春香/2回) パブリックデザインとは、パブリックデザインにおけるインフォメーションデザイン、色彩について、空間と空間構成要素との関係について</p> <p>(60 秋田直繁/2回) インテリアデザインの歴史、人間の空間認知と思考・推論の連鎖過程、インテリアプロダクトデザインに関する素材特性・加工方法・構造・造形・デザインプロセス</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース基礎科目	サービスデザイン概論	<p>サービスデザインとは、ユーザーニーズや経験価値を重視して、製品や産業などのビジネス領域及び医療・福祉や行政などのソーシャル領域における事業の仕組みを設計するプロセスを指す。本科目では、それらのプロセスに関するデザインの起点、現状、展開を概観し、その背景や課題、今後の展望を考察する。具体的には、ビジネス領域においては、近代デザインの起り、企業戦略、マーケティング、ブランディング、サービスなどとデザインとの関係、及び基礎理論や手法などについて理解する。また、ソーシャル領域においては、それらの軸としてサービスデザインの基本的構造を理解し、時間軸に沿ったインタラクティブな関係性を理解する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(15 都甲康至/3回) サービスデザインの概念と沿革、サービスの事業化とデザインのマネジメント、事業戦略と組織のデザイン</p> <p>(44 田村良一/3回) マーケティングとデザイン、ブランドとデザイン、サービスとデザイン</p> <p>(51 松前あかね/2回) 社会的課題とウェルビーイング概念 (well-being)、リーガルデザイン (含：政策デザイン)、場のデザイン (含：イノベーションエコシステム)</p>	オムニバス方式
	コース基礎科目	人間工学概論	<p>人間にとってのデザインを行ううえでの人間工学の必要性和実用性、人間工学を学ぶ上で基礎となる思考法を学ぶ。さらに、基礎的知識として人間の形態学的・生理学的な基礎と心理学的・行動学的な特徴を学び、実生活への応用例として、ヒトの生活機能と人間工学、睡眠・生体リズムと人間工学、労働現場における人間工学、生活環境における人間工学について学ぶことで、デザインの基礎であり芸術工学の理念である“技術の人間化”を実践するための人間工学に関する素養を身につける。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(18 前田享史/5回) 人間工学の必要性和実用性、「技術の人間化」における人間工学の位置づけと思考法、労働現場における人間工学、生活環境における人間工学</p> <p>(16 樋口重和/3回) ヒトの感覚、ヒトの内分泌機能・免疫機能、ヒトの睡眠と生体リズム</p> <p>(19 村木里志/2回) ヒトの運動と人間工学Ⅰ、ヒトの運動と人間工学Ⅱ</p> <p>(74 元村祐貴/2回) ヒトの中枢神経機能、ヒトの末梢神経機能</p> <p>(77 Loh Ping Yeap/2回) ヒトのつくりとその特徴、ヒトの生活機能と人間工学</p> <p>(64 大草孝介/1回) ヒトの行動と人間工学</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース基礎科目	未来構想デザイン概論	<p>未来構想デザインとはいかなるものかについて概論的に学習する。 (1) いま世界では、人類の生存に関わるいかなる切実な問題が生じているか。(2) 従来のデザイン分野の枠にとどまらない課題の出現に対して、現在のデザインがどのような活動をなし、いかなる価値を生み出しているか。(3) 歴史的にこれまでのデザインやデザイナーがどのような未来像を描いて来たか。(4) これからのデザインを展望するどのような考え方が世界で提起されているか。以上の4つの論点にしたがって、本コースの課題と使命について学習する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(10 古賀 徹, 11 近藤加代子, 46 中村美亜/2回) (共同) 人類の生存に関わるいかなる切実な問題についての様々な社会背景について講義する。</p> <p>(24 伊藤浩史, 52 丸山 修, 71 平松千尋/2回) (共同) 情報科学や生命科学からの人類や環境に関わる問題について講義する。</p> <p>(22 池田美奈子, 32 尾方義人, 69 長津結一郎/2回) (共同) デザインやアートの立場からの社会構想の構築の方法について講義する。</p> <p>(49 Hall Michael, 62 稲村徳州, 78 Loh Wei Leong/2回) (共同) デザインにおける国際的な動向や今後の動きについて講義する。</p>	オムニバス方式・共同
専攻教育科目	基礎科目	視覚芸術基礎	<p>人物、人体デッサンを中心に描くことを通して得られる観察力、集中力、表現力を身につける実習授業である。観察力とは対象がどのような要素で構成され、どのように構築されているかを、自らの目を通して導く力である。集中力は一つの表現や思考に対して、妥協することなく突き詰めぬく力である。表現力は考えや思いと他者に伝え理解してもらうための力である。集中力、表現力テーマに沿った課題解釈、表現能力とグループワーク、コミュニケーションスキルを養う。</p>	
専攻教育科目	基礎科目	コンセプト論	<p>デザインにおけるコンセプトとは何かを考え、またそれを自らの道具とするためのための授業である。コンセプトの役割と考え方、展開、活用、アイデアとの関係をふまえ、実現までのプロセスを、歴史的な事例から現代の事例までを概観しながら統合的な理解を目指す。そのうえで、練習課題を行いながら、この授業で学んだことをプロジェクト授業を通して、共通課題PBLやプラットフォーム演習、コース融合プロジェクトで実践する。</p>	
専攻教育科目	基礎科目	デザインスケッチ	<p>絵を描くということは、重要なコミュニケーションメソッドである。しかし、美術表現的な高度の技術が必要なわけではない。またこの表現経験がないことを前提に、記号表現・概念図・製品表現・空間表現・図面・グラフィックレコード・小説など伝達の基礎となる様々な方法やその修練方法を練習する。また修練の仕方を経験する。さらにプロダクトデザイナー・カーデザイナー・インテリアデザイナー・グラフィックデザイナーなどへのアプローチも示す。</p>	講義4時間 演習12時間
専攻教育科目	コース基礎科目	社会と多様性	<p>環境の持続可能性は多様な観点から評価され、さまざまな評価ツールが存在する。それら評価ツールの意味や利用方法、それにより顕在化される課題など、ツールの活用方法だけではなくそのツールの論理的背景や社会的背景の理解を進める。それらを使って私たちの暮らしと社会のありようを多面的に様々な側面から複合的あるいは統合的に見直し、モノとコトのデザインと環境の持続性とそれらの関係性を理解することで、未来社会の構想方法を考える。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(46 中村美亜/4回) 生活や暮らしと社会のありようを多面的に様々な側面での理解について講義する。</p> <p>(69 長津結一郎/4回) モノとコトのデザインと環境の持続性とそれらの関係性を理解について講義する。</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	コース基礎科目	環境と持続可能性	<p>環境の持続可能性は多様な観点から評価され、さまざまな評価ツールが存在する。それら評価ツールの意味や利用方法、それによる顕在化される課題など、ツールの活用方法だけではなくそのツールの論理的背景や社会的背景の理解を進める。それらを使って私たちの暮らしと社会のありようを多面的に様々な側面から複合的あるいは統合的に見直し、モノとコトのデザインと環境の持続性とそれらの関係性を理解することで、未来社会の構想方法を考える。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース基礎科目	クリティカルシンキング	<p>現代社会の様々な問題に関して、自由主義や功利主義、ダイバーシティ論、共同体論、動植物の権利、脱植民地化論など、ポリティカルコレクトネスに関わるさまざまな社会的原則をもとに、自説を論理的に論述する訓練をする。原則が変われば問題の見方や評価が変わることを学び、相対立する原則に対してどのような配慮をもって自説を展開すべきかについて学習する。異なる意見を持つ他者を理解し、なお自らの立場をいかに説得的に伝えることができるか、そのコミュニケーションの技法を習得する。</p> <p>(10 古賀 徹) 社会的原則についての基本的講義と日本語による論述・表現について指導する。</p> <p>(78 Loh Wei Leong) 具体的事例に関する基本的講義と英語による論述・表現について指導する。</p>	共同
専攻教育科目	コース基礎科目	プログラミング基礎	<p>プログラミングの基礎知識を具体的な実践演習を通し、身につける。繰り返し、条件分岐、配列、関数、ポインタなどの知識と考え方を学び、多くの演習問題のコーディングを通して、その課題や問題を解決する経験を積み重ねる。それにより、対象を問わない幅広いどの分野にも役に立つプログラミング能力を培う。それら実践によるプログラミングの考え方や方法の取得から、社会の問題を発見し、問題構造を見抜き、解決する力を身につける。</p>	
専攻教育科目	コース基礎科目	情報科学 I	<p>アルゴリズムは社会のあらゆるところに存在し、社会の様々な仕組みの構成の根幹となっている。効率の良いコンピュータ・プログラムを作成するには、具体的な計算の手続きであるアルゴリズムを作る必要がある。また、これらが処理する情報の入れ物としてデータ構造の概念が大切である。以上を踏まえ、本科目では、アルゴリズムやデータ構造の基本的な考え方とその具体的な設計法、そして情報科学における重要な概念についても学ぶ。</p>	
専攻教育科目	コース基礎科目	生命科学入門 I	<p>生命現象の共通性と多様性について、DNA、自然選択のしくみ、進化の道筋の探索など生きているということ、変化するということが、生物がなぜ共通性と多様性をもつかの理解、生物の共通性を具体的に説明できる、「進化」の視点を持って生物や生命現象を考察しようとする態度を持つ観察や実験を通して学ぶ。また、それらは生態系の中で環境や他の生命との相互作用によって変化していくことを理解する。生命科学の視座を持って未来社会を構築する力を培う。</p>	
専攻教育科目	コース基礎科目	メディアデザイン概論 I	<p>メディアデザインにおいて、メディアによる表現とコミュニケーションデザインに関する基本的な知識と、それを使いこなすスキルを習得することは不可欠である。メディアデザインに関する導入として、メディア表現の領域における構成要素と基礎知識を学ぶ。具体的には、造形芸術におけるメディアの捉え方、コンピュータを用いたメディア表現、映像メディアによる表現、アニメーション表現、ゲームデザインとメディア、ウェブデザインにおけるメディアの特性、グラフィックデザインの観点から見た印刷メディアの概要について学ぶ。</p> <p>(オムニバス形式 全8回)</p> <p>第1回 (3 伊原久裕, 8 金大雄, 50 松隈浩之, 45 知足美加子, 23 石井達郎, 68 藤紀里子, 75 森本有紀 / 1回) (共同) 本講義の目的、概要について、全担当教員が10分程度のショート講義を行う。</p> <p>第2回 (3 伊原久裕 / 1回) グラフィックデザインの観点から、文字や記号などを用いたメディア表現の基礎について講義と演習を行う。</p> <p>第3回 (68 藤紀里子 / 1回) 情報デザインの観点からウェブデザインなどのメディア表現の基礎概念について講義を行う。</p> <p>第4回 (8 金大雄 / 1回) 映像表現の観点から、メディア表現の基礎について講義を行う。</p> <p>第5回 (23 石井達郎 / 1回) アニメーションと映像の観点からメディア表現の基礎について講義を行う。</p> <p>第6回 (50 松隈浩之 / 1回) ゲームデザインの観点からメディア表現の基礎について講義を行う。</p> <p>第7回 (45 知足美加子 / 1回) 造形芸術の観点からメディア表現の基礎について講義を行う。</p> <p>第8回 (75 森本有紀 / 1回) コンピュータグラフィックスおよびその周辺事例の観点から、メディア表現の基礎について講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 講義8時間 演習8時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース基礎科目	メディアデザイン概論Ⅱ	<p>メディアデザインに関する導入として、メディアインタラクションの領域における構成要素と基礎知識について学ぶ。メディアインタラクションとは、様々なメディア表現と人間との相互作用を表す。メディアインタラクションは様々な観点から捉えることができるが、本講義では、バーチャルリアリティ、メカニクスデザイン、画像処理、コンピュータグラフィックス、ノンフォトリアリスティックレンダリング、コンテンツ環境デザインという観点から、それぞれの領域の基礎的な概念を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>第1回(担当教員 27 上岡玲子、43 竹之内和樹、33 小野直樹、47 原健二、14 鶴野玲治、25 井上光平、30 牛尼剛聡/1回)(共同) 本講義の目的、概要に関して、オリエンテーションを行う。</p> <p>第2回(27 上岡玲子/1回) 実空間とコンピュータで生成された空間をシームレスにつなげ没入させる技術であるバーチャルリアリティについての総説を行う。</p> <p>第3回(43 竹之内和樹/1回) メカニズムとその動きについて、運動学・力学の視点から基礎を与える講義を行う。</p> <p>第4回(33 小野直樹/1回) 画像処理の目的、必要とされる場面およびその効果について概説する。</p> <p>第5回(47 原健二/1回) コンピュータビジョンの基本的な考え方、関連分野との関係性、および現在までの成果に関する講義を行う。</p> <p>第6回(14 鶴野玲治/1回) コンピュータグラフィックスの観点からメディアインタラクションの基礎に関する講義を行う。</p> <p>第7回(25 井上光平/1回) 写真を絵画風に変えるノンフォトリアリスティックレンダリングの実例を紹介し、そこで使われるアルゴリズムを概説する。</p> <p>第8回(30 牛尼剛聡/1回) コンテンツ環境デザインの観点からメディアインタラクションの基礎に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専攻教育科目	コース基礎科目	メディアデザイン概論Ⅲ	<p>メディアデザインにおいて、人間とメディアとの関係に関する知識や社会におけるメディアの位置付けなどを習得することは不可欠である。本講義では、メディアデザインに関する導入として、メディアコミュニケーション学の領域における構成要素と基礎知識(メディアと人間の視知覚特性との関係、メディアにおける色彩科学の貢献、メディアと心理学との関係、メディアと文化論の関係、メディアにおける言語を介したコミュニケーション、メディアにおける知的財産の扱い方)を様々な視点から学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>第1回(2 伊藤裕之、39 須長正治、40 妹尾武司、31 大島久雄、73 冬野美晴、61 麻生 典、76 吉村理一)(共同) 本講義の目的、概要について、全担当教員が10分程度のショート講義を行う。</p> <p>第2回(2 伊藤裕之/1回) メディアと人間の視知覚特性との関係について講義を行う。</p> <p>第3回(39 須長正治/1回) メディアにおける色彩科学の貢献について講義を行う。</p> <p>第4回(40 妹尾武司/1回) メディアと心理学との関係について講義を行う。</p> <p>第5回(31 大島久雄/1回) メディアと文化の関係について講義を行う。</p> <p>第6回(73 冬野美晴/1回) メディアにおける言語を介したコミュニケーションについて講義を行う。</p> <p>第7回(61 麻生 典/1回) メディアにおける知的財産について講義を行う。</p> <p>第8回(76 吉村理一/1回) メディアにおける修辞技法やコミュニケーション手法について講義を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース基礎科目 メディア表現基礎	<p>メディアデザイン概論Iでの講義をベースとして、本授業では、メディア表現に関する基礎的スキルの習得を目的として、コミュニケーションデザイン、コンテンツデザイン、芸術表現の三つの領域それぞれにおける基礎的演習を行う。具体的には三つの領域ごとにそれらの基礎となる課題を設定する。課題として挙げられるのは、記号の意味と形態、色彩を用いた構成、写真や動画像などの映像・アニメーションの基礎、CGの基礎としての立体像の構成などである。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>第1回：全体説明 (3 伊原久裕, 8 金大雄, 50 松隈浩之, 45 知足美加子, 23 石井達郎, 68 藤紀里子, 75 森本有紀/1回) (共同) 本演習の目的と概要について、講義を行う。</p> <p>第2回～3回 (3 伊原久裕, 68 藤紀里子/2回) コミュニケーションデザインの観点から、文字や記号などを用いたメディア表現の基礎に関する演習を行う。</p> <p>第4回～6回 (8 金大雄, 23 石井達郎, 50 松隈浩之/3回) 映像表現、アニメーション表現、ゲームデザインなど、コンテンツデザインの観点からメディア表現の基礎についての演習を行う。</p> <p>第7回 (45 知足美加子, 75 森本有紀/1回) (共同) 造形表現、ならびに数理造形の観点から、メディア表現の基礎について演習を行う。</p> <p>第8回 (3 伊原久裕, 8 金大雄, 50 松隈浩之, 45 知足美加子, 23 石井達郎, 68 藤紀里子, 75 森本有紀/1回) (共同) 演習において制作した制作物を対象に、全体講評を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 講義4時間 演習26時間
専攻教育科目	コース基礎科目 メディアプログラミング	<p>コンピュータを利用して、様々なメディアを利用したプログラムを開発するために必要なコンピュータに関する知識およびプログラミングの基本について演習を交えながら習得する。この授業では、近年一般的に利用されている手続き型プログラミング言語の一つであるPythonを対象として、プログラミングの基礎として、データ型、条件分岐、繰り返し、関数などについて学ぶ。それをふまえてメディアプログラミングの基礎として、画像処理及びテキスト (記号) 処理の基礎を学習する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>第1回～第3回 (25 井上光平/3回) ○プログラミング基礎 プログラミング言語Pythonの基礎として、データ型、条件分岐、繰り返し、関数などについて学び、基本的なアルゴリズムを自らコーディングする力を養う。</p> <p>第4回～第6回 (47 原健二/3回) ○画像処理基礎 基本的かつ汎用性の高い画像処理アルゴリズムを選定して数学的原理や内部処理を解説したうえで、画像処理ライブラリを用いたプログラミングの基本について 演習を交えながら修得する。</p> <p>第7回～第8回 (30 牛尼剛聡/2回) ○テキスト処理基礎 テキストデータを処理するための基本的な手法について、演習を交えながら習得する。</p>	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース基礎科目 聴覚生理学	<p>聴覚生理学の基礎について学ぶ。音の物理と性質 (音とは何か、波形、スペクトル、デシベル尺度、音圧レベル、フィルター、純音、複合音、雑音、調波、線形性、非線形性、振幅変調、周波数変調)、神経学 (神経細胞、軸索、神経発火の仕組み、活動電位、神経伝達物質)、聴覚器官の構造 (外耳、中耳、内耳、基底膜)、聴覚末梢系の生理学 (進行波、蝸牛における周波数分析、発火率、位相同期、場所情報、時間情報)、聴覚伝導路 (蝸牛神経核、上オリーブ核、側毛帯、下丘、内側膝状体、聴覚皮質)、周波数分析 (聴覚フィルター、臨界帯域)、両耳聴の機構 (両耳間時間差、両耳間音圧差、頭部伝達関数)、聴覚皮質、聴覚と脳の関係について解説する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(28 上田和夫/6回) 音の物理と性質、聴覚器官の構造、聴覚末梢系の生理学、聴覚伝導路について解説する。</p> <p>(71 平松千尋/2回) 神経学の基礎について解説する。</p> <p>(57 Remijn Gerard Bastiaan/7回) 周波数分析、両耳聴の機構、聴覚皮質、聴覚と脳の関係について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース基礎科目	聴覚心理学	<p>「音が聴こえる」と言う体験を、知覚心理学の立場から分析し、人間と音との関わりに対する科学的な理解を深める。音の物理的な性質と主観的な性質とがどのように関係づけられるのかを、生理学的な知見をも踏まえて概観し、我々がたくさんの音の中から必要な音だけを聴きとったり、音と音との関係を即座に把握したりするのは、どのような仕組みによっているのかを考察する。聴覚末梢および中枢における周波数選択性（外有毛細胞の能動性、最良周波数、特徴周波数、神経同調曲線、精神物理学的同調曲線、臨界帯域、聴覚フィルター、等価矩形帯域幅、同時マスキング、時間マスキング）、音の大きさ（音の大きさのレベル、音の大きさの等感曲線、ソーン尺度）、音の高さ（欠落した基本音の高さ、音の高さの支配領域、音の高さの二面性）、聴覚と時間、聴覚体制化（聴覚情景分析、音事象、音脈、ゲンタルト原理）、空間知覚、音声知覚について解説する。</p> <p>（オムニバス方式 全15回）</p> <p>（28 上田和夫／8回） 聴覚末梢および中枢における周波数選択性、音の高さ、空間知覚、音声知覚について解説する。</p> <p>（57 Remijn Gerard Bastiaan／7回） 音の大きさ、聴覚と時間、聴覚体制化について解説する。</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	コース基礎科目	音文化論	音楽を物理的な現象として理解するための基礎知識と、音楽を文化的営みとして理解するための考え方を学ぶ。前半は諸地域の音律・音高組織・旋律・和声・リズム・楽式について学ぶ。とくに、西洋の音律の歴史、協和音程と不協和音程の歴史については詳しく解説し、西洋の音楽がその他の音楽から分離し独自の展開をたどるプロセスと背景を知る。後半は非西洋の音楽や20世紀以後の音楽のありかたを解説し、今日の音楽を正しく実践し研究するための知識と考え方を身につける。	
専攻教育科目	コース基礎科目	音響理論演習Ⅰ	振動・音響現象の基礎的な理論を説明する。すべての振動・音響システムの基本となる、1自由度振動系の振動方程式、減衰振動方程式、強制振動方程式の導出過程と一般解を説明する。さらに、自由度の多い振動系の振動方程式、強制振動方程式の導出過程と一般解、基準モードについて説明する。振動・音響理論が2年次以降の音響理論、音響設計に関する授業を学ぶうえで、いかに重要であり、不可欠であるかを示すため、基礎概念の物理的内容の理解と共に、一般化に力点を置く。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース基礎科目	音響理論演習Ⅱ	音響理論演習Ⅰで学んだ音波、および連続体の振動に関する理論の、より一般的な取り扱いについて講義する。音波に関して、1次元の波動方程式に関して復習し、続いて3次元の波動方程式を導く。同時に速度ポテンシャルという概念を導入することで、音圧、粒子速度を同じ形の方程式で記述できることを認識する。また波動方程式の解としての平面波・球面波を定義し、その性質を概説する。更に、音波を放射する音源に関して、点音源、二重音源、呼吸球に関してそれぞれの性質を解説し、放射インピーダンスという概念を導入する。音波が伝搬する過程では、通常様々な障害物による散乱、回折が生じる。これらの現象についての概説を行う。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース基礎科目	音響信号処理	種々の音を扱う音響設計においては、音響信号の時間波形だけでなく、その周波数分析を通して音の特性を理解することが非常に重要である。ここでは、音響信号のスペクトル分析の概念を理解するため、信号を周波数成分に分解表現するフーリエ解析の諸理論（フーリエ級数、フーリエ積分、重畳積分定理）について学ぶ。さらに、これらの基礎理論を基に、音響信号のデジタル処理に必須のサンプリング定理や線形システム理論について学び、演習を通して理解を深める。	
専攻教育科目	コース基礎科目	デジタル信号処理	近年、インターネット、DVDなどのAV機器、携帯電話、スマートフォンのようなモバイル端末などの通信機器で、音声、画像、動画などの、いわゆるマルチメディア・データを対象とした多様な処理機能が提供されるようになってきた。これらのデータは、本来アナログ信号であるが、システム内部ではデジタル信号に変換して各種処理が行われる。これによりアナログ信号処理では実現が困難であったような高度な処理が可能となっている。本科目では、Z変換などのデジタル信号の解析手法やたたみ込みなどの各種処理手法、およびフィルタの設計法について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称		講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	構造理論Ⅰ	この授業では、建築物や土木構造物の設計において、安全性を確認する際に不可欠な構造力学、材料力学を学ぶ。それらを用いた演習を通じて、建築物や土木構造物の設計に必要な力学的な感覚を養う。構造理論Ⅰでは、建築物等のモデル化に必要な知識（構造部材の種類と役割、線材への置換、節点と支点の種類、設計用荷重、集中荷重と分布荷重、応力と変形）を学び、力の釣合条件を用いた静定梁（単純梁、片持ち梁）の応力計算、節点法を用いた静定トラスの軸力計算を行うための手法を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	構造理論Ⅱ	この授業では、建築物や土木構造物の設計において、安全性を確認する際に不可欠な構造力学、材料力学を学ぶ。それらを用いた演習を通じて、建築物や土木構造物の設計に必要な力学的な感覚を養う。構造理論Ⅱでは、応力度、ひずみ度、フックの法則、弾性係数の概念を学び、平面保持仮定に基づく梁の基礎微分方程式の導出、梁の断面性能（図心と断面1次モーメント、断面2次モーメントと断面係数）の算定法、静定梁や静定トラスの変位を単位仮想荷重法により計算する手法を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	環境材料論Ⅰ	建築物の設計において、建築材料選定の良否は建築物のデザインのみで無く、居住性、耐久性、安全性などに大きな影響を及ぼす。建築物の各部位の「要求性能」を把握し、各建築材料の「保有性能」に照らし合わせ、適切な材料を選択することが必要である。この授業では、建築材料として、鉄、非鉄金属、左官材料、仕上塗材・塗料・接着剤、建築用セラミック・ガラス・コンクリート製品、建築ボード類、防水材料・ゴム・プラティックの種類・性能と適用部位及び、それら建築材料の実施の使用例について学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	環境材料論Ⅱ	建築物の設計において、建築材料選定の良否は建築物のデザインのみで無く、居住性、耐久性、安全性などに大きな影響を及ぼす。建築物の各部位の「要求性能」を把握し、各建築材料の「保有性能」に照らし合わせ、適切な材料を選択することが必要である。この授業では、「要求性能」として、建築物に必要な防・耐火性能、評価方法、防・耐火性能を満足する材料の組合せ、風の作用と風圧力に対する建築材料の性能、雨水浸入のメカニズムと要求性能、耐久性低下に及ぼす劣化因子、構造材料の劣化、及び仕上材料の劣化・剥落のメカニズムについて学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	環境調整システム論	建築環境はそこに在住する人間の安全性、健康、快適性等を左右するものである。室内環境の形成機構を理解し、合理的な建築設計を行うことにより省エネルギーも期待できる。本講義では、良好な居住環境を形成するための熱環境、温熱環境、光環境、空気環境、湿気環境の制御手法及びその原理について学ぶと共に、それらの設計目標や環境計画全般についても各種事例を通じて理解する。併せて、建築分野が関わるエネルギー消費の実態と省エネルギーの必要性を理解する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	建築デザイン計画論	この授業では、建築計画、建築デザインの基礎理論、およびビルディングタイプ毎の各論について学ぶ。特に各論では、ビルディングタイプとして住居系建築、文教系建築、医療福祉系建築、コミュニティ施設系建築及びそれらを複合した建築を対象として、その建築計画手法と建築計画技術を習得する。さらに、それら建築の歴史的・社会的・文化的背景を理解し、配置・機能・空間・プログラムとその関連性・運動性に関する基礎的知識を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	環境構法論	私たちの身の回りの建築は数多くの「もの」で構成されている。建築の「もの」としてのしくみについて学ぶのが環境構法論である。つまり、建築の「ありよう」、構法の原理を理解した上で、木造の構法・鉄筋コンクリート造の構法・鉄筋コンクリート造の構法、煉瓦造や石造などの組積造の構法といった構造材料ごとの構法、間仕切り壁・天井・床などの内装や外壁・サッシなどの開口部・カーテンウォールなどの外装のディテールといった各部構法など、建築構法の基礎的な部分を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計	建築法規	この授業では、建築基準法、建築士法、都市計画法、消防法など、建築を成立させるための「決まりごと」を学ぶ。主に、建築基準法上の都市計画に関わる決まりごと（集団規定）と建築物の安全性を確保するための様々な決まりごと（単体規定）を中心として、関連法令およびその基礎的な実践例を理解する。さらに、建築基準法を中心に、どのような決まりごとがあるのか、なぜそのような決まりごとがあるのかを、関連する法律と併せて大局的に理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 構法設計論	建築の「ありよう」を、その歴史的な展開から理解し、建築の「もの」としての構成の面白さ、建築の「もの」としてのしくみについてより深く学ぶのが、構法設計論である。建築をつくるしくみである「やりよう」を理解した上で、木造の構法・鉄筋コンクリート造の構法・鉄筋コンクリート造の構法といった構造材料ごと、建築の構成方法としての構法の諸側面およびそれに対応する建築構法計画の手法を具体的な設計事例、開発事例、施工事例を通じて、建築構法の応用的な部分を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 建築空間設計論	建築設計を学ぶ上での意匠的な概念、思想、理論、実践を学ぶ授業。毎回、具体的な建築物の事例を挙げながら、空間、部屋、スケール、表現、論理、ルール、部分と全体、断面、都市のイメージ、空間の秩序、空間的言説、建築と都市などについて解説してゆく。さらに、建築とそれを取り巻く社会的、文化的な背景などについても学ぶ。この授業では、空間を思考する能力、空間を把握する能力、および空間を表現する能力を習得することを目指している。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 環境情報論Ⅰ	人の生活する環境をよりよく知り、人間主体の環境デザインを行なうために人間環境学、環境心理学について講義を行う。環境情報論Ⅰではまず環境の概念および環境デザインのプロセスについて学ぶ。続いて人間による環境の知覚とそれに基づく環境の設計について感覚要素別に視環境、音環境、熱環境、空気環境についてそれぞれ学び、最後にこれらを複合的に扱う際の知見について学ぶ。これらを修得することで、さまざまな知見を、人間を主体とする環境の設計・計画へ応用できるようになることを目標とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 環境情報論Ⅱ	人の生活する環境をよりよく知り、人間主体の環境デザインを行なうために人間環境学、環境心理学について講義を行う。環境情報論Ⅱではまず環境心理学の基礎的な理論として姿勢、アフォーダンスと対人距離の心理（パーソナルスペース、プロクセミクス）、場所の認知と記憶（認知地図、都市のイメージを構成するエレメント、イメージのゆがみ）などを学ぶ。さらに、住環境・教育環境・オフィス環境・療養環境等における事例において基礎的な理論がどのように応用されてきたかについて学び、人間を主体とする環境の設計・計画へ応用できるようになることを目標とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 構造システム論Ⅰ	この授業では、構造骨組の力学的挙動をシミュレートする解析手法を学び、それをを用いた演習を通じて建築物や土木構造物の構造設計に不可欠な計算法を習得する。構造システム論Ⅰではマトリックス変位法の力学的数理解を理解し、計算手順(部材の剛性マトリックスの算定とその座標変換、架構全体の剛性方程式の誘導、変位の境界条件を考慮した上で未知変位の計算、節点変位から部材端荷重の計算)を把握した上で、不静定骨組の構造解析を行う能力を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 構造システム論Ⅱ	この授業では、構造骨組の力学的挙動をシミュレートする解析手法を学び、それをを用いた演習を通じて建築物や土木構造物の構造設計に不可欠な計算法を習得する。構造システム論Ⅱでは地震動、地震応答(自由振動、減衰自由振動、強制振動)の基本的な特性を理解し、地震応答の直接積分法を用いた数値解析手法を学び、それらを用いた地震応答スペクトルの作成法、等価線形化法による弾塑性応答解析法を把握した上で、単純な振動モデルの時刻歴応答解析を行う能力を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 設備計画論	建築の機能性や快適性を確保する上で必要な、空気調和設備、給排水衛生設備、消火設備、電気設備等の基本に関する原理を修得し、それらの設計の基本的考え方を学ぶ。また最新の建築設備技術の実例を通して、環境と共生する建築設備のデザインができることを目指す。 1) 建築設備の総合計画の概要について理解する。 2) 装置の使用原理および実施設計の要点について理解する。 3) 地球環境および省エネルギーの問題と建築設備の関係を考える。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 建築生産	設計開始から竣工・引き渡しまでと、その前段階にあたる事業企画、各種の発注をも対象とし、建築をつくるしくみについて、つまり、建築の「やりよう」について学ぶのが建築生産である。竣工・引き渡し後の、維持管理、需要が低くなった建築の再生といった、持続可能な社会に不可欠である建築を活用するしくみについて、さらには、解体、廃棄といった建築を終わらせるしくみについても含めて、建築のライフサイクルを通して、建築生産の基礎的な部分を習得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 環境テクノロジー実習A	安全、安心な都市・建築を設計するためには、それらを支える構造物に使用する構造材料の特性を把握し、適切に選択し利用する必要がある。この授業では、代表的な構造材料を対象に、各種強度試験(木材の曲げ試験、鋼材の引張試験、コンクリートの圧縮試験、鉄筋コンクリート梁縮小模型試験体の曲げ破壊試験)について、標準試験法に則り正しく計画し、忠実かつ安全に実施し、得られた実験データを科学的に分析できる能力を身に付けることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	環境テクノロジー実習B	快適な都市環境、建築環境を設計する為には、環境を構成する要素を把握し、それらに関して起こりうる事象を予測する事が必要となる。本実習で対象とする建築環境工学実験では、1) 環境の計測に用いる測定器の原理を理解した上で建築環境を正しく測定し環境を把握できること、2) 建築環境のシミュレーションにより環境を予測できること、を目的とする。1) では測定器を実際に作成する事で、その測定原理を理解する。また測定に際して生じる誤差についても理解する。2) では室内の温熱環境、風環境等のシミュレーションを実際に行い、設計条件の変更が室内環境に及ぼす影響を理解する。	
専攻教育科目	コース専門科目	西洋建築史	ヨーロッパ・アメリカを中心に、世界の各地域の風土や社会に応じて、建築・都市などの構築環境を人がどのように作っていったか、具体的な建築作品や都市・景観などを通して学ぶ。ある地域が作りあげてきた建築・都市の文化として、個々の様式・技法やその変遷等について理解を深めるのみならず、現在一般に理解されるような建築や都市という概念を作り上げてきた西洋文明のあり方についても考察を加え、現代建築・都市を読解する基礎となることを目的とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	近代建築史	今現在に直結する近過去としての近代における建築・都市を概観する。ただし、近代といっても一様ではない。代表的な建築作品・都市計画などを紹介しつつ、優れた点を学ぶとともに、それに対する評価軸を相対化し、西洋・日本・アジアほか、各地域における建築・都市の「近代」のあり方を多様な観点から考えること、また、その延長線上に現代、さらには将来を位置付け、時間軸・空間軸の双方から、近代の成果と課題を検討することを目標とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境文化財論	制度や学問としての「文化財学」は欧州の近代保存運動に端を発する。そこで、欧州古代から近代にかけて、「文化財」や「保存」、「修復」という概念がどのように形成されたきたか、また、国際的な文化財保存の試みがどのように始まり展開していったかについて学ぶ。またそれに加えて、現代における制度・運営上の課題や実情やさまざまな取り組みなどについても解説することで、文化財のあり方について理解を深めることを目標とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	日本建築史	日本列島において、人々がどのような建築・都市を形成してきたか、歴史的に概観する。その際、建築・都市をつくる技術・意匠のみならず、その背景となる社会・文化・経済、東アジアにおける位置づけなどもあわせて説明する。現代の日本の建築・都市はこれまでの歴史と経過の到達点として存在するものであることから、その過程を理解し、この地域に過去に存在した、あるいは今ある建築・都市を正しく評価し、将来を想像する手がかりを得ることを目的とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	歴史環境実習	西洋建築史・近代建築史・環境文化財論・日本建築史等の授業において建築史・都市史の基礎を学んだことを前提として、各地に残る歴史的建造物・町並みや近現代の建築・都市の見学を行い、それを通して建築や都市、空間を歴史的観点から読解する能力を習得する。事前の情報収集と実地での見学を通して、図面や先行研究等を理解すること、実際に自ら見学して学ぶこととの相乗効果を体感することを目標とする。なお、実習は1泊2日程度とする。	共同
専攻教育科目	コース専門科目	都市環境設計論	近代以降の都市計画に焦点を当て、近代都市計画と現代都市計画の思想と手法、それらが実現しようとした空間像を対比させることによって、現代都市計画の意味と発展段階、課題や展望について概説する。前半では、近代都市計画思潮の誕生と展開を、欧米や日本の諸都市の歴史や制度史の中で学ぶ。後半では、人口減少、コンパクトシティ、環境共生、生物多様性といった現代的な問題や関心事項を踏まえた都市計画やまちづくりの概念を学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境保全論	環境保全、特に森林、原野、河川・湖沼、海浜・干潟、農地、都市等における自然環境、生活環境の保全を実現するための、人々の資源の賢明な利用(wise use)、計画制度、基本用語の定義、事例等について議論を通して学ぶ。保全のコンテキストを理解するために、特に日本の植生、里山の保全、日英の環境保全運動、土壌の保全、庭園史を中心に行う。より能動的な学びを深めるため、図書を用いたレポート、グループワークショップ、生態的環境計画に関する課題を行う。	
専攻教育科目	コース専門科目	緑地環境設計論	緑地環境設計論では、人々が実感できる環境の質的改善に関わる緑地や人間行動などに関する基礎知識の習得、緑地環境設計に求められる景観形成の理念や考え方や手法の理解、緑地環境設計の考え方や手法の組み立て方を身に付けることを目標とする。特に、公園の計画に関する計画論の考え方、立法の経緯、計画から設計にいたる公園計画の具体的なプロセス、そして、優良な公園の計画設計事例について論じ、緑地環境設計の基礎を修得する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 ランドスケープデザイン論	本授業では、ランドスケープデザインと、ランドスケープエコロジー（景観生態学）の視点より、「景観」という空間の諸特性を、様々なスケール、様々な視点から論じる。特に、ランドスケープ（景観）に関する歴史を紐解き、各国で形成された考え方や、景観を創造、制御する手法について、各時代の都市計画や公園・緑地の事例を紹介しながら、そのエッセンスを学ぶ。また、スケールに応じた景観生態学の考え方について、保全・活用に資する生態系ネットワークなどについても学習を行う。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 緑地環境実習	都市の公園・緑地の特徴と課題の把握を行う方法論、現地の植物を観察し同定を行う手法、環境管理活動におけるマネジメントなど、ランドスケープのフィールド実習を通し、緑地を観察しマネジメントできる素養を身につけることを目標とする。福岡市内の優良な公園、緑地を実際に訪ね、教員や管理者の現地レクチャーにより、空間の構成、植物、維持管理状況、利用者の利用状況について学ぶ。また、大橋キャンパスの植物を30種同定できるようになる。さらに、農山村に2泊3日の実習を行い、緑地管理手法について学びを深める。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 環境社会デザイン論	未来社会のデザインを考えるためには、過去において先人たちが獲得してきたさまざまな理念を知り、それを未来の社会において実質化しゆく構想力が必要となる。そのため本講義では、人間の自由とそれを実現する社会のありかたについて、これまで蓄積されてきた思想を振り返り、未来社会のデザインを考える基本的な姿勢と論点を学ぶ。その延長線上に、持続可能な未来社会のさまざまなモデルを提示し、そこへ至るプロセスと行動パターンを検討して、持続可能な社会のありかた、そのために必要となる人間行動、それを実現する政策のデザインについて学ぶ。	コース間共通科目 (環境設計・未来構 想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 データ解析	企業活動や研究における実験などで得られたデータに対して、統計解析を行う際に最も基本な解析法となる回帰分析や統計的仮説検定について講義演習を交えて解説する。また、実際のデータは欠損などを多く含むことから、解析法だけでなくデータのハンドリング法、いわゆるデータクレンジングや、データの基本的な作図法とそこから見えてくる傾向など、様々な側面からデータ解析の基本を学習することで、研究や企業などで実データに挑む際にもフレキシブルに対応できる能力を身に付ける。	コース間共通科目 (環境設計・インダ ストリアルデザイ ン・未来構想デザイ ン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 物質文化論	原人の川原石を打ち欠いただけの簡単な石器に始まる人類の物質文化は、現生人類の段階になって飛躍的に発展し、加速度的にその種類と量を増やしている。人間の文化的適応に中心的な役割を果たす物質文化は衣・食・住という基本的な必要を満たすだけでなく、大規模な通信・交通などを可能にし、ステータスシンボルなど象徴的な機能も果たすなど、その機能は非常に多岐にわたり、現在では、物質文化のない生活というのは想像することも難しい。人間がどのように人工物（もの）を作り、交換し、消費するか。また、そのような「もの」で構成される世界は「人間」であることを構成する中心であり、人工物が重要な社会的効果を持っていることを論じる。	コース間共通科目 (環境設計・未来構 想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 ファシリテーション	教育、行政、地域、企業とあらゆる組織や集団において、協働という名の知的な相互作用を活性化し、集団による問題解決、アイデア創造、合意形成、学習、変革、自己表現・成長という知識創造プロセスを支援し促進していく働きであるファシリテーションの重要性が増している。ファシリテーションの理論、意義、必要性、スキル（場づくり、対人関係、論点の構造化、分かちあい）、効果などについて学び、演習を通してファシリテーションの醍醐味を体験・体得する。	コース間共通科目 (環境設計・未来構 想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 環境倫理学	デザインが生物や人間の「幸福」を目指すとしたら、その幸福とは何か。デザインにおける〈善さ〉は、実用目的を機械的に充足する程度によって測られるのではなく、人間や自然生命がそれによっていかに解放され、その生命力を取り戻しうるかにかかっている。人間の内的自然／有機的な自然観についての基礎的な概念や考え方を学び、自己の内的自然＝いのちと調和した生き方をいかにして実現しうるかについて思考する。西洋の源流思想、反近代主義の諸潮流、フロイト/ラカンの精神分析、最新の環境思想などについて学ぶ。	コース間共通科目 (環境設計・未来構 想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 芸術コミュニケーション論	国際社会を生き抜く異文化コミュニケーション能力、世代間コミュニケーションの問題を克服する能力、人間関係を形成していく能力の獲得を芸術表現を通じたコミュニケーションにより獲得する。そのために芸術における表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等を実施することにより、芸術を理解する気持ちを育み、豊かな情操を養うとともに、コミュニケーション能力の育成を図る。非言語コミュニケーションを可能とする方法、芸術におけるコミュニケーションの仕組みを学際的な方法を用いて理解する。	コース間共通科目 (環境設計・未来構 想デザイン・音響設 計)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 アーツマネジメント論	日本のアーツ・マネジメントは、全国に林立した公立文化施設の運営や芸術文化団体の経営と深く結びついている。加えて近年は、社会のさまざまな課題にアプローチする手段として芸術が用いられている。芸術と社会の「つなぎ手」としてのアーツ・マネジメントの立場について学ぶ。更に、芸術の価値や有用性を社会の中で展開方法をアートの意味や歴史的系譜を理解し、パブリックアートやアートプロジェクトなどまちづくりなどを通じ、市民との協働や地域文化振興なども考える。	コース間共通科目 (環境設計・未来構想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 Design Pitching Skills	この授業は履修者が外国に行つて、自らのデザインのアイディアを売り込む状況を想定したものである。履修者が英語を使って自分のアイデアを説明したり、その良さを売り込んだりするためスキルを向上させることを目標とする。授業は対話的なワークショップ形式の一連のセッションを通して、履修者が実際に自分のアイデアの説明し、教員はプレゼンテーションのやり方、コミュニケーションの取り方などを適切に英語で行うための方法を具体的にコーチすることで進め、履修者のスキルを向上させる。	共同 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 Start-ups and Global Disruptors	この授業はデザイン提案を社会実装するための一つのルートとしての起業をテーマとする。その目的は起業家として事業を始めるときに理解しておくべきこと、また、事業を起こすために必要な基本的な理論や知識・方法などについて、ケーススタディなどを通じ、より実践に即した形で、英語により学ぶ。授業では、初期費用のための投資、「死の谷」、買収、新規公開株 (IPO) など、スタートアップ企業が直面する様々な場面について、事例を使って説明する。 (オムニバス方式全8回) (78 Loh Wei Leong / 3回) 起業に関する障害と起業される企業の発展段階について事例研究の英語による講義を行う。 (62 稲村徳州 / 5回) デザイン提案をスタートアップ企業で実装するプロジェクトに関する演習を英語で指導する。	オムニバス方式 講義6時間 演習10時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 Intellectual Property Rights : Global Perspective	知的財産権に係る規定や法律は国によって大きく異なり、国際的なデザイン活動をするためには、デザインによって生み出された価値の保護について広く理解する必要がある。そのため、この授業では日本及び諸外国における知的財産の概念、知的財産にかかわる基本的な事柄について英語による講義を行い、演習形式で様々な文化的脈絡の具体的な事例を挙げながら、知的財産を守るための方策について、履修者が実践に役立つような形で英語により学ぶ。 (オムニバス方式全8回) (78 Loh Wei Leong / 4回) 国際的な知的財産の基本概念と国際的な商標や特許に関する英語による講義を行う。 (62 稲村徳州 / 4回) 知的財産権の抵触を防ぐための方法や考え方について具体例を使い英語による演習を行う。	オムニバス方式 講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 Global Design Innovations	この授業の目的は現在デザインの世界でどのようなイノベーション事例があり、それがどのように生み出されているかを履修者が知ることにある。そのため、まず、具体的なケーススタディを通して、海外の社会デザインのイノベーションの先進的事例を紹介する。この事例研究で得たアイデアをもとに、演習では、実際にデザインプロジェクトに参加し、社会的な課題に対してプロトタイプを制作し、解決のための提案を英語で行う能力を身に付ける。 (オムニバス方式全8回) (62 稲村徳州 / 2回) 九州大学と海外連携大学とのデザインプロジェクトの事例について英語による講義を行う (62 稲村徳州・78 Loh Wei Leong / 6回) (共同) 現在・近い将来の国際的なデザイン課題を取り上げ、海外連携大学と共同演習を行う。	オムニバス方式・共同 (一部) 講義4時間 演習12時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインA I	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的に深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから将来への見通し、解決への示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し、合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、環境設計に関する国際的な感覚を養うための知識を学び、学生の国際的なデザイン活動の基盤を作ることを目指す。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインA II	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的に深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから将来への見通し、解決への示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し、合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、国際的な環境設計に関する基本概念を学びながら環境設計の大枠について理解を深める。社会の状況に的確に対応できる豊かな教養を持ち、国際的にも通用する広い視野と学識を身に付ける。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインA III	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的に深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから将来への見通し、解決への示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し、合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、環境設計に関する日々進展する諸外国の分析手法や研究事例及び最新の研究成果を紹介する。建築、都市・地域、景観に関するデザインの展開を概観し、その背景や今後の展望を考察する	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインA IV	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的に深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから将来への見通し、解決への示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し、合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、広い視点に立つて建築、都市・地域、景観を自主的に設計・計画できる能力を身につける。自分のアイデアの説明を英語でプレゼンテーションすることを目標とする。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインB I	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的に深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから将来への見通し、解決への示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、環境設計に関する講義、演習を通じて、国際社会における建築、都市・地域、ランドスケープにおける諸課題に対する解決手法を学ぶ。また、将来のあり得る、また、そうありたい社会のビジョンを模索する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインB II	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的かつ深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから専門知識や将来への見通し、示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、諸外国の環境設計の理論と方法を通じて建築、都市・地域、ランドスケープにおける諸課題及び対応事例を学ぶ。社会的な変化に伴いデザインの領域は拡大し、デザイナーの役割も大きく変化している。このような現状を見据えつつ、人々を取り巻くより良い環境をいかに構築するかという課題に挑む。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインB III	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的に深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから将来への見通し、解決への示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し、合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、国際社会が抱えるエコロジー、持続可能性、資源、文化遺産、グローバル化、地域再生、景観といった課題をテーマに、デザイン思考で解決する演習を実施する。それら諸問題についての事例を学び、国際的な視点から問題解決のための取組や社会実装について検討する。	講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 国際環境デザインBIV	環境設計において、(1)地域的、国家的、地球的課題を理解し、主体的に深くかかわる能力、(2)国内外の喫緊の課題を把握し、国際的な専門家コミュニティから将来への見通し、解決への示唆を得る能力、(3)異なる政治、社会、文化、歴史的背景を持つ他者と協働し、合意形成を図り課題を解決する能力、及びそのための言語能力、コミュニケーション能力は不可欠である。この授業では、環境設計に関する課題を広い視野から分析することを通して、従来のデザインの枠を超えた新しい枠組み、アプローチ、解決策について考察する。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は英語により実施する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 インターンシップ(学部) I	企業、行政機関、公益法人等において、1週間程度(30時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。	
専攻教育科目	コース専門科目	環境設計 インターンシップ(学部) II	企業、行政機関、公益法人等において、2週間程度(60時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。インターンシップIの履修を前提とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン 製品デザイン 実践論	時代と共に変化・拡大しているプロダクトデザインの概念やプロダクトデザイナーの役割、今後のプロダクトデザインの展望について、デザイン課題や具体的なデザイン実務におけるデザイン事例を通じて、デザインとアイデア及びコンセプトとの関係性や、技術やものづくりの進化によるプロダクトデザインの変化、製造・生産性を考慮したデザイン、安全性への配慮、プロダクトデザインと社会・環境・文化との関わり、ユーザーエクスペリエンスデザインなど幅広いデザインプロセスを学び、プロダクトデザインを実践的に適用させるための方法を理解する。 (オムニバス方式 全8回) (67 迫坪知広/2回) トランスポーターデザイン、フリーランスデザイン実務におけるデザイン事例 (38 杉本美貴/2回) 商品企画とデザイン、インハウスデザイン実務におけるデザイン事例 (48 藤智亮/2回) 技術とデザイン、製造・生産性とコスト、安全性 (17 平井康之/2回) ユーザーエクスペリエンスデザイン (UI/UX)、プロダクトデザインの展望	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	ライフスケープデザインの標榜する生活者自身と生活者をとりまく文化、情報、モノ、空間の関係を考慮し、それらを私たちの生活に実際に還元するための実践的な考え方や方法論を習得する。具体的な事例（インテリアデザイン、パブリックデザイン、コミュニケーションデザイン（関係のデザイン））を知ることにより、多様な生活者や複雑化する社会の様相を俯瞰して捉えながら、デザイン対象の発見や着想ポイントのを見つけ方を学び、自己知識として理解する。 (オムニバス方式 全8回) (9 清須美匡洋/2回) インテリアデザイン（流通、金融、文化施設等）、パブリックデザイン（港湾、駅舎、博覧会等）、コミュニケーションデザイン（広告、広報、ブランド、情報等）におけるケーススタディによる実践ポイント解説 (35 齋藤俊文/2回) コミュニケーションのデザイン実務、クリエイティブディレクションについて、広告表現、ミュージアム、映像/映画、文化プロジェクト、ことば、音 (41 曾我部春香/2回) パブリックデザイン事例を中心としたデザイン視点について、デザインの捉え方とその解決とは (60 秋田直繁/2回) デザインエンジニアリング、アフェクティブデザインの実務におけるデザイン事例	オムニバス方式
		インダストリアルデザイン	サービスデザイン実践論 本科目では、サービスデザイン概論で修得した理論や方法論などを基盤に、今日、価値の源泉がモノを含むサービスに変化・展開していることや、これまでの所有価値（交換価値）に加えて経験価値・共有価値などに変化・展開していることについて、具体的な事例を通じて理解する。また、科学的、工学的な観点からみたサービスの捉え方、サービスデザインに関連するさまざまな手法について理解し、実践的に適用する考え方や方法を修得する。また、サービスを対象としたマーケティングの考え方について理解する。 (オムニバス方式 全8回) (15 都甲康至/2回) サービスデザインの実践的理論と方法論（グッツ・ドミナント・ロジック：GDL、サービス・ドミナント・ロジック：SDLなど）、先進企業・団体などにおける事例研究 (44 田村良一/3回) コアサービスと補完的サービス、具体的なサービス事例に基づくコアサービスと補完的サービスの理解、カスタマージャーニーマップ (51 松前あかね/3回) 具体的な事例に基づくカスタマージャーニーマップの理解、顧客満足度（CSI）とサービス、具体的な事例に基づくCSIの理解と提案	オムニバス方式
		インダストリアルデザイン	イノベーションデザイン論・演習 I プロダクトデザイン領域で取り扱うデザイン対象が製品という有形なモノのデザインから、製品に関わるサービスやシステムなど無形なモノ・コトへと拡大していることを踏まえ、Society5.0やSDGsなどの社会的な課題や先端科学技術の応用などを見据えた実践的なテーマを通じ、プロダクトデザインの思考法や手法、人から社会、個別最適から全体最適など多面的なアプローチによって、社会の複雑な課題を解決できるデザイン開発能力を修得する。 (オムニバス方式 全8回) (38 杉本美貴、67 迫坪知広/4回)（共同） SDGsなどの社会的課題の解決、個から公のデザイン (17 平井康之、48 藤智亮/4回)（共同） Society5.0などの社会的課題の解決、先端技術を応用したデザイン	オムニバス方式・共同 講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン イノベーション デザイン論・演習Ⅱ	今後ますます複雑化し、不確実性が高まる世界の中で、人々の価値観や社会の変化、科学・技術の進化を捉え、次代の暮らしや未来社会の起こりうる可能性について探求し、そこで求められる新たなプロダクトのあり方を、ストーリー及びコンセプトの立案、企画開発、構想設計から、具体的な形やサービスの提案に落とし込み、それらを立体物やUI、映像など様々な媒体によって視覚化することで、人々や社会に対して課題提起できるデザイン開発能力を修得する。 (オムニバス方式 全8回) (48 藤智亮、67 迫坪知広／4回) (共同) 科学・技術の進化に基づくストーリー及びコンセプトの立案、企画開発、構想設計 (17 平井康之、38 杉本美貴／4回) (共同) 人々の価値観や社会の変化に基づくストーリー及びコンセプトの立案、企画開発、構想設計	オムニバス方式・共同 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン ライフスケープ デザイン実践論・演習Ⅰ	既成概念に捉われないことと広い視点から生活を俯瞰してとらえ、生活を構成する身の回りの「モノ」や「コト」、「ヒト」と生活者を取り巻く様々な状況を整理し、何をデザインすべきかのデザイン検討を行う。与えられたテーマ(テーマは適宜指示する)に基づいて、私たちの現在の生活においてデザインにより改善・転換できることには、どのようなことがあるかを探求し、独自の着想点を見出し、他者に自分の言葉で説明できるよう整理し、独自の視点による課題を生活に即した具体的なデザイン提案として発表する。	共同 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン ライフスケープ デザイン実践論・演習Ⅱ	自分で設定した独自の着想点による課題に基づいて、生活者とモノ、空間、情報、文化などの関係を考慮しながら、さまざまな媒体を通して我々の生活に具体的に表現されるデザインの検討を行う。検討の際には、実際の社会や各人の生活において、有益に成立し存在するための価値創造(概念構築、再構成、再定義)を行い、自分のデザイン提案の実現可能性についての検証も行い、自分のデザインに対する精査を行う。これらの活動において創出されるモノやコトを誰もが理解できるかたちに具現化し、デザイン提案として発表する。	共同 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン ソーシャルデザイン論 ・演習Ⅰ	昨今、我々を取り巻く社会環境は、少子高齢化、情報化、国際化など、ダイナミックに変化しており、このような多面的・複合的に多様化する外的条件のもと問題を発見し、公益性、協働性、持続性の観点から踏まえたデザイン解となるソリューションを導出することが求められる。まず、社会環境の変化や現状のありようを理解するとともに、それらの関係性を定性的・定量的に整理・把握する手法の考え方や方法を修得する。さらに、それらの手法を用いた調査・分析の結果をもとに、問題の発見、解決策となるソリューションの提案を行う。 (オムニバス方式 全8回) (44 田村良一／5回) 問題の発見と決定、問題に関係する項目の抽出、定性的・定量的手法の講義と演習、ソーシャルデザイン概念と沿革、ソーシャルデザインの基礎理論と手法(PEST分析、SWOT分析など) (51 松前あかね／3回) ソリューションの検討、ソリューションの表現、プレゼンテーション	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン ソーシャルデザイン論・演習Ⅱ	<p>ウェルビーイング (well-being) を志向するビジネスデザインないしソーシャルデザインの考え方や事業デザイン手法を、講義および演習を通じて理解し、現場起点のアプローチで実践的に修得する。具体的には、講義と演習を関連づけながら、価値循環としてのCVCA (Customer Value Chain Analysis) の検討を経て、フィールドから抽出した提案価値を実現するビジネスモデルをデザインする。特に、社会的・環境的価値と経済的価値の均衡、事業主体と顧客および他の事業主体との関係性に着目した事業戦略を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(44 田村良一/5回)</p> <p>CVCAについての講義と演習、ビジネスモデルデザイン (要素) についての講義と演習、ビジネスモデルデザイン (構造・戦略) についての講義と演習、現代社会の課題と社会的要請 (QOL: 生活の質の向上や身体的・精神的・社会的に良好な状態としてのウェルビーイングの概念など)、ソーシャルデザインの実践的理論と方法論、生活者視点の地域デザイン (健康都市デザインなど) と先端事例研究</p> <p>(51 松前あかね/3回)</p> <p>フィールド起点での事業デザイン、プレゼンテーション・講評</p>	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン クリエイティブデザイン演習	2年次および3年次前学期で体得したプロダクトデザイン、ライフスケープデザイン、ソーシャルデザインのデザインアプローチを融合し、さらに幅広い視野から総合的に取り組むためのデザインプロセスを身につけることが目的である。各教員が単独もしくはグループで実践的なテーマを設定し、テーマ別に別れた少人数の学生に対して集中的な指導を行う演習を通じ、プランナーやデザイナーとして社会へ参加するための総合力を修得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン 福祉人間工学	老化や障害などにより日常生活や労働が不便になるが、それらの不便はモノや環境の工夫により解消できることが多い。本科目では老化や障害が生じるメカニズムやそれらが日常生活に及ぼす影響についての基礎知識を学ぶ。そしてこれらの知識に基づいて、高齢者や障害者、さらには介護者の身の回りのモノや環境を設計するための手法を学ぶ。具体的には高齢者向け用品、福祉用具、ユニバーサルデザイン、移動円滑化 (バリアフリー) を人間工学的な視点から提案できる能力を養う。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン データ解析	企業活動や研究における実験などで得られたデータに対して、統計解析を行う際に最も基本な解析法となる回帰分析や統計的仮説検定について講義演習を交えて解説する。また、実際のデータは欠損などを多く含むことから、解析法だけでなくデータのハンドリング法、いわゆるデータクレンジングや、データの基本的な作図法とそこから見えてくる傾向など、様々な側面からデータ解析の基本を学習することで、研究や企業などで実データに挑む際にもフレキシブルに対応できる能力を身に付ける。	コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン 環境人間工学	人間を取り巻く環境は、科学技術の発展に伴い変化し、快適かつ安全となる一方で、様々な健康問題を引き起こしている。気温・湿度・気流などの温熱環境、照明の明るさや色などの光環境、室内の酸素濃度や二酸化炭素濃度などの室内空気質環境といった人間を取り巻く環境要因とヒトの生理心理反応特性、作業パフォーマンス、快適性、適応能との関係、環境要因の基準値・推奨値についての解説を通して、人間の生理機能に適合した環境を設計するための人間工学的知識を学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン 環境生理学	ヒトに適した環境を構築するための生理学的基礎知識として、感覚器系、中枢神経系、末梢神経系、内分泌系、循環、呼吸、代謝、発汗、体温調節、生体リズムなどの生理機能について学ぶ。具体的には、気温・湿度・気流と関連する感覚受容系として温度受容機構と脳の体性感覚野、調節中枢系として視床下部の体温調節中枢、調節制御系としての自律神経系・体性神経系・内分泌系、効果器反応として循環系・代謝系・骨格筋・汗腺とその調節機構について、光に関連する視覚系と脳の視覚野、非視覚系の光受容と生体リズムおよび光の非視覚的生理作用について、空気質と関連する呼吸器系とその調節機構について学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	感性科学	感性科学を学ぶ必要性、諸感覚器官の進化、脳内神経伝達物質（特にセロトニンとノルアドレナリン）、感覚刺激の伝達経路（例えば嗅覚の扁桃体までの経路の特徴、扁桃体から中脳中心灰白質を經由しての情動行動発現の特徴）、人間行動（例えば嗜好性や教育・創造性）に重要な報酬系と罰系、ヒトの性格特性（例えば共感性や誠実性）について学ぶ。さらにそれらを基盤として、ヒトの特徴である印象や創造性等の高次脳機能と生理反応（脳活動と自律神経や内分泌・免疫系）、遺伝要因と性格要因と脳について最新の成果を学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	行動生理学	ヒトの行動は生物に共通する生理的な行動（睡眠、食、生殖など）とヒト特有の社会的な行動（模倣、共感、創作など）によって成り立っている。これらの行動は脳によって調整されているが、個人差が多いのも特徴である。本講義では、ヒトの多様な行動と脳機能の関係について学ぶ。また、ヒトの行動が科学的にどのような研究方法によって明らかにされているのかも学ぶ。さらに、ヒトの行動や脳の特徴を理解することが、どのようにデザインと関係してくるのかについて考える能力を身に着ける。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	生活機能支援科学	人間の生活機能に関する基礎知識から、現代社会における人の生活を理解し、人間工学領域における生活機能の重要性について理解することを目標とする。人間の生活機能を運動学、生理学および健康科学の側面から解説する。そして、生活機能を支援するためのテクノロジーについて、様々な事例から解説し、それらが調和するための条件を考察する。また、生活機能とウェルネスと生活の質（QOL）の相互関係が踏まえて、emerging topicsおよび実践例を紹介する。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	データマイニング I	「データ解析」で学んだ内容をもとに、その知識を多変量解析・時系列解析へ発展させ、研究などで得られる多種多様なデータに対して適切に対応できるように講義でその手法の数理的な理解を、演習でデータや実際のデータを使った解析のやり方を学んでいく。データマイニングIでは「データ解析」の発展として、通常回帰モデルでは対応できない一般化線形モデル、教師あり学習の1手法としての決定木、教師なし学習の1手法としてのクラスタ分析、アンケートデータなどで使用可能な主成分分析などを学んでいく。	コース間共通科目 (インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	データマイニング II	「データ解析」および「データマイニングI」で学んだ内容をもとに、その知識をより深く発展させ、研究や実社会で遭遇するより複雑なデータに対して適切に対応できるように講義でその手法の数理的な理解を、演習でデータや実際のデータを使った解析のやり方を学んでいく。データマイニングIIでは「データ解析」「データマイニングI」の発展として、アンケートデータなどで使用可能な因子分析、多次元尺度構成法、時系列データの予測などが可能なARモデル、より高度な時系列データの構造が解釈可能な状態空間モデルなどについて学んでいく。	コース間共通科目 (インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	生理人類学	人にとって望ましい生活環境とは何かを理解するために、生理人類学とは何かを学ぶ必要性、人類の進化に関する脳の肥大化、直立二足歩行、ネオテニー、環境に対する人類の適応的手段としての遺伝的・生理的・文化的要素、生理学的適応の基礎としてホメオスタシス、全身的な生理機能の連関、生理機能の潜在性と顕在化、”生物学的なヒト”と”文化に生きる人”の資質について学び、より深く人を理解する。さらにその人の理解から人にとって真に望ましい生活環境のあり方を考察する能力を身につける。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	生体情報処理論	人間工学的な研究において、取得した生体情報を適切かつ迅速に解析する技術は必須である。生体情報は多くの場合デジタルサンプリングされた波形データであり、コンピュータ上でそれらのデータを適切に処理する能力が求められる。本講義ではデータサンプリングの基礎から周波数解析や統計処理など、生体情報の取得・解析における基礎的な知識を学ぶとともに、プログラミングによるコンピュータを用いた生体情報の測定・解析技術を実践的に身に着ける。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	人間工学先端セミナー	人間工学は人々の安全・安心・快適・健康の保持・向上に貢献する実践科学であり、その対象は製品、生活、作業、労働、環境、管理と幅広い。人間工学に関する先端の科学的研究を中心に取り上げ、その背景、方法、結果の解釈、考察、応用例に触れながら、今後取り組むべき人間工学の課題を考察する。尚、本科目は学生が人間工学の最先端の研究に対して積極的に意見が述べられ、そして教員とディスカッションできるようにセミナー形式にて実施する。	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	<p>リサーチとは正しいこと（真理）を明らかにすることであり、その主な手法には実験、分析、予測がある。本科目では主にインダストリアルデザイン分野における実験などのリサーチを対象とし、リサーチを実践するために必要な一連のプロセス（テーマ設定、文献調査、実態調査、方法の計画、倫理的配慮、心構え、統計処理の選択、データ解析・解釈の仕方・表現の仕方、論理的な考察、口頭・ポスター発表、論文執筆など）の基礎スキルについて学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式 全8回）</p> <p>（19 村木里志／4回） インダストリアルデザインとリサーチ、リサーチテーマの決め方、実験デザインの考え方</p> <p>（48 藤 智亮／1回） 工学的リサーチの考え方</p> <p>（44 田村良一／3回） インダストリアルデザイン領域のデータ処理</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	コース専門科目	インダスタリアルデザイン Design Pitching Skills	<p>この授業は履修者が外国に行って、自らのデザインのアイディアを売り込む状況を想定したものである。履修者が英語を使って自分のアイデアを説明したり、その良さを売り込んだりするためスキルを向上させることを目標とする。授業は対話的なワークショップ形式の一連のセッションを通して、履修者が実際に自分のアイデアの説明し、教員はプレゼンテーションのやり方、コミュニケーションの取り方などを適切に英語で行うための方法を具体的にコーチすることで進め、履修者のスキルを向上させる。</p>	共同 コース間共通科目 （環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計）
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン Start-ups and Global Disruptors	<p>この授業はデザイン提案を社会実装するための一つのルートとしての起業をテーマとする。その目的は起業家として事業を始めるときに理解しておくべきこと、また、事業を起こすために必要な基本的な理論や知識・方法などについて、ケーススタディなどを通じ、より実践に即した形で、英語により学ぶ。授業では、初期費用のための投資、「死の谷」、買収、新規公開株（IPO）など、スタートアップ企業が直面する様々な場面について、事例を使って説明する。</p> <p>（オムニバス方式全8回）</p> <p>（78 Loh Wei Leong／3回） 起業に関する障害と起業される企業の発展段階について事例研究の英語による講義を行う。</p> <p>（62 稲村徳州／5回） デザイン提案をスタートアップ企業で実装するプロジェクトに関する演習を英語で指導する。</p>	オムニバス方式 講義6時間 演習10時間 コース間共通科目 （環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計）
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン Intellectual Property Rights : Global Perspective	<p>知的財産権に係る規定や法律は国によって大きく異なり、国際的なデザイン活動をするためには、デザインによって生み出された価値の保護について広く理解する必要がある。そのため、この授業では日本及び諸外国における知的財産の概念、知的財産にかかわる基本的な事柄について英語による講義を行い、演習形式で様々な文化的脈絡の具体的な事例を挙げながら、知的財産を守るための方策について、履修者が実践に役立つような形で英語により学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式全8回）</p> <p>（78 Loh Wei Leong／4回） 国際的な知的財産の基本概念と国際的な商標や特許に関する英語による講義を行う。</p> <p>（62 稲村徳州／4回） 知的財産権の抵触を防ぐための方法や考え方について具体例を使い英語による演習を行う。</p>	オムニバス方式 講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 （環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	<p>この授業の目的は現在デザインの世界でどのようなイノベーション事例があり、それがどのように生み出されているかを履修者が知ることにある。そのため、まず、具体的なケーススタディを通して、海外の社会デザインのイノベーションの先進的事例を紹介する。この事例研究で得たアイデアをもとに、演習では、実際にデザインプロジェクトに参加し、社会的な課題に対してプロトタイプを制作し、解決のための提案を英語で行う能力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式全8回)</p> <p>(62 稲村徳州 / 2回) 九州大学と海外連携大学とのデザインプロジェクトの事例について英語による講義を行う</p> <p>(62 稲村徳州・78 Loh Wei Leong / 6回) (共同) 現在・近い将来の国際的なデザイン課題を取り上げ、海外連携大学と共同演習を行う。</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p> <p>講義4時間 演習12時間</p> <p>コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	国際インダストリアルデザインA I	<p>インダストリアルデザインに関する国際的な感覚を養うため、国内外のインダストリアルデザインに関する文献や資料などをもとに、インダストリアルデザイン事例を収集し、調査、比較考察などを通じて、慣習、文化、歴史など、インダストリアルデザインの提供者である生活者に焦点を当てて、日本と諸外国のインダストリアルデザインのあり方や考え方の類似点、相違点などについて、学生相互に議論し、学生の国際的なデザイン活動に向けた基盤を作ることを目指す。</p>	<p>講義8時間 演習8時間</p>
専攻教育科目	コース専門科目	国際インダストリアルデザインA II	<p>国内外のインダストリアルデザインに関する文献、資料などをもとに、それらに取り上げられているインダストリアルデザインの事例の比較考察を通じて、日本および諸外国におけるインダストリアルデザインの位置づけや役割などをもとに、国際的なインダストリアルデザインに関する基本概念を学びながらインダストリアルデザインの大枠について理解を深める。社会の状況に的確に対応できる豊かな教養を持ち、国際的にも通用する広い視野と学識を身に付ける。</p>	<p>講義8時間 演習8時間</p>
専攻教育科目	コース専門科目	国際インダストリアルデザインA III	<p>クリエイティブデザイン領域や人間工学領域に関連する国際学会誌の論文や、国際学会での口頭発表などをもとに、インダストリアルデザインに関する日々進展する国内外の研究事例および最新の研究成果を通じて、研究課題として取り上げられた内容やその背景・理由、既存の研究手法との対比からみた新規性などを紹介する。これらの内容を通じて、クリエイティブデザイン領域及び人間工学領域におけるデザインの展開を概観し、その背景や今後の展望を考察する。</p>	<p>講義8時間 演習8時間</p>
専攻教育科目	コース専門科目	国際インダストリアルデザインA IV	<p>国際インダストリアルデザインA / I ~ IIIの取り纏めとして、国際的な視点からの、インダストリアルデザインに求められる生活、文化、歴史などの観点、経済、地域、社会など観点、研究などの広い視点のもと、課題発見をするとともに、それを解決するためのソリューションとなるインダストリアルデザインを自主的に設計・計画できる能力を身につける。また、自分が提案するアイデアの説明を英語でプレゼンテーションすることを目標とする。</p>	<p>講義8時間 演習8時間</p>
専攻教育科目	コース専門科目	国際インダストリアルデザインB I	<p>インダストリアルデザインに関連する感性、科学、工学に関する講義、演習、さらに人文・社会に関連する講義、演習を通じて、国内外の国際社会における様々な課題を発見する能力や、それらに対するソリューションを提案するための手法を学ぶ。また、将来のあり得る、また、望ましい社会のビジョンを模索するため、バックキャストデザイン、スペキュラティブデザインなどの考え方や方法について、講義、演習を通じて修得する。</p>	<p>講義15時間 演習15時間</p>
専攻教育科目	コース専門科目	国際インダストリアルデザインB II	<p>今日、経済状況、社会状況、技術状況などの外的環境の変化に伴い、デザインの領域は拡大し、デザイナーの役割も大きく変化している。このような状況を踏まえ、日本および諸外国のインダストリアルデザインの理論と方法を通じて、国内外のデザインプロセスを比較・融合・発展させながら、インダストリアルデザインの課題及び対応事例を学び、これからのインダストリアルデザイナーに求められる能力およびインダストリアルデザインに求められる役割を導出する能力を涵養する。</p>	<p>講義15時間 演習15時間</p>
専攻教育科目	コース専門科目	国際インダストリアルデザインB III	<p>既存資料を通じて、国際社会が抱えている多様な課題を抽出、学生や教員とのディベートなどを通じて、整理、把握する。その後、主題として取り上げるテーマを選択し、類似する先行事例などを参考資料として、ソリューションを導出したプロセスを学ぶ。また、それらのプロセスと、デザインに関わる様々な手法や考え方をを用いて、選択したテーマに対する具体的なソリューションを提案するとともに、社会実装に向けた検討を含めた演習を実施する。</p>	<p>講義15時間 演習15時間</p>

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	国際インダストリアルデザインBIV	国際インダストリアルデザインB/I～IIIの取り纏めとして、過去、現在、将来の時間軸の観点から、インダストリアルデザイナーやインダストリアルデザインの過去のありよう、現在のありよう、さらに将来に求められるありようについて洞察することで、広い視野から課題を把握する能力を養うとともに、従来のデザインの枠を超えた新しい枠組み、アプローチ、解決策について考察する。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は英語により実施する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	インターンシップ(学部) I	企業、行政機関、公益法人等において、1週間程度(30時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。	
専攻教育科目	コース専門科目	インダストリアルデザイン	インターンシップ(学部) II	企業、行政機関、公益法人等において、2週間程度(60時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。インターンシップIの履修を前提とする。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	芸術表現論	美術館、ギャラリー、アートスペース、芸術祭など具体的な実践的な対象を通して様々な作品やその背景を学ぶ。歴史上のさまざまな作品や現代作品を観察し、作品のコンセプト、コンセプト背景、表現手法、表現技法、方法論等を総合的に学ぶ。また、それらを造形演習課題を通して実践的に経験し学ぶ。またその作品のコンセプトや技法から表現とは何かを考え、社会の中でどう位置づけられていったかも考え、芸術表現価値の社会性も思索する。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	西洋美術史	ルネサンスから20世紀中頃までの西洋美術の流れ、および重要な画家と作品について学ぶことにより、西洋美術を理解するための前提として必要な知識を獲得する。新たな芸術の運動の覚醒と「切断の意識」につらぬかれた前衛-未来派、ダダ、シュルレアリストなど未来派など文学、美術、建築、音楽にかかわらず、広範囲の分野で展開された思想主義を通じ、未来を考えることの意味や意義を、歴史を通じて芸術の歴史と社会の構成要因として考える。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	芸術文化論	私たちの使う道具・日用品とはなにかから始まり、日用品から美術品まで様々な事物のコレクションの方法、個々の事物を結び繋がりについて分析し、収集と展示を巡るコレクション論へと考察を発展させる。その考察に基づき、指定されたキー概念に関連する画像のコレクションを各自提示する発表を行い、収集のコンセプトの視覚化を実践的に考察する。 更に具体的な視覚化・展示の演習を通して、展示の学術的価値や社会的価値を社会実装として考えていく。	講義12時間 演習4時間
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	芸術環境論	例えば、私的コレクションを公開のための空間から、均質空間にとしてのホワイトキューブやインスタレーションに対応できる空間など、芸術作品の展示空間の成立と変遷を歴史的にたどり、近代以降の代表的な展覧会をいくつか事例として取り上げて講義形式で検討する。この講義に基づき、受講者は仮想の展覧会を企画して発表する。発表では、美術館や展覧会場は中立的空間ではなく、作品という概念すらも時代や地域や文化に影響を受けていることを認識し、芸術作品の展示環境のデザインを考える。	講義12時間 演習4時間
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	身体表現演習 I	演劇のノウハウを用いた作品やアートプロジェクトの制作を通じ、対象に対して身体的に出会い交流するための方法論について、学外の専門家を招聘し実践的に学ぶ。ことばと感性に関わる様々な表現活動を体験し身体性を培う。それにより他者との関係を育み、それを表現として創造する方法を得ることで、身体感覚や環境・社会とのつながりを意識しその身体性を探求する。既成観念の除去により、繋がりを感じ直すことで日常生活での身体表現の可能性を考える。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	身体表現演習 II	ダンス等のパフォーマンス・アーツのノウハウを用いた作品やアートプロジェクトの制作を通じ、対象に対して身体的に出会い交流するための方法論について、学外の専門家を招聘し実践的に学ぶ。身体表現演習 Iと同様に、感性に関わる様々な表現活動を体験し身体性を培う。それにより他者との関係を育み、それを表現として創造する方法を得ることで、身体感覚や環境・社会とのつながりを意識しその身体性を探求する。既成観念の除去により、繋がりを感じ直すことでより多くの人と関わる力を養う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	応用音楽表現演習 I	<p>「ピアノ実技」「集団創作ワークショップ」「エレクトロニクスでの演奏」の3要素から構成され、ピアノ実技ではピアノを用いた高度な技術と表現力を養い、集団創作ワークショップでは即興演奏等のノウハウを用い音楽の場を共にすることについて考え、エレクトロニクスでの演奏ではコンピュータや電子楽器を用いた演奏について、その音楽的な背景を踏まえ、実践を通じて学ぶ。</p> <p>(20 矢向正人, 70 西田絢子) ピアノ実技を担当する。</p> <p>(69 長津結一郎) 集団創作ワークショップを担当する。</p> <p>(37 城一裕) エレクトロニクスでの演奏を担当する。</p>	<p>共同</p> <p>コース間共通科目 (未来構想デザイン・音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	応用音楽表現演習 II	<p>「ピアノ実技」「集団創作ワークショップ」「エレクトロニクスでの演奏」の3要素から構成され、ピアノ実技ではピアノを用いた高度な技術と表現力を養い、集団創作ワークショップでは即興演奏等のノウハウを用い音楽の場を共にすることについて考え、エレクトロニクスでの演奏ではコンピュータや電子楽器を用いた演奏について、その音楽的な背景を踏まえ、実践を通じて学ぶ。最後に発表会を行い、応用音楽表現演習 I と II を通じた、パフォーマンスの多様なあり方を修得する。</p> <p>(20 矢向正人, 70 西田絢子) ピアノ実技を担当する。</p> <p>(69 長津結一郎) 集団創作ワークショップを担当する。</p> <p>(37 城一裕) エレクトロニクスでの演奏を担当する。</p>	<p>共同</p> <p>コース間共通科目 (未来構想デザイン・音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	先端芸術表現論	<p>先端とは、技術の進展や発展に伴う道具としての先端性や先進性のことだけではなく、その時代の社会の考え方や歴史性に基づくものもある。文学・音楽・彫刻・ファッション・デジタルアート・ゲーム・演劇・陶芸・工芸・AI・ロボティクス等その時の最先端の芸術や表現や技術そのものとその背景にある概念や文化も包括し講義を行い、先端芸術表現に関する知識を習得する。その上でその先の技術的表現や新たな概念や方法を導き出す。</p>	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	デザイン哲学	<p>デザインはたんなる改良や美的粉飾ではなく、環境と人間の関係に関する真理の追求でもある。近代デザインを構成する様々な考え方の認識論的基礎 (1. イギリスやドイツのロマン主義、2. 論理実証主義、3. プラグマティズム、4. 批判理論、5. メディア論) について、デザイン理論と哲学理論を往復するかたちで考察する。デザインを語るにあたって、インターナショナルに通用する普遍的言語を習得し、またその言語をもとにしてデザインをあらたに構想する基礎論的リテラシーを修得する。</p>	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	デザイン美学	<p>デザインの美とは、たんに対象を美しく仕上げることではない。それは現状の惰性を乗り越え、新しい生のありかたを指し示すものでもある。その点で美は、宗教や思想と深い関係を持つ。近代デザインの美学は地域文化から独立したユニバーサルな機能主義によって代表されてきたが、近年では多文化主義や地域主義の台頭によって文化の固有性に注目が集まっている。本講義では、とりわけ日本上代文学、世阿弥、本居宣長、柳宗悦、九鬼周造、西田幾多郎、和辻哲郎などを取り上げ、東洋・日本の美学を、その背後にある、儒教、仏教、日本思想との関連において学習する。</p>	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	デザイン編集論・演習	<p>新しいデザインや未来構築のためには、同じ事象や対象を様々な側面から見る必要がある。そのような総合的なデザインを行うためには、様々な専門分野の知見や散在する多様な情報を収集し、課題に沿った文脈を構成し表現する編集力が必要である。様々な知見や情報を複数のアプローチから読み解き、あるいはアプローチそのものをデザイン・設計・編集し、新たな情報を導出する力を培う。多くの複合的で広範囲の情報を対象とした演習を通じて広義の編集の概念と方法を学ぶ。</p>	<p>講義6時間 演習10時間</p>

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	デザイン材料論・演習	様々な材料に対し、量的特性、質的特性、物理性、化学性、生物性、ライフサイクル、文化、地勢、歴史、産業性から包括的かつ具体的に学ぶ。基本的な材料の知識を取得するとともに、既成概念にとらわれずそれら材料に関わる様々な情報から発想し、これまでにないような対象物を設計する能力が重要である。材料から創造的な発想をえながら、ライフサイクル全体を見渡し、社会や環境の持続可能性を考慮した設計を行う能力を実践的に培う。	講義6時間 演習10時間
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	バイオアート&デザイン論・演習	生命をデザインの視点から見つめ、生命と設計との関係を学ぶ。具体的な設計課題（課題説明、課題、プレゼン）を行いながら適宜講義を行う。バイオメティクスやバイオインスパイアードデザインなどの生命からヒントを得たモノ、コト、仕組みの設計を事例を通じて触れる。さらにバイオアート、クリティカルデザイン、デザインフィクションなどの視点から生命に関わる議論と設計の関係を学ぶ。以上を通じて生命と関わる設計に対してクリティカルな視点で価値を問う能力、その上で具体的な設計を行う能力を身につける。	講義6時間 演習10時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想	未来デザイン方法論	過去の社会・エンジニアやデザイナー・建築家・小説家・漫画家などのような未来を想定しどのような方法で設計・提案してきたかを、設計工学の手法及び産業デザイン及びアドバンストデザインの過去の具体的な事例を通し、考える。また合わせて、具体的なデザインの実現のテクニックや方法について、製品デザイン・空間デザイン・情報デザインのアプローチから、未来設計の基盤となっている基盤的・基礎的なデザインの方法や考え方を取得する。	
専攻教育科目	専門科目	未来構想	デザイン要素論・演習	「スピード感」「軽快感」「透明感」「精密感」「信頼感」等の言葉は印象を作り、また印象を伝えるための言葉として多用されてきた。またコミュニケーションとして、共通のデザイン言語となる場合も多い。これら印象がどのような形状や色やディテールで構成されているかを考え、対応する具体的なカタチの抽出方法・造形方法・構成方法・設計方法を取得する。それにより、未来を具体的に表現する能力や伝達する方法を身につける。	講義6時間 演習10時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想	デザイン設計論・演習	アドバンストデザイン・スペキュラティブデザインとしての製品や形状の提案や設計を行う。未来のものづくりとして例えば「医療機器のデザイン→人工臓器のデザイン」「新聞のデザイン→AIによる情報デザイン」「自動車のデザイン→移動のデザイン」など、それらの設計の具体的な課題から、将来に対しての具体的な解決方法を作り、具体的な対象物を設計する。それにより制作や表現の方法を取得し、具体的に未来を設計していく力を身につける。	講義6時間 演習10時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想	デザイン実装論・演習	構想を実証・実行・実装するための方法取得する。企業や行政と連携した具体的なテーマに対し、プロジェクトや具体的な方法を通して、設計・実装していく能力を実践的に獲得する。具体的な実装方法を通して、何を問題とすべきか、何が問題となりうるか、それらの設計方法や実装方法に基づいた調査の方法や設計の方法など具体的に獲得していく。またそれに基づき、その方法を自ら展開し、次に何をすべきか次の課題を自ら設定することを最終成果とする。	講義4時間 演習12時間
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	環境倫理学	デザインが生物や人間の「幸福」を目指すとしたら、その幸福とは何か。デザインにおける〈善さ〉は、実用目的を機械的に充足する程度によって測られるのではなく、人間や自然生命がそれによっていかに解放され、その生命力を取り戻しうるかにかかっている。人間の内的自然/有機的な自然観についての基礎的な概念や考え方を学び、自己の内的自然=いのちと調和した生き方をいかにして実現しうるかについて思考する。西洋の源流思想、反近代主義の諸潮流、フロイト/ラカンの精神分析、最新の環境思想などについて学ぶ。	コース間共通科目 (環境設計・未来構想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	物質文化論	原人の川原石を打ち欠いただけの簡単な石器に始まる人類の物質文化は、現生人類の段階になって飛躍的に発展し、加速度的にその種類と量を増やしている。人間の文化的適応に中心的な役割を果たす物質文化は衣・食・住という基本的な必要を満たすだけでなく、大規模な通信・交通などを可能にし、ステイタスシンボルなど象徴的な機能も果たすなど、その機能は非常に多岐にわたり、現在では、物質文化のない生活というのは想像することも難しい。人間がどのように人工物(もの)を作り、交換し、消費するか。また、そのような「もの」で構成される世界は「人間」であることを構成する中心であり、人工物が重要な社会的効果を持っていることを論じる。	コース間共通科目 (環境設計・未来構想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	グローバル化と伝統的社会	環境人類学は19世紀以来の人類学による環境と文化の研究の概念・知見を核として、現代的な(自然)環境と人間集団・共同体の関係を体系付け、理解しようとする分野である。近年のグローバル化に伴って集団間の相互影響が急速に拡大している現在、世界的な政治経済体制を考慮することなしには、一見隔絶された環境にある集団の適応が何故困難になっているのかを理解することはできない状況が生まれている。途上国の狩猟・採集、農業、漁業、牧畜などの生業に従事する集団の事例を通じて、それが周辺環境とともに、グローバルな政治経済体制から直接的に大きな影響を受けている状況について学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	環境社会デザイン論	未来社会のデザインを考えるためには、過去において先人たちが獲得してきたさまざまな理念を知り、それを未来の社会において実質化しゆく構想力が必要となる。そのため本講義では、人間の自由とそれを実現する社会のありかたについて、これまで蓄積されてきた思想を振り返り、未来社会のデザインを考える基本的な姿勢と論点を学ぶ。その延長線上に、持続可能な未来社会のさまざまなモデルを提示し、そこへ至るプロセスと行動パターンを検討して、持続可能な社会のありかた、そのために必要となる人間行動、それを実現する政策のデザインについて学ぶ。	コース間共通科目 (環境設計・未来構想デザイン)
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	価値と政策	価値とは何か、価値の相対性や絶対性、また誰のための価値を誰がどのような方法で考えるどのようにして検討されるのか、どのように決まるかを理解し、芸術やデザインに関する政策のあり方を考える。特に文化庁における文化政策・芸術政策・デザイン政策などを具体的な事例を通じ、議論し実践的に検討し、現状の問題・将来の問題を考え改善案も検討する。また、文化庁だけでなく経済産業省や国土交通省のデザイン政策などとも比較しながら考えていく。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	表象文化論	哲学、心理学、精神分析、美術史、芸術学、マンガ論、記号論、写真論、映画論（映画研究）、その他さまざまな方法を用いて、絵画、マンガ、写真、映画、広告などといった視覚的なものがいかなる作用を果たしているかについて分析する。あるイメージを「見ること」のうちすでに、さまざまな力の作用やそれに伴う問題が含まれている。そうした問題に関してこれまで蓄積されてきた議論などを通じて、ビジュアル・カルチャー・スタディーズ〔視覚文化研究〕と呼ばれる新たな研究方法について学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	芸術コミュニケーション論	国際社会を生き抜く異文化コミュニケーション能力、世代間コミュニケーションの問題を克服する能力、人間関係を形成していく能力の獲得を芸術表現を通じたコミュニケーションにより獲得する。そのために芸術における表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等を実施することにより、芸術を理解する気持ちを育み、豊かな情操を養うとともに、コミュニケーション能力の育成を図る。非言語コミュニケーションを可能とする方法、芸術におけるコミュニケーションの仕組みを学際的な方法を用いて理解する。	コース間共通科目 (環境設計・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	アーツマネジメント論	日本のアーツ・マネジメントは、全国に林立した公立文化施設の運営や芸術文化団体の経営と深く結びついている。加えて近年は、社会のさまざまな課題にアプローチする手段として芸術が用いられている。芸術と社会の「つなぎ手」としてのアーツ・マネジメントの立場について学ぶ。更に、芸術の価値や有用性を社会の中で展開方法をアートの意味や歴史的系譜を理解し、パブリックアートやアートプロジェクトなどまちづくりなどを通じ、市民との協働や地域文化振興なども考える。	コース間共通科目 (環境設計・未来構想デザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	教育における多様性	教育や学びについて、必要な知識の習得するとともに、教育環境の課題を考え、またあわせて、教育問題を把握する。今日の教育の現状と課題を考え、教育の営み自体を家庭教育や地域社会教育、国際教育など、教育を一義的に捉えず様々な段階からなる幅広い視座から捉える。そのために教育理論の基礎知識と学習のプロセスの理解により教育理論を実装する方法を学ぶ。設計実践の理論と実際のケーススタディに基づき教育と学習の現状の問題と解決方法を探求する。	講義4時間 演習12時間
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	質的社会調査法	社会や未来の構想のためには量的な調査の他に質的な調査も重要となる。数量で表現できないような現象の質的理解や解釈・説明が必要となる。調査のプロセスや現象が発生する文脈を重視する。また研究対象の発言や態度・行為を尊重し行う。質的研究法の基礎として、フィールドワーク・参与観察・半構造化インタビュー・フォーカスグループインタビュー・グランディッドセオリー、質的データの分析法等について、実践を交えながら方法を獲得する。	講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	ファシリテーション	教育、行政、地域、企業とあらゆる組織や集団において、協働という名の知的な相互作用を活性化し、集団による問題解決、アイデア創造、合意形成、学習、変革、自己表現・成長という知識創造プロセスを支援し促進していく働きであるファシリテーションの重要性が増している。ファシリテーションの理論、意義、必要性、スキル（場づくり、対人関係、論点の構造化、分かちあい）、効果などについて学び、演習を通してファシリテーションの醍醐味を体験・体得する。	コース間共通科目 (環境設計・未来構想デザイン)

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	アート・デザイン・ライティング演習	アートやデザインを言葉にすることは、それに一定の光を当て、新しい対象のありかたを意識にもたらず優れて創造的な行為である。この授業では、そのための文章表現スキルを身につける。文章表現は理性的に相手を説得する論理的な側面だけではなく、相手の感情に訴え、効果的な印象を与えて、場合によっては行動のきっかけとなりうる情動的で修辭的な側面をもつ。説明や記事、評論などアートやデザインを言葉で表現する状況において、論文とは異なり、様々な読者を想定しながら書き分ける実践的なライティング技法について演習形式で学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	主観評価法	主観評価法は、心理実験に基礎を置く分野全体の基盤をなす科目の一つと位置づけることができる。知覚に関する現象観察および精神物理学の測定法から多変量解析の導入までに焦点をあてて考察する。因果関係と相関関係との違い、検証可能性、信頼性と妥当性と操作的定義、理論と仮説、オッカムの剃刀、独立変数と従属変数、実験条件と対照条件（統制条件）、交絡変数、二重盲検法、統計的有意性、自然観察、調査、実験、事例研究、精神物理学、調整法、極限法、恒常法、上下法、一対比較法、尺度水準など、実験に必要な概念や方法を学び、「明るさの対比」の現象観察、錯視量の測定、サーストンの方法による心理尺度構成、大きさの恒常性の測定、クラスター分析の実習を通じて、実験レポートの作成方法も学ぶ。 (オムニバス方式 全15回) (2 伊藤裕之/4回) 「明るさの対比」の現象観察、精神物理学の測定法、錯視量の測定、尺度水準について解説、実習する。 (28 上田和夫/8回) 導入、観察および実験の基礎的概念、サーストンの方法による心理尺度構成、大きさの恒常性の測定、クラスター分析について解説、実習する。 (57 Remijn Gerard Bastiaan/3回) 現象観察、精神物理学、実験の定義について解説、実習する。	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	フィジカルコンピューティングとIoT	フィジカルコンピューティングとは、様々なセンサやアクチュエータを利用して人とコンピュータをつなぐ手法である。IoTとは実世界の様々なモノがインターネットに接続されている状況を表す。この授業では、フィジカルコンピューティングを簡単に実現できるマイクロコンピュータの一つであるArduinoを利用して、様々なセンサを利用してデータを取得したり、サーボモータなどを制御する方法を学ぶ。また、それらをインターネットと接続し、データを収集したり他のデバイスと協調して動作させる方法を学習する。	講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	ウェブサービスデザイン	インターネット上のハイパーテキストシステムであるワールド・ワイド・ウェブ（WWW）は情報の社会基盤として重要な役割を果たしている。WWWは単にユーザに情報を提示するだけでなく、様々なサービスを提供するプラットフォームとしての役割も果たしている。この授業では、ウェブ及びウェブ上の様々なサービスを実現するための基本的な仕組みを理解して、簡単な実習を通じてウェブサービスを実現するための知識と能力を身につけることを目的とする。	講義15時間 演習15時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	データ解析	企業活動や研究における実験などで得られたデータに対して、統計解析を行う際に最も基本な解析法となる回帰分析や統計的仮説検定について講義演習を交えて解説する。また、実際のデータは欠損などを多く含むことから、解析法だけでなくデータのハンドリング法、いわゆるデータクレンジングや、データの基本的な作図法とそこから見えてくる傾向など、様々な側面からデータ解析の基本を学習することで、研究や企業などで実データに挑む際にもフレキシブルに対応できる能力を身に付ける。	コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	プログラミング設計	システム開発とは、業務を最適化して管理するため技術を用いプログラムされたシステムを作ることである。そのシステム開発に必要な知識を学ぶ。ウォーターフォールモデルやプロトタイプモデル、スパイラルモデルなどシステム開発のモデル、オブジェクト指向など概念とその利用方法、確認・評価・負荷などの様々な段階でのテストの方法、データやプログラムの構造化設計構造など、システム開発の計画・各段階設計・プログラミング・テストの各段階での必要な技術を取得する。	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	シミュレーション数理	生命現象である、脳や神経の働き、様々な内臓器官の仕組み、さらには、それらを行っている生理現象の解明は重要課題である。また社会全体あるいは特定の集団で見られる 経済や宗教や芸術などの現象を明らかにしていくことは未来社会構想において大変重要である。シミュレーション数理では生命現象・社会現象を分析・理解するために、微分方程式を用いて、モデリングするための数理を学ぶ。またそれを計算機上でシミュレーションするための数値計算法を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称		講義等の内容	備考
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	シミュレーション演習	生命現象である、脳や神経の働き、様々な内臓器官の仕組み、さらには、それらを行っている生理現象の解明は重要課題である。また社会全体あるいは特定の集団で見られる 経済や宗教や芸術などの現象を明らかにしていくことは未来社会構想において大変重要である。シミュレーション演習では数値シミュレーションを実際に行い、現象をどのようにモデル化し表現するかを学習する。また解析的なアプローチとの違いや利点などについても学ぶ。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	情報科学Ⅱ	機械学習は、人間が持つ学習に相当するシステムをコンピュータで実現するための技術や方法のことであり、現代社会・未来社会においては、必須のこととされており、構想デザインにおいては最重要手法とも言える。 機械学習の様々なモデルとその学習方法を学ぶ。分類問題、回帰問題、教師付き学習、教師無し学習、強化学習、交叉検定等の概念を学習した後、決定木、ニューラルネットワーク、k平均法、適応共鳴理論、Q学習等の具体的モデルを考察する。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	情報科学Ⅲ	情報科学的に生物学の諸問題に取り組む分野は、バイオインフォマティクスやComputational biologyとよばれバイオ(生物学)とインテリジェントシステム(情報学)という2つの領域の結節点となっている。急速に進化する現代社会において、更に未来社会構想においては重要な手法の一つである。本科目では、そのような分野の可能性と具体的な事例について講義する。加えて、実戦的技術の体得を目指し、実装や計算機実験等の演習も行う。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	データマイニングⅠ	「データ解析」で学んだ内容をもとに、その知識を多変量解析・時系列解析へ発展させ、研究などで得られる多種多様なデータに対して適切に対応できるように講義でその手法の数理的な理解を、演習でデータマイニングⅠでは「データ解析」の発展として、通常の回帰モデルでは対応できない一般化線形モデル、教師あり学習の1手法としての決定木、教師なし学習の1手法としてのクラスタ分析、アンケートデータなどで使用可能な主成分分析などを学んでいく。	コース間共通科目 (インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	データマイニングⅡ	「データ解析」および「データマイニングⅠ」で学んだ内容をもとに、その知識をより深く発展させ、研究や実社会で遭遇するより複雑なデータに対して適切に対応できるように講義でその手法の数理的な理解を、演習でデータマイニングⅡでは「データ解析」「データマイニングⅠ」の発展として、アンケートデータなどで使用可能な因子分析、多次元尺度構成法、時系列データの予測などが可能なARモデル、より高度な時系列データの構造が解釈可能な状態空間モデルなどについて学んでいく。	コース間共通科目 (インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	先端情報生命科学Ⅰ	自然界や生物にヒントを得た、(1) 複雑系・人工生命(複雑系: 経済や交通・消費動向などの人間社会や生命・気候に至るまであらゆるデザイン対象に対しての理解、人工生命: シミュレーションや機械学習や構想デザインとも強く結節する方法)、(2) 進化計算(最適化問題、人工知能、推論、自動合成などあらゆる構想方法に適用される)、(3) 感性に基づく最適化(主観的な判断や質的評価との連携など)に関する話題・技術を中心に学習する。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	先端情報生命科学Ⅱ	自然界や生物にヒントを得た(4) ファジィシステム(未来社会構築やバックキャスト・POCと関連した構想デザイン手法や概念との関連)、(5) ニューラルネットワーク(社会デザインに関連する脳科学や感性科学・人間工学・生理人類学との連携)、(6) 融合化技術(未来の経済・社会的な問題の解決における、多様な分野及び技術が結合されたイノベーション手法や方法論にも資する)に関する話題・技術を中心に学習する。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	生命科学入門Ⅱ	生命の基本単位である細胞、その内部でのDNAやタンパク質の働き、他個体や環境との相互作用がつくる生態系、それらが変化していく進化について理解する。生命科学における細胞・DNAやタンパク質・相互作用の理解は今後重要になってくる生命倫理に関わるデザイン、例えば今後未来社会において、思索せざるを得ない人工臓器や医療機器など生命や排泄・倫理などを対象にしたスペキュラティブデザインなどへの大きな展開が見込まれる。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来 構想	生命科学実習	基礎的な遺伝子実験、微生物の培養実験等を通して、バイオテクノロジーがどのように役立っているかを学ぶ。同時に、データの科学的解釈方法を習得し、生命倫理についても考える。この実習による方法を取得することで人間工学や生理人類学などをふまえた脳科学・感性科学・遺伝子工学などとの連携が可能になり、人間行動のデザインや人間心理そのもののデザインなどへのより深い展開の可能性が生まれ、新たなデザイン領域の創出が期待できる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	知覚心理学	<p>「形や色が見える、音が聴こえる、物を触って感じる、匂いや味がする」というような体験を、科学的な態度で分析し、人間が環境への適応に必要な情報をどのように得ているのかを考察する。視覚と聴覚に関する話題を中心として、様々な実験、デモンストレーションなどを紹介し、全体を貫く知覚の法則について考察する。感覚・知覚心理学の位置づけ、感覚・知覚の生物学的基礎、感覚知覚の一般的性質、物理量と心理量の違い、順応や閾の概念、感覚器官と脳の役割、視覚特性、奥行き知覚、光の強度と明るさの関係、味覚、嗅覚、触覚、音と聴覚、知覚と注意、知覚と記憶、対象の再認、知覚と脳科学、感覚間の相互作用について解説する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(2 伊藤裕之/1回) 感覚・知覚心理学の位置づけ、感覚知覚の一般的性質、物理量と心理量の違い、順応や閾の概念、感覚器官と脳の役割について解説する。</p> <p>(71 平松千尋/1回) 感覚・知覚の生物学的基礎について解説する。</p> <p>(2 伊藤裕之/5回) 視覚特性、奥行き知覚、光の強度と明るさの関係、味覚、嗅覚、触覚、感覚間の相互作用について解説する。</p> <p>(28 上田和夫/5回) 音と聴覚、知覚と注意、知覚と記憶、対象の再認について解説する。</p> <p>(57 Remijn Gerard Bastiaan/2回) 知覚と脳科学について解説する。</p> <p>(28 上田和夫/1回) 総括</p>	オムニバス方式 コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	Design Pitching Skills	<p>この授業は履修者が外国に行き、自らのデザインのアイディアを売り込む状況を想定したものである。履修者が英語を使って自分のアイディアを説明したり、その良さを売り込んだりするためスキルを向上させることを目標とする。授業は対話的なワークショップ形式の一連のセッションを通して、履修者が実際に自分のアイディアの説明し、教員はプレゼンテーションのやり方、コミュニケーションの取り方などを適切に英語で行うための方法を具体的にコーチすることで進め、履修者のスキルを向上させる。</p>	共同 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	Start-ups and Global Disruptors	<p>この授業はデザイン提案を社会実装するための一つのルートとしての起業をテーマとする。その目的は起業家として事業を始めるときに理解しておくべきこと、また、事業を起こすために必要な基本的な理論や知識・方法などについて、ケーススタディなどを通じ、より実践に即した形で、英語により学ぶ。授業では、初期費用のための投資、「死の谷」、買収、新規公開株 (IPO) など、スタートアップ企業が直面する様々な場面について、事例を使って説明する。</p> <p>(オムニバス方式全8回)</p> <p>(78 Loh Wei Leong/3回) 起業に関する障害と起業される企業の発展段階について事例研究の英語による講義を行う。</p> <p>(62 稲村徳州/5回) デザイン提案をスタートアップ企業で実装するプロジェクトに関する演習を英語で指導する。</p>	オムニバス方式 講義6時間 演習10時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	Intellectual Property Rights : Global Perspective	<p>知的財産権に係る規定や法律は国によって大きく異なり、国際的なデザイン活動をするためには、デザインによって生み出された価値の保護について広く理解する必要がある。そのため、この授業では日本及び諸外国における知的財産の概念、知的財産にかかわる基本的な事柄について英語による講義を行い、演習形式で様々な文化的脈絡の具体的な事例を挙げながら、知的財産を守るための方策について、履修者が実践に役立つような形で英語により学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式全8回)</p> <p>(78 Loh Wei Leong/4回) 国際的な知的財産の基本概念と国際的な商標や特許に関する英語による講義を行う。</p> <p>(62 稲村徳州/4回) 知的財産権の抵触を防ぐための方法や考え方について具体例を使い英語による演習を行う。</p>	オムニバス方式 講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専攻教育科目	コース専門科目	未来構想デザイン	Global Design Innovations この授業の目的は現在デザインの世界でどのようなイノベーション事例があり、それがどのように生み出されているかを履修者が知ることにある。そのため、まず、具体的なケーススタディを通して、海外の社会デザインのイノベーションの先進的事例を紹介する。この事例研究で得たアイデアをもとに、演習では、実際にデザインプロジェクトに参加し、社会的な課題に対してプロトタイプを制作し、解決のための提案を英語で行う能力を身に付ける。 (オムニバス方式全8回) (62 稲村徳州 / 2回) 九州大学と海外連携大学とのデザインプロジェクトの事例について英語による講義を行う (62 稲村徳州・78 Loh Wei Leong / 6回) (共同) 現在・近い将来の国際的なデザイン課題を取り上げ、海外連携大学と共同演習を行う。	オムニバス方式・共同 (一部) 講義4時間 演習12時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)	
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	国際未来構想デザインA I	異なる文化的背景や歴史的背景・社会的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、要素還元的に理解しそれら能力を培っていく。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	国際未来構想デザインA II	異なる文化的背景や歴史的背景・社会的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、統合的に理解しそれら能力を培っていく。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	国際未来構想デザインA III	異なる文化的背景や歴史的背景・社会的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、理解しそれら能力を培っていくために有効なデザインの知識やスキルの効果的な活用方法を身につける。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	国際未来構想デザインA IV	異なる文化的背景や歴史的背景・社会的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、自由に活用できる応用力を身につける。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	国際未来構想デザインB I	国際的な環境のなかで身につける知識や経験、異なる文化的背景や歴史的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、要素還元的に理解しそれら能力を培っていく。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	国際未来構想デザインB II	国際的な環境のなかで身につける知識や経験、異なる文化的背景や歴史的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、統合的に理解しそれら能力を培っていく	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専門科目	未来構想デザイン	国際未来構想デザインB III	国際的な環境のなかで身につける知識や経験、異なる文化的背景や歴史的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、理解しそれら能力を培っていくために有効なデザインの知識やスキルの効果的な活用方法を身につける。	講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称		講義等の内容	備考
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来構 想	国際未来構想デザインBIV	国際的な環境のなかで身につける知識や経験、異なる文化的背景や歴史的背景に対する理解に基づいた上で、多様性を捉えながら、英語または他言語による異文化間のコミュニケーション能力や理解力・伝達能力身につけ、さらに、デザインやアート・人類学・社会・環境・哲学・美学・情報工学・生命科学など様々なアプローチから未来を構想するために必要なデザインの知識やスキルや方法を学ぶ。それら内容を講義や演習を通じて、自由に活用できる応用力を身につける。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来構 想	インターンシップ(学部) I	企業、行政機関、公益法人等において、1週間程度(30時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来構 想	インターンシップ(学部) II	企業、行政機関、公益法人等において、2週間程度(60時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。インターンシップIの履修を前提とする。	
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来構 想	ゲームデザイン	前半にゲームに関する歴史や分類、制作に必要な要素、社会との関わり方、知的所有権等の基礎的講義を行う。後半にカードやダイス等を用いたゲームデザイン演習をおこない、ゲームメカニクスについて観察、分析、考察、仮説、実行、評価の工程について実践的に学ぶ。全体を通して、ゲーム制作に必要なコンセプトワークとアイデア発想法、ディレクションとプロデュース、プロジェクト開発と運営等に関する知識、スキルを身につける。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来構 想	映像表現	デジタル技術の進展による撮影機器の加速的普及によって、「一億総カメラマン時代」と呼ばれる近年、映像表現はより身近なものとなっている。本講義演習では、映像表現の基礎知識を学び、実践としての制作演習を通して映像制作技術を習得することを目指す。講義では、100年を超える映像の歴史を俯瞰し、その中で進展してきた映像表現について解説する。さらに、撮影技法、編集技法の基礎を学び、映像作品の制作を通じて映像表現に対する理解を深めていく。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	コース デザイン 未来構 想	アニメーション表現	映像メディアの基礎的な技術、知識を習得するうえで、「アニメーション」は非常に重要な役割を担っている。静止画の連続によって動きを表現するアニメーションは、いわゆるアニメだけでなく、実写のコマドリ、3DCGなどあらゆる動画において用いられている。前半においてはアニメーションの構成要素である静止画に関連する、写真やアニメにおける技術や表現技法から、実写やアニメなど動画がもたらした映像表現について考察し、後半では受講者個別でのアニメーション作品制作を行い、アニメーション表現に関する理解を深めていく。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	コース デザイン 未来構 想	芸術論	2000年以降の現代美術は、ひとつの理論や法則では統合できない。今日の現代美術は現代社会の現実を解説し、その影響に対して身体的・感情的・実践的に反応するもの、つまり社会と個人の関係を考える様々な形態として存在している。現代美術の動向、造形美術の歴史、創造と脳の関係、身体性やマイノリティーへの視座などを、「造形」を軸に概観する。さらに身体性への知識を造形的に発展させるためのワークショップを行い、創造する立場から芸術作品を理解し、社会や人間への意識を深め、新しい価値観を創造する力を養う。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来構 想	数理造形	プログラムの基礎を学習して、グラフィックス、アニメーション、シミュレーション、インタラクション、画像処理などの実装を通して、数理造形について学ぶ。本講義は「数理造形と表現演習」の講義とセットであり、その基礎的な内容となる。講義内では、コンピュータグラフィックスのアルゴリズムを基礎とした内容について知識を深めながら、そのプログラミング実装を行う。また、近年のコンピュータグラフィックスやその周辺事例について知識を共有する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専門科目	コース デザイン 未来構 想	タイポグラフィックデザイン	タイポグラフィとは、文字記号を中心としたグラフィック図形のシステムや形態をデザインしたり、またそうして作られた文字記号を、目的に応じて適切に選定し、配置することで効果的かつ美的な視覚情報を構成するデザインである。文字記号は、約500年の歴史のある伝統的デザインであると同時に、現代においてもモバイルメディアなどで生活空間に横溢しているメディアである。この授業では、書体を中心とするタイポグラフィの歴史、印刷技術の種類などの基礎的な知識に合わせて、ソフトウェアを用いた組版のスキルを学ぶ。	講義6時間 演習10時間

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	専攻科目	メディアデザイン	グラフィックデザイン	<p>広告や書籍、ポスターのデザインなど、特に印刷メディアを中心の対象として20世紀に興隆したデザインであるグラフィックデザインは、これまでに数多くの手法や考え方、様式など、豊富なデザイン資源を有するデザインである。この授業では、そうしたデザイン資源についての基礎的な理解とともに、その活用についての経験的知識を深めるために、グラフィックデザインの歴史的、理論的、実践的見地からの講義を行い、合わせて基礎的な演習を通して、デザインの経験を深める。</p>	講義12時間 演習4時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	広告クリエイティブデザイン	<p>この授業では、20世紀に興隆した広告デザインの新しい方向を見据えつつ、広告の概要、広告のアイデアや展開を発想するクリエイティブデザイン、広告を具体化するための基礎となる造形とグラフィックデザインの三部から構成される。概要では、今日の広告業界全般の状況と広告企画のポイントに関する概論、クリエイティブデザインにおけるコンセプトの作り方、表現手法、アートディレクション等についての事例を学び、グラフィックデザインと造形においては、それらの基礎となるグラフィック手法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(3 伊原久裕/2回) 広告の表現に関する創造的技法としてのタイポグラフィ、グラフィックデザインについて講義と演習を学ぶ。</p> <p>(68 藤紀里子/2回) WEB広告の技法について講義と演習を学ぶ。</p> <p>(35 齋藤俊文/4回) 広告の概要として、広告業における現状と課題について講義する。また広告企画のポイントとクリエイティブデザインにおけるコンセプトの作り方、表現手法、アートディレクションについて事例を交えて講義を行う。</p>	オムニバス方式 講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	専攻科目	メディアデザイン	情報デザイン	<p>円滑な伝達を促すための情報設計 (IA) と効果的な視覚化の手法について学び、演習および課題制作を通して体得する。具体的には、紙媒体でのパンフレット・冊子を制作し、それをWebに展開するという課題によって、スタイルシート概念からWebデザインの表現技術およびユーザビリティおよびアクセシビリティ等の求められる要件についての理解を深め、さらには、アプリ等を含むUI/UX設計という視点でのデザイン開発方法の習得を目指す。</p>	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専攻科目	メディアデザイン	インタラクションデザイン	<p>インタラクションデザインとは、ヒトとモノの相互作用のデザインを表す。特に、ヒトが生活する環境にコンピュータを埋め込むことにより、ユーザの振る舞いに応じて従来では考えられない多様な反応を実現することができる。また、様々なセンサを利用することにより、ユーザの様々な振る舞いを利用したインタラクションが実現可能である。この授業では、インタラクションデザインに関する歴史、構成要素、評価の方法、方法論などについて学習する。</p>	
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	メカニクスデザイン	<p>インタラクションにおいて、形が創成する運動や力覚を伴う応答を利用するには、メカニズムを利用することが多い。そのメカニズムを、平面リンク・空間リンク、閉リンク・開リンクなどに分類し、それぞれの運動の特徴・特性を知ることから始め、必要な運動と応答を与えるメカニズムの選定や構築の方法について学ぶ。メカニズムの構築と製作に関連して、デジタルモデリング、デジタルファブリケーションおよびメカトロニクスについても解説する。また、インタラクションに関する物理的知識として、流体と熱の関与についても概説する。</p>	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	専攻科目	メディアデザイン	バーチャルリアリティ	<p>バーチャルリアリティとは、人工的に作られた空間が、我々の住んでいる実空間とシームレスに繋がっているようにコンピュータを駆使して没入させる技術である。このためには、人間の視覚や聴覚、触覚などの感覚系の仕組みを生理的、心理的に把握し、これらのマルチモーダルな感覚を仮想空間内で提示する方法を検討し、さらに空間内で人間の感覚器官に情報が提示されることから起こる反応について計測ができるように工夫する必要がある。このような人工的な空間が生成されると、その空間内でリハビリ、遠隔操作、エンターテイメントなど社会の様々な分野で応用が可能になる。本授業ではバーチャルリアリティが誕生するに至った歴史から今日までの研究の歩みを紹介し、今後どのような展開になるか学習する。</p>	

科目区分		授業科目の名称		講義等の内容	備考
専攻教育科目	専攻科目	メディアデザイン	コンピュータグラフィックス	さまざまな物体、現象、事象を数理モデルとして表現し、光を計算して二次元画像/映像として視覚化するのがコンピュータグラフィックスの本質である。形や色はどのような構造をしていて、これに光がどう関わるのか、光はどのように伝搬し、どのように目に届くのか、人やカメラはどのように視界を認識するのか、何が実現可能で何か困難なのかなどを考える。形や動きをとらえた対象の本質や人の心象まで含めて「見える」という現象を情報科学的に分析し、コンピュータの内部処理の問題に展開し、アルゴリズムとプログラムとして実装するための考え方を学ぶ。	
専攻教育科目	専攻科目	メディアデザイン	ウェブサービスデザイン	インターネット上のハイパーテキストシステムであるワールド・ワイド・ウェブ(WWW)は情報の社会基盤として重要な役割を果たしている。WWWは単にユーザに情報を提示するだけでなく、様々なサービスを提供するプラットフォームとしての役割も果たしている。この授業では、ウェブ及びウェブ上の様々なサービスを実現するための基本的な仕組みを理解して、簡単な実習を通じてウェブサービスを実現するための知識と能力を身につけることを目的とする。	講義15時間 演習15時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン)
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	コンピュータビジョン	人間は目の前の世界を瞬時に認識して判断して行動している。この機能をコンピュータや機械にもたせることはできないかという課題に対し、カメラやビデオという人工的な目を用いて、その実現に一步近づけることができる。カメラを通してコンピュータが見る世界は、実際の世界とはかけ離れたものであるが、状況を認識するための手がかりを与えてくれる。現在、そのような情報をもとに自分で状況判断して行動するロボットや自動車の研究開発が進んでいる。本科目では、その基礎として、二次元の画像から元の3次元の現実世界を再現する技術や方法論について学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	メディア情報処理	メディア情報の中でも画像に関わる情報は大きなウェイトを占める。本科目では、画像情報を取り扱う上で不可欠な画像処理および特徴情報の抽出方法等について解説する。画像情報を信号としてとらえたときの周波数表現や、形状として見たときに必要となる幾何学処理について説明する。また、画像の特徴抽出や画質の改善に必要な種々のフィルタリングについても取り上げる。この授業を通して、種々の画像処理の基礎となる数学的な理論とそれに基づくコンピュータを用いた処理方法を理解する。そして、それらの処理をもとにした画像情報の抽出方法や解析方法及びその利用について学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	コンテンツ工学	コンテンツの制作、検索、処理、保護等についての基礎的な事柄を学ぶとともに、エンタテインメントコンピューティング、ジェネラティブアート、ノンフォトリグラフィックレンダリングなど、娯楽や創作活動へのコンピュータの利用について、工学的な視点からアプローチする。特に、そこで使われるアルゴリズムについての理解を深め、新たなコンテンツを創造するための技術や、コンテンツを扱う際に生じる様々な問題を解決するための技術の習得を目指す。	
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	フィジカルコンピューティングとIoT	フィジカルコンピューティングとは、様々なセンサやアクチュエータを利用して人とコンピュータをつなぐ手法である。IoTとは実世界の様々なモノがインターネットに接続されている状況を表す。この授業では、フィジカルコンピューティングを簡単に実現できるマイクロコンピュータの一つであるArduinoを利用して、様々なセンサを利用してデータを取得したり、サーボモータなどを制御する方法を学ぶ。また、それらをインターネットと接続し、データを収集したり他のデバイスと協調して動作させる方法を学習する。	講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン)
専攻教育科目	専攻科目	メディアデザイン	視覚心理学	人間の視覚は能動的なプロセスで、一種の行為である。我々の脳が、眼から取り入れた情報をもとにどのように視覚的世界を構築するのか、その機能的側面を学ぶ。実験心理学的観点から、明るさ、形、動き、奥行き、知覚や、眼球運動、それらの錯視や相互作用を中心にデモンストレーションを交えて講義を行う。人間の視覚の特性と限界を知ることによって、それらの現象と視覚メディアのあり方について考察し、視覚デザインへの応用について考える。	
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	色彩学	われわれの周りには様々な色が溢れているが、「光線には色は付いていない」というニュートンの有名な言葉で表わされるように、色は光線が眼に入り、大腦にその信号が伝えられて初めて生じる感覚である。すなわち、色彩の知覚は、光源からの光線とそれを反射・透過・吸収する物体および眼(脳を含む)の3者の相互作用によって作られる。色彩や明るさの知覚、色の混色や演算、表色系の概念や構成、色の見えなどの色彩学の基礎的事柄を、色彩知覚の性質を基礎とする観点からの講義を通じて、色彩や色彩知覚を総合的に学ぶ。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	心理学的思考法	実験心理学の中から、知覚心理学、視覚心理学、VR心理学、認知心理学、行動科学、脳科学の実験を通して、各実験の統制条件の設定の、巧みさ、アイデアの面白さ、実験の実施のための工夫を学ぶ。一人ずつのワークで、学生自身が実験計画を考案、計画発表し、より洗練するにはどうすれば良いか、演習形式で考察する。演習形式で行うため、授業は少人数制とし、議論を充実させる。最終的には自分一人で心理実験を行うことが出来る力を身につける。議論や発表など、心理学に止まらない、実践的な力を育む。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	言葉とコミュニケーション	マルチモーダル分析を中心とした談話研究の基礎を学ぶ。メディアを音声・映像・トラッキング情報・生体情報などマルチモーダルなインプットを用いて分析することで、さまざまな場面における言語・非言語コミュニケーションの特徴を抽出し考察する。 (オムニバス方式 全15回) (73 冬野美晴／8回) ヒトとヒトの1対1のコミュニケーション、1対多数のコミュニケーション、ヒトとロボットのコミュニケーションなどのケーススタディを通じて、マルチモーダル分析の目的や方法を理解する。 (76 吉村理一／7回) 言語学の諸側面(音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論)を学ぶ。ヒトがどのように語や文を生成し、どのような過程を経てそれらが理解されるのかを探り、言語における規則性、法則について掘り下げる。加えて、言語間の普遍性と多様性についても日英語を基軸に考察する。	オムニバス方式
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	演劇文化論	演劇のルーツから古代ギリシア・ローマ演劇、中世演劇、ルネサンス演劇・シェイクスピアを経て近現代演劇に至る西洋演劇史を主軸とし、能・狂言・歌舞伎などの日本の伝統芸能や明治以降の演劇運動も視野に入れながら、演劇メディアの社会的機能・役割を中心に演劇形態・演劇理論・演出方法・観客反応の変遷を通じて、演劇芸術作品の古典化と受容のプロセスを時代性・地域性について理解する。視聴覚教材により多様な演劇形態を紹介し、演劇文化の現状について理解するために、観劇体験の機会を紹介するとともに、文化的地域性の観点から演劇による社会貢献の可能性についても検討する。	
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	知的財産法	デザインに関わる知的財産権の基礎を理解するとともに、その現代的問題についても関心を高めることを目的とする。 授業の前半は知的財産法の基礎を扱う。デザイン保護の中心的役割を果たす意匠法・著作権法だけでなく、デザインを間接的に保護する特許法・商標法・不正競争防止法なども併せて解説する。 授業の後半は、デザインを取り巻く環境についての先端的問題を扱う。創作および創作環境は常に変化しており、知的財産権との関係で様々な問題が生じている。これらの問題について、授業の前半で扱った知的財産法の基礎知識を前提に理解を深める。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	知覚心理学	<p>「形や色が見える、音が聞こえる、物を触って感じる、匂いや味がする」というような体験を、科学的な態度で分析し、人間が環境への適応に必要な情報をどのように得ているのかを考察する。視覚と聴覚に関する話題を中心として、様々な実験、デモンストレーションなどを紹介し、全体を貫く知覚の法則について考察する。感覚・知覚心理学の位置づけ、感覚・知覚の生物学的基礎、感覚知覚の一般的性質、物理量と心理量の違い、順応や閾の概念、感覚器官と脳の役割、視覚特性、奥行き知覚、光の強度と明るさの関係、味覚、嗅覚、触覚、音と聴覚、知覚と注意、知覚と記憶、対象の再認、知覚と脳科学、感覚間の相互作用について解説する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(2 伊藤裕之/1回) 感覚・知覚心理学の位置づけ、感覚知覚の一般的性質、物理量と心理量の違い、順応や閾の概念、感覚器官と脳の役割について解説する。</p> <p>(71 平松千尋/1回) 感覚・知覚の生物学的基礎について解説する。</p> <p>(2 伊藤裕之/5回) 視覚特性、奥行き知覚、光の強度と明るさの関係、味覚、嗅覚、触覚、感覚間の相互作用について解説する。</p> <p>(28 上田和夫/5回) 音と聴覚、知覚と注意、知覚と記憶、対象の再認について解説する。</p> <p>(57 Remijn Gerard Bastiaan/2回) 知覚と脳科学について解説する。</p> <p>(28 上田和夫/1回) 総括</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン・音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	主観評価法	<p>主観評価法は、心理実験に基礎を置く分野全体の基盤をなす科目の一つと位置づけることができる。知覚に関する現象観察および精神物理学的測定法から多変量解析の導入までに焦点をあてて考察する。因果関係と相関関係との違い、検証可能性、信頼性と妥当性、操作的定義、理論と仮説、オッカムの剃刀、独立変数と従属変数、実験条件と対照条件(統制条件)、交絡変数、二重盲検法、統計的有意性、自然観察、調査、実験、事例研究、精神物理学、調整法、極限法、恒常法、上下法、一対比較法、尺度水準など、実験に必要な概念や方法を学び、「明るさの対比」の現象観察、錯視量の測定、サーストンの方法による心理尺度構成、大きさの恒常性の測定、クラスター分析の実習を通じて、実験レポートの作成方法も学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(伊藤裕之/4回) 「明るさの対比」の現象観察、精神物理学的測定法、錯視量の測定、尺度水準について解説、実習する。</p> <p>(上田和夫/8回) 導入、観察および実験の基礎的概念、サーストンの方法による心理尺度構成、大きさの恒常性の測定、クラスター分析について解説、実習する。</p> <p>(Remijn Gerard Bastiaan/3回) 現象観察、精神物理学、実験の定義について解説、実習する。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>講義20時間 演習10時間</p> <p>コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン・音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	Design Pitching Skills	<p>この授業は履修者が外国に行って、自らのデザインのアイデアを売り込む状況を想定したものである。履修者が英語を使って自分のアイデアを説明したり、その良さを売り込んだりするためスキルを向上させることを目標とする。授業は対話的なワークショップ形式の一連のセッションを通して、履修者が実際に自分のアイデアの説明し、教員はプレゼンテーションのやり方、コミュニケーションの取り方などを適切に英語で行うための方法を具体的にコーチすることで進め、履修者のスキルを向上させる。</p>	<p>共同</p> <p>コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)</p>

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目 メディアデザイン	Start-ups and Global Disruptors	この授業はデザイン提案を社会実装するための一つのルートとしての起業をテーマとする。その目的は起業家として事業を始めるときに理解しておくべきこと、また、事業を起こすために必要な基本的な理論や知識・方法などについて、ケーススタディなどを通じ、より実践に即した形で、英語により学ぶ。授業では、初期費用のための投資、「死の谷」、買収、新規公開株（IPO）など、スタートアップ企業が直面する様々な場面について、事例を使って説明する。 (オムニバス方式全8回) (78 Loh Wei Leong / 3回) 起業に関する障害と起業される企業の発展段階について事例研究の英語による講義を行う。 (62 稲村徳州 / 5回) デザイン提案をスタートアップ企業で実装するプロジェクトに関する演習を英語で指導する。	オムニバス方式 講義6時間 演習10時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目 メディアデザイン	Intellectual Property Rights : Global Perspective	知的財産権に係る規定や法律は国によって大きく異なり、国際的なデザイン活動をするためには、デザインによって生み出された価値の保護について広く理解する必要がある。そのため、この授業では日本及び諸外国における知的財産の概念、知的財産にかかわる基本的な事柄について英語による講義を行い、演習形式で様々な文化的脈絡の具体的な事例を挙げながら、知的財産を守るための方策について、履修者が実践に役立つような形で英語により学ぶ。 (オムニバス方式全8回) (78 Loh Wei Leong / 4回) 国際的な知的財産の基本概念と国際的な商標や特許に関する英語による講義を行う。 (62 稲村徳州 / 4回) 知的財産権の抵触を防ぐための方法や考え方について具体例を使い英語による演習を行う。	オムニバス方式 講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目 メディアデザイン	Global Design Innovations	この授業の目的は現在デザインの世界でどのようなイノベーション事例があり、それがどのように生み出されているかを履修者が知ることにある。そのため、まず、具体的なケーススタディを通して、海外の社会デザインのイノベーションの先進的事例を紹介する。この事例研究で得たアイデアをもとに、演習では、実際にデザインプロジェクトに参加し、社会的な課題に対してプロトタイプを制作し、解決のための提案を英語で行う能力を身に付ける。 (オムニバス方式全8回) (62 稲村徳州 / 2回) 九州大学と海外連携大学とのデザインプロジェクトの事例について英語による講義を行う (62 稲村徳州・78 Loh Wei Leong / 6回) (共同) 現在・近い将来の国際的なデザイン課題を取り上げ、海外連携大学と共同演習を行う。	オムニバス方式・共同 (一部) 講義4時間 演習12時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目 メディアデザイン	国際メディアデザインA I	メディアデザインは、世界的規模で常に発展しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。したがって、メディアデザインの理解を深めるには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションの面からは、たんなる技術的知識にとどまらず、その社会的文化的背景についての豊かな知識も求められる。本授業では、外国人も含めた授業として、メディアとコミュニケーションのデザインに関する国際的な感覚を養うための知識を学ぶ。それによって学生の国際的なデザイン活動の基盤を作ることを目指す。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目 メディアデザイン	国際メディアデザインA II	メディアデザインは、世界的規模で常に発達しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。そのためには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションの面からは、技術的な知識はもとより、その社会的文化的背景についての豊かな知識も求められる。この授業では、国際的な視野からデザインに関する基本概念を学びつつ、メディアとコミュニケーションを対象としたデザインの大枠についての理解を深める。	講義8時間 演習8時間

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	国際メディアデザインAIII	メディアデザインは、世界的規模で常に発達しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。したがって、メディアデザインの理解を深めるには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションの面からは、技術的知識はもとより、その社会的文化的背景についての豊かな知識も求められる。この授業では、諸外国のメディアとコミュニケーションを対象としたデザインに関係する表現の最新動向や最新の研究成果にふれ、特に関心のあるデザイン対象領域の展開を概観し、その背景や今後の展望を考察する	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	国際メディアデザインAIV	メディアデザインは、世界的規模で常に発達しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。したがって、メディアデザインの理解を深めるには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションにおける国際的スキルも求められる。この授業では、国際的視点からメディアとコミュニケーションに関するデザインを自主的に実践できる能力を身につけることを目標とする。自分のアイデアの説明を英語でプレゼンテーションすることを目標とする。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	国際メディアデザインBI	メディアデザインは、世界的規模で常に発達しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。したがって、メディアデザインの実践力を高めるには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションの面からは、最新の技術的知識について、その社会的文化的背景を踏まえたより目的志向型の知識も求められる。そのために、この授業では、国際的枠組みでのメディアならびにコミュニケーションに関係するデザインの先端的な表現や最新の技術的方法を、講義と実践を通して理解する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	国際メディアデザインBII	メディアデザインは、世界的規模で常に発達しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。したがって、メディアデザインの実践力を高めるには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションの面からは、たんなる技術的知識にとどまらず、その社会的文化的背景についての豊かな知識も求められる。この授業では、メディアとコミュニケーションのデザインに関する講義、演習を通じて、国際的な視野から、社会問題や文化的多様性など現代の課題を見出し、そのために有効なデザインによる解決手法を学ぶ。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	国際メディアデザインBIII	メディアデザインは、世界的規模で常に発達しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。したがって、メディアデザインの実践力を高めるには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションの面からは、技術的知識はもとより、その社会的文化的背景についての豊かな知識も求められる。この授業では、メディアとコミュニケーションに関するデザインの創造性や批評性を理解するために、従来のデザインの枠を超えた新しい枠組み、概念、表現方法について考察する。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は英語により実施する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	国際メディアデザインBIV	メディアデザインは、世界的規模で常に発達しているメディアテクノロジーの将来とともに、それに対応した社会の変動を見据えて展開する必要のあるデザインである。したがって、メディアデザインの実践力を高めるには、国際的な視野が不可欠であり、また表現やコミュニケーションの面からは、たんなる技術的知識にとどまらず、問題解決のための総合的な能力が求められる。特にメディアとコミュニケーションに関するデザインは、さまざまな分野の課題解決にかかわることから、本授業では、広い視野からの分析を通して、従来のデザインの枠を超えた新しい枠組み、アプローチ、解決策について考察し、理解を深める。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は英語により実施する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	インターンシップ(学部) I	企業、行政機関、公益法人等において、1週間程度(30時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。	
専攻教育科目	コース専門科目	メディアデザイン	インターンシップ(学部) II	企業、行政機関、公益法人等において、2週間程度(60時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。インターンシップIの履修を前提とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 知覚心理学	<p>「形や色が見える、音が聞こえる、物を触って感じる、匂いや味がする」というような体験を、科学的な態度で分析し、人間が環境への適応に必要な情報をどのように得ているのかを考察する。視覚と聴覚に関する話題を中心として、様々な実験、デモンストレーションなどを紹介し、全体を貫く知覚の法則について考察する。感覚・知覚心理学の位置づけ、感覚・知覚の生物学的基礎、感覚知覚の一般的性質、物理量と心理量の違い、順応や閾の概念、感覚器官と脳の役割、視覚特性、奥行き知覚、光の強度と明るさの関係、味覚、嗅覚、触覚、音と聴覚、知覚と注意、知覚と記憶、対象の再認、知覚と脳科学、感覚間の相互作用について解説する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(2 伊藤裕之/1回) 感覚・知覚心理学の位置づけ、感覚知覚の一般的性質、物理量と心理量の違い、順応や閾の概念、感覚器官と脳の役割について解説する。</p> <p>(71 平松千尋/1回) 感覚・知覚の生物学的基礎について解説する。</p> <p>(2 伊藤裕之/5回) 視覚特性、奥行き知覚、光の強度と明るさの関係、味覚、嗅覚、触覚、感覚間の相互作用について解説する。</p> <p>(28 上田和夫/5回) 音と聴覚、知覚と注意、知覚と記憶、対象の再認について解説する。</p> <p>(57 Remijn Gerard Bastiaan/2回) 知覚と脳科学について解説する。</p> <p>(28 上田和夫/1回) 総括</p>	オムニバス方式 コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 主観評価法	<p>主観評価法は、心理実験に基礎を置く分野全体の基盤をなす科目の一つと位置づけることができる。知覚に関する現象観察および精神物理学的測定法から多変量解析の導入までに焦点をあてて考察する。因果関係と相関関係との違い、検証可能性、信頼性と妥当性、操作的定義、理論と仮説、オッカムの剃刀、独立変数と従属変数、実験条件と対照条件(統制条件)、交絡変数、二重盲検法、統計的有意性、自然観察、調査、実験、事例研究、精神物理学、調整法、極限法、恒常法、上下法、一対比較法、尺度水準など、実験に必要な概念や方法を学び、「明るさの対比」の現象観察、錯視量の測定、サーストンの方法による心理尺度構成、大きさの恒常性の測定、クラスター分析の実習を通じて、実験レポートの作成方法も学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(2 伊藤裕之/4回) 「明るさの対比」の現象観察、精神物理学的測定法、錯視量の測定、尺度水準について解説、実習する。</p> <p>(28 上田和夫/8回) 導入、観察および実験の基礎的概念、サーストンの方法による心理尺度構成、大きさの恒常性の測定、クラスター分析について解説、実習する。</p> <p>(57 Remijn Gerard Bastiaan/3回) 現象観察、精神物理学、実験の定義について解説、実習する。</p>	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・メディアデザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 電気工学	<p>電気回路及び関連する電磁気学の各種概念、それらの量の時間的変化としての定常状態応答、過渡状態応答を理解し、音、光、電磁波などの諸現象への応用力を養う。電気回路を構成する素子である抵抗、インダクタンス、キャパシタンスなどについて学び、これらの素子からなる複雑な電気回路の各部の電流、電圧を求めるため、オームの法則、キルヒホッフの法則およびテブナンの定理についても学ぶ。定常応答、過渡応答の求め方、ならびに必要な数学、特に複素数を用いた交流信号表現に関しても学ぶ。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 電子工学	音響機器をはじめとする電子機器は、さまざまなアナログ信号をデジタル信号に変換し、その信号を増幅等加工して機能的に動作している。この機能の中心的な役割を担っているのがダイオードやトランジスタなどの半導体デバイスである。本講義では、半導体デバイスを用いた電子機器を設計し、動作を解析するための基礎知識を修得することを目的とする。半導体の性質を学び、半導体デバイスの基本特性を学ぶ。次に、その応用回路である増幅回路、演算増幅器およびデジタル回路について学ぶ。さらに、デジタル信号の処理を実現するための基本となる論理回路について学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 情報理論	情報の伝達と蓄積を取り扱う体系としての情報理論についての講義を通じて、情報を数学的に扱うために必要な情報量の定義、情報源符号化定理、通信路符号化定理について学ぶ。情報源符号化定理は、いかに効率よく情報を伝送するか、通信路符号化定理は、雑音のある通信路を通して、いかに誤りなく伝送するかということに関する限界を示した定理であり、その応用として、最適符号、高能率符号化、誤り検出・誤り訂正符号などについても学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 データ解析	企業活動や研究における実験などで得られたデータに対して、統計解析を行う際に最も基本的な解析法となる回帰分析や統計的仮説検定について講義演習を交えて解説する。また、実際のデータは欠損などを多く含むことから、解析法だけでなくデータのハンドリング法、いわゆるデータクレンジングや、データの基本的な作図法とそこから見えてくる傾向など、様々な側面からデータ解析の基本を学習することで、研究や企業などで実データに挑む際にもフレキシブルに対応できる能力を身に付ける。	コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 データマイニング I	「データ解析」で学んだ内容をもとに、その知識を多変量解析・時系列解析へ発展させ、研究などで得られる多種多様なデータに対して適切に対応できるように講義でその手法の数理的な理解を、演習でダミーデータや実際のデータを使った解析のやり方を学んでいく。データマイニングIでは「データ解析」の発展として、通常回帰モデルでは対応できない一般化線形モデル、教師あり学習の1手法としての決定木、教師なし学習の1手法としてのクラスター分析、アンケートデータなどで使用可能な主成分分析などを学んでいく。	コース間共通科目 (インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 データマイニング II	「データ解析」および「データマイニングI」で学んだ内容をもとに、その知識をより深く発展させ、研究や実社会で遭遇するより複雑なデータに対して適切に対応できるように講義でその手法の数理的な理解を、演習でダミーデータや実際のデータを使った解析のやり方を学んでいく。データマイニングIIでは「データ解析」「データマイニングI」の発展として、アンケートデータなどで使用可能な因子分析、多次元尺度構成法、時系列データの予測などが可能なARモデル、より高度な時系列データの構造が解釈可能な状態空間モデルなどについて学んでいく。	コース間共通科目 (インダストリアルデザイン・未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 質的社会調査法	社会や未来の構想のためには量的な調査の他に質的な調査も重要となる。数量で表現できないような現象の質的理解や解釈・説明が必要となる。調査のプロセスや現象が発生する文脈を重視する。また研究対象の発言や態度・行為を尊重し行う。質的研究法の基礎として、フィールドワーク・参与観察・半構造化インタビュー・フォーカスグループインタビュー・グラウンディドセオリー、質的データの分析法等について実践を交えながら方法を獲得する。	講義8時間 演習8時間 コース間共通科目 (未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 比較音楽理論	国際化・情報化社会を生きる日本人にとって、自国の伝統音楽を知るとともに、アジア各国の音楽に理解を示すことは不可欠である。この授業は、日本およびアジアの音楽の歴史・理論・伝承形態について学び、さらにその担い手である人々の価値観、音楽観を知ることによって、具体的には、日本の伝統音楽について、古代から近世まで種目ごとに解説したあと、アジア各国の伝統音楽について基礎知識を学ぶ。さらに、音楽の東西交流史、東西の音楽を巨視的に比較した諸学説を学んでいく。	
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 西洋音楽史	音響設計を志す者にとって、音楽を文化的・社会的なものに関連づけて体験し、音楽の変遷を知ることは必要不可欠である。学ぶ対象は、西洋音楽とその歴史とする。なぜなら、現代におけるさまざまな音楽活動の源流となっており、現在の音楽語法に幅広い影響力を有しているためである。他方、キリスト教文化の学習を通して、他者と自己の差異を理解するきっかけとする。授業では、テーマに沿ってさまざまな時代の音楽を視聴しながら鍵となる概念や時代背景、価値観を知り、論述できるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 音文化論演習	19世紀から現代に至るまでの音楽と音響の歴史を、音を記録・再生するメディアに関わる音の文化という観点から、具体的な事例を通じて考察する。ある時代における音楽というものは、その時点に存在している技術により何らかの規定を受けている。一方で、その時代の人々による音楽の作り方・聴き方が技術の変化を促すことにもなる。この音の文化と技術との密接な関わりを、インターネット上の映像資料を中心に確認すると共に、適宜レポートとディスカッションにより考察する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 芸術コミュニケーション論	国際社会を生き抜く異文化コミュニケーション能力、世代間コミュニケーションの問題を克服する能力、人間関係を形成していく能力の獲得を芸術表現を通じたコミュニケーションにより獲得する。そのために芸術における表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等を実施することにより、芸術を理解する気持ちを育み、豊かな情操を養うとともに、コミュニケーション能力の育成を図る。非言語コミュニケーションを可能とする方法、芸術におけるコミュニケーションの仕組みを学際的な方法を用いて理解する。	コース間共通科目 (環境設計・未来構 想デザイン・音響設 計)
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 音楽学	今日の音楽研究では、音楽データベースと音楽情報科学の進歩に呼応して、数理的な方法が模索されているが、他方、文化多元主義の浸潤に伴い、非西洋音楽やポピュラー音楽の研究も増えている。音楽データベース構成法、記譜法の歴史、音律と協和性の理論、演奏研究にみる統計学を用いた分析法、作曲のための数学的音楽理論など、音楽のさまざまな研究方法を講義と実習を通して学ぶ。さらに、民族音楽学と音楽美学の新しい方法と考え方についても学ぶ。 (オムニバス方式 全15回) (20 矢向正人/14回) 記譜法やデータベース、旋律パターン、生成文法等に関する講義を行う。 (70 西田紘子/1回) シェンカー理論およびシェンカー分析に関する講義と簡単な実習を行う。	オムニバス方式
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 聴覚認知論	動物およびヒトにおける、(1)聴覚系の構造と機能、(2)聴覚系の特徴抽出機構、(3)聴覚皮質の応答、(4)その他、最近の話題について、聴覚心理学、神経生理学、神経解剖学、動物行動学、脳科学のそれぞれの立場から考察する。神経発火の仕組み、視覚神経系と聴覚神経系との違い、中枢神経系の仕組みと働き、神経回路網モデル、聴覚神経系の過渡応答、周波数の部位的構成、内毛細胞の位相同期、聴覚神経系の時間周波数応答、音響定位、神経発火の時間構造、視聴覚の時間応答特性と同期処理、適応、進化について解説する。	
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 音声情報学	音声では、音という物理的形態によって、言語的内容をはじめとする種々の情報が相手に伝達される。本講義では、このように音響信号の形で行われる人のコミュニケーションに焦点をあて、情報の担い手としての音の役割について理解する。ここではまず、音声の生成・受容に関与する人の生理学的機構や、それらの音響学的役割について理解する。さらに、音響信号処理の知識を基として、種々の情報が音響信号のどのような特徴に基づいて伝えられるかについて学ぶ。 (オムニバス方式 全15回) (7 鏑木時彦/5回) 音声の生成・受容に関与する人の生理学的機構と音響学的役割 (79 若宮幸平/10回) 音声の音響分析と各種の母音・子音の音響的特徴	オムニバス方式
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 デジタル信号処理演習	デジタル信号処理で学んだ基礎理論の応用のための講義並びに演習を実施する。前半は基礎事項への理解を深め、応用力を身につけさせるための講義を行い、演習問題にも取り組ませる。後半は信号処理ソフトウェアMatlabを使用して、自分の声の周波数特性を求めたり、線形システムの特性を解析したりするプログラムを、コンピュータ上で対話的に作成、計算結果を表示する演習を実施することで、信号処理への理解をさらに深めさせる。	講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	音響メディア工学	現代の情報処理や情報通信において、音声や音楽など各種の音響信号は、デジタル信号の形でコンピュータ処理される。ここでは、そのような音響メディアのデジタル処理における実践的な基礎手続きについて理解するため、離散信号のフーリエ解析を骨格としたノンパラメトリックな手法と、信号源のモデルを仮定するパラメトリックな手法とについて解説する。さらに、信号の音響的特徴を表すパラメータを用いて、信号を分析・合成できることを示す。	
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	音響メディア工学演習	音声や音楽などの各種の音響メディアのデジタル処理に関する基礎知識をさらに深めるため、統計的手法によって音響信号を分析・合成する方法や、音響システムの特徴を推定する方法について学ぶ。ここでは特に、プログラミング言語のMATLABを用いた計算機実習を行うことで、音響信号の波形やスペクトルなどを具体的に確認しながら、それらの関連性や処理結果などを実際に体験することで、計算機を用いた音響メディアの取り扱いに習熟することを目標とする。	講義12時間 演習18時間
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	応用音響理論	大きさのある連続物体の弾性体の振動について学ぶ。まず、波動方程式とその解き方の復習も兼ねて、1次元振動物体としての弦の振動について、その解析方法を考察する。つぎに、振動物体の次元を2次元に広げ、膜の振動について、その解析方法を考察する。その後1次元振動物体としての棒の振動を扱うが、棒については固体であり、曲げに対する抵抗があるので、そのような固体中での振動の種類についても考察する。さらに、固体中での振動に関して、次元を2次元に広げ、板の振動を取り上げ、その解析方法を考察する。	
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	音響機器論	音響機器とは音響現象を正確に計測したり、記録・再現したりするための装置であり、音響信号を電気信号に変換するパッシブ系と電気信号を音響信号に変換するアクティブ系とからなる。このような電気音響変換器の動作原理を体系的に理解するとともに、様々な音響現象を把握するにはどのような物理量を、どのように計測したら良いのか、また音声や音楽の伝送・再生は音響的にどうあるべきかなどの議論に重点を置く。具体例としてスピーカやマイクロホンを取り上げ、その音響機器としての構成や性能などについて学ぶ。	
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	騒音環境学	人を取り巻く騒音環境は現在社会の急速な発展に伴って大きな社会問題を引き起こしている。本講義では、騒音の規制に関する法律の概略と共に、騒音発生メカニズム、人への影響、人の反応について学ぶ。また、騒音環境の予測・評価・推計を行うための予測手法として、道路交通騒音や建設騒音を対象とした予測法の概要を学ぶ。さらに騒音を制御する技術、評価する技術の基礎を習得し、騒音問題を総合的に取り扱うための基礎知識を幅広く身につける。 (オムニバス方式 全15回) (42 高田正幸/6回) 騒音の規制に関する法律、人への影響、人の反応 (53 山内勝也/6回) 道路交通騒音および建設騒音の予測方法、騒音制御技術 (5 尾本章/3回) 騒音環境学の全般知識、波動的な騒音制御理論	オムニバス方式
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	非線形理論	これまでに学習済みの線形振動の復習から始め、それから非線形振動の内容について学んでいく。1自由度振動系の振動方程式に非線形性を導入した支配方程式として、自励振動の方程式、パラメータ振動の方程式、マッシューの方程式、ヒルの方程式、ダフィングの方程式、レイリーの方程式、ファンデルポールの方程式を取り上げて、これらの導出過程と解析手法を学ぶ。つぎに、音波に関する非線形現象について、最後に非線形振動に関わる諸現象について学ぶ。 (オムニバス方式 全15回) (36 鮫島俊哉/9回) 非線形振動現象の基礎的な事項について、特にその支配方程式に焦点を当てて説明する。 (5 尾本章/3回) 音波に関する非線形現象について説明する。特に、波動方程式に関して、線形の場合との相違点を明確にする。 (24 伊藤浩史/3回) 非線形振動に関わる諸現象について説明する。具体的には、リミットサイクル、分岐現象、引き込み現象について説明する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 楽器音響学	<p>「楽器の物理学」の観点から、いくつかの楽器について、その振動場と放射音場を解析する方法を通じて、発音メカニズムを理解し、演奏音の特徴について考察する。打弦楽器としてのピアノについては、その発音メカニズムと演奏音の特徴、擦弦楽器としてのヴァイオリン、およびチェロについては、その発音メカニズムと演奏音の特徴、膜鳴楽器としてのティンパニ、ドラム、インドの伝統打楽器タブラについては、その発音メカニズムと演奏音の特徴、体鳴楽器としてのシンバル、スティールパンについては、その発音メカニズムと演奏音の特徴、気鳴楽器としての篠笛については、その発音メカニズムと演奏音の特徴を考察する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(36 鮫島俊哉/12回) 打弦楽器, 擦弦楽器, 膜鳴打楽器, 体鳴楽器を対象とした講義を担当する。</p> <p>(7 鏑木時彦/3回) 気鳴楽器を対象とした講義を担当する。</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 室内音響学	<p>室内で人が音を聴くという行為は極めて日常的であるが、人は室の境界のあり方と音の聴こえの関係についてあまり注意しない。この授業では室の境界がその中で聴く音の質にどのような影響を与えるのか、また境界をどのようにすれば質の良い音を聴くことができるのかを講義し、室内音響設計・制御に関する技術を習得する。具体的には、対象としての音場を、幾何的、統計的、波動的に取り扱う方法について学び、さらに音場の物理的状態を測定する技術についても学んでいく。また、あわせて具体的に室内音場を制御するための音響材料についても講義する。あわせて、解析によって得られた物理的な指標と心理的な評価との対応関係を考察する。</p>	
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 Design Pitching Skills	<p>この授業は履修者が外国に行って、自らのデザインのアイデアを売り込む状況を想定したものである。履修者が英語を使って自分のアイデアを説明したり、その良さを売り込んだりするためスキルを向上させることを目標とする。授業は対話的なワークショップ形式の一連のセッションを通して、履修者が実際に自分のアイデアの説明し、教員はプレゼンテーションのやり方、コミュニケーションの取り方などを適切に英語で行うための方法を具体的にコーチすることで進め、履修者のスキルを向上させる。</p>	<p>共同</p> <p>コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 Start-ups and Global Disruptors	<p>この授業はデザイン提案を社会実装するための一つのルートとしての起業をテーマとする。その目的は起業家として事業を始めるときに理解しておくべきこと、また、事業を起こすために必要な基本的な理論や知識・方法などについて、ケーススタディなどを通じ、より実践に即した形で、英語により学ぶ。授業では、初期費用のための投資、「死の谷」、買収、新規公開株 (IPO) など、スタートアップ企業が直面する様々な場面について、事例を使って説明する。</p> <p>(オムニバス方式全8回)</p> <p>(78 Loh Wei Leong/3回) 起業に関する障害と起業される企業の発展段階について事例研究の英語による講義を行う。</p> <p>(62 稲村徳州/5回) デザイン提案をスタートアップ企業で実装するプロジェクトに関する演習を英語で指導する。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>講義6時間 演習10時間</p> <p>コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)</p>
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 Intellectual Property Rights : Global Perspective	<p>知的財産権に係る規定や法律は国によって大きく異なり、国際的なデザイン活動をするためには、デザインによって生み出された価値の保護について広く理解する必要がある。そのため、この授業では日本及び諸外国における知的財産の概念、知的財産にかかわる基本的な事柄について英語による講義を行い、演習形式で様々な文化的脈絡の具体的な事例を挙げながら、知的財産を守るための方策について、履修者が実践に役立つような形で英語により学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式全8回)</p> <p>(78 Loh Wei Leong/4回) 国際的な知的財産の基本概念と国際的な商標や特許に関する英語による講義を行う。</p> <p>(62 稲村徳州/4回) 知的財産権の抵触を防ぐための方法や考え方について具体例を使い英語による演習を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>講義8時間 演習8時間</p> <p>コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)</p>

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 Global Design Innovations	この授業の目的は現在デザインの世界でどのようなイノベーション事例があり、それがどのように生み出されているかを履修者が知ることにある。そのため、まず、具体的なケーススタディを通して、海外の社会デザインのイノベーションの先進的事例を紹介する。この事例研究で得たアイデアをもとに、演習では、実際にデザインプロジェクトに参加し、社会的な課題に対してプロトタイプを制作し、解決ための提案を英語で行う能力を身に付ける。 (オムニバス方式全8回) (62 稲村徳州 / 2回) 九州大学と海外連携大学とのデザインプロジェクトの事例について英語による講義を行う (62 稲村徳州・78 Loh Wei Leong / 6回) (共同) 現在・近い将来の国際的なデザイン課題を取り上げ、海外連携大学と共同演習を行う。	オムニバス方式・共同 (一部) 講義4時間 演習12時間 コース間共通科目 (環境設計・インダストリアルデザイン、未来構想デザイン、メディアデザイン、音響設計)
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 国際音響デザインA I	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、音響設計に関する国際的な感覚を養うための知識を学び、学生の国際的なデザイン活動の基盤を作る。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 国際音響デザインA II	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、音響設計に関する基本概念や国際的な諸課題を学ぶ。国際的に通用する広い視野と学識を身に付ける。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 国際音響デザインA III	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、音響設計に関する専門知識および国際的な諸課題について理解を深める。社会の状況や科学技術の発展に的確に対応できる豊かな教養と、国際的に通用する広い視野と学識を身に付ける。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 国際音響デザインA IV	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、音響設計に関する海外の分析手法や研究事例及び最新の研究成果を調査する。社会の状況や科学技術の発展に的確に対応できる豊かな教養と、国際的に通用する専門的な学識を身につける。	講義8時間 演習8時間
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 国際音響デザインB I	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、国際的な視点に立って音響に関連する設計・計画を遂行できる能力を学ぶ。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は外国語により実施する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目	音響設計 国際音響デザインB II	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、国際的な視点に立って音響に関連する高度な設計・計画を自主的に遂行できる能力を身につける。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は外国語により実施する。	講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	国際音響デザインBIII	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、音響設計に関する講義、演習を通じて、国際社会における音文化、音環境、音情報に関連する設計・計画の手法を学ぶ。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は外国語により実施する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	国際音響デザインBIV	音文化、音響環境、音響情報の各分野は、国内だけでなく海外においても共通する高い学術性や国際性を有しており、音響設計が目指す高次のデザイン教育を国際的な展望のもとに実施し、グローバル人材を育成することは非常に重要である。そのために、海外での学習を通じた国際音響デザインの知見習得を目的とした教育科目を提供する。本講義では、音響設計に関する講義、演習を通じて、国際社会における音文化、音環境、音情報に関連する専門的な手法を身につける。本授業の講義、演習、ディスカッション、発表は外国語により実施する。	講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	インターンシップ(学部) I	企業、行政機関、公益法人等において、1週間程度(30時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。	
専攻教育科目	コース専門科目 音響設計	インターンシップ(学部) II	企業、行政機関、公益法人等において、2週間程度(60時間以上)の就業体験を行う。 事前講義ののち、履修者ごとに研修受入れ先の選定、手続きを行い、各コース担当教員との相談の上で、研修申請手続きを行う。所定研修後に互いの経験・成果を履修者同士で共有することを目的としたプレゼンテーション等を各コースで開催する。インターンシップIの履修を前提とする。	
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計プロジェクトC	ランドスケープの基礎的設計手法の習得を目的として、具体的なフィールドを定め、自然・都市的な環境における緑地のリサーチおよび計画を行う。地域環境の自然的、社会的、空間的、時間的特性と人々の利用行動との関係を基調としたランドスケープの形成プロセスを適切に理解し、建築を主体とするものはまた異なる視点から、緑地計画を作成する能力を養い、その意図や内容を的確にプレゼンテーションできるようにすることを目標とする。	共同
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計プロジェクトD	与えられた敷地において公共建築等を設計するという課題に、以下の二点に注視しつつ取り組む。第一には、建築の空間構成の原理について学び、それを応用すること、そして第二には具体的な都市空間における敷地や現代社会におけるさまざまな課題や可能性を読み解いて、現代において人が集まる空間をつくることの意味を考えることである。それらをふまえたうえで、新たな公共性や魅力をもつ空間・プログラムとしての建築等を提案することを、目標とする。	共同
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計プロジェクトE	与えられたエリアから敷地を自ら選定し、集合住宅等の設計を行う。敷地および周辺に関するフィールド調査・文献調査等を行って、その歴史的・都市的・空間的な文脈を分析し、それに適合しつつ未来志向的な建築の設計に取り組む。自ら敷地を選ばせることで課題となるエリアを含む都市・地域から当該敷地までをより高い精度で分析できるようになり、それをベースに、その価値をより高めるような設計提案をまとめることを目標とする。	共同
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計プロジェクトF	文化施設なども含めた公園の総合的な計画・設計を行う。まず、フィールド調査・文献調査や関係者へのヒアリング等を通して地域・社会の特性を把握する。続いて、保全・創造・活用などさまざまな視点を念頭に置きつつ、プログラムの計画立案およびランドスケープの設計を行い、それを図面等で適切に表現し、建築・ランドスケープの関係者だけではなくさまざまな立場の人々に対してプレゼンテーションできるようにすることを目標とする。	共同
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計プロジェクトG	都市におけるホール・図書館・学校等の施設の設計を行う。フィールドリサーチ等により、地理的環境、都市構造、空間構造、文化的コンテクスト、経済的バックグラウンド、コミュニティの特質などを深く読解し、都市的スケールから敷地周辺まで、さまざまなスケールで自らが設計する施設の意義を考え、それにふさわしい設計提案をするともに、図面・ダイアグラムや文章・口頭発表などにおいて、設計意図と魅力を的確に説明できるようにすることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計 環境設計プロジェクトH	都市のさまざまな文脈や社会・経済・文化的状況等を読み解いてプログラムを立案し、建築およびランドスケープを統合した街区もしくは都市スケールの設計計画を行う。個々の建築や緑地等とは異なって、空間的にも、おそらくは時間的にもより大きなスケールを対象とすることの意味を考えつつ、都市の将来を見据えた計画立案や設計を行い、図面や口頭発表等を通してその意図を的確にプレゼンテーションできるようにすることを目標とする。	
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計 環境総合プロジェクトA	建築、ランドスケープなど複数のスタジオから一つを選択し、その課題に取り組む。テーマはスタジオごとに設定されるが、基礎的な調査能力・設計能力は修得済みであることを前提として、より高度な読解および提案が要求されるような、現代および将来のさまざまな問題に向き合った複合的かつ応用的な課題に取り組むものとする。(環境総合プロジェクトBを履修した学生は、同じスタジオ、同じ課題の選択は不可とする。)	
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	環境設計 環境総合プロジェクトB	都市、歴史など複数のスタジオから一つを選択し、その課題に取り組む。テーマはスタジオごとに設定されるが、基礎的な調査能力・設計能力は修得済みであることを前提として、より高度な読解および提案が要求されるような、現代および将来のさまざまな問題に向き合った複合的かつ応用的な課題に取り組むものとする。(環境総合プロジェクトAを履修した学生は、同じスタジオ、同じ課題の選択は不可とする。)	
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアルデザイン プロダクトデザイン 実践論・演習 I	身近な単機能製品をテーマに設定した演習と講義を織り交ぜながら行う毎回の授業課題を通じ、プロダクトデザイン実践のための基盤となるスケッチ・作図・モデリングなどの基礎的な表現技法、紙、粘土、スチレンボード、スタイロフォーム、木、金属などの材料を用いた様々な加工法の体験、材料の理解および部材の強度などの設計力基礎、使いやすさや機能向上のための設計、素材やものづくりを考慮したデザイン、バランス・プロポーション・コントラストなど美しさの表現、イメージ表現、機能表現、コンセプト表現などの造形基礎力を修得する。 (オムニバス方式 全8回) (48 藤智亮、67 迫坪知広 / 4回) (共同) 表現技法(スケッチ・作図・モデリング)、機能表現(カップホルダー、スイッチ、LEDライトなど単機能製品)、材料加工の体験、設計力基礎(材料理解、材料力学) (17 平井康之、38 杉本美貴 / 4回) (共同) 素材やものづくり(材料、加工、強度)を考慮したデザイン 美しさ及びイメージ表現(皿、コップ、花瓶など単機能製品)、	オムニバス方式・共同 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアルデザイン プロダクトデザイン 実践論・演習 II	プロダクトデザインの実践編として、複数の機能を持つ製品や製品群のシリーズ展開など、複合的な要素を有する具体的なプロダクトを対象に一連のデザイン開発プロセスを実践し、フォルムの発想法、コンセプトを端的に表現する造形力、プロダクトグラフィックスやユーザーインターフェース、デザインアイデンティティの表現、新たな価値を創造する能力、インクルーシブデザインやサステイナブルデザインなど多様なアプローチなど総合的なプロダクトデザイン力を修得する。 (オムニバス方式 全8回) (38 杉本美貴、67 迫坪知広 / 4回) (共同) コンセプトデザイン(文具、テーブルウェアなどのシリーズ)、同一コンセプトで違うアイテムをデザイン、デザインアイデンティティ (17 平井康之、48 藤智亮 / 4回) (共同) デザインアプローチ発展(行為や経験を形にする)、インクルーシブデザインやサステイナブルデザインなど多様な視点で製品をデザイン	オムニバス方式・共同 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアル ライフスケープ デザイン論・演習 I	インテリアやパブリックなどの生活を構成する身の回りの「空間」やその空間構成要素である「モノ」との関係性を理解しながら、デザインの具体化を行う。与えられたテーマ(テーマは適宜指示する)に基づいて空間と空間構成要素との関係性を考慮しながら、どのように考えるかでライフスケープ領域におけるデザインが具体的に成立するのかを考える。また、その思考およびそこから創出されるものを誰もが理解できるかたちに具現化し、デザイン提案として発表する。	共同 講義15時間 演習15時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアルデザイン ライフスケープデザイン論・演習Ⅱ	コミュニケーション、感性、関係などのキーワードを基軸に空間や空間を構成するモノ要素といった理解しやすいものだけでなく、それらを取りまくコト要素をも含めた総合的な検討を行いデザインの具体化を行う。与えられたテーマ（テーマは適宜指示する）に基づいてコト要素を含めた総合的なデザインがライフスケープ領域においてどのように成立させることができるかを考える。また、その思考およびそこから創出されるモノやコトを誰もが理解できるかたちに具現化し、デザイン提案として発表する。	共同 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアルデザイン ビジネスデザイン論・演習Ⅰ	製品やサービスを開発・改善するときには、競合製品・サービスとの差異化が重要で、そのためには自社と他社製品の機能や価格、売上高や市場シェア、広告やキャンペーンなどのビジネス要素の関係を、直感的に理解できるマップ（ポジショニング・マップ）を作成して比較することが非常に有効である。そこで本科目では、その基礎となるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの理論や手法について、講義、演習を通じて修得する。 (オムニバス方式 全8回) (15 都甲康至/2回) ビジネスデザインの基本と沿革、情報の収集と整理手法（講義・演習） (17 平井康之/2回) ユーザグループの検討、ユーザセグメンテーションとターゲティングの講義と演習 (44 田村良一/2回) 評価スケールの検討、セマンティックプロファイルの講義と演習、ポジショニングマップの作成、ポジショニング分析の講義と演習 (51 松前あかね/2回) アイデアの展開、プレゼンテーションの準備、プレゼンテーション	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアルデザイン ビジネスデザイン論・演習Ⅱ	本科目では、人を起点としたアプローチにより、提案価値・価値循環システム・社会的関係性をデザインする方法論を概観した後、顕在化されていない提案価値を探索し、それら探索された提案価値を評価するプロセスを学ぶ。具体的には、講義と演習を関連付けながら、行動観察およびインタビューの技法（半構造化インタビュー・非構造化インタビュー・グループインタビュー）を通じてJTBD (Jobs To Be Done) を導出し、事業的観点からアセスメントを行う方法を習得する。 (オムニバス方式 全8回) (15 都甲康至/2回) 生活者視点のビジネスデザインの基礎理論と手法（行動観察とインタビュー技法など）、インタビュー調査計画とインタビュー技法（半構造化・非構造化など）についての講義と演習 (44 田村良一/2回) グループインタビューについての講義と演習、JTBD概念についての講義と演習 (51 松前あかね/2回) 行動観察・インタビューからの提案価値の探索の演習、提案価値のアセスメントについての講義と演習 (67 迫坪知広/2回) プレゼンテーションの準備、プレゼンテーション・講評・総括	オムニバス方式 講義15時間 演習15時間
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアル 人間工学演習Ⅰ	人間工学領域の基礎的測定・評価手法を習得する。人間工学にて用いられることが多い6つ項目「人間の形態（各種身体寸法）」、「精神活動（脳波）」、「筋活動（表面筋電図）」、「循環調節（心拍数、血圧）」、「エネルギー代謝（酸素摂取量）」、「パフォーマンス（反応時間、フリッカー）」の測定手法を習得し、人間の特性を客観的に調べる能力を身につける。そして得られたデータを解析し、それをレポートにまとめる方法を学ぶ。	共同
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	インダストリアル 人間工学演習Ⅱ	人間工学領域のより発展的な生体情報データ計測・解析を習得することを目的とする。本演習においては、脳波事象関連電位（脳内情報処理過程）、モーションキャプチャを用いた三次元動作（身体の主要部位の座標、関節の角度や身体重心の変化など）、体温調節反応（核心温、皮膚温など）に関わる測定手法とそのデータの読み方を習得する。また、複数の対象者からデータを収集し、それらのデータを解析する方法や結果の解釈の仕方などを学ぶ。	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	インダ スタ リアル	人間工学 プロジェクト演習	本演習では人間工学関連講義科目にて学んだ知識や、人間工学演習 I～II で身に着けた脳波、心電図、筋電図、動作解析、エネルギー代謝、皮膚温・核心温などの生体情報の測定解析技術を生かし、実社会における問題提起から人間工学的な解決方法の提案、生体情報の測定、解析、データの考察まで、人間工学的研究の一連の流れを実践する。これらの成果は発表させ、受講者および教員とのディスカッションを通し、人間工学研究の奥深さを知る。	共同
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	インダ スタ リアル デザ イン	フィールド 調査論・演習	人間の生活、製品、環境等に対する評価、ニーズ・課題抽出等をフィールドで調査するための基礎知識とスキルを講義と演習を通して習得する。講義では主にフィールド調査の必要性、役割、実例を学ぶ。演習ではアンケート調査を中心に、一連の調査プロセス（テーマ設定・文献調査、アンケートの組み立て・回答形式、プライバシー配慮、依頼の仕方、データ収集、データ入力、統計解析、報告書作成、結果の応用）をグループにて取り組み、基礎スキルを高める。 (オムニバス方式 全15回) (44 田村良一、48 藤智亮 / 4回) インダストリアルデザインにおけるフィールド調査の必要性とその実例 フィールド調査のテーマ設定、データの解析の基礎（基礎統計量、クロス集計） (19 村木里志、77 Loh Ping Yeap / 8回) アンケート、インタビューを用いた調査の実践（質問項目の検討、調査用紙の作成、データ収集の方法・注意事項、データ入力の基本等） (19 村木里志、44 田村良一、48 藤智亮、77 Loh Ping Yeap / 3回) (共同) 学生による発表（調査背景・目的、中間進捗報告、最終発表）と講評	オムニバス方式・共同（一部） 講義15時間 演習45時間
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	デザ 未来 構 想	共通課題PBL演習A	プラットフォーム演習・コース融合プロジェクトの基礎あるいは基盤となる授業で、複数の教員により、それぞれのテーマに並列的に取り組む。デザインの演習の基本となる表現スキルや方法などを実践的に取得する。特に共通課題PBL演習Aでは、社会構想や未来構想など社会や環境及び倫理や哲学とアートとデザインの関係性を重視した課題を設定し、その解決のための方法や概念の取得を目指す。また同時にその解決のための新たな問題設定を行う訓練ともなる。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	デザ 未来 構 想	共通課題PBL演習B	プラットフォーム演習・コース融合プロジェクトの基礎あるいは基盤となる授業で、複数の教員により、それぞれのテーマに並列的に取り組む。デザインの演習の基本となる表現スキルや方法などを実践的に取得する。特に共通課題PBL演習Bでは、社会構想や未来構想など情報工学や生命科学その他先端の科学や工学とアートとデザインの関係性を重視した課題を設定し、その解決のための方法や概念の取得を目指す。また同時にその解決のための新たな問題設定を行う訓練ともなる。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	デザ 未来 構 想	プラットフォーム 演習 A	複数の教員が複数の「プラットフォーム」を並列的に提供し、学生が履修することによって、それぞれの専門性を生かしつつ、従来のデザイン領域の枠を超えた広範なデザインスキルや知識の習得を図る。それぞれの「プラットフォーム」のテーマは可変であり、その時のデザイン領域の先端性のあるテーマを設定することにより、常に芸工のデザイン教育が社会の趨勢に沿ったものにする。プラットフォーム演習 Aでは、主として表現やアートなどのアプローチで演習課題に取り組む。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	デザ 未来 構 想	プラットフォーム 演習 B	複数の教員が複数の「プラットフォーム」を並列的に提供し、学生が履修することによって、それぞれの専門性を生かしつつ、従来のデザイン領域の枠を超えた広範なデザインスキルや知識の習得を図る。それぞれの「プラットフォーム」のテーマは可変であり、その時のデザイン領域の先端性のあるテーマを設定することにより、常に芸工のデザイン教育が社会の趨勢に沿ったものにする。プラットフォーム演習Bでは、主として社会構想などのアプローチで演習課題に取り組む。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	デザ 未来 構 想	プラットフォーム 演習 C	複数の教員が複数の「プラットフォーム」を並列的に提供し、学生が履修することによって、それぞれの専門性を生かしつつ、従来のデザイン領域の枠を超えた広範なデザインスキルや知識の習得を図る。それぞれの「プラットフォーム」のテーマは可変であり、その時のデザイン領域の先端性のあるテーマを設定することにより、常に芸工のデザイン教育が社会の趨勢に沿ったものにする。プラットフォーム演習Cでは、主として情報・生命のアプローチで演習課題に取り組む。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	未来構 想 プラットフォーム 演習 D	複数の教員が複数の「プラットフォーム」を並列的に提供し、学生が履修することによって、それぞれの専門性を生かしつつ、従来のデザイン領域の枠を超えた広範なデザインスキルや知識の習得を図る。それぞれの「プラットフォーム」のテーマは可変であり、その時のデザイン領域の先端性のあるテーマを設定することにより、常に芸工のデザイン教育が社会の趨勢に沿ったものにする。プラットフォーム演習Dでは、主として国際性のアプローチで演習課題に取り組む。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディア デザイン 総合プロジェクト I	このプロジェクトでは、原則として専門の異なる複数の教員がグループを組んで、それぞれのグループ毎にプロジェクト課題を提示し、学生はそれらのいずれかを選択する。プロジェクトは、各科目群の特色を活かした総合的な内容とし、学生は、調査からプレゼンテーションまでの経験を通して、それまでに学んだ知識、スキル、経験を活かしたより実践的な問題解決のためのプロジェクトに取り組むことで、総合的なプロジェクト能力を身に付ける。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディア デザイン 総合プロジェクト II	PBLとして、メディアデザインコースの全教員が単独もしくは複数で、より専門的プロジェクト課題を選択する。本プロジェクトは、卒業研究の前段階にあたるプロジェクトと位置づけられ、学生は3年半学んだ内容をふまえて、それぞれの関心のある専門領域を中心に、プロジェクト課題を選択する。プロジェクト課題の実施においては、高年次の学生との共同作業も含み、メディアデザインに関するより専門的な領域におけるプロジェクトの遂行能力を身に付ける。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディア デザイン コンテンツ デザイン演習 I	講義「映像表現」および「アニメーション表現」において習得した、映像制作に関する技術や知識を、本講義においては「映像コンテンツ制作演習」として実践的に活用することで、映像コンテンツ制作に関する技術をさらに高め、映像表現に関する知見を一層深める。本講義では、グループ制作を通して、グループ内のコミュニケーション能力、ひとつの作品制作に向けて円滑に作業できる能力、映像作品の構成、目的を第三者に伝える能力を養う。講義終盤で作品発表、合評会を行う。	共同
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディア デザイン コンテンツ デザイン演習 II	デジタルゲームを始めとするインタラクティブコンテンツ制作を演習形式で行う。6～7名のグループに分かれ、調査、企画、制作、評価の過程を経て、最終的に試遊も兼ねた展示会を行う。グループ内ではプロデューサー、ディレクター、デザイナー、プログラマーに役割を分担し、これまでに習得したCG制作やゲームオーサリングソフト等のスキルを活用しながら、実際にインタラクティブに動作する完成度の高いコンテンツを制作し、インタラクティブコンテンツに関する知見を一層深める。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディア デザイン 造形表現演習	美術の動向、造形美術の歴史、創造と脳の関係、身体性やマイノリティへの視座などを、「造形」を軸に概観する。さらに身体性への知識を造形的に発展させるためのワークショップを行い、創造する立場から芸術作品を理解し、社会や人間への意識を深める。コ・クリエーション、クラウドソーシングなど、アートと社会の関わり方を学び、新しい価値観を創造する力を養う。さらにストーリーテリングの能力を深め、新たなクリエイティビティの発見を目指す。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディア デザイン 数理造形と表現演習	プログラミングによる、グラフィックス、アニメーション、シミュレーション、インタラクション、画像処理、数理造形、その他を行う。テクノロジーを用いた表現を行う手段について学ぶ。基本的には本講義を受講する前に、前提知識となる「数理造形」の講義を受講すること。講義内では、コンピュータグラフィックスのアルゴリズムを基礎とした内容について知識を深める他、各自の興味のある最近のテクノロジーを用いた演習を自ら設定し、表現を学習することも可能である。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディア デザイン コミュニケーション デザイン演習 I	視覚メディアにおけるコミュニケーション要素としての色・形・テキストチャー、素材としての図像・文字についての基礎知識および表現手法、そして、それらを組み合わせた画面構成について学習する。具体的には、写真撮影およびPCでの作図技法を学び、ポスター、パッケージ、WEB等の課題に取り組むことで、デザインの行程およびメディア特性について理解し習得する。また、その中で発想法や観察・分類・分析に基づく思考法についても学習する。	
専攻教育科目	コース 演習科目 (PBL)	メディア デザイン コミュニケーション デザイン演習 II	個人による価値判断が求められる現代社会では、コミュニケーションデザインのなかでも、数量や空間的位置、時間に関するデータ、物語など、さまざまな関係性の「視覚化」に関するデザインが果たす役割は今後ますます重要になる。この演習では、そうした視覚化のデザインに必要な視覚的ツールとして、ダイアグラム、地図表現、チャートなどのいわゆる「インフォグラフィクス」、写真や文字記号などを効果的に扱う方法を学ぶ。あわせて視覚化が有効な役割を果たす社会的課題に対する問題解決の能力も養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン コンテンツ インタラクティブ演習	<p>プログラミングによって様々な種類のコンテンツの処理・生成を行うための工学的技術を、演習を通じて習得する。具体的には、3次元コンピュータグラフィックス(3DCG)、画像処理、自然言語処理の3つのトピックに関して演習を通じて学習する。3DCGでは、3DCGの基礎を習得した後、フォトリアリスティックレンダリングおよびノンフォトリアリスティックなレンダリングについて学習する。画像処理では、基本的な画像処理を実際にプログラミングして画像に適用し、それぞれの処理の使い方やその効果を確認する。自然言語処理では、形態素解析等の自然言語処理の基本的な概念とそれを用いたプログラミングの方法を簡単な例を用いながら習得する。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>第1回～第3回 (14 鶴野玲治、25 井上光平 / 3回) (共同) ノンフォトリアリスティックレンダリングのアルゴリズムを実装して、イラスト風、スタンドグラス風、貼り絵風、ノンフォトリアリスティックハーフトーニングなどのCGアート作品の作成に取り組む。</p> <p>第4回～第6回 (47 原健二、33 小野直樹 / 3回) (共同) プログラミングを通してコンピュータによる画像処理の理解を深めるとともにその利用方法を習得する。演習では、いくつかの基本的な画像処理を取り上げ、それらを実際にプログラミングして画像に適用し、それぞれの処理の使い方やその効果を確認する。</p> <p>第7回～第8回 (30 牛尼剛聡 / 2回) nグラム、形態素解析等の自然言語処理の基本的な概念とアルゴリズムを演習を通じて習得する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン 実世界 インタラクティブ演習	<p>実世界とのインタラクティブを行うために必要な基礎的な技術を、演習を通じて習得する。この授業は主として、メカニクスデザイン及びインタラクティブインタフェースのトピックを扱う。メカニクスデザインでは、インタラクティブに利用する運動を生成するためのメカニズムの選定、さらにはその構築、およびメカニズムとアクチュエータとの協調動作に必要なメカトロニクス調整について、演習課題を通して理解を深める。インタラクティブインタフェースに関しては、実世界の環境情報を取得しデジタル化するセンサー、実世界で動くアクチュエータの動作を演習形式で学習し、インタラクティブインタフェース設計の指針とする。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>第1回～第4回 (43 竹之内和樹 / 4回) インタラクティブに利用する運動を生成するためのメカニズムの選定、さらにはその構築、およびメカニズムとアクチュエータとの協調動作に必要なメカトロニクス調整について、演習課題を通して理解を深める。</p> <p>第5回～第8回 (27 上岡玲子 / 4回) 実世界の環境情報を取得しデジタル化するセンサー、実世界で動くアクチュエータの動作を演習形式で学習しインタラクティブインタフェース設計の指針とする。</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン クリエイティブ 発想演習	<p>自らのアイデアを具現化するためのアイデア発想とそれを実現するための要素抽出、構造化について習得する。まず、クリエイティブな制作対象に対して、アイデアを具現化するための一連の方法を、制作対象の形状や動き・応答に対する要求と特性とを抽出して対応付け、ハードウェアやプログラムの構築につなげる基本的方法を学ぶ。アイデア創出法も体験する。具体的には、アイデア発想支援のワークショップの実施などを通し、実践的にアイデアを形にするプロセスを学習する。</p>	共同
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン クリエイティブ プロトタイピング演習	<p>自らのアイデアを具現化するためのプログラミングとハードウェアによる表現力を学習する。具体的にはグループによるプロジェクトベースの学習法で、アイデアを考え、プロトタイピングを行い最後に各グループで発表、デモンストレーションを行うことでアイデアの具現化と体験によるアイデア共有について修養する。教員はそれぞれのグループの提案に対して各自の専門分野の観点からアドバイスをし、アイデアをプロトタイプとして実現する手法を習得する。</p>	共同

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン メディアサイエンス演習 I	<p>メディアと人間科学に関する研究について調査し、簡単な実験を行うことにより、人間の特性についての理解を深める。主に視覚メディアにおいて人間が情報を受容する過程とその特性について、実験心理学的観点から学ぶ。さまざまな視覚現象において、視覚刺激の操作と被験者の反応との対応関係からその要因を実験的に調べる方法論や、バーチャルリアリティ等の最新メディアにおける人間科学の応用的側面について学び、人間とメディアの関わり方を考える。2名の教員によるオムニバス形式で実施する。</p> <p>(オムニバス方式 全15回)</p> <p>(2 伊藤裕之、40 妹尾武治 / 1回) (共同) オリエンテーション</p> <p>(2 伊藤裕之 / 7回) 主に視覚メディアにおける錯覚を利用して、人間の視覚の特性とその限界を調べ、実験心理学的に視覚現象のメカニズムを推定する方法を学ぶ。</p> <p>(40 妹尾武治 / 7回) バーチャルリアリティ等のメディアにおける人間要因について、視覚を中心とした簡単な実験を行いながら、人間科学とメディアへの応用について考える。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン メディアサイエンス演習 II	<p>様々な画像メディア (映像、写真、印刷など) は、多くの科学技術が用いられて構築されている。本演習では、以下の2つのトピックスを取り上げ、演習を通してメディアにおける科学技術の貢献や役割について考察を行う。1) 色情報は人間の主観的体験を情報化したものである。このような色情報がメディア間画像にてどのようにやりとりされているのか、さらに、人間がどのように色を見ているのかなどの色の見えについて体験を通して考察する。2) 現在の画像記録および表示は、電子的な方法が主となっている。一方、写真やコピーなどでは、化学的なプロセスで画像が形成記録されている。このような形成記録プロセスが異なる画像形成記録を実際に体験する。</p>	
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン 比較演劇・メディア文化演習	<p>演劇学、文化比較論、映画論、応用言語学、メディア論、理論言語学、通訳・翻訳学などの学際的な観点から演劇・映画・TVドラマ等を取り上げ、これらのメディアが生み出す芸術文化とその特性に関して理解を深める。特に地域性と受容と演出と異文化コミュニケーションに注目しながら演劇・映画・TVドラマ等に関する具体的な事例研究を行い、関連する芸術文化施設 (劇場・博物館・美術館・資料館等) での実地見学研修を実施し、その研修をもとに受講者に調査・分析・発表してもらうことにより実践的な比較演劇・メディア文化演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式 全8回)</p> <p>(31 大島久雄 / 3回) 佐渡や筑豊等、特定の地域の芸術文化を取り上げて、関連する学外演習を実施することにより、メディア論や比較演劇学の観点から芸術文化の地域性に関する実践的な理解を深める。</p> <p>(73 冬野美晴 / 3回) 映画・TVドラマのメディア的特性を応用言語学の観点から取り上げ、異文化コミュニケーションや比較文化論の観点から芸術文化に関する実践的な理解を深める。</p> <p>(76 吉村理一 / 2回) 言語学や通訳・翻訳学の見地から映像コンテンツを分析し、作品に巧みに織り交ぜられる修辞技法や背景に潜む歴史、文化、社会情勢への理解を深める。</p>	オムニバス方式
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	メディアデザイン 知的財産マネジメント演習	<p>知的創作を行った場合の権利 (知的財産権) の発生、保護、活用について具体的な事例を通じて検討する。対象は限定せず、美術品、書籍、音楽、映像 (アニメ・映画)、デザイン (プロダクト・画像・空間) 等を対象とする。</p> <p>毎回一つの事例を取り上げ、そのプロジェクトの資金調達・制作管理・宣伝手法・資金回収などについて、知的財産権の活用・他者の知的財産権との抵触などを含めて製作マネジメント全体を分析・検討し、知的財産権の具体的な活用方法について理解する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース演習科目（PBL）	音響設計 聴能形成 I	音響設計技術者は、音に関する幅広い知識と深い理解、さらには音に対する鋭い感性、すなわち、音の違いに気づくだけでなく、その音の違いを生じさせる音響特性の違いまでを正確に認識し、適切に表現できる能力、設計された音や音環境を明確にイメージできる能力、これらすべてを兼ね備える必要がある。このような音に対する感性を高め、音響特性の違いを聞き分ける能力、音を明確にイメージできる能力を養うことを目的として、音の大きさ、高さ、音色の弁別、音の周波数や音圧レベルの判別、さまざまな音源におけるイコライジング周波数の判別等の基礎的な訓練を行う。 (65 河原一彦) 講義や訓練時の説明等を担当 (42 高田正幸) 訓練システムの準備や操作等を担当	共同 講義10時間 実習20時間
専攻教育科目	コース演習科目（PBL）	音響設計 聴能形成 II	聴能形成Iを基礎とし、より実際の音の感性の形成を目指した訓練を行う。具体的には、音色、シャープネス、ラフネス、変動強度、協和性理論といった音響心理学に関連した項目、騒音の周波数特性変化や残響時間、量子化ビット数といった音響工学や情報科学に関連した項目を扱い、詳しい解説を交えながら、聴取時の感覚と音響特性を関連付ける訓練を行う。さらに、身の回りの音環境を意識してもらうために、サウンドスープの概念を説明するとともに、サウンド・エデュケーションを実施する。 (42 高田正幸) 講義や訓練時の説明等を担当 (65 河原一彦) 訓練システムの準備や操作等を担当	共同 講義10時間 実習20時間
専攻教育科目	コース演習科目（PBL）	音響設計 音響プログラミング演習	計算機を用いて音響設計に関わりのある高度な計算処理をプログラミングにより実現するための基礎的な内容についての講義並びに演習を実施する。そのために、C言語の文法やアルゴリズムについての講義と、計算機上で動作するプログラムを作成する演習を通してプログラミング能力を養う。さらにグラフィカルプログラミング環境での演習を通じて、振動や音響信号を取り扱うプログラムの作成について学ぶ。 (オムニバス方式 全15回) (79 若宮幸平/7回) C言語の文法やアルゴリズムの基礎に関する講義と演習を行う。 (53 山内勝也/8回) ProcessingやPureData等のグラフィカルプログラミング環境で、振動や音響信号を取り扱ったプログラミング演習を行う。	オムニバス方式
専攻教育科目	コース演習科目（PBL）	音響設計 電気実験	電気工学および電子工学における技術や問題についての理解を深めることのできる内容に関する実験を実施する。初回に実験で用いる基本的な計測機器であるテスター、マルチメータ、オシロスコープの利用方法について解説を行う。2回目以降は、各自で実験指導書を熟読し共振回路、トランジスタ、マルチバイブレータ回路、論理回路などの電気工学および電子工学に関する実験内容を理解するとともに、実験を通して得られた結果及びその考察を行う能力を養う。	共同
専攻教育科目	コース演習科目（PBL）	音響設計 音楽理論表現演習	授業は「ピアノ実技」と「ソルフェージュ/音楽理論」に分かれており、基礎的な音楽理論および音楽表現の実践を通して、音響設計者として必要とされる、音楽の基礎的思考力・表現力を習得する。「ピアノ実技」では履修者の状況に応じて課題曲を決め、技術や表現への能力や関心を身につける。最終試験はコンサート形式で行う。「ソルフェージュ/音楽理論」では西洋に源流をもつ調性音楽に関する基本知識や、楽譜を基盤にした音の組織法について実践的・主体的に学ぶ。 (69 長津結一郎) ピアノ実技を担当する。 (20 矢向正人, 70 西田絢子) ソルフェージュ/音楽理論を担当する。	共同 講義15時間 演習30時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	音響設計 応用音楽表現演習 I	「ピアノ実技」「集団創作ワークショップ」「エレクトロニクスでの演奏」の3要素から構成され、ピアノ実技ではピアノを用いた高度な技術と表現力を養い、集団創作ワークショップでは即興演奏等のノウハウを用い音楽の場を共にすることについて考え、エレクトロニクスでの演奏ではコンピュータや電子楽器を用いた演奏について、その音楽的な背景を踏まえ、実践を通じて学ぶ。 (20 矢向正人, 70 西田絢子) ピアノ実技を担当する。 (69 長津結一郎) 集団創作ワークショップを担当する。 (37 城一裕) エレクトロニクスでの演奏を担当する。	共同 コース間共通科目 (未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	音響設計 応用音楽表現演習 II	「ピアノ実技」「集団創作ワークショップ」「エレクトロニクスでの演奏」の3要素から構成され、ピアノ実技ではピアノを用いた高度な技術と表現力を養い、集団創作ワークショップでは即興演奏等のノウハウを用い音楽の場を共にすることについて考え、エレクトロニクスでの演奏ではコンピュータや電子楽器を用いた演奏について、その音楽的な背景を踏まえ、実践を通じて学ぶ。最後に発表会を行い、応用音楽表現演習 I と II を通じた、パフォーマンスの多様なあり方を修得する。 (20 矢向正人, 70 西田絢子) ピアノ実技を担当する。 (69 長津結一郎) 集団創作ワークショップを担当する。 (37 城一裕) エレクトロニクスでの演奏を担当する。	共同 コース間共通科目 (未来構想デザイン・音響設計)
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	音響設計 音響生成演習	音響を生成することの意味を実践を通じて考察する。ポストデジタル以降の音を生み出す構造に関する研究や、音楽家の手を離れて自動的に奏でられる音楽としての生成音楽からの知見に基づき、それら研究成果の実証や古典的作品の再現を通じて、音を発する装置の構造や、作品をめぐる活動の諸相、作品が置かれた芸術的・文化的文脈についての理解を深める。音を生み出す構造を、実際にさまざまな要素から組み立て、作動させ、観察することで、非西洋・20世紀以降を含む音楽の多様なありかたを体験を通じて学ぶ。	
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	音響設計 收音音響構成	音の記録・再生・計測・評価のために、音を正しく取り込み、送り出す技術は不可欠である。收音音響構成では、放送やレコーディングにおけるマイクロホンアレンジメント、ミキシングの実習を通して、音響構成のための感性と技術を学ぶ。ラジオ番組の製作、ピアノ、ヴァイオリン、邦楽など、さまざまな音楽演奏のステレオ録音実習を通して、録音とミキシングの技術を習得する。また、放送施設の見学や劇場音響に関する講義を通して、さまざまな音響構成の現場での音響技術を学ぶ。	講義15時間 実習35時間
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	音響設計 環境音響構成	收音音響構成で学んだ技術を基礎とし、音響環境の記録や評価、映像作品における音響環境の構成・デザイン手法について詳しく学ぶ。前半では、サウンドスケープの概念やサウンドスケープデザイン事例、および環境音の記録や評価の手法に関する基礎的な知識を学ぶ。フィールドレコーディングや環境騒音測定を通して音響環境の構成・デザインに関する理解と感性を深める。後半では、映像作品における音の役割とデザイン手法について基礎知識を学び、映像作品への音の編集実習 (MA実習) を通じて理解を深める。	講義15時間 実習30時間
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL)	音響設計 音響実験 I	音響実験Iでは、音文化、音響環境、音響情報の各分野における講義形式の授業科目を受講することで得てきた基礎知識をもとに、音響設計のさまざまな分野を網羅する実験課題を通して種々の音響現象を実際に体験することで、音響設計学への理解を深め知識を定着させることを目的とする。さらに、実験課題を通して得られる実験 (観察) データをまとめ、得られた結果について考察し、レポートを作成する過程を通じて、科学的思考能力および表現力を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻教育科目	コース演習科目 (PBL) 音響設計	音響実験Ⅱ	音響実験Ⅱでは、音響実験Ⅰと同様に、音響設計の各分野の講義科目によって得られた基礎知識をもとに、実験課題を通して種々の音響現象を実際に体験し、音響設計学への理解を深め知識を定着させることを目的とする。さらに、音響実験Ⅰで学んだ基礎の上に立って、より進んだ内容の実験を行う。実験項目ごとのレポート作成に加えて、本授業の最後に、3年次までに開設されている必修科目で学習する内容についての総まとめをおこなう。	
専攻教育科目	融合プロジェクト・フォーラム	コース融合プロジェクトA	複数の分野（コース）の教員が複合的要素からなる、10程度の「プラットフォーム（課題）」を提示し、学年や所属コースの異なる学生が共同でその課題に取り組む。学生は、これまで身に付けた専門分野の知識やスキルを用いて問題解決に取り組む方法を学ぶと共に、別の専門分野の知識やスキルを経験することで、従来のデザイン領域の枠を超えた広範なデザインスキルや知識の習得を図る。それぞれの「プラットフォーム」のテーマはテクノロジーをベースに発想するような可変のテーマとし、また、その時のデザイン領域の先端性のあるテーマを設定することにより、常に芸工のデザイン教育が社会の趨勢に沿ったものにする。	
専攻教育科目	融合プロジェクト・フォーラム	コース融合プロジェクトB	複数の分野（コース）の教員が複合的要素からなる、10程度の「プラットフォーム（課題）」を提示し、学年や所属コースの異なる学生が共同でその課題に取り組む。学生は、これまで身に付けた専門分野の知識やスキルを用いて問題解決に取り組む方法を学ぶと共に、別の専門分野の知識やスキルを経験することで、従来のデザイン領域の枠を超えた広範なデザインスキルや知識の習得を図る。それぞれの「プラットフォーム」のテーマはアートをベースに発想するような可変のテーマとし、また、その時のデザイン領域の先端性のあるテーマを設定することにより、常に芸工のデザイン教育が社会の趨勢に沿ったものにする。	
専攻教育科目	卒業研究・設計	卒業研究Ⅰ	特定の研究テーマを設定する。関連する先行研究や文献資料、フィールドワーク等の調査を行い、研究方法を構築する。研究目的、調査内容、研究方法・計画等をまとめ、中間発表会で発表する。	
専攻教育科目	卒業研究・設計	卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰで行った指導を基礎として、研究を進展させ、研究室における活動を続けるとともに、卒業論文の執筆および提出、卒業研究発表会における発表および討論につながるよう、指導、教育する。	